

明治四十一年六月印行

自明治三十八年七月
至明治四十年十二月

特許局審決錄

附 大審院判決錄

特許局

14754

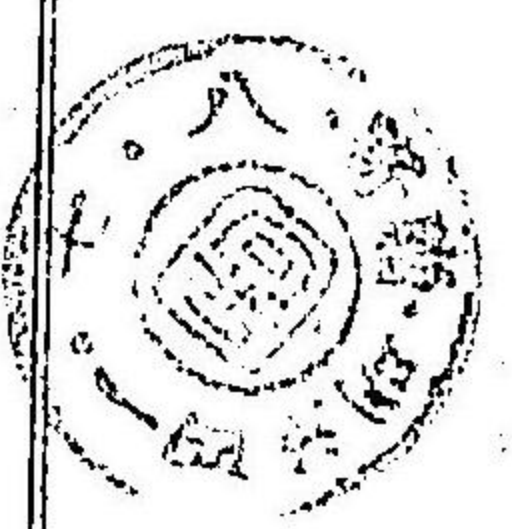
明治四十一年六月印行

自明治三十八年七月
至明治四十年十二月

附
大審院判決錄

特許局審決錄

特許局



特許局 寄贈本

CZ
2463
~~05~~
09

凡例

- 一、本編ハ明治三十八年七月ヨリ明治四十年十二月ニ至ル間ニ於ケル特許局ノ審決ヲ掲載ス
- 一、明治三十八年七月以前ノ審決ニシテ前編ニ掲載セサリシモノハ之ヲ本編ニ掲載セリ
- 一、大審院ノ判決ハ附録トシテ最後ニ之ヲ掲載セリ
- 一、目次ハ特許事件審決、實用新案事件審決、意匠事件審決、商標事件審決及大審院判決ノ各部ノ初メニ之ヲ附セリ
- 一、審決又ハ判決中法則ノ解釋及適用ニ關スルモノハ其ノ要旨ヲ目次ニ附記シタリ
- 一、審決目次中上告ニ係ルモノハ之ニ對スル大審院判決ノ年

凡例

月日及頁ヲ掲ケ又大審院判決目次ニハ其ノ原審決ノ年月日及頁ヲ掲ケ以テ彼此對照搜索ニ便セリ

一、審決録目次中(請)トアルハ請求人、(被)トアルハ被請求人、大審院判決録目次中(上)トアルハ上告人、(被)トアルハ被上告人ノ略稱トス

一、本編編纂ノ順序ハ左ノ如シ

特許局審決

特許事件

實用新案事件

意匠事件

商標事件

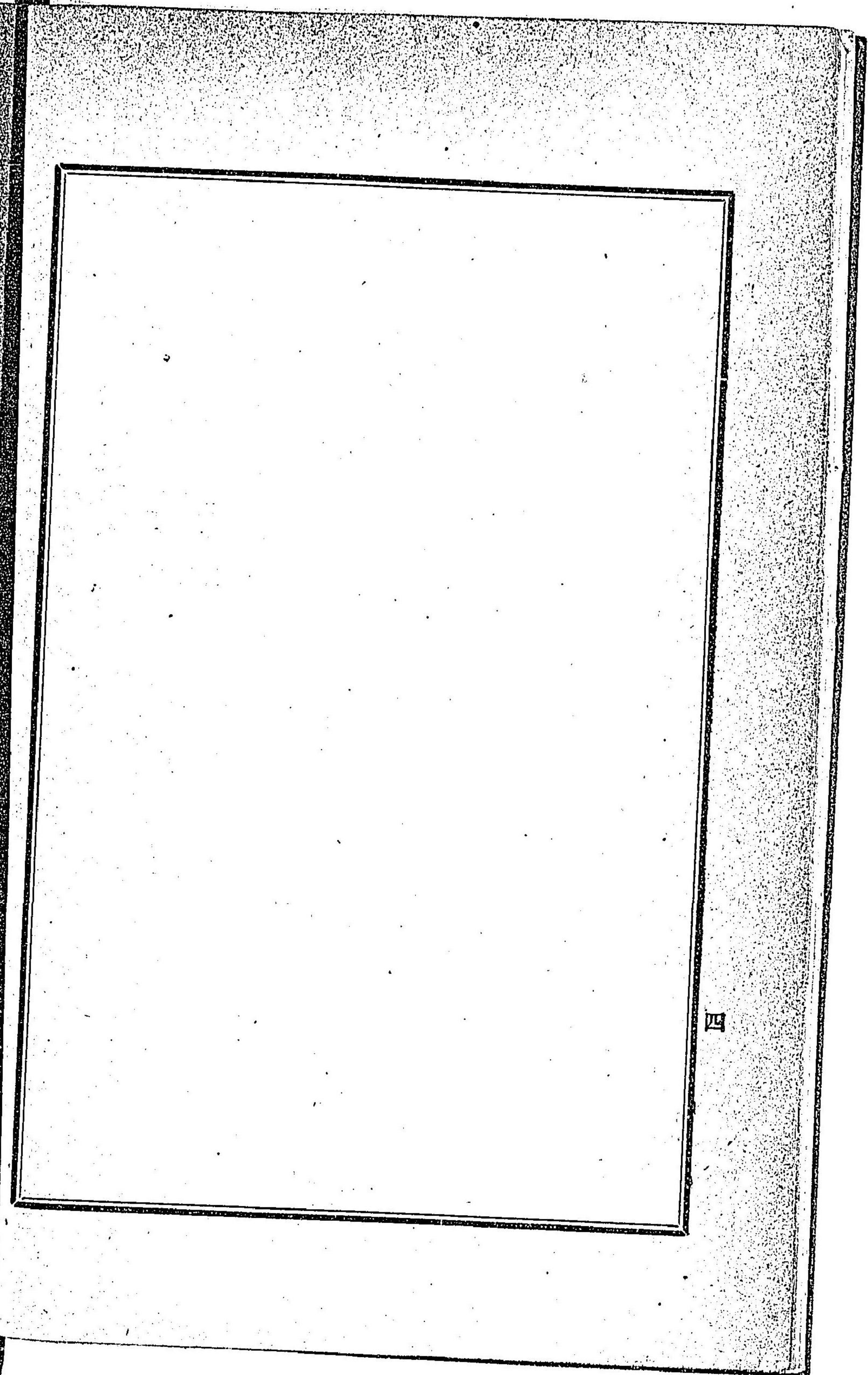
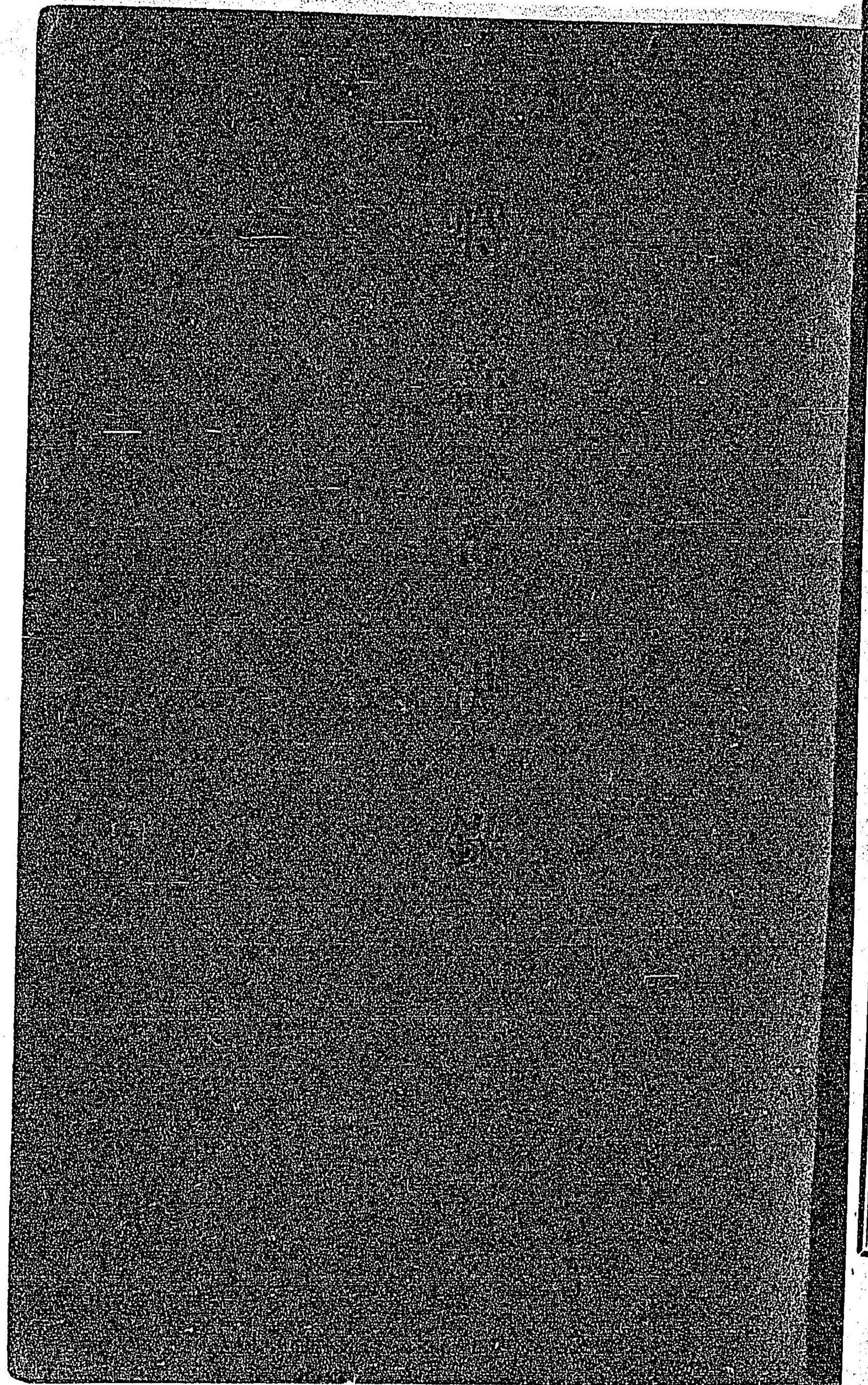
附録

大審院判決

特許事件

實用新案事件

商標事件



五

特許審決録

特許審決録目次

審判番號	件名	審決要旨	當事者	審決年月日	頁數
第八九三號	第六六〇一號特許無效事件		五十嵐幸次郎 外一人	七月十八日	一
第七五八號	第六三五六號特許權利確認事件		西村喜太郎 外一人	七月二十八日	四
第八五二號	第三七六七號特許權利確認事件		多田熊次郎 外一人	七月二十五日	八
第八九二號	第三七九〇號特許無效事件	一、特許請求範圍ノ一部ニ付キ其ノ新規ナラサルコトヲ發見シタルトキハ其ノ部分ノミニ對シテ無効審判ヲ請求スルコトヲ得	新島成道 外一人	八月三日	三
第八七九號	第二一〇〇號特許無效事件		塚本又次郎 外一人	八月十八日	五
第九一三號	抵觸第一七九號發明完成前後査定不服事件 (明治三十八年五月十三日大審院判決一七頁參照)		丹羽平次郎 外一人	八月二十八日	八
第九一四號	第五八二二號特許無效事件	一、特許法施行細則第五十條ノ二ニハ特許ノ所有者ニ關シ何等ノ區別ヲ設ケサルヲ以テ一	北中恒次郎 外一人	九月十八日	三

特許審決録目次

審判番號	件名	審決要旨	當事者	審決年月日	頁數
第六九五號	第一四八三號特許權利 確認事件	特許力數人ノ所有ニ屬スルト キハ如何ナル場合ニ於テモ其 ノ各所有者ヲ以テ被請求人ト 爲サ、ルヘカラス	小宮勇三郎 外一人 倉持精太郎 外一人	九月二十八日	三
第九二六號	第五〇四七號特許權利 確認事件		田中寅次郎 外三人 佐藤啓三	十月十八日	二
第七七〇號	第四九四一號特許無效 事件		大池鎌次郎 外一人 志智昇	十月十八日	三
第九〇八號	第八五六一號特許無效 事件		岩井松之助 外一人 阪田保之助	十月十八日	三
第九一一號	第二八一四八號特許願 拒絕再査定不服事件		グスタープ、ヤン	十二月十八日	五
第九一〇號	牴觸第一六七號發明完 成前後査定不服事件	一、特許出願ニ係ル發明カ其ノ 出願前公知ニ屬シ特許法第二 條第四號ノ規定ニ該當シ特許 ヲ受ケルコトヲ得サルモノナ ル以上ハ初メテ特許法ニ所 レニ非ス從テ其ノ發明完 後ニ付キ審決スルノ必要ナシ	田口穂之助 御法川直三郎	十二月二十八日	七

第九二四號	第七七九八號改訂特許 及第八五九八號特許權 利確認事件 (明治三十九年四月二十日 大審院審決二〇頁參照)	一、實地試驗ノ結果一種ノ樹皮 中ニ存スル纖維ノ性質強靱ナ キ物品ヲ製出スル原料ニ供シ タリト云フニ止ルモノニ非 キ物品ニ於テ普通植物纖維ノ製 造方法ニ於テテ普通植物纖維 上ハ發明ヲ構成スルモノニ非 ラス	日本鐵道株式會社 吉田虎六	十二月二十八日	四
第九〇六號	第二八五七一號特許願 拒絕再査定不服事件		辻瀨洲	十二月十八日	四
第九〇五號	第七七三一號特許權利 確認事件		中村清吉	十二月十八日	四
第九三〇號	第二九四六一號特許願 拒絕再査定不服事件		桑田眞一	十二月十八日	五
第九五六號	第二九八一〇號特許願 拒絕再査定不服事件		寺西福吉	十二月十八日	五
第九五八號	第三〇五二一號特許願 拒絕再査定不服事件	一、特許局所管ノ圖書ハ公衆ノ 閱覽ヲ許スモノナルヲ以テ圖 書カハ特許局ノ所管ニ歸シテ圖 下キハ公衆ハ直ニ之ヲ閱覽シ 其ノ記事ヲ知リ得ル地位ニ置 カレタリヨリ本邦内ニ於テ其 所管ノ日ヨリ本邦内ニ於テ其 ニ知ラシタルモノニシテ何人 カ閱覽シタルモノヤ否ヤハ問 フ所ナシ ニ非ス從テ其ノ發明完 後ニ付キ審決スルノ必要ナシ	桑田量平 外三人	十二月二十八日	五

特許審決錄目次

審判番號	件名	審決要旨	當事者	審決年月日	頁數
第八九七號	第七九四九號特許權利 確認事件	一、特許局ニ特許ヲ出願シ拒絶 査定ヲ受ケタリト云フ事實ハ 出願人及特許局間ノ關係ニ過 キス之ニ依テ其出願ニ係ル 發明カ公知公用ニ屬シタリト 云フヲ得ス	(請) 永世 勝治 (被) 濱田 熊太郎	三十八年 十二月二十六日	五
第九〇九號	第八五五七號特許無效 事件	一、自然ニ存スル物ト雖或工業 的方法ニ依リ新物ノ狀態ニ於 テ製出シタル特種ノ物品ナル 以上ハ之ヲ工業ノ物品ニ關ス ル新規ノ發明ト認ムルニ至當 トス	(請) 松谷 惣兵衛 (被) 松浪 米藏	三十八年 三月二十六日	七
第九二九號	第五六三七號特許權利 確認事件	一、特許法第二十九條ノ規定ハ 積極的權利確認ノ請求ヲ得ハ 極端ノ權利確認ヲモテ得ヘ ク而シテ特許發明ト特許ヲ受 ケサル物品若クハ方法ト指シ 合ニ於テモ審判ヲ請求シ得ヘ シ	(請) 櫻濱 龜之助 (被) 田中 富次郎	三十八年 三月二十七日	七
第九三六號	第五〇四七號特許無效 事件	一、特許法第二十九條ノ規定ハ 積極的權利確認ノ請求ヲ得ハ 極端ノ權利確認ヲモテ得ヘ ク而シテ特許發明ト特許ヲ受 ケサル物品若クハ方法ト指シ 合ニ於テモ審判ヲ請求シ得ヘ シ	(請) 高峯 讓吉	三十八年 三月二十八日	七
第七七九號	第一八八〇五號特許願 拒絕再査定不服事件	一、特許法第二十九條ノ規定ハ 積極的權利確認ノ請求ヲ得ハ 極端ノ權利確認ヲモテ得ヘ ク而シテ特許發明ト特許ヲ受 ケサル物品若クハ方法ト指シ 合ニ於テモ審判ヲ請求シ得ヘ シ	(請) 大場 錦太郎 (被) 片庭 虎吉	三十八年 三月二十八日	七
第九一二號	第八四一八號特許權利 確認事件	一、特許法第二十九條ノ規定ハ 積極的權利確認ノ請求ヲ得ハ 極端ノ權利確認ヲモテ得ヘ ク而シテ特許發明ト特許ヲ受 ケサル物品若クハ方法ト指シ 合ニ於テモ審判ヲ請求シ得ヘ シ			

四

審判番號	件名	審決要旨	當事者	審決年月日	頁數
第九四五號	第八八〇四號特許無效 事件 (明治三十九年四月二十日 大審院判決二五頁參照)	許諾主ヨリ特許權利ノ侵害ヲ 主張セラレ又ハ之ヲ主張セル モノ、ミテ指示スルモノ、ニ ラスシテ同一營業者ニシテ其 ノ物品若クハ製造方法ニ關シ 特許證主ヨリ權利侵害ノ主張 ヲ受ケル虞アルモノモ亦法文 ノ所謂利害關係人ナリト解釋 スルニ至當トス	(請) 西川 莊三 (被) 高村 善吉	三十八年 三月二十八日	七
第九四六號	抵觸第一七三號發明完 成前後査定不服事件	一、特許發明ハ必スシモ其ノ部 分ニ於テ新規ナルヲ要セス各 部ハ普通公知ナルトスルモ全 部組合上新規ノ效果ヲ奏スル ケス	(請) 橋本 鐵藏 (被) 眞野 万之助	三十八年 三月二十八日	八
第九三七號	第七七四〇號特許無效 事件	一、機械ノ一部ニ於テ新規發明 ヲ有スルモノハ尙其ノ機械ノ 發明トシテ特許ヲ受ケルヲ妨 グス	(請) 加茂 才吉 (被) 鈴木 造酒藏	三十九年 一月十九日	八
第九一八號	第八五三〇號特許無效 事件	一、特許法第二條第四號ニ於テ 發明カ特許出願前公知ニ於テ 、場合ニ付キ何等制限スル處 ナキニ依リ特許出願前其ノ發 明ノ構成カ公知ニ屬セルモノ ハ其ノ公知ニ屬セルモノトナシ	(請) 中川 眞平 (被) 正垣 卯之吉	三十九年 二月二十九日	七
第九七三號	第三〇五〇八號特許願 拒絕再査定不服事件	一、特許法第二條第四號ニ於テ 發明カ特許出願前公知ニ於テ 、場合ニ付キ何等制限スル處 ナキニ依リ特許出願前其ノ發 明ノ構成カ公知ニ屬セルモノ ハ其ノ公知ニ屬セルモノトナシ	(請) 中川 眞平 (被) 正垣 卯之吉	三十九年 二月二十九日	九

特許審決録目次

五

審判番號	件名	審決要旨	當事者	審決年月日	頁數
第九七八號	第九七七三號特許無效事件 (明治三十九年十二月三日) (大審院判決三四頁參照)	一、特許出願前ニ於テ特ニ秘密ニ關スル設備ナク機械ヲ工場内ニ於テ營業上セラレタルトキハ之ヲ公然ノ使用ト看做サ、ルヘカラス	請 泉源太郎 仲山莊三郎 (被)	三十九年六月十四日	二七
第一〇〇九號	第三〇六八七號特許願拒絶再査定不服事件		請 白杵隆吉 (被)	三十九年七月二日	二三
第九七九號	第九〇九九號特許無効事件		請 龜澤半次郎 外一人 (被)	三十九年七月三日	二四
第九八九號	第八八七三號特許無効事件		請 川崎鐵藏 外一人 (被)	三十九年七月三日	二六
第九八一號	第八五九八號特許及第七七九八號改訂特許無効事件		請 杉浦宗三郎 吉田虎六 (被)	三十九年九月二十八日	二四
第一〇四四號	第二九九九三號特許願拒絶再査定不服事件		請 (被) ベンリー、ウイリアムズ、フクレー	三十九年十月五日	一四

審判番號	件名	審決要旨	當事者	審決年月日	頁數
第九四〇號	第七五八八號特許無効事件		請 濱吉平 外一人 (被)	三十九年三月十九日	一五〇
第一〇一三號	第九六七二號特許無効事件		請 林又兵衛 外二人 (被)	三十九年十月二十五日	一五
第一〇六五號	第三一四一六號特許願拒絶再査定不服事件		請 林浪九郎 外一人 (被)	三十九年十月三十一日	一五
第九九七號	第七三四八號特許權利確認事件	一、特許ヲ受ケタル機械カ特許發明ト撞着スト主張スルモ其ノ事實ヲ確ムヘキ證據ヲ提出セサルカ故ニ双方ノ權利範圍ヲ確定スルヲ得サルヲ以テ其ノ請求ハ之ヲ却下スヘキモノナリ	請 小野地能藏 八木庄七 外二人 (被)	三十九年十一月十四日	一五
第一〇二三號	第二九七一五號特許願拒絶再査定不服事件		請 ヂョーエル、クレンメント、スロター (被)	三十九年七月二十八日	一六
第一〇八五號	第三二八一四號特許願拒絶再査定不服事件		請 井上次八 (被)	三十九年十二月七日	一六
第一〇五三號	第三二九四七號特許願拒絶再査定不服事件		請 青柳醇一 (被)	三十九年十二月十二日	一五
第一〇六四號	第三三三八七號特許願拒絶再査定不服事件		請 太刀川貞治 (被)	三十九年十二月十八日	一七
第九五三號	第二一七七號特許權利確認事件		請 山本常造 彌久末彌代吉 外六人 (被)	三十九年三月二十五日	一七

審判番號	件名	審決要旨	當事者	審決年月日	頁數
第八九四號	第六五一九號特許無效事件		(請) 小葉竹德之助 (被) 外四人 稻垣勝藏	三十九年三月二十七日	一七
第一〇四八號	第九九八六號特許權利確認事件		(請) 藤田義為 (被) 野口榮吉	四月十五日	一六
第一〇三九號	第九九八六號特許權利確認事件		(請) 野口榮吉 (被) 清水康雄	四月十五日	一八
第一一二二號	第三四九九四號特許願拒絕再査定不服事件	一、單ニ鐵泉水等ヲ普通ノ製氷法ニ依リ凍結セシムルカ如キハ特許ヲ受クルヲ得ヘキ發明ナリト云フヲ得ス	(請) 原邦太郎	四月十日	一八
第一〇七〇號	第二八九〇五號特許願拒絕再査定不服事件		(請) 工藤善次郎	四月五日	一八
第一〇八五號	第三一七九九號特許願拒絕再査定不服事件	一、特許局圖書備附ノ圖書ハ公衆ノ閱覽ニ供シアルヲ以テ其ノ何人ニ依リテモ閱讀セラレタルコトナシトノ反證アルニアラサルハ公知ニ屬スルモノト認ムルヲ至當アリトス	(請) 原邦太郎 (被) 岡本富三郎	四月九日	一八
第一〇六六號	第九四四五號特許無效事件		(請) 大月專平 (被) 外一人 岡本富三郎	四月十二日	一八
第一〇三〇號	第三〇八七四號特許願拒絕再査定不服事件		(請) 鈴木武助	四月十五日	一八

審判番號	件名	審決要旨	當事者	審決年月日	頁數
第一〇二〇號	第八〇五六號特許無效事件		(請) 尾崎大九郎 (被) 石岡廉太郎	四月二十五日	一八
第一〇一三號	第三四〇〇六號特許願拒絕再査定不服事件		(請) 石井盈	三月二十七日	一九
第一一一五號	第三一九一四號特許願拒絕再査定不服事件		(請) 北島綱三郎 (被) 外一人 天沼幸三郎	四月二十七日	二〇
第一〇五五號	第八二九五號特許無效事件	一、審判費用ノ負擔ニ付テハ特許法第三十七條及同法施行細則第五十八條ニ依リ審判長ニ於テ決定スヘキ事項ニシテ法律上審判ヲ請求シ得ヘキ事項ニ非ラス	(請) 天沼幸三郎 (被) 庄田常次郎	四月十一日	二〇
第一一〇〇號	第三二七〇八號特許願拒絕再査定不服事件		(請) 森田房太郎	四月二日	二〇
第一〇二九號	第二七四五九號特許願拒絕再査定不服事件		(請) 青木德次郎	四月十二日	二〇
第一〇四一號	第三二一七四號特許願拒絕再査定不服事件	一、特許局圖書備附ノ圖書ハ公衆ノ閱覽ニ供シアルモノハ其ノ内容ノ公知ヲ推定スルノ何等具體的舉證ヲ要セサルモノトス	(請) 吉田幸作	四月十二日	二〇
第一一三五號	第三四八八一號特許願拒絕再査定不服事件	一、特許參圖書館所藏ノ書冊ニシテ何人ノ力ニ依リテ公衆ノ下ノ證明ナキモ其ノ書冊ノ掲載事項ニ付キ其ノ公知ニ屬スルヲ認知シ得ヘキモノトス	(請) 吉田幸作	四月十七日	二四

特許審決録目次

審判番號	件名	審決要旨	當事者	審決年月日	頁數
第一一六號	第八七八五號特許無效事件		請 君塚順之助 被 日本護球會 外一人	四月二十九日	二六
第一〇五一號	第三一五六一號特許願拒絕再査定不服事件	一、特許局圖書館ニ於テ公衆ノ閱覽ニ供シアル以上ハ既ニ公衆ニヨリ閱讀セラレタルモノト推定スルハ至當ニシテ公衆ノ人ニ依リテモ閱讀セラレ得ルモノトナキヲ立證スルノ責任アリ	請 ショーヅ、ジョー 被 ス、アッキンス	四月十日	三〇
第一〇五四號	第三二二四六號特許願拒絕再査定不服事件	一、特許局圖書館所存書籍ノ記載事項ニ付キテハ政テ具體的閱覽ノ證明ヲ要セス其ノ公知ニ屬スルヲ推定シ得ルモノトス而シテ又其ノ記載文章ノ日本語タルト英語タルトハ之カ爲ニ日本人ノ理解シ得ルトストノ分界タラザルモノトス	請 セー、ムス、ジョー 被 シ、セッド、ロック	四月十日	三三
第一〇七三號	第八七八五號特許無效事件		請 平尾淺紋 被 福森外二人 菊一吉助	六月十一日	三四
第一〇五六號	第四九六七號特許權利確認事件	一、被請求人ノ使用スル機械ノ構造ニ付キテアルニ請求人ニ供テ其ノ構造ニ付キテ證明ニシテハハスルハ從テ其ノ構造ヲ證明スルニ屬スルヤ否ヤヲ特	請 植木忠吉 被 藤岡忠吉	四月二十日	三九

第八五五號	牴觸第一三三號發明完成前後査定不服事件	請 關口八五郎 被 關參治郎	四月二十四日	三二
第一一二號	第三一九六號特許願拒絕再査定不服事件	請 中川八郎	六月二十六日	三五
第一〇八四號	第一〇一〇五號特許無效事件	請 柳原富藏 被 古居春逸	四月九日	三六
第一〇六八號	第七二六一號特許無效事件	請 山田龜壽 被 小柳市太郎	八月二十三日	三九
第一一三三號	第三四五四九號特許願拒絕再査定不服事件	請 鈴木多市郎	四月十二日	四二
第五二一號	第一六〇一號特許無效事件	請 鹿島卯之助 被 坂本玉吉	四月二十六日	四四
第八九八號	第一六〇一號特許無效事件	請 青木儀三郎 被 坂本玉吉	四月二十六日	四六
第一一五二號	第三五〇一四號特許願拒絕再査定不服事件	請 林田忍四郎	四月二十六日	四七
第七一一號	第一六〇一號特許無效事件	請 青木儀兵衛 被 阪本玉吉	四月十一日	四九

△レニ由ナキヲ以テ請求人ノ其ノ特許範圍ニ屬ストノ申立相立タス

審判番號	件名	審決要旨	當事者	審決年月日	頁數
第一二〇四號	第九九八六號特許權利 確認事件		(請)野口榮吉 (被)內藤佳一郎	四月十一日	二五
第一一六五號	第三五二七二號特許願 拒絕再査定不服事件		(請)布施丑造	四月三日	二四
第一一四九號	第九七〇九號特許無效 事件		(請)石堂次三郎 (被)安原仁三郎	四月四日	二五
第一一四二號	第一一九八號特許無 效事件		(請)鳥巢導太郎 (被)木內茂吉	四月五日	二五
第一〇九〇號	第一〇一九〇號特許無 效事件		(請)森重吉 (被)松井貞次郎	四月十二日	二六
第一二〇六號	第三六三二七號特許願 拒絕再査定不服事件		(請)二木泰次郎	四月十四日	二六
第一一九三號	第三六六二一號特許願 拒絕再査定不服事件		(請)日山信夫	四月十五日	二五
第一一九七號	第三八一六九號特許願 拒絕再査定不服事件		(請)杉浦才太郎	四月十九日	二七
第一一八二號	第三五四〇三號特許願 拒絕再査定不服事件		(請)アウグスト、グイ テス、ハイマー	四月二十日	二九
第一二三三號	第三七三〇九號特許願 拒絕再査定不服事件		(請)隅野留三郎	四月二十日	二七

審判番號	件名	審決要旨	當事者	審決年月日	頁數
第一一七九號	第二六四九號特許權利 確認事件		(請)合資會社河東製 絲所 常藏 (被)阿部 外人	四月二十日	二七
第一〇七六號	第九五九六號特許權利 確認事件		(請)川瀬鍛策 (被)山田源平	四月十九日	二七
第一二一七號	第三六九三〇號特許願 拒絕再査定不服事件		(請)モセス、レザーク ライマー	四月十九日	二六
第一一八一號	第一一五二〇號特許權 利確認事件		(請)伊藤清右衛門 (被)種田卯之吉	四月十五日	二八
第一二二九號	第二〇〇九號特許權利 確認事件		(請)前田道方 (被)長崎和清	四月十五日	二八
第一二三四號	第九九八六號特許權利 確認事件		(請)野口榮吉 (被)有賀孝治	四月十日	二九
第一二〇二號	第三五七九八號特許願 拒絕再査定不服事件	(明治四十一年四月六日 大審院判決四七頁參照)	(請)湯淺重太郎	四月十二日	二九
第一一九九號	第七五三一號特許權利 確認事件		(請)恒川平太郎 (被)大川六之助	四月十九日	二九
第五二一號	第一六〇一號特許無效 事件	(明治三十六年五月四日 大審院判決一頁參照)	(請)鹿島卯之助 (被)阪本達三	三月十七日	二九

一、法人タラサル組合ハ審判ノ
請求ヲ爲スコト能ハサルヲ以
テ其ノ組長タル資格ヲ以テ提
起シタル審判請求ハ違法ニシ
テ却下スヘキモノナリ

ニ添へ特許局ニ提出セラレアル事實ニ依リ明白ナリトス而シテ甲第三號證ノ成立ハ本件特許ノ出願日ヨリ以前ナルコト正ニ四十二日ニシテ同證願書ニ添附ノ見本品ニ於ケル模様即チ縞成ノ如何ハ同證記載ノ如ク適宜ノ幅ナル疎密ノ縞地ヲ縞狀タラシメタルモノニシテ本件特許鉋ニ依リ削製セラレタル經木ト異ラサルモノトス斯ノ如ク本件特許ノ出願以前ニ於テ既ニ其鉋ト同一發明ノ鉋カ他人ニ依テ使用セラレ且該鉋ニ依テ削成セラタル同一ノ經木カ又既ニ特許局ニ提出セラレアル事實明確ナルニ於テハ本件特許ノ鉋ハ最先ノ發明物ニ非スシテ特許法第二條第四號ノ所謂特許出願前ノ公知公用物ナリト云ハサル可カラス之ヲ要スルニ本件第六六〇一號ノ特許ハ特許法第二十條ニヨリ無効タルヘキモノナリト云フニアリ被請求人答辯ノ要旨ハ請求人申立相立タスト審決相成度其理由ハ請求人ノ提出セル甲第一號證乃至甲第七號證ノ中甲第一二號證ハ特許第六六〇一號特許證ニ附屬スル明細書及圖面ト同様ナル寫タルコト并ニ該特許權ハ現ニ被請求人等ニ於テ共有セルコトハ之ヲ認ムルモ請求人ノ主張ニ係ル特許第六六〇一號鉋ト同一ノモノヲ特許出願前同業者一般ニ製作使用シタリトノ事實並ニ此事實ハ被請求人モ之ヲ知悉スルトノ事實ハ何等ノ證明ナキヲ以テ之ヲ認メス甲第三號證乃至甲第六號證ハ曾テ經木ノ模様ニ付意匠登錄ヲ出願シタリトノ事實ヲ證スルニ過キスシテ未タ該經木ノ模様ヲ作ルニ果シテ係争特許鉋ト同一ノ鉋ヲ使用シタルヤ否ヲ證明スルニ足ラス從テ本件ニハ何等ノ關係ヲモ有スルモノニ非ス且係争特許鉋ハ明治三十六年二月中ニ完成シ試験ノ結果四月中特許ヲ出願シタルモノナレハ林政治ナル者カ三月十七日ニ經木ノ意匠登錄ヲ出願シタリトテ直ニ同一鉋ノ最先發明者トナスヲ得ス况ヤ同一鉋ヲ使用シタリヤ否ヲ證明スヘキ根據ヲ有セサルニ於テオヤ又意匠登錄願ハ出願前ハ勿論出願中ト雖モ公ニ屬セサルヲ常態トス故ニ經木ニ意匠登錄ヲ出願シタルニ依リ本件鉋カ出願前公用ニ屬シタリト云フヲ得ス甲第七號證ハ個人間ニ成立シタル文書ノ往復ニ過スシテ而モ本件審判事件ノ提起後被請求人ニ立證ヲ要求セラレタル後意

匠登錄ノ出願人ト其代理人トノ間ニ成立シタルモノナリ斯ノ如キ文書ハ何時ニテモ作成シ得ラル、モノナレハ之ヲ以テ本件特許出願以前ニ果シテ同一鉋ヲ使用シタリヤ否ヲ確ムル立證トナスヲ得サルモノトス又文書ノ回答者ハ何ヲ根據トシテ斯ク回答ヲ爲スヤノ點ニ至リテハ言及スル處ナキノミナラス回答事實ノ眞誠ヲ確保スル上ニ就テハ何等法律上ノ責任ヲモ負擔セサルモノナレハ何レノ點ヨリ見ルモ本件ノ立證トシテ信憑スルニ足ラスト云フニアリ仍テ本件ニ關スル一切ノ書類ヲ査閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ請求人ハ特許第六六〇一號鉋カ特許法第二十條第一號ニ該當シ無効ナリト主張スル理由ハ該特許發明ハ其出願以前公知公用ニ屬シタルノ事實アリト云フニ歸着ス然ルニ第三者カ本件特許鉋ノ出願以前ニ於テ該特許鉋ニ依リ削製セラレタル經木ト均等模様ヲ有スル經木ニ對シ意匠登錄ヲ出願シタルノ事實アルモ製品ノ均等ハ必スシモ製造器ノ同一ヲ推定スルノ原因トナラス請求人ハ右製造器ノ同一ヲ確ムル爲メ甲第七號證ヲ提供シタリト雖之レ本件審判事件提起後ニ於テ個人間ニ往復シタル私文書ニシテ此ノ如キハ前記主張ヲ確ムヘキ證據カヲ有セサルモノトス假リニ第三者ノ使用セル鉋カ本件特許鉋ト同一ナリトスルモ未タ以テ本件特許出願前其鉋カ公知公用ニ屬シタル事實ヲ確ムルニ足ラサルノミナラス亦該發明完成ノ先後ヲ定ムルニ由ナシ故ニ本件特許第六六〇一號鉋ハ特許法第一條及第二條ニ違反シタルモノトナスヲ得ス從テ特許法第二十條第一號ニ該當セス其他双方ニ於テ論争スルトコロアルモ本審決ニ關係ナキヲ以テ之ヲ説明セス右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ請求人申立相立タス

明治三十八年七月五日於特許局

審判長 特許局事務官 中 松 盛 雄
 特許局技師 鈴木千代吉
 特許局事務官 島村他三郎

四

第七百五十八號

大阪市北區曾根崎上二丁目三十三番地足袋商

大阪市東區島町一丁目五十五番屋敷特許代理業者

大阪市北區旅籠町九十七番邸足袋木綿商

大阪市北區北野東之町六百二十八番邸足袋職

東京市京橋區宗十郎町一番地特許代理業者

東京市京橋區加賀町一番地特許代理業者

右西村カノヨリ小寺喜太郎外一名ニ對シ第六三五六號足袋製造法(はだしばき)特許ノ權利確認ヲ求ムル
 爲メ審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ甲第一號證足袋ノ製造法ハ第六三五六號足袋製造法(はだしばき)特許ノ範圍ニ屬セ
 サルモノト審決相成度其理由ハ甲第一號證ノ足袋ハ請求人カ從來製造販賣スル處ノモノニシテ之ヲ第六
 三五六號特許足袋製造方ト比較スルニ本件特許足袋製造方ハ甲第四號證第七圖乃至第拾圖ニ示ス縫方即
 足袋底(1)ト底裏(2)トヲ縫着スル絲(b)カ通過セル針孔ヲ利用シテ之ヨリ針ヲ少クシ斜メニ通シ絲
 (a)ヲ足袋底(1)ノ側方ニ出シテ縫邊ヲ内方ニ折込ミタル部分ヲ縫着シ置キ甲片(5)ヲ縫着スル絲(d)

ハ前ノ絲(1)ト底ノ裏面ニ於テ恰モ十字形ヲ形成スルヲ要部トス然ルニ請求人ノ足袋製造方ハ足袋底
 (イ)ト底裏(ロ)トヲ縫着スル絲(1)ハ「ミシン」ヲ使用スルヲ以テ本件特許ノ絲(b)ト同様ナリト雖モ足
 袋底(イ)ノ縫邊ヲ内方ニ折込ミタル部分ヲ縫着スル絲(3)ハ甲第三號證第四圖ニ示ス如ク足袋底(イ)ノ
 外部ニ可成顯ハレサル様山路狀ニ通過セシムルヲ以テ彼ト是トハ同一ニアラス從テ請求人ハ從來ノ如ク
 甲第一號證ノ足袋ヲ製造スルモ本件特許ニ對シ何等支障ナキハ勿論ナリト雖モ被請求人ハ請求人ノ製品
 ノ受賣者ニ對シ特許侵害ノ告訴ヲ提起セント恐喝シ請求人製品ノ販路大ニ妨害セラル、ニ依リ止ムヲ得
 ス本件審判ヲ請求ス然ルニ被請求人ハ特許第六三五六號足袋製造法ニ在テ足袋底(1)ト底裏(2)トヲ縫
 着スル絲(b)ヲ通過セル針孔ヲ利用シテ之ヨリ針ヲ少クシ斜メニ通シ絲(a)ヲ足袋底(1)ノ側方ニ出シテ
 縫邊ヲ内方ニ折込ミタル部分ヲ縫着スル所以ハ足袋底ト甲トヲ縫合シテ以テ後段ノ技術即裏返ヲ容易ナ
 ラシムル效果ヲ得ントノ精神ニ外ナラス云々ト主張スルモ足袋底(1)ト底裏(2)トヲ縫着スル絲(b)ヲ
 通過セル針孔ヲ利用シテ之ヨリ針ヲ斜メニ通シ絲(a)ヲ足袋底(1)ノ側方ニ出シテ縫邊ヲ内方ニ折込ミタ
 ル部分ヲ縫着スルコトハ甲ト足袋底トヲ縫合シテ後裏返ヲ容易ナラシムルニハ其ノ厚キ部分ノ周縁ヲ薄ク
 ノ如キ極メテ厚キモノト他ノモノトヲ縫合シテ後裏返ヲ容易ナラシムルニハ其ノ厚キ部分ノ周縁ヲ薄ク
 ナシ其ノ部分ヲ縫合スレハ容易ニ裏返シ得ルハ古來當業者ノ熟知スル所ニシテ擊劍道具ノ「コテ」ノ縫合
 方及本件特許出願前ノ特許ニ係ル第五三七九號特許足袋底ノ如キ亦同一ノ縫合方ニ係リ本件特許出願前
 公知ニ屬セリト云フニ在リ而シテ其主張ヲ證明スル爲メ甲第一號證乃至第六號證ヲ提出シタリ
 被請求人答辯ノ要領ハ請求人ノ申立相立タスト審決相成度其ノ理由ハ請求人ハ自己ノ足袋製造法ヲ以テ
 被請求人ノ特許番號第六三五六號足袋製造法(はだしばき)ニ比シテ差異アリト主張スル要點ハ「足袋底
 (イ)ノ縫邊ヲ内方ニ折込ミタル部分ヲ縫着スル絲(3)ハ甲第三號證第四圖ニ示ス如ク足袋(イ)ノ外部ニ

五

ル部分ト其底ト縫合スル絲ハ前キニ足袋底ノ縁ヲ折込ム爲メ縫刺セル絲ト斜メニ十字形ヲ形成スルコトノ發明ノ要部ナルコト其ノ特許出願ニ付キ提出シタル明細書ニ依リ明カニシテ請求人ノ製造販賣スル甲第一號證ノ足袋製造法ヲ足袋底ノ縁邊ヲ内方ニ折込ミタル部分ヲ縫着スル絲(甲第二號證第參圖ノ3)ハ足袋底(甲第三號證第四圖ノイ)ノ外部ニ可成顯ハレサル様山路狀ニ通過セシムルモノナルヲ以テ其ノ製造ノ手續彼此相異レリ既ニ製造ノ手續異ナル以上ハ其目的ヲ同フスルモ足袋製造法相同シト云フヲ得ス加之第六三五六號特許出願ニ付キ提出シタル明細書特許請求範圍中前記本件請求人ノ足袋製造方法ニ付キテハ其ノ記載ナキヲ以テ請求人ノ製造販賣スルト稱スル甲第一號證ノ足袋製造法ハ第六三五六號足袋製造法特許權利ニ撞着スルモノニアラス其ノ他當事者ニ於テ辯論スル處アルモ必要ナキニ依リ之ヲ説明セス

右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ

請求人ノ製造販賣スル甲第一號證ノ足袋製造法ハ第六三五六號足袋製造法ノ特許權ノ範圍ニ屬セス
明治二十八年七月廿一日特許局ニ於テ

審判長 特許局技師工學博士 阪田 貞一
特許局技師 鈴木 千代吉
特許局事務官 宮内 國太郎

第八百五十二號

德島市富田浦町三十七番屋敷阿波藍製造販賣同業組合組長

請求人 多田 熊次郎

大阪市東區谷町二丁目六十一番屋敷特許代理業者
德島縣板野郡大山村大字椎本村百八番地藍商
東京市京橋區木挽町四丁目三番地特許代理業者

右代理人 河井 淡
被請求人 新崎 絹次郎
右代理人 石原 卯八

右多田熊次郎ヨリ新崎絹次郎ニ對シ特許第三七六七號ノ特許權利ヲ確認スル爲メ審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要旨ハ請求人ノ特許第三七六七號藍錠ヨリ藍錠ヲ製造スル方法ハ蓼藍草ヲ攝氏七十度以上ニ於テ温浸シ其浸出液ノ四十度以下ニ降下スルヲ待テ之ニ「ポリコニン」溶液ヲ適宜ニ加ヘ全液ヲ攪拌シ分解酸化セシメテ藍錠ヲ製造スルニ在リテ被請求人ノ特許願第二四〇〇六號藍錠ヨリ藍錠ヲ製造スル方法ハ蓼藍草ヲ攝氏八十度以上ニ於テ温浸シ其浸出液ノ攝氏六十度以下ニ降下ラサル以前ニ生藍草ヲ投シ攝氏四十五度ニ降下スルヲ待テ攪拌シ分解酸化セシメテ藍錠ヲ製造スルニアリテ兩方法ハ要スルニ温浸攝氏八十度乃至七十度以上ニ於テ藍草浸出液ノ冷後(攝氏四十度乃至四十五度以下)ニ於テ他ノ藍草中ニ含有セル成分「ポリコニン」ノ作用ニ因リ藍母ヲ分解酸化セシメテ藍錠ヲ製造スルニアリテ前者ハ特ニ「ポリコニン」水溶液ヲ作り四十度以下ノ冷後ニ於テ之ヲ施シ後者ハ其冷却ヲ待タズシテ「ポリコニン」ヲ含有セル生藍草ヲ其儘投入シ兩者共ニ温度ノ冷却ヲ待チ而シテ後攪拌シ分解酸化セシムルモノニシテ等シク藍母ヲ容易ニ分解セシムルニ必要ナル「ポリコニン」ノ效用ヲ俟ツコト疑ヲ容レズ是後者發明ノ方法ト稱スルモノハ即チ前者發明特許ノ範圍内ニ屬スル要部ト同一ノ方法ナリト云ハサルヲ得ヌ彼ノ特ニ「ポリコニン」溶液ヲ作ルト之ヲ施ス初期ニ於テ温度ノ差違アルモノ、如キハ必竟製造上單ニ操作順序ノ差違ニシテ製造方法ノ差違ト云フヲ得サルモノト信スルカ故ナリ又被請求人ハ蓼藍草中ニ包含スル「エンチナム」ヲ作用セシムレハ酸化スルモノナリトノ原理カ特許第三七六七號ノ發明ニアラサル以上ハ兩發明ハ撞着スルモノニアラスト云フト雖モ

植物學上印度藍ハ荳科ニ屬シ日本藍ハ蓼科ニ屬ス故ニ其青藍ヲ化生スル原質モ亦異ラサルヲ得サルノ理ナリ而シテ「ポリコニン」ト稱スルモノハ總稱「エンチーム」ナル種類ノ一ニシテ特ニ蓼藍草中ニ存スル成分ノ一ニ屬シ彼ノ麥ノ葉芽中ニ包含セル「アンチーム」ヲ特ニ「チアスターセ」ト稱スルカ如シ故ニ被請求人ノ主張ハ學理ヲ無視シタルモノト云ハサルヲ得スト云フニアリ

被請求人答辯ノ要旨ハ特許願第二四〇〇六號蓼藍ヨリ藍靛ヲ製造スル方法ハ請求人ノ特許第三七六七號ニ撞着セスト審決相成度其理由ハ被請求人ノ特許願第二四〇〇六號ハ特許第三七六七號ト異ナリ明細書ニ記載セルカ如ク蓼藍草ヲ攝氏八十度以上ノ湯中ニ於テ温浸セシメ其濾液タル六十度以上ノ温度ニ蓼藍草ノ生葉ヲ投入シ漸次四十五度位ニ下降スルニ至リ其母液ヲ酸化セシメ沈澱壓搾シテ藍靛ヲ製造スル方法ニシテ「ポリコニン」水溶液ナルモノヲ製造セサルモノナレハ毫モ特許第三七六七號ノ特許權利ニ撞着セル點ヲ見ス換言スレハ藍靛製造法ニ於テ蓼藍草ノ温浸液ニ蓼藍草中ニ包含セル「エンチーム」ヲ作用セシムレハ酸化スルモノナリトノ原理カ特許第三七六七號ノ發明ナラサル以上ハ兩發明カ撞着スルモノニアラス而シテ特許ハ原理ニ於テ與ヘラル、モノニアラスシテ方法ノ發明ハ其取扱ノ順序操作方法ニ就テ附與セラル、モノナレハ同一原理ノ下ニ數箇ノ特許發明ハ成立スルモノナリ故ニ此兩發明ハ各別ニ特許トシテ成立スルモノ互ニ撞着スルモノニアラスト云フニアリ

仍テ本件ニ關スル一切ノ書類ヲ査閲シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
請求人ノ特許第三七六七號ハ新鮮ナル蓼藍ヲ攝氏七十度以上ノ水ヲ以テ浸出スルノ後之ヲ攝氏四十度以下ニ冷却シ別ニ藍葉ヲ搗碎シ水ヲ注キ布ヲ以テ絞搾シタル汁液又ハ乾燥藍葉ヲ冷浸シテ製シタル所謂「ポリコニン」ノ水溶液ヲ右蓼藍ノ浸出液ニ加ヘ所謂藍母ヲ分解酸化シテ藍靛ヲ析出セシメ更ニ之ヲ稀薄「アルカリ」液ヲ以テ洗淨スルノ方法ナリトス又被請求人ノ特許願第二四〇〇六號ハ蓼藍ヲ攝氏八十度以

上ノ湯中ニ於テ浸出シ其液ヲ攝氏六十度乃至七十度トナシ之ニ蓼藍ノ生葉ヲ投入シ攝氏四十五度位ニ降下スルニ至レハ攪拌シ以テ析出スル所ノ沈澱ヲ壓搾シテ藍靛ヲ製スルノ方法ナリトス被請求人ハ特許第三七六七號ト特許願第二四〇〇六號ノ方法ヲ比較シ前者ニ在リテハ蓼藍草ノ出浸液ハ七十度以上ニシテ其冷却後(四十度)之ニ特別ニ作りタル「ポリコニン」ノ水溶液ヲ加フルモ後者ニ在テハ八十度以上ノ温度ニテ浸出シ其七十度以下ノモノニ直チニ蓼藍草ノ生葉ヲ投入シ四十五度以下ニ至リテ酸化セシムルノ差違アルコトヲ主張スレトモ既ニ所謂「ポリコニン」カ一種ノ酵素ナルコトノ明瞭ナル以上ハ孰レノ方法ニ於テモ温度ノ昇進スルニ隨テ其特種ノ作用ヲ消失スルコトハ酵素ノ一般性質ニ據リ推考シ得ヘクシテ必ス或ル範圍ノ温度ヲ必要トシ任意ノ温度ニ於テ之カ作用ヲ應用シ得サルモノトス現ニ特許第三七六七號ニ於テハ攝氏四十度以下トシ特許願第二四〇〇六號ニ在テハ攝氏四十五度位ナリト云ヒ右兩方法ニ於テモ大差ナキモノトス故ニ「ポリコニン」カ蓼藍ノ浸出液ニ作用スル温度ニ就テハ特許願第二四〇〇六號ハ發明ヲ構成スヘキ價值ナキモノトス被請求人ハ又特許願第二四〇〇六號ニ於テハ「ポリコニン」ノ浸出液ヲ使用セシメ生葉ヲ直チニ應用スルヲ以テ全ク別異ノ方法ナルカ如ク主張スレトモ生葉ヲ蓼藍浸出液中ニ投シ四十五度ニ冷却スルヲ待テ之ヲ攪拌スルハ亦タ生葉ヨリ浸出スル「ポリコニン」ヲ利用スルモノニシテ「ポリコニン」浸出液ノ利用ト何等ノ異ナル所ナク換言スレハ第三七六七號特許方法ノ範圍ヲ出テサルモノトス其他双方ニ於テ陳辯スル所アリト雖モ必要ナキカ故ニ説明ヲ加ヘス
以上ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
被請求人ノ特許願第二四〇〇六號蓼藍ヨリ藍靛ヲ製造スル方法ハ請求人ノ特許第三七六七號ノ特許範圍ニ屬ス

明治三十八年七月廿五日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 高山甚太郎
特許局事務官 杉本貞治郎
特許局事務官 宮内國太郎

十二

第八百九十二號

東京市本所區外手町十一番地 請求人 中島成道
東京市京橋區銀座二丁目九番地特許代理業者 右代理人 三宅頌夫
福島縣東白川郡棚倉町字古河四十番地 被請求人 井上臺介
東京市日本橋區南茅場町四番地特許代理業者 右代理人 片岡靜輔
東京市京橋區木挽町九丁目七番地特許代理業者 右代理人 稻木繁太郎

右中島成道ヨリ井上臺介ニ對シ第三七九〇號壓搾機特許ヲ無効トスル爲メ審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ被請求人所有ニ係ル第三七九〇號改訂特許請求範圍第二項ハ特許法第二十條第一號ニ該當スルモノナルヲ以テ無効ナリト審決セラレタシ其理由ハ初メ被請求人カ明治三十二年ニ得タル特許ノ請求範圍ハ第一項第二項ヨリ成立シタリシモ明治三十六年ニ至リ其請求範圍ヲ第一項第二項第三項ニ區別シ原特許ノ請求範圍第二項ヲ區別シテ第二項第三項トシ該壓搾機ノ螺旋軸ニ縱溝ヲ切リテ上下動ヲ爲サシムヘキ裝置ノミヲ以テ獨立シタル第二ノ特許請求範圍ト爲セリ然レトモ縱溝ヲ穿テ螺旋軸ヲ螺旋孔ヲ穿テル齒輪ニ挿入シ調節杆ヲ以テ上下動ヲ爲サシムル裝置ハ新規ノ發明ニアラスシテ數十年

來使用セラレタルモノナリ故ニ本件特許第二項ハ特許法第二十條第一號ニ該當スルモノトス而シテ被請求人ハ特許ハ不可分ナルヲ以テ假令其一部ニ付請求人ノ主張スルカ如キ事實アリトスルモ之ニ對シテ取消ヲ請求スヘキニ非スト答辯スルモ一部請求範圍ノ取消ヲ請求シ得ルコトハ審決ノ先例ニ依リ明ナリト謂フニ在リテ其主張ヲ確ムル爲メ甲第一號證乃至第六號證ヲ提出セリ

被請求人答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決セラレタシ其理由ハ本件特許請求範圍第二項ノ機構カ本件特許出願前本邦ニ於テ公知公用ニ屬セリトノ事實ハ之ヲ認メ難シ而シテ假リニ其事實アリトスルモ這ハ穿孔機即チ穴ヲ穿ツ機械ニシテ被請求人ノ壓搾機トハ其構造作用ヲ異ニシテ請求人ノ立證スル公知ノ機械トハ何等ノ關係ヲ有セス且亦特許ハ不可分ナルヲ以テ其一部ニ付請求人ノ主張スルカ如キ事實アリトスルモ之ニ對シテ取消ヲ請求スルヲ得サルモノナリト謂フニ在リ

仍テ本件ニ關スル一切ノ書類ヲ査閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

本件特許ノ請求範圍第二項ニ於テハ「突杆ノミヲ容易ニ上下シテ押臺ノ移動及高低ヲ調節シ得ヘカラシムヘキ目的ヲ達センカ爲メ本書ニ詳記スルカ如ク橫杆(ハ)ニ附設セル中心ニ螺旋孔ヲ穿テル齒輪(ヨ)ト該齒輪ノ螺旋孔ニ挿入スヘク附設セル縱溝(タ)及螺旋ヲ有スル突杆(レ)ト縱溝(タ)ニ拔挿シテ突杆(レ)ヲ廻旋シ或ハ廻旋セサラシムルヘク適宜附設セル調節杆(リ)トノ組合」トアリ然ルニ請求人ノ提出セル甲第一號證「グードイープ」氏ノ「エレメンツ、オフ、メカニズム」中ニハ穿孔機ニ關シ本機ノ運動ヲ爲サシムルニハ力ヲ歪角齒輪(D)ニ與ヘ(D)ハ歪角齒輪(c)ヲ廻轉セシメ從テ其内部ニ穿孔錐(G)ヲ具フル管(AB)ヲ廻轉セシム手車(K)ハ齒輪(m)ヲ廻轉セシメ之レト聯動スル齒輪(n)ニ運動ヲ傳ヘ穿孔錐(G)ニ下壓ヲ與ヘテ其作用ヲ全カラシム而シテ穿孔軸ハ上部ノ螺旋軸ト下部ノ圓錐形ナル部分トノ二ツヨリ成立スルモ穿孔錐ヲ有スル圓錐軸ト共ニ廻轉セスシテ螺旋軸端ニ於ケル鉗ト留押トノ裝置ニ依テ單

十三

ニ上下動ヲナスニ過キス即チ此螺旋軸(F)ハ齒輪(N)ノ内部ニアル雌螺旋ニ働クト雖モ螺旋軸全長ニ縱溝アリテ該溝中ニ止金滑動スルカ爲メ廻旋ヲ妨ケ單ニ上述ノ如ク上下動ヲナセリ今本件特許範圍第二項ト右教科書中ニ説明セル機構トヲ對照スルニ穿孔機ニ於ケル廻旋裝置ヲ除キ去ルトキハ本特許ト異ナルトコロアルヲ見ス齒輪(N)ハ齒輪(Y)ニ該當シ螺旋軸(F)ハ縱溝及螺旋ヲ有スル突杆(L)ニ該當シ止金(H)ハ(N)ニ該當ス其他ノ運動ヲ傳フル裝置ハ本機ノ作用ヲ起ス中間機構ニ過キサルヲ以テ被請求人特許請求範圍第二項ト同一機構ヲ有スルモノナリトス而シテ右教科書カ本件特許出願ノ時即チ明治三十一年ニ於テハ勿論遠ク十數年前ヨリ本邦ニ行ハレタルコトハ荷モ工學ニ通曉スル者ノ知悉スル所ニシテ明治二十一年乃至二十三年ニ於テ東京大學ノ參考書トシテ使用セラレタルコトハ誤ナキノ事實ナリトス依テ本件特許請求範圍ハ其特許出願以前既ニ公知ニ屬スルモノト謂フヘシ而シテ被請求人ハ請求範圍ノ一部ニ對シテ無効審判ヲ請求スルコトヲ得スト謂フト雖モ其新規ノ發明トシテ請求範圍トナシタル部分ハ特許權利ヲ確保シタルモノナルヲ以テ其新規ナラサルコトヲ發見シタルトキハ其部分ニ對シ無効審判ヲ請求シ得ルコト當然ナリトス其他双方論辯スル所必要ナキヲ以テ説明ヲ與ヘス要スルニ本件特許請求範圍第二項ハ特許法第二十條第一號ニ該當スルモノトス

第三七九〇號壓搾機特許請求範圍第二項ハ之ヲ無効トス

明治三十八年八月三日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 阪田 貞一
 特許局事務官 中松 盛雄
 特許局事務官 宮内 國太郎

第八百七十九號

京都市上京區下長者町通知惠光院東入西辰巳町廿七番戸	請求人	塚本 又次郎
京都市上京區堀川通上立賣上ル竹屋町九番戸	請求人	岸本 萬助
京都市上京區小川通中立賣上ル小川町廿七番戸	被請求人	丹羽 平次郎
京都市上京區五辻通淨福寺東入五辻町七番戸	被請求人	中川 清六
京都市上京區烏丸通三條上ル場之町廿五番戸特許代理業者	右兩名代理人	中村 政靖

右塚本又次郎岸本萬助ヨリ丹羽平次郎中川清六ニ對シ第二〇〇號桐材撓直法特許ヲ無効トスル爲メ審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ特許第二一〇〇號桐材撓直法ハ無効ナリト審決セラレ度其理由ハ本件特許第二一〇〇號ハ桐材ヲ撓メ直ス方法ニシテ同材ノ反曲セルモノヲ適度ノ丈量ニ切斷シ之ヲ鍋中或ハ釜中ニ容レ苛性曹達又ハ炭酸曹達ノ溶液約ボーメ氏三十度内へ浸漬シ火熱ヲ以テ二時乃至三時間煮沸シテ之ヲ土壺中ニ收藏シ濕筵又ハ薦ヲ覆ヒ之ニ蓋ヲナシ置クコト二週日乃至三週日間ニシテ脆弱ニ至ルヲ度トシ後之ヲ水五斗ニ礫砂四十目或ハ水四斗ニ硫酸百二十目ノ溶液ニ浸スコト約十二時間後取出シ更ニ水五斗ニ山査子五百目石灰二百目ノ混合液ニテ鍋或ハ釜ニテ再煮スルコト一二時間ナルトキハ桐材ハ甚タ柔軟ノ變素トナルヲ以テ其材ノ中竅ニ適應眞直ナル鐵或ハ其他金屬棒ヲ挿入スルカ或ハ他ノ適當手段ヲ以テ壓搾シ撓直スナリ又節曲リ等ニシテ若シ此手段ノミニテ充分正直ニ至ラサルモノニ在リテハ其内面ニ鋸目ヲ施シ之ヲ開伸シ同質木片ノ楔ヲ嵌挿シテ施術ヲ補助スルコトモアルヘシト云フニアリ然ルニ被請求人ハ右方法ヲ用ヒス請求人等カ明治十五年頃ヨリ營業シツ、アル桐材ノ反曲セル廢物ヲ火熱又ハ湯ニ蒸シ其内

面ニ鋸目ヲ施シ同質ノ木片ヲ嵌挿シ眞直ナラシメタル已ニ公ニ擴布セラレタルモノト一點ノ差異ナキ製
 作品ヲ以テ營業シ而モ請求人カ該特許權ヲ侵害セルカ如ク稱セリ又被請求人等ハ明細書ニ記載セル方法
 ヲ一時ニ悉ク應用スル意味ニアラス其方法ヲ適宜應用スルモノニシテ今日ニ至ルマテ其方法ニ依リ特許
 品ヲ製造シツ、アリト主張スルモノ十有餘年ノ間之ヲ表示スル品世ニ擴布セス若シ被請求人等カ明細書記
 載ノ方法ヲ實施シ居リタルモノトシ請求人等ノ方法ヲ以テ其侵害ナリト認ムルニ於テハ十有餘年ノ間被
 請求人ニ於テ默視スルノ理ナシ要スルニ一時瞞着ノ手段ヲ以テ本件特許權ヲ得タルモノニシテ其特許ハ
 即チ特許法第二十條第三項ニ該當スルモノト認ム又被請求人カ本件特許權ヲ收得セシ以來十二年ノ長キ
 ニ及フモ其方法ヲ實施セサルヲ以テ特許法第三十八條第一項ニ該當スルモノニシテ此點ニ於テモ該特許
 ハ當然取消サルヘキモノナリト云フニ在リテ其申立ヲ確ムル爲メ甲第一號乃至甲第十二號證ヲ提出セリ
 被請求人答辯ノ要領ハ請求人ノ申立相立タスト審決セラレ度其理由ハ請求人ハ被請求人ニ於テ第二一〇
 〇號特許明細書記載ノ方法ヲ總テ應用セサルヲ非難スレトモ該方法ハ其明細書記載スルカ如ク總テノ
 手段方法ヲ一時ニ應用スル意味ニアラス之ヲ適宜ニ應用スルモノニシテ被請求人ハ最先ニ其方法ヲ發明
 シ該特許權ヲ取得セシ以來今日マテ其方法ニ因テ特許品ヲ製造シツ、アルモノナリ然ルニ請求人等ハ事
 實ヲ虛構シテ不正ノ謀計ヲ企テ眞木製造ノ同業者ト共謀シ岩田竹次郎外十三名ヲ證人トシテ列記セリ然
 レトモ列記ノ者ハ皆明治廿七年以後ニ開業セル眞木職人ニシテ近來請求人等ト共ニ第二一〇〇號ノ特許
 品ヲ偽造シ被請求人ノ權利ヲ侵害シツ、アルモノナリト云フニ在リテ其答辯ノ理由ヲ確ムル爲メ乙第一
 號證乃至乙第八號證ヲ提出セリ
 依テ本件ニ關スル一切ノ書類及ヒ證據ヲ査閲シ審査ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
 本件特許第二一〇〇號桐材撓直法ハ其發明ノ保護ヲ請求セル範圍ニ依ルトキハ桐材ノ反曲セル廢材ヲ簡

便ナル操作ニ藉テ眞直ニ撓直シ且ツ蟲蝕ヲ防カンカ爲メ苛性曹達若クハ炭酸曹達ノ溶液ニテ熟煮セシ後
 土窖中ニ數日間收藏シ次ニ硫酸又ハ礫砂ノ溶液ニ浸漬シ後チ山査子、石灰及ヒ水ノ混合液ヲ以テ再ヒ煮
 熱シテ柔軟ナラシメ其心竅ニ金屬棒ヲ挿入シ或ハ適宜壓搾シテ眞直ニ撓メ直ス方法タルハ明カニシテ
 補助法トシテ明細書記載スル所ノ反曲ノ内面ニ鋸目ヲ施シ同質木片ノ楔ヲ嵌挿スル方法ノ如キハ本件
 特許ノ範圍ニアラサルコト請求人主張ノ如クナリト雖モ請求人ニ於テ本件特許ヲ無効ナリトスル理由
 ハ主トシテ被請求人ノ製作品カ請求人等ノ從來慣用スル方法ニ依テ成レル製品ニ一點ノ差異ナキヲ以テ
 其方法モ亦同一ナリトシ爲メニ本件特許ハ特許法第二十條第三項ニ該當スト云フニ在リ然レトモ單ニ製
 作品ニ差異ナキノ故ヲ以テ必スシモ其製造ノ方法カ同一ナリト云フヲ得サルノミナラス他ニ本件特許發
 明ノ實施ニ必要ナラサル事項ヲ故意ニ其明細書ニ記載シタリト認ムルニ足ルヘキ證據ナキヲ以テ該特許
 カ特許法第二十條第三項ニ該當スヘキモノト認ムルヲ得ヌ又請求人ハ被請求人カ本件特許權ヲ收得セシ
 以來十二年ノ長キニ及フモ其發明ヲ實施公行セサルヲ以テ特許法第三十八條第一項ニ該當シ本件特許ハ
 當然取消サルヘキモノナリト云フト雖モ斯ノ如キハ審判請求事項ニ非サルヲ以テ之ニ對シ審理ノ要ナシ
 右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
 請求人申立相立タス

明治三十八年八月十二日於特許局

審判長 特許局事務官 中 松 盛 雄
 特許局技師 安 藤 格
 特許局事務官 宮 内 國 太 郎

第九百十三號

長野縣更級郡稻荷山町六百六十七番地 請求人 清水 康 雄
 東京市下谷區竹町十二番地 被請求人 野 口 榮 吉
 東京市京橋區木挽町十丁目五番地特許代理業者 右代理人 中 川 津 平

右清水康雄ヨリ野口榮吉ニ對シ牴觸第一七九號發明完成前後査定ニ服セス審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ本件査定ノ要旨ハ本件特許願第二七二一八號洋燈笠ノ發明カ明治三十三年二月四日既ニ出願人ニ依リ完成セラレタルハ中川津平ヨリ出願人ニ宛テタル明治三十三年二月四日附ノ書面ニヨリ之ヲ認ムルヲ得ヘク同書ニハ武藏東京三十三年二月四日ワ便トノ明記アル郵便消印ヲ押捺シ而モ特許證主ハ其成立ニ爭フナク何等ノ反證ヲモ提出セス而シテ前顯特許ノ洋燈笠ノ發明完成ハ特許證主ノ陳述ニ依ルモ明治三十五年ナルヲ以テ本件特許願發明ノ完成ハ其前ナルヤ明カナリト云フニ在リ然レトモ中川ヨリ出願人ニ宛テタル明治三十三年二月四日附ノ書面ハ秋毫モ證據力ナキモノナリ審査官ハ同書ニハ武藏東京三十三年二月四日ワ便トノ明記アル郵便消印ヲ押捺シアルヲ以テ該書ヲ有力ノ證據物件ナリト確信セラレタルハ大ナル誤解ナリ封筒兼用ノ書簡箋又ハ端書ニ毫モ通信文ヲ記載セス或ハ通信文ヲ記載スルモ其末端ニ長ク白紙ノ餘地ヲ存シ之ヲ封緘シ受信人及差出人ノ住所ヲ封筒書ニ記載シ(端書ニ在テハ單ニ表面ニ住所氏名ヲ記載スルノミ)郵便局ヲ經テ甲ヨリ乙ニ郵送シ置他日自己ニ利益アル有望ノ特許カ世ニ出ツルニ及ンテ其特許ノ要部ト同一若ハ酷似ノ要部ヲ其特許公報ニヨリテ豫備セル前記ノ書簡箋又ハ端書ニ記載シ一方ニ於テハ其特許ト牴觸セサルヘカラサル様明細書ヲ認メ特ニ其牴觸ヲ成立セシ

メンカ爲メニ發明完成期日ノ副申書ヲ添付シ其牴觸ノ査定ニ接スルヤ豫テ待チ設ケタルコト、テ彼ノ數年前郵便局ヲ經郵便局ノ消印アル書面ヲ提出シテ自己ハ前發明者ナリト主張スルコトハ實ニ容易ニ爲シ得ラル、モノナリ請求人ハ中川ヨリ出願人ニ宛テタル書面ハ明治三十三年二月四日附ニテアリシコトニ異議ヲ容ル、モノニアラス該書面ハ右日附ノ通リ郵便局ヲ經テ郵送シタルモノニ相違ナカルヘシ左レトモ今日彼ノ書面ニ記載シアリシ如キ文字ノ其當時既ニ記載シアリタルヤ否ヤニ至テハ之ヲ信スルコト能ハス發明完成ノ前後ヲ査定スル場合ニ右ノ如キ書面ヲ證據トスヘキモノニアラス右ノ如キ書面ハ何人ニテモ之ヲ作成セントスレハ容易ニ爲シ得ヘキモノナルニ依リ毫モ證據力ナキモノナリト云フニ在リ被請求人答辯ノ要領ハ請求人ハ中川ヨリ被請求人ニ宛テタル明治三十三年二月四日附ノ書面ハ秋毫モ證據力ナキモノナリ封筒兼用ノ書簡箋又ハ端書ニ毫モ通信文ヲ記載セス或ハ通信文ヲ記載スルモ餘白ヲ長ク存シ之ヲ封シテ甲ヨリ乙ニ郵送シ置キ他日有望ノ特許カ世ニ出ツルニ及ンテ其特許ノ要部ト同一若クハ酷似ノ要部ヲ特許公報ニヨリテ豫備セル前記ノ書簡箋ニ記載シ之ヲ提出シテ自己ハ前發明者ナリト主張スルコトハ實ニ容易ニ爲シ得ラル、モノナリト主張スト雖モ何等正當ノ理由ナク又有力ナル反證ヲ舉ケサレハ無稽ノ妄説トシテ聽クノ外ナシ抑モ證據物件ノ立證ニ依テ事實ヲ證明スルニ當リ其人ヲシテ觀察セシムルモ理窟上疑ヲ容ルヘキ餘地ナク又之ニ對シ一層有力ナル反證ヲ舉ケサル以上ハ其證據力確固不拔ナリ請求人ハ被請求人カ提出シタル證據物件ノ如キハ事後容易ニ作成シ得ラル、モノナリト主張スレトモ斯ノ如キ證據物ハ後日決シテ作製シ得ラルヘキニアラス何トナレハ封書端書等凡テ是等郵送物ノ印紙ニ捺印セラル、郵便局ノ日附消印ハ假令一時一日タリトモ其日附ヲ既往ニ溯リテ捺印セラルヘキモノニアラサルト同時ニ苟モ人トシテ後日他人ノ特許ヲ横奪センカ爲メ白紙ノ書簡或ハ餘白ヲ多ク殘留シテ文書ヲ郵送スルカ如キコトハ絶對ニ出來得ヘキ行爲ニアラサレハナリ既ニ裁判所ニ於テモ該證據物

件ニ對シテハ受信人並ニ發信人ヲ喚問セラレ十分ナル精査ヲ遂ケラレタル結果確實ナル證據物ト認メラレタルニ非スヤト云フニ在リテ乙第一號證ヲ提出セリ

依テ本件ニ關スル一切ノ書類及證據ヲ查閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ本件係争ノ要點ハ請求人ノ特許第六一八二號洋燈笠發明完成カ被請求人特許願第二七二一八號洋燈笠發明完成ノ前ナリヤ否ヤニ在リ請求人ハ中川ヨリ出願人ニ宛テタル明治三十三年二月四日附ノ書面ハ其日附ヲ以テ郵便局ヲ經テ送附セラレタルノ事實ハ之ヲ認ムト雖モ其書面ノ内容ヲ形成セル文字ハ果シテ其當時記載セラレタルヤ否ヤハ疑ハシキヲ以テ否認スト云ヘリ然リト雖モ請求人ハ之ニ付何等ノ反證ヲ提出スルコトナク又該書面ハ後日ニ至リテ其一部ヲ記載セシモノナリト認ムルコトヲ得ス而シテ該書面ニ記載シタル洋燈笠ヲ被請求人ノ出願第二七二一八號洋燈笠ト同一ナリト認ムルコトヲ得ヘク更ニ特許第六一八二號發明完成ハ特許證主ノ言フ所ニ依ルモ明治三十五年ナルヲ以テ特許願第二七二一八號洋燈笠發明ノ完成ハ特許第六一八二號洋燈笠發明ノ完成前ナリトナシタル牴觸第一七九號發明完成前後查定ハ不當ナリト謂フコトヲ得ス

右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
請求人申立相立タス

明治三十八年八月二十八日於特許局

審判長 特許局事務官 中 松 盛 雄
特許局技師 安 藤 格
特許局事務官 宮 内 國 太 郎

第九百十四號

大阪市南區鍛冶屋町四百十四番邸 請求人 北 中 恒 次 郎
 東京市京橋區築地三丁目十五番地特許代理業者 右代理人 鵜 澤 總 明
 大阪市南區南炭屋町二百三十八番屋敷 被請求人 烏 飼 藤 太 郎
 大阪市東區高麗橋二丁目百二十六番屋敷特許代理業者 右代理人 岡 田 謙 三 郎

右北中恒次郎ヨリ烏飼藤太郎ニ對シ第五八二二號彩色革製造法特許ヲ無効トスル爲メ審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ特許第五八二二號彩色革製造方法ノ特許ハ無効ナリト審決セラレ度其理由ハ本件特許ノ方法ニ付テハ被請求人ハ最先ノ發明者ニ非スシテ眞ニ最先ノ發明ヲ爲シタルハ鍋島榮次郎ナル者ニシテ被請求人ハ本件發明ニ付何等關係ナキニモ拘ラス發明者ナル鍋島榮次郎ヨリ特許出願ニ付テノ處理方法ヲ依頼セラレタルコトアリシヲ奇貨トシ擅ニ自己ノ發明ナルカ如ク假裝シテ特許ヲ受ケタルモノナレハ該特許ハ無効ナリ又本件彩色革製造法ニ付テハ被請求人カ特許出願ヲ爲シタル明治三十五年四月二十八日以前即明治三十四年夏ノ頃ニ於テ眞實發明ノ最先者ナル鍋島榮次郎ニ於テ廣ク其製造方法ヲ教授シ一般ニ世ニ知ラレ且用ヒラレ居リシヲ以テ該特許ハ無効ナリ之ヲ要スルニ被請求人ノ受ケタル特許ハ特許法第一條第二條ニ違反シタルモノナルヲ以テ同法第二十條ニ依リ無効ノモノトス被請求人ハ本件特許ハ鍋島榮次郎ト共有セル者ナルニ單ニ被請求人一人ニ對シテ請求セルハ特許法施行細則第五十條ノ二ニ違反スルモノナルヲ以テ本件請求ハ此點ニ依リ却下サルヘキモノナリト主張スレトモ本件ハ被請求人ノ特許ヲ絕對ニ無効ナリト主張スルモノナレハ被請求人ノ欺瞞ニ基キ後日共有名義トナリタル鍋島榮次

郎ノ如キハ本件特許ノ所有者ト看做スヘキモノニ非ス前掲法條ハ特許出願ノ始ヨリ數人ノ所有ニ係ル場
 合及ヒ後ニ所有者トナレリトスルモ特許ノ實質上必ス數人ノ關係ヲ必要トスル場合ノ規定ニシテ本件ノ
 如ク其一人ニ對シテ無効ヲ主張シ得ル場合ヲモ包含セシムヘキ法意ニ非ス各所有者ヲ以テ被請求人ト爲
 スヘントノ規定ハ一所有者ヲ以テ他ノ所有者ヲ代表セシム可ラサル趣旨ニシテ各所有者ニ對シテ同時ニ
 同一ノ請求ヲ爲スヘントノ趣旨ニ解スルコト能ハスト云フニ在リ
 被請求人答辯ノ要領ハ請求人ノ申立相立タスト審決セラレ度其理由ハ請求人ハ本件特許ヲ以テ被請求人
 ノ發明ニアラスト主張スルモ之ヲ認ムヘキ證據ヲ示サス加フルニ請求人ハ乙第一號以下ノ各證ニ示スカ
 如ク嘗テ被請求人ノ特許ニ對シテ特約ヲナシタルモ爾後特約條件ニ違反シタル爲メ除名セラレタル者ナリ
 故ニ請求人自カラ被請求人ノ發明タルコトヲ承認セルモノナリ請求人カ主張スル所ノ鍋島榮次郎ヨリ特
 許出願前本件製造方法ヲ傳授セラレタリト云フ六名中一名ヲ除クノ外皆被請求人ノ特許ニ對シテ請求人ト
 共ニ特約ヲナシ居ルコト乙第一號以下ノ各證ニ徴シテ明白ナルヲ以テ請求人ノ主張ハ毫モ信憑スヘカラ
 ス又鍋島榮次郎ナル者ハ本件發明ヲナシタル當時職工トシテ雇入レタル者ニシテ其後同人ノ要請ニ依リ
 本件特許ノ共有者トナシタル者ナレハ同人モ亦被請求人カ本件特許ノ發明者タル事實ヲ承認セルコト明
 白ナリ且本件特許ハ鍋島榮次郎ト共有セルモノナルニ單ニ被請求人一人ニ對シテ請求セルハ特許法施行
 細則第五十條ノ二ニ違反スルヲ以テ本件請求ハ此點ニ依リ却下サルヘキモノナリト云フニ在リテ其答辯
 ノ理由ヲ確ムル爲メ乙第一號證乃至乙第五號證ヲ提出セリ依テ本件ニ關スル一切ノ書類及證據ヲ査閲シ
 審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
 本件特許第五八二二號彩色革製造法ハ本件提起前ヨリ被請求人并ニ鍋島榮次郎ノ共有ニ係ルモノナリ然
 ルニ被請求人一人ニ對シテ本件請求ヲ爲シタルハ特許法施行細則第五十條ノ二ニ違反スルモノトス請求

人ハ前掲法條ハ特許出願ノ始ヨリ數人ノ所有ニ係ル場合及ヒ後ニ所有者トナリタルモ特許ノ實質上數人
 ノ關係ヲ必要トスル場合ノ規定ニシテ本件ノ如ク其一人ニ對シテ絶對ニ無効ヲ主張シ得ル場合ヲモ包含
 セシムヘキ法意ニ非スト主張スト雖モ該條項ニハ特許ノ所有者ニ關シ何等ノ區別ヲ設ケサルヲ以テ本件
 請求ニ於テ鍋島榮次郎ヲ當事者トシテ加フルノ必要アルモノトス
 右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
 本件請求ハ之ヲ却下ス

明治三十八年九月十六日於特許局

審判長 中 松 盛 雄
 特許局事務官 松 田 啓 太郎
 特許局技師 安 藤 格

第六百九十五號

東京市赤坂區青山北町五丁目三十三番地 請 求 人 小 宮 勇 三 郎
 東京市芝區田町四丁目十三番地 請 求 人 松 島 榮 次
 東京市神田區五軒町五番地特許代理業者 右兩名代理人 日 山 豐 次 郎
 東京市下谷區三ノ輪町十一番地 被 請 求 人 倉 持 精 太 郎
 名古屋市堀詰百二十八番戶 被 請 求 人 加 藤 彦 吉
 右小宮勇三郎松島榮次ヨリ倉持精太郎加藤彦吉ニ對シ第一四八三號元結製造法特許權利ヲ確認スル爲メ

審判ヲ請求シタル處審理中審判番號第七百十六號審決ニ依リ該特許ハ無效ニ歸シタルヲ以テ審判請求ノ
目的物ハ既ニ消滅セシモノトス
右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
本件請求ハ之ヲ却下ス

明治二十八年九月廿三日於特許局

審判長 特許局事務官 中 松 盛 雄
特許局技師 安 藤 格
特許局事務官 宮 内 國 太 郎

第九百二十六號

東京市本郷區根津清水町七番地	請 求 人	田 中 富 次 郎
東京市京橋區木挽町十丁目八番地特許代理業者	右 代 理 人	乙 部 俊 次
東京市下谷區下谷車坂町六番地	被 請 求 人	佐 藤 啓 三
東京市本郷區三組町八十四番地	被 請 求 人	宮 谷 仁 作
東京市本郷區根津藍染町十二番地	被 請 求 人	高 橋 峰 藏
東京市本郷區根津八重垣町五十一番地	被 請 求 人	櫻 濱 龜 之 助
東京市神田區五軒町五番地特許代理業者	右四名代理人	日 山 豐 次 郎

右田中富次郎ヨリ佐藤啓三宮谷仁作高橋峰藏櫻濱龜之助四名ニ對シ第五〇四七號耐水囊特許權利ヲ確認

スル爲メ審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處
請求人申立ノ要領ハ被請求人共ノ所有ニ係ル第八四九五號特許及同號改訂特許ハ請求人ノ所有ニ係ル第
五〇四七號特許ノ範圍ニ屬スルモノト審決相成度其理由ハ前記甲(第五〇四七號特許)乙(第八四九五號
特許)兩特許ヲ對比スルニ甲特許ノ發明トスル所ハ(最初提出シタル訂正明細書ニ依ル)日本紙原料ト蒟
蒟粉トヲ混和シテ泥狀トナシ之ヲ模型ノ表面ニ塗布シ石灰ト明礬トノ溶液中ニ入レ煮沸シテ模型トナシ
之ニ間隔材料トシテ糊ヲ塗布シテ乾燥セシメ後更ニ前回ト同一原料タル日本紙原料ト蒟蒟粉トノ混和物
ヲ塗布シ同一ノ收斂材料タル石灰ト明礬トノ溶液中ニ煮沸シテ製作スルモノナレハ同一作業ヲ以テ模型及
ヒ水囊ヲ製作シ糊ヲ以テ其間隔材料トナシタルモノナルコトハ明ナリ從テ其明細書ノ文意ニ不備ノ點ア
ルモ其實質ハ同一作業ヲ連續施行シテ同一ノ模型ヲ以テ同時ニ多數ノ水囊ヲ製作シ得ルモノナルコト明
ナリ而シテ乙特許ノ發明トスル所ハ其明細書ニ記スルカ如キモノナレハ甲特許ト同一ナリト云ハサルヲ
得ス如何トナレハ資料ニ於テ甲ノ日本紙原料ニ對シテ乙ハ綿絮ヲ使用シタルトモ共ニ泥狀ノ蒟蒟粉ニ混
和シテ其纖維ト蒟蒟粉トニ依テ一種ノ防水紙狀ノモノニ製スルニ過キス又間隔材料トシテ甲ハ糊ヲ使用
シ乙ハ米糊ニ雲母ヲ混用シタルトモ何等ノ差異アルモノニ非ス收斂劑トシテ甲ハ石灰ト明礬トノ混和液
ヲ用ヒ乙ハ石灰液ヲ用フルモ均シク之レ收斂劑タルニ過キスシテ同一ナリト云ハサルヲ得ス而シテ乙ノ
主要トスル連續的作業ニ依リ同一模型ヲ以テ同時ニ多數ノ水囊ヲ製スルコトハ已ニ甲特許ニ依リテ發明
セラレ且ツ實施セラレタルコトハ被請求人ニ於テモ非認スルコトヲ得サルモノナリト信ス被請求人等ハ
纖維ト蒟蒟粉トヲ泥狀トナシ模型ニ塗布シ石灰水ニテ煮沸シテ收斂セシメ耐水囊ヲ製スルカ如キハ發明
ニアラスト主張セリ然ラハ何故ニ第八四九五號特許ノ明細書ニ於テ其發明構成要件トシテ特許範圍ニ之
ヲ記載セシヤ之レ自己ノ發明ヲ誤解シタルニアラサレハ囁着ノ主張ナリト云ハサル可ラスト云フニ在リ

其申立ヲ確ムル爲メ甲第一號證ヲ提出セリ
 被請求人答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決相成度其理由ハ請求人ハ第八四九五號ノ特許範圍ハ第
 五〇四七號特許範圍ニ屬スルモノニシテ兩立スヘカラスト主張シ甲第一號證ナルモノヲ提出スト雖該證
 ハ特許第五〇四七號ト何等ノ關係ナキモノナルノミナラス如キハ必要ニ應シ隨意ニ作製シ得ヘキモ
 ノニシテ本事件ニ關シ毫モ證據力ヲ有スルモノニアラス第八四九五號特許ハ其明細書ニ記スル如ク同一
 ノ型ヲ以テ同時ニ數多ノ水囊若クハ防水紙ヲ製作スルノ目的ヲ以テ防水塗料ト間隔塗料ト交互ニ塗布
 乾燥シ之ヲ石灰水ニテ煮沸シテ數多ノ水囊ヲ同時ニ得ヘキ方法手段ヲ發明トスルモノニシテ綿絮及ヒ蒭
 蒭粉ノ如キ資料ヲ發明トスルモノニアラス又第五〇四七號特許モ一種ノ模型ヲ作り其模型ヲ使用シテ耐
 水囊ヲ製スル方法手段ノ發明ニシテ日本紙原料蒭蒭粉ノ如キ資料ヲ發明トスルモノニアラサルカ故ニ此
 等ノ資料ニシテ類似ナリトスルモノ兩特許ノ權利ニ毫モ關係スルモノニアラス石灰ヲ以テ蒭蒭粉ヲ耐水膜
 ニ變セシムルカ如キモ從來ヨリ水囊製造業者カ一般ニ行ヒツ、アルモノニシテ兩特許ノ權利ニ屬スルモ
 ノニアラス特許權ノ撞着ヲ論スルニハ各特許ノ權利範圍ヲ取テ對比スルヲ必要トス其特許範圍外ニ屬ス
 ル從來ヨリ公知公用ノ部分迄ヲモ對比論争ヲナスノ必要ナシ第八四九五號特許ノ權利範圍ハ間隔塗料
 ヲ施シ同一ノ型ニテ同時ニ數多ヲ製スルノ方法ニシテ第五〇四七號特許ノ權利範圍ハ一種ノ模型ヲ作り
 之ヲ使用シテ接合ナキ袋狀ノモノヲ製スルノ方法ナレハ二者ノ間同一若クハ類似ノ點ナルコトナシト云
 フニ在リ
 依テ本件ニ關スル一切ノ書類及證據ヲ查閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
 本件特許第五〇四七號ノ發明ハ織布又ハ紙ヲ以テ任意ノ形狀ヲ有スル袋ヲ製シ其中ニ鋸屑ヲ詰メ口ヲ縛
 シテ其形態ヲ維持セシメ之ヲ水、日本紙原料蒭蒭粉ノ混合物ヲ以テ塗被シ後石灰ト明礬トノ溶液内ニ入

レ糞且乾カシテ模型ヲ作り此模型ヲ更ニ水、日本紙原料蒭蒭粉ノ混合物ヲ以テ適度ノ厚サヲ有スル迄塗
 被シ石灰ト明礬トノ溶液内ニ入テ糞且乾燥シテ後模型ノ縛ヲ解キ内部ノ鋸屑ヲ取去リ而シテ模型ト之ヲ
 塗被シテ成レル製品トヲ剝離シテ成レル接合ナキ耐水囊タルハ其明細書ニ依テ明ナリ然ルニ改訂特許第
 八四九五號水囊製造法ハ其明細書ニ依ルトキハ雲母ヲ加ヘ或ハ加ヘサル米糊ト蒭蒭粉綿絮若クハ麻桑皮
 其他適宜ノ纖維「トロ」若クハ水又ハ温湯ヨリ成ル防水塗料トヲ交互型面ニ塗布乾燥シ之ヲ石灰水ニテ糞
 沸シ以テ同時ニ數多ノ水囊若クハ防水紙ヲ製作スル方法ニシテ其發明トスル所ハ被請求人主張ノ如ク同
 一ノ型ヲ以テ同時ニ數多ノ水囊又ハ防水紙ヲ製スル手段ニ在ルハ疑フヘカラス然ラハ此手段カ特許第五
 〇四七號ノ耐水囊ヲ製スルノ手段ト同一ナリト云フヲ得ス請求人ハ同一模型ヲ以テ同時ニ數多ノ水囊ヲ
 製作スルコトハ特許第五〇四七號ニ依テ發明且實施セラレタルカ如ク云フト雖該特許ニ於テ特用スル模
 型ヲ用フルモ連續的作業ヲ繰返シ同時ニ數多ノ水囊ヲ製スルヲ得ルトスルモ該特許ノ明細書中之ニ關シ
 テ何等記スル所ナキヲ以テ該耐水囊發明ノ當時ニ於テ既ニ此連續的作業ノ考按カ按出セラレタリト認ム
 ルニ由ナシ而シテ前記兩特許ニ於テ使用スル所ノ資料ノ如キハ全然同一ナリト云フヲ得サルノミナラス
 何レモ防水膜ノ製作上從來公知ニ屬スルモノ若クハ其均等物ニ過キサレハ單ニ是等資料ヲ防水囊ノ製作
 ニ適用シタリ迪特許ヲ受クルヲ得ヘキ發明ヲ構成スルニ足ルモノト認ムルヲ得サレハ前記各特許ニ特有
 ナル手段ヲ離レ單ニ所用資料ノ相類似スルノ故ヲ以テ本件兩特許カ互ニ撞着スルモノナリト云フヲ得ス
 右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
 被請求人ノ所有ニ係ル改訂特許第八四九五號水囊製造法ハ請求人ノ所有ニ係ル特許第五〇四七號耐水囊
 ノ特許範圍ニ屬セサルモノトス
 明治三十八年十月六日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 高山 甚太郎
 特許局技師 安 藤 格
 特許局事務官 秋 山 清

第七百七十號

名古屋市南久屋町一丁目十六番戸愛知縣
 生絲製造同業組合長
 名古屋市新柳町二丁目三番地

請求人 大池 鎌次郎

被請求人 志 智 昇

右代理人 乙 部 俊 次

右大池鎌次郎ヨリ志智昇ニ對シ第四九四一號製絲用口立等特許ヲ無効トスル爲メ審判ヲ請求シタルニ依
 リ審理ヲ遂クル處請求人申立ノ要領ハ第四九四一號製絲用口立等ノ特許ハ無効ナリト審決セラレ度其理
 由ハ右特許口立等ハ穂端ニ關節ヲ有スル稻稈ヲ三層ニ爲シ中層ト下層トハ糞沸乾燥セシメ折返シ上層ノ
 稻稈ヲ以テ包被シ柄ノ所ニ於テ緊束シテ成ルモノナリ然ルニ當愛知縣ヲ初メトシ三重縣京都府及島根縣
 等ニ於ケル製絲家カ右第四九四一號特許出願前ヨリ汎ク使用スル所ノ口立等モ亦穂端ノ開放ヲ十分ナラ
 シムル目的ヲ以テ穂端ニ關節ヲ有スル稻稈ヲ結束シ柄トナルヘキ部分ヲ殘シテ折返スコト一層若クハ
 二層ト爲シ更ニ上層ニ稻稈ヲ包被シタルモノニシテ其結束前稻稈ヲ糞沸乾燥セシムルモノト結束後糞沸
 乾燥セシムルモノトノ兩様アリト雖其目的構造製作方法等モ第四九四一號特許口立等ト異ル所ナキモ
 ノナルカ故ニ第四九四一號特許口立等ハ其特許出願前即チ明治三十四年九月十一日以前ニ於テ既ニ公知
 公用ニ屬シ特許法第二條第四號及第二十條ニ該當シ無効タルヘキモノナリト云フニ在リ而シテ其申立ヲ

確ムル爲メ甲第一證乃至甲第十號證ヲ提出シ且人證ノ申立ヲ爲セリ

被請求人陳述ノ要領ハ請求人ノ申立相立タスト審決セラレ度其理由ハ請求人ハ本件特許ノ如キ構造ヲナ
 スモノハ本件特許出願前ヨリ公知ニ屬スルヲ以テ無効タルヘキモノナリト云フト雖之カ事實ヲ證スヘキ
 有效ナル證據物ナシト云フニ在リ

依テ本件ニ關スル一切ノ書類及ヒ證據ヲ查閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

本件第四九四一號特許製絲用口立等カ其特許出願以前ニ於テ既ニ公知公用ニ屬シタルモノナルヤ否ヤニ
 就キ之ヲ審案スルニ甲第一號證乃至甲第四號證ハ伊藤小左衛門製絲部京都府製絲同業組合會島根縣
 製絲同業組合及ヒ郡是製絲株式會社ヨリ請求人ニ宛テタル回答書及ヒ證明書ニシテ何レモ本件特許製絲
 用口立等ト同一若クハ類似ナル物品カ既ニ特許出願以前ヨリ存在セルコトヲ記述セリト雖右ハ同業者ノ
 證明タルニ過キササルモノナルカ故ニ之ニ依テ直ニ事實ヲ認定スルコトヲ得ス甲第五號證ハ甲第六號證ニ
 依レハ本件特許出願前明治三十二年五月ノ彫刻ニ係ル木版ニ依テ調製セラレタル製絲用口立等ノ販賣廣
 告紙ニシテ甲第七號證及ヒ第八號證ハ口立等ノ注文ヲ爲セル郵便葉書ナリ然ルニ此等各證ニハ其口立等
 ノ構造ニ就キ詳記スルコトコナキカ故ニ之ニ依テ其物品カ本件特許品ト同一ナリト認ムルニ足ラス次ニ
 證人愛知縣農事巡回教師橋本定吾ノ訊問調書ニ依レハ同人ハ「其時見タリシ等ハ此圖面第五ニアルモノ
 ト同敷製造法ナルヤ」トノ問ニ對シ「私カ見タルモノハ(ロ)ノ部カ折廻シアラス逆ニ削リタル如ク出來
 テ居マシタ」ト陳述シ之亦請求人主張ノ事實ヲ認ムルニ足ラス要スルニ前記各證ニ依リ本件第四九四一
 號製絲用口立等カ其特許出願以前公知公用ニ屬シタルモノナリトノ事實ハ之ヲ認定スルニ由ナキモノト
 ス

右ノ理由ニ依テ審決スルコト左ノ如シ

請求人申立相立タス

明治三十八年十月十九日於特許局

審判長 特許局技師 鈴木千代吉
 特許局事務官 松田啓太郎
 特許局事務官 秋山清

第九百八號

大阪市東區道修町三丁目四十番邸

大阪市東區高麗橋二丁目百二十六番屋敷特許代理業者

大阪市北區堂島裏二丁目百五十六番屋敷池田清次郎方寄留

大阪市東區伏見町二丁目十九番地特許代理業者

請求人 岩井松之助

右代理人 岡田謙三郎

被請求人 阪田保之助

右代理人 河谷正鑑

右岩井松之助ヨリ阪田保之助ニ對シ第八五六一號特許ヲ無効トスル爲メ審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要旨ハ本件第八五六一號特許ハ無効ナリト審決セラレ度其理由ハ被請求人カ明治三十七年十一月十九日附ヲ以テ特許ヲ出願シ明治三十八年三月十四日附ヲ以テ特許ヲ受ケタル酒精蒸溜器ハ其特許出願以前ヨリ請求人並ニ世間一般ノ酒精製造者カ使用スル所ノ酒精蒸溜器ト其構造並ニ作用ヲ均クスルモノニシテ既ニ公知公用ニ屬スルヲ以テ無効タルヘキモノナリト信ス左ニ其理由ヲ陳述セン

一、被請求人所有ノ特許第八五六一號酒精蒸溜器ハ甲第一號證ノ如シ而シテ請求人カ明治三十七年七月

二十八日附ヲ以テ水谷和助ヨリ買入レ同月以來引續キ使用シ來リタル酒精蒸溜器ハ甲第二號證ノ如シ此甲第一號證ト甲第二號證トヲ對照比較スルニ甲第一號證ハ甲第二號證ノ冷却部ノ長サヲ増延セルト細管ノ圓徑ヲ變更セルト漏斗狀ノ數ヲ増加シタル其孔穴ヲ増加シタルニ過キス此ノ如キハ單ニ製作上ノ變更ニ止マルヲ以テ甲第一號證ト甲第二號證トハ同一發明ナリト云ハサルヲ得ス而シテ甲第二號證ノ蒸溜器ハ初メ谷庄太郎ヨリ水谷和助ニ賣渡シ明治三十七年七月二十八日附ヲ以テ水谷和助ヨリ更ニ請求人ニ賣渡シタルコト甲第六號證ニ依リ明白ナリ又甲第二號證ノ酒精蒸溜器ハ極メテ複雑ナル構造ニシテ五六箇月以内ノ短期日間ニ於テハ之ヲ製造スルコト能ハサルモノナリ然ルニ被請求人カ請求人ニ對シ催告ヲ發セシハ其特許證カ被請求人ノ手許ニ達シタルヤ否ヤノ間ニアリ且ツ被請求人カ特許ヲ出願セル日附ヨリスルモ僅ニ五箇月ニ過キス又其特許ノ日附ヨリスルモ二十二日目ニ過キス而カモ未タ其特許公報ノ發布セラレサル以前ニ係ルヲ以テ請求人ハ其特許出願以後ニ之ヲ製作スルノ時日ヲ有セサルノミナラス前記ノ蒸溜器ハ何レモ全部鑄造ト人爲ヲ以テ俄カニ模作スヘカラサル古色ヲ存シ何人カ一見スルモ決シテ被請求人ノ特許出願後ニ製作シタルモノニ非サルコトヲ認ムルニ足ル故ニ請求人使用ノ蒸溜器ハ被請求人ノ第八五六一號ノ特許出願以前ヨリ之ヲ使用シ來リタルモノニシテ既ニ公知公用ニ屬スルコト明白ナリ

一、被請求人ハ明治三十七年十一月十九日附ヲ以テ特許ヲ出願シタル以前則チ明治三十七年十一月十一日ヲ以テ大阪毎日新聞ニ甲第四號證ノ如ク「アルコール製造機械」販賣ノ廣告ヲ掲載セリ該廣告ニハ明ニ阪田保之助ノ發明ナルコト及ヒ特許出願中ナルコトヲ記載シアルヲ以テ右機械ハ甲第一號證ノ酒精蒸溜器ト同一ナルヲ推定セサルヲ得ス何トナレハ被請求人ハ前記甲第一號證ノ酒精蒸溜器ノ他ニ特許ヲ出願シタル「アルコール製造機械」ヲ有セサレハナリ但シ其廣告當時ニ於テハ特許出願ノ事實ナク只斯ノ如ク記シテ世人ヲ瞞着シタルモノナリ然レトモ彼カ其特許出願以前ニ於テ既ニ第八五六一號特許ト同一ノ酒

精蒸溜器ヲ公ニ販賣シタルコト明ナリ

一、被請求人ハ本來自己ノ能力ニヨリテ特許第八五六一號特許ヲ發明シタルモノニアラスシテ去ル明治三十六年中大阪府西成郡傳法村字南傳法小西酒精株式會社ニ至リ同社ニ於テ使用スル酒精蒸溜器ノ製作ヲ見覺ヘ之ニ依リテ特許ヲ出願シタルモノナリ故ニ該會社ノ酒精蒸溜器ト第八五六一號特許品トハ全然同一ナリトス從テ被請求人カ發明シタルトスル所ノモノハ他人ノ從來使用セルモノヲ剽竊シタル不法ノ結果ニ外ナラス

以上陳述ノ如クナルヲ以テ被請求人ノ特許第八五六一號酒精蒸溜器ハ無效タルヘキモノナリト云フニアリテ其主張ヲ確ムル爲メ甲第一號證乃至甲第八號證ヲ提出セリ

被請求人答辯ノ要旨ハ請求人申立相立タスト審決相成度其理由ヲ陳述スルコト左ノ如シ
一、請求人カ使用シツ、アリト稱スル甲第二號證ノ機械ニ臺ノ内一臺ハ被請求人ノ使用セシ乙第四號證ノ蒸溜器ニシテ被請求人ノ特許ヲ受ケタル乙第五號證ノ機械トハ相違シタルモノナルノミナラス本機ハ請求人ノ希望ニ依リ水谷和助ナル者カ特ニ谷庄太郎ニ之レカ讓受ヲ乞ヒ谷庄太郎ハ竊カニ同人ノ求メニ應シテ賣渡セシモノヲ請求人カ購入シタルモノ、由ニテ右賣買ニ關シテハ被請求人ノ毫モ了知セサル事ナリ縱令此事アリトスルモ特許第八五六一號カ無效トナルヘキ理由ナシ

一、請求人ハ被請求人ニ於テ明治三十七年十一月十九日ヲ以テ特許ヲ出願シナカラ其以前則チ同年同月十一日大阪毎日新聞ニ甲第四號證ノ如ク「アルコール」製造機械販賣ノ廣告ヲ爲シ且該機ヲ販賣シタルモノ、如ク申立ツルモ右ノ事實ハ被請求人カ曾テ澁谷三郎ナル者ニ對シ特許セラレタル上ハ發賣ヲ爲サシムヘシト口約シタルヲ澁谷カ爲メニスル處アリテ擅ニ岡本某ナル者ニ被請求人ヨリ發賣權ヲ得タル如ク云做シ又岡本某ハ澁谷ノ僞言ヲ信シテ輕舉ニ被請求人ノ承諾ヲモ得スシテ廣告ヲ爲シタルニ依リ被請求

人ハ直ニ澁谷ニ對シ嚴シク之ヲ詰責シ以後ノ廣告ヲ差止メ同時ニ澁谷トノ口約ヲ取消シタリ而シテ廣告シタルハ十一日ニシテ出願ノ日ハ十九日ナリ故ニ今一週ノ後ニ至レバ公然出願中トシテ廣告スルニ妨ケナキ時期ニ於テ何ヲ苦ンテ請求人ノ言フカ如キ事ヲ爲スヘキヤ况ンヤ被請求人ニ取リテハ多大ノ名譽ト信用トヲ得ント希望シツ、アル時ニ於テオヤ且該廣告ニヨリ一品タモ製作販賣シタルコトナキヲ以テ該機ハ公知ト爲ルヘキ理由ナシ

一、請求人ハ甲第二號證ノ蒸溜器ハ被請求人ノ特許出願後ニ於テ製作セルモノニ非スト縷述スルモ其出願後ニ製作セラレシト云フコトハ被請求人ニ於テモ主張セス從テ之ニ對シ答辯スルノ要ナシ

一、請求人ハ特許第八五六一號酒精蒸溜器ハ大阪府西成郡傳法村字南傳法小西酒精株式會社ニ於テ使用スル酒精蒸溜器ノ構造及製作方ヲ見覺ヘ之ヲ剽竊シテ特許ヲ出願シタルモノナリト云フモ同會社ノ機械トハ外形内造共ニ異別ナルコトハ一目瞭然タルノミナラス同會社ノ機械ノ製造人ト同業者タル水谷和助モ亦能ク之ヲ知レリ前記特許第八五六一號酒精蒸溜器ハ明治三十六年中被請求人カ乙第一號證ノ機械ヲ始メテ案出シ明治三十七年一月之ヲ谷庄太郎ナル者ニ命シテ製作セシメ試驗セシニ其結果甚タ不良ナルヲ以テ之ニ改善ヲ加ヘテ乙第二號證ノ如ク製作セシモ未タ實用ニ適セサルヲ以テ更ニ改良ヲ加ヘテ同年二月中乙第三號證ノ如キ構成トナシ試用セシニ稍完全ト爲リタルモ未タ八十度以上ノ酒精ヲ採取スルコト能ハサルニ依リ同年三月九日乙第四號證ノ如キ機械ヲ製作セシメタルニ成績良好ニシテ實用ニ供スルコトヲ得タレトモ尙未タ満足セサル點アルヲ以テ一層精考密案シテ乙第五號證ノ如キ機械ト爲シ試用セシニ能ク九十度以上ノ酒精ヲ蒸溜シ得ルニ至リタルヲ以テ竟ニ乙第五號證ノ構造ニ依リ特許ヲ受ケタリ此ノ如キ經歷ト時間ト腦力トヲ費シテ漸ク本發明ヲ爲シタルモノニシテ決シテ請求人ノ言フカ如キ他人ノ機械ヲ見取リテ製造シタルモノニアラス

以上述フルカ如ク本件特許ハ無効トナルヘキ理由ナシト云フニアリテ乙第一號證乃至乙第五號證トシテ本器ノ發明ニ關スル圖面ヲ提出セリ

仍テ本件ニ關スル一切ノ書類及證據ヲ查閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
本件特許第八五六一號酒精蒸溜器ノ構造ハ乙第五號證ノ圖面ト同一ナルコト及ヒ請求人ノ使用スル酒精蒸溜器ハ乙第四號證圖面ト同一構造ナルコトハ被請求人ノ主張ニシテ請求人モ亦之ヲ承認セリ而シテ請求人ノ使用スル蒸溜器ハ初メ谷庄太郎ヨリ之ヲ水谷和助ニ賣渡シ水谷和助ハ更ニ之ヲ請求人ニ賣渡シタルモノニシテ請求人ノ之ヲ購入シタルハ本件特許ノ出願以前ナルコトハ請求人ノ主張ニシテ被請求人亦之ヲ爭ハス仍テ右ノ事實ニ依リ審理スルニ乙第四號證ノ酒精蒸溜器ハ第一者ヨリ第二者ニ賣渡シ第二者ヨリ更ニ第三者ニ賣渡シ既ニ秘密ヲ脱シタルモノナレハ之ヲ公知ニ屬セリト認ムルヲ至當トス今乙第四號證圖面ト乙第五號證圖面トヲ對照スルニ乙第五號證ノ蒸溜器ハ乙第四號證蒸溜器ニ於ケル圓筒ノ長サヲ増延シ上部圓筒内ノ細管數及下部圓筒内ノ漏斗ノ數ヲ増シタルト送水「パイプ」及排水「パイプ」ヲ上部圓筒ニ取り附ケタル位置ヲ變更シタルノ他ニ何等ノ異ナル點アルヲ見ス而シテ以上ノ變更ノ如キハ當業者ノ容易ニ爲シ得ヘキ單ナル設計ニ過キス故ニ乙第五號證ノ蒸溜器ハ乙第四號證ノ蒸溜器ノ構成以外ニ何等發明ノ點ナキヲ以テ乙第四號證ノ蒸溜器ニシテ公知ナル以上ハ特許法第一條ニ該當スヘキ發明ト認ムルヲ得サルモノトス

右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
特許第八五六一號酒精蒸溜器ハ無効トス

明治三十八年十月十九日於特許局

審判長 特許局技師 鈴木千代吉

特許局事務官 松田啓太郎
特許局事務官 宮内國太郎

第九百十一號

佛國巴里市ドレグ街第四十三號

東京市京橋區木挽町九丁目三十一番地特許代理業者

東京市京橋區木挽町九丁目三十一番地特許代理業者

右グスタープ、ヂンヨリ願書番號第二八四八號硫酸銅製造法特許願ニ對スル特許局審査官ノ拒絕再查

定ニ服セス審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ前記特許願ニ對スル審査官拒絕再查定ハ不當ナリト審決セラレ度其理由ハ審査官ハ本願發明ヲ以テ英國工業化學雜誌ノ記事ニ依リ出願前既ニ本邦ニ於テ公知ニ屬スルモノナリトシテ拒絕シタルト雖モ外國ノ雜誌ハ常ニ必スシモ日本ニ輸入セラル、モノニアラサレハ右ノ雜誌カ外國ニ於テ公刊セラレタリトスルモ日本ニ於テ購讀セラレ又ハ其發明ノ實施セラレタル證據ナキニ於テハ未タ以テ公知ト稱スヘキモノニアラス且右英國工業化學雜誌ヲ見ルニ僅ニ摘要の記事アルノミニテ詳細ナル説明ヲ爲シタルモノニアラサルヲ以テ假リニ右雜誌カ本願出願前ニ日本ニ於テ購讀セラレタリトスルモ其記事ハ唯發明ノ一端ヲ窺知セシムルモノニ過キス况ンヤ本願ノ發明中ニハ右記事以外ノ考案ヲモ包含スルニ於テオヤト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人ハ外國ノ雜誌ハ必スシモ日本ニ輸入セラル、モノニアラサレハ外國ノ雜誌ニ

於テ公刊セラレタリト直ニ本邦ニ於テ公知ニ屬セリト稱スヘカラスト云フト雖モ英國工業化學雜誌ハ本邦ニ於テモ最モ廣ク購讀セラレ、外國雜誌ノ一ニシテ發刊後五十日ヲ出テスシテ本邦ニ到達セルヲ以テ之ニ依リテ前査定書ニ援用ノ西曆千九百三年九月刊行ノ分亦五十日ヲ出テスシテ本邦ニ到達セルヲ以テ之ニ依リテ公知ニ屬セリト爲シタルハ不當ニアラス又請求人ハ同雜誌ノ記事ハ摘要的ナルヲ以テ發明ノ一端ヲ窺知スルニ止マルト云フト雖モ本願ハ發明トシテハ前記々事ノ外ニ出テスシテ其以外ニ發明ヲ構成スヘキモノニアリト認ムルヲ得サルヲ以テ特許ヲ與フヘカラサルモノナリト査定シタルハ不當ニアラスト云フニ在リ

仍テ本件ニ關スル一切ノ書類ヲ查閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
請求人ハ本願發明タル硫酸銅製造方法ハ英國工業化學雜誌ニ記載セラレタリトスルモ外國ノ雜誌ハ常ニ必スシモ日本ニ輸入セラル、モノニアラスト云フト雖モ右英國工業化學雜誌ハ我國ニ輸入購讀セラレ、コト極メテ普通ノ定期刊行物ナルカ故ニ審査官援用ノ千九百三年九月十五日及千九百四年三月三十一日發刊ノ同雜誌モ亦審査官ノ謂ヘルカ如ク發刊後各五十日ヲ出テスシテ我國ニ到達シ購讀セラレタルコトハ之ヲ推知シ得ヘキ所ナリ又請求人ハ右雜誌カ本願出願前ニ日本ニ於テ購讀セラレタリトスルモ其記事ト本願發明ノ内容トハ一致セサルモノアリト主張スト雖モ右千九百三年九月十五日發刊ノ同雜誌第九九六頁及千九百四年三月三十一日發刊ノ同雜誌第三二三頁ニ硫酸銅製造法ト題シ記述スル所ハ畢竟本願發明ノ要領ト認ムヘキモノニシテ只本願明細書ニハ其實施方法ヲ詳細ニ記述シ前記々事ニ於テハ之ヲ畧記シタルノ差異アルニ過キサレモノトス而カモ其差異タル該製造方法ヲ實施スルニ當リ當業者ノ當然案出シ得ヘキ範圍ニ屬スルカ故ニ本願ハ前記々事ノ外何等發明ノ點ナキモノトス然リ而シテ本願發明ノ出願ハ明治三十七年六月二十九日ニシテ前記雜誌カ各我國ニ到達シタリト認ムヘキ時期以後ニ屬スルヲ

以テ本願發明ハ出願前々記々事ニ依リ既ニ公知ニ屬シタルモノト云フヘク從テ特許法第二條第四號ノ規定ニ該當シ審査官カ之ニ對シテ特許ヲ與フヘカラサルモノナリト査定シタルハ不當ニアラス
右ノ理由ニ依ニ審決スルコト左ノ如シ
請求人申立相立タス
明治三十八年十一月十日於特許局

審判長 特許局事務官 中 松 盛 雄
特許局技師 鈴木千代吉
特許局事務官 松田啓太郎

第九百十號

請求人 田口穗之助
右代理人 中川津平
被請求人 御法川直三郎
右代理人 細川陽之介

岐阜市今泉千二十九番戶製絲業
東京市京橋區木挽町十丁目五番地特許代理業者
東京市小石川區月崎町九十四番地製絲業
東京市京橋區木挽町四丁目九番地特許代理業者
右田口穗之助ヨリ御法川直三郎ニ對シ牴觸第一六七號製絲停止裝置發明完成前後査定ニ服セス審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處
請求人申立ノ要領ハ特許願第二六二一二號製絲停止裝置ノ發明完成ハ特許願第二五六五八號製絲機ノ發明完成前ナリト審決セラレタシ本件發明ノ要點ハ牴觸査定理由及特許願第二六二一二號同第二五六五八

號附屬明細書ニ記載セル如ク軸ト篋トノ摩擦係合ニ依リ絲篋ヲ廻轉セシムルト同時ニ節扱ニ類カ支障セラレタルトキ直ニ其絲篋ヲ停止セシメテ絲ノ切斷ヲ少カラシメタル考案ニ在リテ被請求人ノ雇人申中川甲子三ノ證言ノ要旨ハ絲ノ切斷シタルトキ其絲篋ヲ任意ニ停止セシメ得ルモノヲ意味シテ本件發明トハ機械的理由相同シカラサルモノヲ造リタリトノコトニアルヲ以テ何等證據的價值ヲ有セス且該證言ニ依レハ被請求人カ明治三十三年ニ試用シタル揚返機ハ絲ニ總アルトキ絲ノ切斷スルコトナクシテ上方ノ篋カ停止シタルモノト認ムル能ハス其試驗的結果ハ寧ロ反對ノ現象ヲ呈シタルモノト推定シ得ヘキナリ而シテ該證言ニ依リテ認メラルヘキ考案ト被請求人カ既ニ得タル特許第三六二七號絲篋ノ發明トハ機械使用ノ便宜上設ケラレタルモノアルノ外其大主眼トスル要點ハ同一ナリト謂ハサルヲ得ス以上ノ理由ニ依リ特許願第二五六五八號絲篋ノ發明ハ明治三十三年ニ於テ尙ホ完成セラレサリシヲ推測シ得ヘク又被請求人ハ其提出セル始末書ニ於テ明治三十三年秋頃丸心棒ニ丸穴ノ篋ヲ並列シタル揚返機ヲ使用シ其後之ヲ直線製絲ニ應用セントシ工夫ヲ凝ラセシ結果明治三十五年ニ至リ稍完成セリト主張シ置キナカラ後日ニ至リ明治三十三年九月上旬又ハ同年秋頃完成セリト云ヒ其主張一致セス要スルニ明治三十五年以前ニ於テ本件發明ヲ完成シタル事實ノ認ムヘキモノナク反之請求人出願ノ特許願第二六二二二號製絲停止裝置ノ發明カ明治三十三年九月下旬ニ完成セラレタル事實ハ明治三十七年三月二十二日附提出始末書附屬第一號證乃至第四號證第二十二號證及證人三木文吉同坪井誠爾ノ證言ニ依ルモ明白ナリト云フニ在リ被請求人申立ノ要領ハ請求人ノ申立相立タスト審決セラレタシ請求人ハ證人申中川甲子三ノ證言ハ何等證據的價值ナシト申立ツルモ節扱ニ類カ支障セラレタルトキ自然其絲篋カ停止シテ絲ヲ切斷セサラシムルモ絲ノ切斷シタルトキ其絲篋ヲ任意ニ停止セシメ得ルモ其理ニ於テハ毫モ異ナルコトナク只一ハ線絲ニ應用シ他ハ揚返ニ應用シタルヲ以テ一見シタルトキ相異ナルカ如キ感ナキニシモアラサレトモ二者何レ

モ軸ト篋トノ摩擦係合ニ依リ廻轉ヲ停止スヘキ篋ノミノ廻轉ヲ停止スヘクナシタル精神ニ於テハ毫厘ノ差異ナシ又被請求人カ始末書中「絲ニ總アルトキ絲ノ切斷スルコトナクシテ上方ノ篋カ停止スルコトヲ確メタリ」ト陳述シタルハ證人申中川甲子三カ「一本ノ絲カ斷ルレハ其部分ノ篋ヲ止メルコト出來ルモノヲ造リタリ」トノ證言ト異ナラサルノミナラス其證言ト相待テ倍々被請求人ノ發明完成ノ事實ヲ明確ナラシメタルモノト謂フヘシ只證人ハ絲ノ切斷シタルトキ其篋ニ外力ヲ加ヘテ其篋ノ廻轉ヲ停止シタル場合ノミヲ目撃シ絲ニ總アルトキ其篋カ停止シタル場合ハ之ヲ目撃セサリシモノナラン而シテ特許願第二五六五八號ノ發明完成ハ申中川甲子三ノ證言ニ依リ第二六二二二號ノ先ナルコト動カスヘカラスト云フニ在リ」仍テ本件ニ關スル一切ノ書類及ヒ證據ヲ査閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

被請求人ハ特許局審査官ニ差出シタル明治三十七年五月三日附始末書ニ於テ「明治三十六年第五回内國勸業博覽會開設ノ時ニ至リテ本機ニ尙ホ少シク完備セサリシ點アリシモ之ヲ該會ニ出品シテ一般公衆ニ示セリ」ト陳述シ又同官ニ差出シタル明治三十七年八月十三日附始末書(補充)ト題スル書面ニ於テ「明治三十六年第五回内國勸業博覽會ニ出品セシ本發明品ト本件ニ關スル特許願第二五六五八號トハ毫モ異ナル所ナシ然ルニ原始末書ニ於テ尙ホ少シク完備セサレ點アリト陳述セシハ發明ノ完備セサル謂ニアラスシテ形狀上ノ體裁ニ於テ聊カ遺憾ナリシヲ意味セシマテナリ」ト陳述シテ特許願第二五六五八號發明品ヲ明治三十六年大阪ニ於テ開設セラレタル第五回内國勸業博覽會ニ出品シタル事實ヲ自認シ右出品ノ事實ニ付テハ請求人モ亦爭ハサル所ニシテ本件發明ハ被請求人カ特許出願前第五回内國勸業博覽會ニ之ヲ出陳シ公衆ノ展示ニ供シタル事實ニ依リ公知トナリタルコトハ之ヲ認ムルヲ得ヘキヲ以テ特許法第二條第四號ノ規定ニ該當シ特許ヲ受クルヲ得サルモノナリ之ヲ以テ本件ハ初メヨリ特許法ニ所謂發明ノ概觸ヲ構成スヘキモノニアラス隨テ本件發明完成ノ前後ニ付キ審決スルノ必要ナキモノトス

右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
本件請求ハ之ヲ却下ス

明治三十八年十一月二十八日於特許局

審判長 特許局事務官 中 松 盛 雄
特許局技師 鈴木千代吉
特許局事務官 別府丑太郎

四十

第九百二十四號
第九百二十五號

東京市下谷區上野山下町二番地

請求人 日本鐵道株式會社

東京市京橋區宗十郎町一番地特許代理業者

右代理人 曾 我 祐 準

神奈川縣三浦郡橫須賀町旭二十六番地寄留

右代理人 岸 清 一

東京市京橋區木挽町九丁目三十一番地特許代理業者

被請求人 吉 田 虎 六

東京市京橋區木挽町九丁目三十一番地特許代理業者

右代理人 早 川 鐵 治

東京市京橋區八官町八番地特許代理業者

右代理人 南 部 皆 治

東京市京橋區八官町八番地特許代理業者

右代理人 宮 田 四 八

右曾我祐準ヨリ吉田虎六ニ對シ改訂特許第七七九八號木材防腐劑及特許第八五九八號木材防腐劑ノ特許權利ヲ確認スル爲メ審判ヲ請求シタルニ依リ右兩事件ヲ併合シ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ請求人カ明治三十七年十二月以來自ラ製造使用シ居ル重油ト「クレオソート」油トヲ混合シタル木材防腐劑ハ被請求人ノ有スル第七七九八號及第八五九八號特許ト撞着セルト審決相成度其理由ハ請求人ハ從來「クレオソート」油ヲ木材防腐劑トシテ使用セルニ該油ノ供給充分ナラサル爲メ其不足ヲ補填スルニ木材防腐劑ノ效アリトシテ世間ニ知ラル、石油副産品タル重油ヲ混用セリ然ルニ被請求人ハ之ヲ以テ第七七九八號特許及第八五九八號特許ヲ侵害シタルモノトセリ然レトモ特許ノ效力ハ其請求範圍内ニ限ラル、ノミナラス組合セ又ハ合劑ノ特許ハ請求範圍ニ特記シタル組合セ又ハ合劑ノ以外ニ及ハサルモノナレハ若シ本件ノ場合ニ於テ原油中ノ一成分ナル重油ト「ナフサリン」ノ二劑ヲ混合シタルモノカ一種ノ新規有益ナル合劑ナリトセハ被請求人ハ其請求範圍中ニ此二劑ヲモ列記シテ特許ヲ請求セサルヘカラサルニ單ニ攝氏二百七十度以上ノ沸騰點ヲ有スル原油(揮發油石油及重油等ヲ混合シタルモノ)ト「ナフサリン」トノ合劑又ハ之ニ樹脂又ハ樹脂ト顔料トヲ加ヘタル合劑ニ對シテノミ特許ヲ請求シタルモノナレハ此合劑中一部ヲ缺クモノニ對シテハ特許ノ效力ナキハ勿論ナリ請求人ノ使用スル木材防腐劑ハ重油ト「クレオソート」油トノ合劑ナリ而シテ重油ハ原油中ヨリ揮發油石油等ヲ除去シタル渣滓ニシテ原油其物トハ別物ナルノミナラス之ト「クレオソート」油トノ合劑カ本件特許ト撞着セサルハ論ヲ俟タス重油ハ原油中ニ包含セラル、モ原油其物トハ別物ナリトノ請求人ノ主張ニ對シ被請求人ハ諸種ノ礦油ノ沸騰點ヲ掲ケテ原油ト重油トハ共ニ等シク石腦油ニシテ其名稱及性質ノ類別ハ沸騰點ノミニ依ルモノナリト辯解セリ然レトモ元來石腦油ナル語ハ被請求人ノ表中ニ掲ケタル如キ石腦「エーテル」以下各種個々ノ既成品ニ用ヒサルモノニシテ天然産出ノ儘ナル礦油ヲ稱スルモノナリ故ニ假ニ攝氏二百七十度以上ノ沸騰點ヲ有スル石腦油アリトスルモ其沸騰點ノ如何ニ拘ハラス石腦油ナルモノハ重油ノ如キ礦油分留物トハ全然異物ナリ被請求人ハ重油ノ沸騰點ヲ三百度トセシハ如何ナル標準ニ因カ蓋シ之ヲ石腦油ヨリ分

四十一

縮スル際ノ油ノ溫度即チ蒸溜溫度ト誤解セルニアラサルカ抑モ請求人ノ使用スル重油ナルモノハ日本石油株式會社ノ製造ニ係ル調合用重油ナルモノニシテ其沸騰點ハ英國式ニテ測定スレハ二百十度ニ沸騰シ始メ獨乙式ニテ測定スレハ沸騰點ハ百八十五度ナリ故ニ礦油ノ性質ハ單ニ沸騰點ニ依リテノミ決スルトスルモ請求人使用ノ重油ト攝氏二百七十度以上ノ沸騰點ヲ有スル石腦油トハ別物ナリト云ハサルヲ得ス而シテ「クレオソート」油ノ木材防腐劑トシテノ效力ハ該油中ニ存在スル石炭酸「クレゾール」「タール」酸類カ先ツ木材中ノ蛋白質ニ作用シ之ヲ凝結セシムルニ存ス而シテ此凝結物ハ「クレオソート」油中ノ他ノ物質ヲ吸收シ一種ノ糊狀物質ノ木材組織中ニ生スルモノナリ故ニ木材防腐用トシテ「クレオソート」油ハ「タール」酸ノ存在ヲ最モ必要トナシ「ナフサリン」ハ却テ多量ノ存在ヲ忌嫌スルモノナリ「ナフサリン」ハ木材材質中ニ「クレオソート」油ト混シテ入ルヤ漸次其小結晶ヲ生ス然レトモ木材カ日光ニ當ルヤ其表面ノ「ナフサリン」ハ暫時ニシテ氣發シ盡シ長時間ノ後ニハ内部ノ「ナフサリン」モ遂ニ氣發スルニ至ル是ニ於テ木材々質中ニ微細ノ間隙ヲ生シ空氣及ヒ水分ノ進入ヲ促スカ故ニ却テ木材ノ腐蝕ヲ催進スルノ結果ヲ生スルモノナリ假リニ「ナフサリン」ハ有害ニアラストスルモ其多量ナルヲ歡迎スヘントスル説ハ未タ之ナク「クレオソート」油中防腐ノ主效アルモノハ石炭酸「クレゾール」及「コールタール」油ナルコトハ疑ヲ容レス從テ「クレオソート」油ト「ナフサリン」トハ其物質ニ於テ素ヨリ異ナルノミナラス防腐效力ニ於テ大ニ異ナルモノニシテ彼此別物ナリト云フニ在リ

被請求人答辯ノ要領ハ請求人ノ申立相立タスト審決相成度其理由ハ請求人ハ被請求人ノ配合法ノ說明ニ依リ從來使用セル「クレオソート」油ニ重油ヲ混合シ廉價ヲ以テ被請求人ノ特許品ニ同一ナル防腐劑ヲ得ルコトヲ知リ之ヲ製造使用スルコトニ決シ遂ニ明治三十七年十二月二十四日以來之ヲ實行スルニ至レリ此事實ハ杉浦宗三郎及山田英太郎カ東京地方裁判所檢事局ニ於テ自由承認セル所ナリ故ニ請求人カ第七

七九八號特許前ヨリ「クレオソート」油ニ重油ヲ混合スルコトヲ案出シタルカ如ク稱スルハ特許竊用ノ罪ヲ蔽ハントスルニ外ナラス請求人ハ曰ク合劑ノ特許ハ其合劑中其一ヲ缺クモ特許侵害タラス故ニ第七七九八號特許ノ三劑中其一ヲ缺キ他ノ二劑ノ混合物ヲ製スルモ該特許ハ之ヲ禁止スルノ效力ナシト此議論ハ特許ノ效力ヲ非常ニ縮少シタルモノニ付キ特許ヲ出願シ後之ニ樹脂ヲ加フルトキハ粘度ヲ増シ塗刷等ノ場合ニ「ナフサリン」ヲ溶解セシメタルモノニ付キ特許ヲ出願シ後之ニ樹脂ヲ加フルトキハ粘度ヲ増シ塗刷等ノ場合ニ「ナフサリン」ヲ發見シ遂ニ三劑ノ合成物ニ特許ヲ得ルニ至レリ故ニ樹脂ハ原油及「ナフサリン」ノ效力ヲ助成スル目的ニ用フルノミ原料ハ追加特許ニ依リテ混和スルニ至レルモノナリ要スルニ第七七九八號特許ノ主要成分ハ原油及「ナフサリン」ナレハ此二劑ニ撞着スル請求人ノ製造品ノ如キハ特許ヲ侵害シタルモノト云ハサルヲ得ス第八五九八號ヲ以テ特ニ原油及「ナフサリン」ヨリ成ル木材防腐劑ノ特許ヲ得タルハ三劑中樹脂ヲ除キ第七七九八號特許ノ侵害ヲ敢テスル者ナキヲ保セサリシカハ其萬一ヲ豫防スルノ目的ヲ以テ出願シタルニ過キス請求人主張ノ如ク第七七九八號ハ原油ニ「ナフサリン」ノミヲ加ヘタルモノニ及ハストノ議論ヲ採用シタルニ非ス被請求人ノ使用スル攝氏二百七十度以上ノ沸騰點ヲ有スル原油ハ重油ヲ包含スルコト明ニシテ「ナフサリン」ト「クレオソート」油トハ其名稱ヲ異ニスルモ其含有スル成分ハ殆ント同一物ナリ唯「クレオソート」油ハ「ナフサリン」ニ比スレハ多少ノ夾雜物ヲ有スルモ其夾雜物ノ如キハ防腐ノ效鮮ク「クレオソート」油カ防腐ノ效力ハ主トシテ「ナフサリン」ノ有スル成分ニ因ル而シテ公刊書物ニ記載スル所ニ依ルモ燈油ハ沸騰點攝氏三百度迄トシ重油ハ三百度以上ヲ示スモノナルコト被請求人ノ主張ト全ク相一致セリ請求人ノ使用セル重油ハ調合用重油ナリト主張スルモ蓋シ調合油トハ引火點低キ燈油ニ調合シテ比重ヲ加減スルノ用ニ供スルモノナラン果シテ然ラハ木材防腐ノ效力トシテ比重重キ部分ヲ必要トスルモノナルニ何ヲ好ンテ效果少ク價格貴キ調合油ヲ撰フノ愚ニ出ツルモノソ又請求人ハ

英國式ニテ沸騰點二百十度ヨリノ調合用重油ナリト稱スルモ斯カル礦油ハ良好ノ燈油トシテ直接使用シ得ヘキ部分ナルコト一般ニ認メラル、所ナリ請求人ハ重油ハ攝氏二百十度ニ沸騰シ始ムト主張スルモ石油重油ハ決シテ斯ル沸騰點ヲ有スルモノニ非ス「クレオソート」油ノ木材防腐劑トシテノ效力ハ木材汁液中蛋白質ニ作用シ凝固セシムルニ存スルハ請求人ノ説ク所ノ如シ然レトモ此凝結ニ必要ナルハ「タール」酸ノミニアラスシテ「ナフサリン」ノ效力大ナルモノアリ實驗成績ニ依ルモ「ナフサリン」ハ木材防腐ニ一ノ損害ヲ與フルモノニアラス却テ效力アルハ何人モ疑ハサル所ナリ要スルニ重油ト原油トハ同一ニシテ請求人ノ使用スル「クレオソート」油ト特許品ノ「ナフサリン」トハ事實ニ於テ略同一成分ヲ含有スルノミナラス假令之ヲ異ナリトスルモ「クレオソート」油中ノ「ナフサリン」ハ最モ偉大ナル防腐ノ效力ヲ有シ重油ト混和スルトキハ同一ノ作用ニテ同一ノ物質ヲ形成シ同一ノ效果ヲ生ス故ニ請求人ノ製品ハ特許品ト撞着スルコト疑ナシト云フニ在リ

仍テ本件ニ關スル一切ノ書類ヲ査閲シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
 本件被請求人ノ所有ニ係ル改訂特許第七七九八號木材防腐劑ハ攝氏二百七十度以上ノ沸騰點ヲ有スル原油ニ樹脂ト「ナフサリン」トヲ混和加熱シ又ハ之ニ更ニ顏料ヲ混和加熱溶解セシメタルモノ其第八五九八號木材防腐劑ハ攝氏二百七十度以上ノ沸騰點ヲ有スル原油ニ「ナフサリン」ヲ混和加熱シ液化セシメタルモノニシテ其效果トスル所ハ共ニ原油ノ木材防腐力ヲ増加セシムルト同時ニ「ナフサリン」ヲ木材中ニ浸入セシメ其固化ニ依リ氣孔ヲ填充シ外部ヨリ侵入スル濕氣ヲ防遏シ且微生物ノ發生及襲撃ヲ豫防スルニ在ルハ各其明細書ニ依リ明ナリ而シテ請求人カ製造使用スル所ノ木材防腐劑ハ重油ト「クレオソート」油トヲ混合シタルモノナルコト請求人ノ申立ニ依リ明ナリ然ルニ「クレオソート」油ハ木材防腐劑トシテ最モ普通ニ使用セラル、資料ニシテ其所含ノ「ナフサリン」ノ外ニ木材防腐ニ有效ナル成分ヲ含有スルコト

請求人ノ主張ノ如クニシテ一般ニ認知セラル、所ナリ而シテ其「ナフサリン」ハ木材ノ孔隙ニ浸入シテ固結シ大氣及濕氣ノ作用ニ抵抗スルノ效ヲ有スルコト亦一般ニ認知セラル、所ニシテ被請求人主張ノ如クナルモノレカ爲メ「クレオソート」油ノ木材防腐ノ效力ヲ專ラ其「ナフサリン」ニ歸シ施イテ「クレオソート」油ハ「ナフサリン」ト同一效力ヲ有スルニ過キストセル被請求人ノ主張並ニ「クレオソート」油中ノ「ナフサリン」ハ却テ木材ノ腐蝕ヲ促進スルノ結果ヲ生ストセル請求人ノ主張ノ如キハ共ニ其理由アリト認ムルヲ得ス被請求人ハ自己ノ使用スル「ナフサリン」ハ粗製品ニシテ「クレオソート」油ト略同一成分ヲ有スト主張スト雖モ明細書中「ナフサリン」ノ外他ノ有效成分ノ存立等ニ付キ記スル所ナキヲ以テ其主張ハ至當ナリト云フヲ得ス要スルニ木材防腐劑トシテ「クレオソート」油ハ「ナフサリン」ト同一物若クハ均等物ナリト云フヘカラス重油ハ石油分餾ニ於テ揮發油燈油等ヲ除キタル後ニ餾出スル〇、八六以上ノ比重ヲ有スル油ノ總稱ナリ重油ハ原油中ヨリ揮發油石油等ヲ除去シタル渣滓ニシテ云々ナル請求人ノ申立ニ依ルモ請求人使用ノ重油ハ前記ノ如ク燈油ヲ除キタル後餾出スヘキモノナルコト明ナリ而シテ被請求人ノ所謂二百七十度以上ノ沸騰點ヲ有スル原油ハ又二百七十度以下ノ溫度ニ於テ餾出スヘキ部分ヲ除キタル後ノ油ニシテ揮發油燈油等ヲ含マサルモノタルハ疑フヘカラス從テ原石腦油ノ性質ニ依リ兩者ノ成分ニ多少ノ差アリトスルモ木材防腐劑トシテハ兩者互ニ類似ノ資料タルハ免ルヘカラス然レトモ請求人ノ重油並ニ被請求人ノ二百七十度以上ノ沸騰點ヲ有スル原油ハ共ニ木材防腐ニ效アリトシテ公知ニ屬スル資料タルハ雙方ニ於テ認ムル所ナリ然ラハ請求人ノ自ラ製造スル木材防腐劑ハ「クレオソート」油及重油ヨリ成リ「クレオソート」油中ノ「ナフサリン」ノ效力亦重油ヲ雜ヘテ始メテ奏シ得ル效果ニアラサレハ所謂公知ノ資料ノ湊合ニ外ナラサルノミナラス「クレオソート」油ハ被請求人ノ「ナフサリン」ト異レルコト既ニ述フルカ如クナルヲ以テ本件請求人ノ製造使用スル木材防腐劑ハ被請求人ノ所有ニ係ル原油ト「ナ

フサリン」トヨリ成ル特許第八五九八號及被請求人主張ノ如ク此兩資料ヲ主成分トセル改訂特許第七七九八號ノ各木材防腐劑ト撞着スルモノト云フヲ得ス
右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ

請求人ノ自ラ製造使用スル「クレオソート」油ト重油トヲ混合シタル木材防腐劑ハ被請求人ノ所有ニ係ル改訂特許第七七九八號木材防腐劑並ニ同特許第八五九八號木材防腐劑ノ特許範圍ニ屬セサルモノトス
明治三十八年十二月二日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 高山甚太郎

特許局事務官 中松盛雄

特許局技師 安藤格

第九百六號

東京市神田區三崎町一丁目二番地 請求人 辻 瀨 洲

右辻瀨洲ヨリ願書番號第二八五七一號樹皮製麻法特許願ニ對スル特許局審査官ノ拒絕再査定ニ服セス審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ前記特許願ニ對スル明治三十八年二月六日付拒絕再査定ハ不當ナリト審決セラレ度其理由ハ審査官ハ拒絕ノ要旨トシテ植物纖維ノ採集晒白等ニ苛性曹達晒白粉鹽酸等ヲ用ヒ又纖維ヲ柔軟ニシテ之ニ光澤ヲ附與スル爲メニコロト油ヲ用ユルコトハ從來屢々行ハル、處ニシテ本願ハ新規ノ考案ニ出テタルモノニアラスト云フト雖本願ハ枕ナル一種ノ木性ニ應用スル方法ニ係リ曾テ世人ノ知得セサ

ルモノヲ發見シ此纖維ヲ用ヒテ麻ニ代ヘ社會ニ最モ需要多キモノ、供給ニ便ナラシムル材料ト爲スモノナリヨシヤ樹皮ノ纖維ヲ應用シテ類似ノモノアリトスルモ所謂醫師ノ匙加減ナルモノアリテ僅少差異ノ爲メニ其效果ヲ異ニス加之本願枕ナル樹皮ノ特性トシテハアルカリヲ以テ煮沸スルモ護膜質悉皆驅除スルモノニアラサルカ故ニ其性分ヲ存留セシメ以テ如何ニ細織ノ織物トスルモ其強引力ヲ存スルヲ發見シタルモノニシテ他ニ之ト同様ノ發明ナキ上ハ當然特許セラルヘキモノナリト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人ハ枕ノ樹皮ニ特性アリテ普通ノ纖維處理法ヲ應用シ得ヘカラサルカ如ク云フト雖本願ニ於テ行フ處ハ植物纖維ノ處理法トシテ普通告知ニ屬スル方法ヲ適用シタルニ止マリ其間發明思想ヲ要シタリト認ムヘキ點ナキヲ以テ方法トシテ新規ノ發明ト認ムルヲ得サレハ特許ヲ與フヘカラスト査定シタルハ正當ナリト信スト云フニ在リ

仍テ本件ニ關スル一切ノ書類ヲ査閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
請求人ハ本願ハ植物纖維ノ處理法トシテハ他ニ類似ノモノアリトスルモ枕ナル一種ノ木性ヲ發見シテ之ニ應用シタルハ即チ請求人ノ發明ナルカ故ニ特許ヲ受クヘキモノナリト云フト雖本願ニ就キ之ヲ按スルニ右ハ畢竟請求人カ數種ノ植物纖維質ニ就キ之カ實地試驗ノ結果枕ナル一種ノ樹皮中ニ存在スル纖維ノ性質ノ強韌ナルコトヲ發見シ其樹皮ヲ麻ニ代用スヘキ物品ヲ製出スル原料ニ供シタリト云フニ止マリ其製造方法ノ上ニ於テハ苛性曹達晒白粉鹽酸及ヒコロト油等ヲ用フルニ過キスシテ普通植物纖維ノ處理法トシテ告知ニ屬スル方法ヲ適用シタルニ外ナラス請求人ハ其方法ニ於テモ所謂醫師ノ匙加減ナルモノアルカ故ニ必スシモ普通ノ處理法ト相同シカラサルカ如ク云フト雖既ニ其方法ノ要領ニ於テ普通ノ處理法ト異ナルコトナキ上ハ之カ實施上ノ巧拙如何等ヲ以テ其方法ヲ異ニスルモノナリト云フヲ得ス要スルニ本願ハ方法トシテハ發明ヲ構成スルモノニアラスシテ審査官カ之ニ對シ特許法第一條ニ該當セサルモ

ノトシテ特許ヲ與フヘカラスト査定シタルハ不當ニアラス
右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
請求人申立相立タス

明治三十八年十二月六日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 高山甚太郎
特許局事務官 松田啓太郎
特許局事務官 別府丑太郎

第九百五號

大阪市東區石町二丁目二十番屋敷莫大小製造業
大坂市東區島町二丁目五十五番屋敷特許代理業者
大坂市東區北久太郎町二丁目十七番屋敷莫大小製造販賣業
請求人 中村清吉
右代理人 川口秀臣
被請求人 桑田眞一
右中村清吉ヨリ桑田眞一ニ對シテ特許第七七三二號莫大小製造機ノ特許權利ヲ確認スル爲メ審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ甲第二號證圖面ノ莫大小製造機ハ特許第七七三二號莫大小製造機ノ特許權利ノ範圍ニ屬スルモノトノ審決ヲ求ム其理由ハ請求人所有特許第七七三二號莫大小製造機ノ要部ハ甲第一號證ニ圖示スル如クニシテ其特許範圍ハ「尖狀ニシテ鉤(ハ)ヲ具フル掛絲片(イ)ト較ヤ短ク且方形ニシテ鉤(ニ)ヲ具フル掛絲片(ロ)トヲ交互ニ列植セル「カム」輪(ホ)ヲ具フル莫大小製造機」ナリ要スルニ掛絲片(イ)ノ鉤(ニ)ハ地合ヲ編ム掛絲片(ロ)ノ鉤(ニ)ニ輪狀ヲ作ル絲ヲ掛ケテ莫大小ヲ編成スルモノニシテ被請求人カ現今使用シ居ル莫大小製造機ハ甲第二號證ニ示ス如ク(イ)ナル掛絲片(俗ニ「ヘソ」板ト云フ)ニ二個ノ鉤(ロ)(ハ)ヲ設ケ(ニ)ナル掛絲片(イ)一個ノ鉤(ホ)ヲ具ヘ之ヲ(ハ)ナル「カム」輪(俗ニ「ヘソ」ト云フ)ニ交互ニ列植シ地合ヲ編ム掛絲片(イ)ノ鉤(ロ)ニ掛ケ輪狀ヲ作ル絲ヲ掛絲片(イ)ノ鉤(ハ)ト掛絲片(ニ)ノ鉤(ホ)トニ掛ケテ莫大小ヲ編成スルモノナリ今兩機械ヲ對照スルニ甲第一號證ノ掛絲片(イ)カ尖狀ニシテ掛絲片(ロ)カ方形ナルト甲第二號證ノ掛絲片(イ)(ニ)ノ尖端カ稍ヤ丸ミヲ有スルトノ差アリテ各其形體ヲ異ニスト雖モ形體ノ如キハ發明ノ構成上何等ノ關係ヲ有スルモノニ非サルヲ以テ敢テ之ヲ論議スルノ價値ナシ唯甲第二號證ニ於ケル掛絲片(イ)ニ二個ノ鉤(ロ)(ハ)ヲ具フルノ點ニ於テ差異アリト雖モ鉤(ハ)ノ作用ノ如キハ掛絲片(ニ)ノ鉤(ホ)ト同一ナルヲ以テ徒ニ之ヲ設ケタルニ過キスシテ何等ノ必要アルヲ見ス假ニ鉤(ハ)カ別作用ヲ爲シテ特種ノ效果アリトスルモ掛絲片(イ)(ニ)ニ鉤(ロ)(ホ)ヲ設ケ之ヲ「カム」輪(ハ)ニ交互ニ列植シタル點ニ於テ甲第一號證ト同一ナルヲ以テ之ニ鉤(ハ)ヲ添設シタルハ則特許第七七三二號ノ利用發明ニ屬スルニ依リ甲第二號證ノ莫大小製造機ハ特許第七七三二號ノ特許範圍ニ屬スルモノナリト云フニアリテ甲第一號證トシテ特許第七七三二號莫大小製造機ノ圖面及甲第二號證トシテ被請求人ノ使用シ居ルト稱スル莫大小製造機ノ圖面ヲ提出セリ

被請求人答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決ヲ求ム其理由ハ請求人ノ特許範圍ハ「尖狀ニシテ鉤(ハ)ヲ具フル掛絲片(イ)ト稍ヤ短ク且方形ニシテ鉤(ニ)ヲ具フル掛絲片(ロ)トヲ交互ニ列植セル「カム」輪(ホ)ヲ備フル莫大小製造機」トアルニ因リテ按定スルモ既ニ特許範圍ニハ各其掛絲片ノ形狀及鉤數ヲ限レルヲ以テ假令形體等ノ差異カ發明ノ構成上異ナル效果ヲ迨ホスモノニ非ストスルモ被請求人ノ使用機械ト特許第七七三二號莫大小製造機トハ全然同一物ニ非サル以上ハ特許權利範圍外ニアルモノナリ

ト云フニアリ
 仍テ本件ニ關スル一切ノ書類ヲ査閲シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
 特許第七七三一號莫大小製造機械ハ甲第一號證圖面ノ如クニシテ被請求人ノ使用スル莫大小製造機械ハ
 甲第二號證圖面ノ如クナリトノ請求人ノ申立ニ對シ被請求人ハ何等フトコロナシ依テ前記兩機械ニ付
 キ之ヲ審案スルニ特許第七七三一號ハ其明細書及甲第一號證圖面ニ依ルトキハ尖狀ニシテ鉤(ハ)ヲ具フ
 ル掛絲片(イ)ト較ヤ短ク且方形ニシテ鉤(ニ)ヲ具フル掛絲片(ロ)トト交互ニ列植セル「カム」輪(ホ)ヲ備
 フル莫大小製造機械ニシテ其特許範圍ハ單ニ「カム」輪ニ二種類ノ掛絲片ヲ交互ニ列植シタルノ點ニ非
 スシテ列植セル二種ノ掛絲片ノ一ハ尖狀ニシテ鉤(ハ)ヲ具ヘ他ハ較ヤ短ク且方形ニシテ鉤(ニ)ヲ具ヘタ
 ル點ニアリト認ムヘキモノトス何トナレハ單ニ形狀ノ相異ナル二種ノ掛絲片ヲ一「カム」輪ニ交互ニ配列
 シ地合ト輪狀ヲ同時ニ編出スルノ考案ハ本件特許機械ノ出願以前既ニ世ニ知ラレタルコト特許第七二六
 ○號等ニ依リ明カナレハナリ然ルニ被請求人ノ使用スル機械ハ甲第二號證圖面ニ依ルトキハ列植セル二
 種ノ掛絲片ニ長短ナク其一ニハ一個ノ鉤ヲ具ヘ他ニハ二個ノ鉤ヲ具フルノミナラス各掛絲片ハ殆ント同
 一ノ幅ヲ有シ先端ハ稍ヤ圓狀ヲ成シタルモノナルヲ以テ兩機ニ於ケル掛絲片ハ相異ナルモノト云ハサル
 ヲ得ス
 右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
 請求人申立相立タス

明治三十八年十二月十三日於特許局

審判長 特許局事務官 中 松 盛 雄
 特許局技師 鈴木千代吉

特許局事務官 松田啓太郎

第九百三十號

兵庫縣川邊郡伊丹町ノ内伊丹町五百七十一番地 請求人 寺 西 福 吉
 大阪市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許代理業者 右代理人 淺 村 三 郎
 大阪市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許代理業者 右代理人 佐 々 木 高 吉

右寺西福吉ヨリ願書番號第二九四六一號錦更紗特許願ニ對スル特許局審査官ノ拒絕再査定ニ服セス審判
 ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處
 請求人申立ノ要領ハ前記特許願ニ對スル本年五月五日付ノ拒絕再査定ハ不當ナリト審決セラレ度其理由
 ハ審査官カ拒絕ノ理由トスル所ノ前段タル布帛ニ糊着料ヲ印刷シ之ニ金粉ヲ塗付シテ模様トナスコトハ
 從來行ハル、處ニシテ本願錦更紗ハ此考案ニナルモノニシテ新規發明ナリト云フヲ得スト云フニ對シテ
 ハ請求人ハ敢テ之ヲ爭ハスト雖該理由ノ末段ニ於ケル蒺藜粉ヲ糊着並ニ防水ノ資料トシテ用フルカ如キ
 ハ普通公知ノ用途ニシテ本願ニ於テ之ヲ適用シタルカ爲メ別種ノ發明ヲ構成スルニ足ルモノト認ムルヲ
 得スト云フニ對シテハ大ニ不服ニ堪ヘサル處ナリ本願ニ於テ蒺藜粉ヲ使用シタルハ糊着並ニ防水ノ資料
 トナシタルノミナラスシテ之ニ依リ金粉ヲ變色セサラシムルヲ主要ノ目的トナシタルモノナリ從來布帛
 ニ金粉ヲ附着シテ模様ヲ顯ハシタルモノアリト雖金粉忽チニ剝離スルト金粉ノ變色スルトノ憂アリテ到
 底信用アル商品トシテ取引スルコト能ハス當業者ノ常ニ遺憾トセシ處ナリ然ルニ本願ニ於テ最後ニ蒺藜
 粉液ヲ塗布スルコトニ依リ金粉ノ附着ヲ強固ニシテ容易ニ剝離スルノ憂ナキト金粉ノ色合ヲ保有シテ決

シテ變色スルノ失ナキト傍ラ防水ノ效アルトノ特效ヲ奏シ始メテ實用ニ供用シ得ラル、ニ至レリ此ノ如ク蒟蒻粉ハ金粉ニ變色ヲ來サ、ル特種ノ效果ヲ奏スル唯一ノ資料トシテ本願ニ適用セシメタルモノナルヲ以テ假令從來蒟蒻粉ヲ糊着及防水ノ目的ニ使用シタルコト普通ニ屬スルモ布帛ニ金粉模様ヲ印刷シテ之カ變色ヲ防止スル爲メ蒟蒻粉液ヲ塗布スルコトハ全ク請求人ノ案出シタル最新ノ考案ニシテ之カ適用方ハ發明タルノ價值ヲ有シ特許法第一條ニ該當スルモノトシテ特許ヲ與ヘラル、ヲ至當ナリト思考スト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決セラレ度其理由ハ請求人ハ蒟蒻粉液ヲ金粉模様ヲ印刷シタル布帛ニ塗布シテ金粉ノ變色ト剝離トヲ防キ得タルカ故ニ發明ノ價值アリト云フト雖本願ノ如キ場合ニ透明塗料ヲ使用スルコトハ公知ニ屬ス而シテ一種ノ透明塗料タル蒟蒻粉液ヲ塗布シタルカ爲メニ金粉面上ニ生スル薄皮ハ脆弱ナルヲ以テ金粉ニ對スル大氣ノ作用及ヒ其剝離ヲ防クニ特殊ノ效果ヲ奏スヘキモノト認ムルヲ得サルカ故ニ特許ヲ與フヘカラサルモノト査定シタルハ不當ニアラスト信スト云フニ在リ

仍テ本件ニ關スル一切ノ書類ヲ査閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
本願ハ石版ノ畫面ニ一種ノ塗料ヲ塗抹シ之ヲ所要ノ布面ニ複寫スルノ後金粉ヲ散布シテ模様ノ部分ニ附着セシメ更ニ其布面ニ蒟蒻粉液ヲ塗抹シテ成ル錦更紗ナリ請求人ハ本願中布面ニ塗料ヲ印刷シ之ニ金粉ヲ塗抹シテ模様ト爲スノ方法ハ新規ノ發明ニ非スト云ヘル審査官ノ査定ニ對シテハ之ヲ自認シテ爭ハス唯其所争ノ要點ハ蒟蒻粉液ヲ使用スルコトハ金粉ヲ布面ニ固着セシメ且防水ノ資料トナルノミナラス金粉ノ變色ヲ防止スルヲ主要ナル目的トシ特殊ノ效果ヲ奏スヘキヲ主張スルニアリト雖蒟蒻粉ハ從來防水其他塗料ノ材料トシテ使用セラル、モノナリ又金屬面ニ塗抹スル塗料トシテ樹脂ノ溶液ハ從來廣ク應用

セラル、モノナリ即チ本願ニ於テハ蒟蒻粉ヲ以テ樹脂ニ代用シタルニ過キスシテ當業者カ容易ニ推考シ得ヘキ事項ニ屬シ新規發明トシテ特許セラルヘキ價值ナキモノトス
右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
請求人申立相立タス

明治三十八年十二月十三日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 高山 甚太郎
特許局事務官 松田 啓太郎
特許局事務官 別府 丑太郎

第九百五十六號

亞米利加合衆國ニニッシャーシー州ソンマーセツト、
バウンドブルック科學者 請求人 ルイス、コード、ルーゲン
亞米利加合衆國紐約市マンハッタン市ボラウ科學者 請求人 ヘルバート、アブラハム
東京市麹町區八重洲町一丁目二番地特許代理業者 右代理人 ウイリアム、シルヴァー、ホール

右ルイス、コード、ルーゲン外一名ヨリ願書番號第二九八一〇號可撓性膏物或ハ敷物ノ製法特許願ニ對スル特許局審査官ノ爲シタル拒絕再査定ニ服セス審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處請求人申立ノ要旨ハ本件特許願ニ對スル明治三十八年八月二十一日附ノ拒絕査定ハ不當ナリト審決セラレタシ其理由ハ審査官ハ本願明細書中ノ請求範圍ト米國特許第七七五三號ノ請求範圍トヲ對照スルトキハ二者同一ノ發明ナルコト明ナリトシ右特許公報ハ明治三十七年十二月二十三日特許局ニ於テ之ヲ受領シ公ニシ本願

ハ其後ノ提出ニ係ルカ故ニ特許法第二條第四號ニ依リ特許スヘカラサルモノト査定セラレタルモ右査定書ニ依レハ審査官モ亦前記米國特許ノ内容ハ右特許公報ニテモ全然了解セラレ得サルコトヲ認定セラレカ如シ然レハ其請求範圍ノミヲ見テ之ヲ同一發明ト認定セラレ、ハ穩當ナラス今一步ヲ讓リ審査官ノ認定セラレシ如ク之等二者同一ノ發明ナリトスルモ右米國特許ノ内容中本願出願以前日本帝國内ニ於テ公知ニ屬セリト認定スルニ於テハ具體的ノ立證アルコトヲ要ス單ニ該書籍カ特許局圖書館ニ所藏セラル、カ故ニ公衆ニ依リ見讀セラレヘシトノ或然的認定ニ依リ其内容カ日本帝國内ニ於テ公知ニ屬セリト斷定シ能ハサルノ理ナリ且ツ審査官ハ米國特許公報ハ本願出願前特許局圖書館ニ於テ閱覽ニ供セラレタルヲ以テ本願ハ公知ニ屬セリト答辯セリト雖モ米國ノ「オフィシアル、ガゼット」英國ノ「オヒシアル、ジョーナル」或ハ佛國ノ「プレチン、オフィシエ」等ハ日本帝國ノ特許公報ト性質ヲ異ニシ諸特許ノ明細書ノ目錄ヲ便利ノ爲單ニ少シク委シク記載セルモノニシテ完全明細書トハ全然別物ナリ故ニ之ニ依リテ發明ノ全部ヲ知悉シ得ヘキモノニアラスト云フニ在リ

審査官答辯ノ要旨ハ請求人ノ申立相立タスト審決セラレタシ其理由ハ本願ハ千九百四年ノ米國特許公報ニ記載ノ同國特許第七五五三號ニ依リ本邦ニ於テ公知ニ屬スルモノナリ請求人ハ單ニ請求範圍ノミヲ見テ同一ナリト認ムルハ不當ナリト主張スルモ右公報ハ請求範圍ノミナラス圖面ヲモ附スルカ故ニ之ニ依リ本願ト米國特許第七五五三號トハ同一ノ發明タルコトヲ知ルニ難カラス而シテ右特許公報ハ本願出願前特許局圖書館ニ於テ閱覽ニ供セラレタルヲ以テ公知ナリトシテ本願ヲ拒絕シタルハ不當ニアラスト信スト云フニ在リ

依テ本件ニ關スル一切ノ書類ヲ査閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
 本件所争ノ要點ハ第一、第二九八一〇號特許願可撓性膏物或ハ敷物ノ製法ノ發明ハ西曆千九百四年米國

特許局公報ニ掲載セル同國特許第七五五三號請求人カ第七五五三號トセルハ誤記ト認ムニ依リ之ヲ知リ得ヘキモノナルヤ否第二、該特許局公報ヲ特許局圖書館ニ於テ閱覽ニ供セルコトニ依リ本件發明カ本邦ニ於テ公知セラレタルモノトスルヲ得ルヤ否ニ在リ第一點ニ付テハ請求人ハ前記米國特許ハ請求範圍ノミヲ記載シ完全明細書ト異ナレルヲ以テ之ニ依リテ本件發明ノ全部ヲ知悉シ得ヘカラスト主張スト雖モ今前顯米國特許ニ關スル米國特許局公報ノ記事ヲ閱スルニ可撓性膏物或ハ敷物ノ製法ノ特許請求範圍トシテ第一項乃至第八項ノ記載アリ且ツ之ニ添フルニ一圖面ヲ以テセリ右記載事項タル本件發明ニ於テハ製造工程ノ詳細ヲ記載セサルモ本件發明ノ構成ノ要旨ハ之ヲ包含シ當業者ハ該記事ニ依リテ本件發明ノ構成ヲ知悉スルコトヲ得ヘキモノトス而シテ刊行物ノ記事ニ依リ發明ノ構成ノ要旨ノ全部ヲ知リ得ラル、トキハ刊行物ニ依リテ發明カ知ラレタリト謂フヲ得ヘキモノニシテ刊行物ノ記事カ必スシモ完全ノ特許明細書ナルコト又ハ特許願附屬明細書ノ記事ト同一ナルコトヲ要スルモノニ非ス次ニ第二點ニ付審案スルニ明治二十七年八月三十一日ノ官報ニ於テ「特許局ニ於テハ左ノ規程ニ依リ來ル九月十一日ヨリ其所管ニ屬スル圖面ノ觀覽ヲ許ス」旨ヲ公告シ右觀覽ニ關スル規定タル特許局圖書閱覽規程第一條ニ依レハ特許局ニ於テハ同局所管ノ圖書ハ秘密ニ付セス公衆ヲシテ閱覽スルコトヲ得セシメタルコト明ナリ而シテ本件所争ニ係ル米國特許局公報ハ特許局ノ所管ニ歸シタルトキハ公衆ハ直ニ之ヲ閱覽シ其記事ヲ知リ得ル地位ニ置カレタルモノナルヲ以テ該公報ニ掲載セル事項ハ右所管ノ日ヨリ本邦内ニ於テ公知セラレタルモノト謂フヘキナリ既ニ其記載事項ノ公知セラレタル以上ハ何人カ之ヲ閱讀シタルヤ否ハ問フヘキ處ニ非ス隨テ何人カ之ヲ閱覽シタルヤニ付立證スルノ必要ナキモノトス以上ノ理由ニ依リ特許局審査官カ本件發明ハ出願前特許局ニ於テ公知ニシタル米國特許局公報中米國特許第七五五三號ノ記事ニ依リ公知セラレタリトシテ本願ヲ拒絕シタルハ不當ニアラス

右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
請求人ノ申立相立タス

明治三十八年十二月廿日於特許局

審判長

特許局事務官

中 松 盛 雄

特許局技師

安 藤 格

特許局事務官

別 府 丑 太 郎

五十七

第九百五十八號

神戸市北野町三丁目四十二番地

神戸市下山手道二丁目

神戸市生田町二丁目三番地

神戸市生田町二丁目三十五番地ノ一

東京市京橋區木挽町九丁目十八番地特許代理業者

請求人 桑 田 量 平

請求人 山 本 治 郎 吉

請求人 井 上 磯 太 郎

請求人 青 柳 正 好

右代理人 丸 岡 東 治

右桑田量平外三名ヨリ願書番號第三〇五二一號麥稈及麥稈真田改良漂白法特許願ニ對スル特許局審査官ノ拒絕再査定ニ服セス審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處
請求人申立ノ要領ハ特許願第三〇五二一號麥稈及麥稈真田改良漂白法ニ對スル拒絕再査定ハ不當ナリト審決セラレ度其理由ハ再審査拒絕査定書ニハ「核酸ヲ纖維漂白法ニ使用スルコトハ公知ニ屬ス其一例ハ千八百八十七年英國特許第一八一六號ニ於ケルカ如シトアルモ我國ニ於テ普通ニ行ハル、方法中未タ嘗テ

核酸ヲ使用スルコトヲ見聞セス若シ本願方法カ既ニ公ニ知ラレタリトセハ必ヤ又既ニ公ニ用ヒラレタルコト明ナリ然ルニ査定書ニモ公用ノ事實ヲ認メラレサルカ如シ果シテ公用ノ事實アラサルノ事實ハ公知ニアラサルコトヲ推知スルニ於テ充分ノ理由トナスニ足ル又假令英國ニ於テ特許セラレタリトスルモ必スシモ我國ニ於テ知ラルヘキモノニアラス免ニ角本願カ公知公用ニアラサルコトハ請求人等カ敢テ斷言スルニ憚ラサル所ナリ審査官ハ温度ノ調節ノ如キハ當業者容易ノ業ニシテ發明ト認ムルヲ得ストセラレタルモ普通ニ行ハル、漂白法ハ核酸以外ノ酸ヲ用ヒ熱ヲ加ヘ依テ色素ヲ造リ以テ色素ヲ奪フモノニシテ熱ヲ加フルコトハ普通方法ノ必要缺クヘカラサル手段ナリ本願ハ核酸ヲ選用シ且熱ヲ加ヘス而シテ後更ニ核酸若クハ酒石酸ノ溶液中ニ投シテ漂白ス即チ熱ヲ加フル代リニ核酸若クハ酒石酸ノ溶液中ニ投シテ色素ヲ造リ色素ヲ奪フニ在リ温度ノ調節ト言ヘハ温度ヲ用フルコトヲ前提トセサルヘカラス本願ハ終始温度ヲ使用セス又特許局圖書館ハ公開ノモノニアラサルヲ以テ同館存置ノ書籍ニ掲載セラレタル事項ハ公知ノ事項ト云フヘカラスト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決セラレ度其理由ハ請求人ハ本願ニ於テ終始温度ヲ使用セスト云フモ漂白ノ際ニ液ニ加熱スルト加熱セサルトノ差異ハ温度ノ高低ヲ云フモノナルカ故ニ調節ナル語ヲ用ヒタルハ至當ナリ又核酸ヲ纖維ノ漂白ニ使用スルコトハ拒絕査定書ニ記スル英國特許ニ依リ公知ニ屬ス而シテ該特許ノ説明ヲ記載セル公刊物ハ特許局圖書館ニ於テ閱覽ニ供セラレタルカ故ニ本願ハ公知ニ屬スルモノトシテ拒絕シタルハ不當ニアラスト信スト云フニ在リ
依テ本件ニ關スル一切ノ書類ヲ査閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
本件特許願第三〇五二一號麥稈及麥稈真田改良漂白法ニ於テ請求人カ發明トスル所ハ漂白ヲ製スルニ當リ過酸化曹硅酸曹達ノ外硫酸及核酸若クハ核酸ノミヲ用フルト該漂白ヲ常溫ニ於テ使用スルト後段

五十七

ニ於テ糝酸若クハ酒石酸ヲ用フルトニ在リ然ルニ過酸化曹達ヲ使用スル漂白法ニ於テ過酸化曹達硫酸及
 硫酸曹達ヨリ成ル漂白溶ヲ使用スルコトハ從來行ハル、所ニシテ此種ノ漂白溶ヲ麥稈ニ應用スル場合ニ
 ハ工程ノ後段ニ於テ普通ニ使用スル稀硫酸ニ代フルニ糝酸若クハ酒石酸ヲ撰用スルコトノ公知ニ屬スル
 ハ現ニ明治三十三年刊行工業化學雜誌第三編第九十三頁ニ依リ明白ナリ審査官カ糝酸ハ麥稈漂白ノ資料
 トシテ公知ニ屬ストナシ其一例ヲ示サンカ爲メ英國特許ヲ援用シタルハ不當ニアラスト雖モ糝酸カ麥稈
 ノ漂白ニ公知ノ資料タルハ該英國特許ニ依ラサルモ一般ニ認知セラル、所ナリ然ラハ本件方法ハ從來行
 ハル、漂白法ヲ麥稈ニ適用スルニ當リ硫酸ノ一部若クハ全部ニ代フルニ糝酸ヲ使用シタルニ過キスシテ
 斯ノ如キ變更ハ普通技工ノ容易ニ爲シ得ヘキコトニ屬シ發明ト認ムルヲ得ヌ又請求人ハ本件方法ヲ常溫
 ニ於テ施行スルヲ發明ナルカ如ク云フト雖該漂白溶ヲ加熱スルト然ラサルトハ其作用ニ強弱遲速ノ別ヲ
 生スルノ外異別ノ作用ヲ生スルモノニアラサレハ之ヲ以テ發明ヲ構成スルモノト云フヲ得ヌ從テ審査官
 カ本件特許願ニ對シ特許ヲ與フヘカラスト査定シタルハ不當ニアラストス
 右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
 請求人申立相立タス

明治三十八年十二月廿一日於特許局

審判長 特許局長 織田 一
 特許局技師 安藤 格
 特許局事務官 別府 丑太郎

第八百九十七號

大阪市東區谷町五丁目五十五番地 請求人 永世勝治
 大阪市南區難波西神田町八百八十二番地 被請求人 濱田熊太郎
 大阪市東區北濱五丁目六十三番地特許代理業者 右代理人 淺村三郎
 大阪市東區北濱五丁目六十三番地特許代理業者 右代理人 佐々木高吉

右永世勝治ヨリ濱田熊太郎ニ對シ特許第七九四九號「はじきおほ」ノ特許權利ヲ確認スル爲審判ヲ請求シ
 タルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ被請求人ノ製造販賣スル「はじきおほ」ハ特許第七九四九號ノ特許範圍ニ屬ストノ審
 決ヲ求ム其ノ理由ハ被請求人ノ目下盛ニ製造販賣擴布ヲ爲シツ、アル甲第十二號證ノ物品即チ通稱太鼓
 唄ハ請求人所有ノ特許第七九四九號ノ請求範圍第二項ニ記載セル中腔ヲ空虚ニシ輕量ト且ツ彈撥ノ際音
 響ヲ發スルノ目的ト同一ニシテ軸心(C)ノ如キハ指頭廻旋ニ於テ便ナルハ勿論ナルモ多唄獨樂即チ本特
 許品等ノ如キハ外邊ヲ二指先ニ挾ミテ廻旋スルカ故ニ軸心(C)ノ有無ハ敢テ實差ナク況ンヤ明細書ニ精
 神ヲ變セサル限リハ形狀ヲ種々ニ變更スルコトアリト明記セルハ請求人ニ於テモ使用者ノ嗜好ニ從ヒ内
 外面ニ多少ノ裝飾ヲ施シ凸瘤(D)ノ増減モ亦追日之ヲ行フノ意志ニシテ甲第十二號ノ如キ内形ハ既ニ考
 案研究中ニ之ヲ爲シタル事アルノミナラス僅ニ螺旋堤ヲ設クルガ如キハ本特許ノ精神ナル空虚ニ作リ輕
 量トナシ冗費ヲ節スルノ點ニ毫頭ノ差ナキハ言ヲ要セス之ヲ特許品ト形而上ノ比較ヲナサハ軸心(C)ヲ
 短縮セルト凸瘤(D)ヲ減少セルモ其他ハ一切同一形ニシテ其精神ト效果トハ全然異ルナキモノナリ故ニ
 甲第十二號證、追加甲第廿九號證、甲第三十號證ノ各物品ハ共ニ特許第七九四九號ノ權利ニ屬スト云フ

ニアリ

被請求人答辯ノ要旨ハ被請求人ノ製造セル「はじきおほ」(一名鐵唄)ハ特許第七九四九號ノ特許範圍ニ屬セスト審決相成度其理由ハ「はじきおほ」一名唄ナルモノハ兒童ノ玩具トシテ從來貝殼ニ依リ製作シ來リタルモノナルヲ被請求人ニ於テ之ヲ鑄鐵製トセハ可ナラントノ考ヲ起シ種々實驗ノ結果去ル明治三十六年九月中乙第一號證ノ如キ金唄ヲ製作シ進テ乙第二號證、乙第三號證ノ如キ金唄ヲ製作シテ今日ニ至ルモノニシテ乙第二、三號證ノ如キハ共ニ形狀ヲ貝殼ニ形トリタルモノナリ然ルニ請求人ハ之ニ對シ本件特許ノ中腔ヲ空虛ニシ輕量ト且ツ彈撥ノ際音響ヲ發スルトノ目的ト同一ニシテ軸心(C)ノ有無ハ敢テ實差ナシ云々ト云フト雖モ本件特許ノ軸心(C)ハ本發明ノ目的ヲ達スル主要部分ニシテ軸心ヲ長ク出ササレハ明細書ニ記載セルカ如キ效用ナキモノナレハ軸心ノ有無ハ決シテ請求人ノ云フ如ク實差ナキモノト云フ可カラス隨テ被請求人ノ製作販賣セル金唄乙第三號證ニ示ス如ク軸心ヲ設ケサルヲ以テ彼是相達セルモノトス又本件特許ハ接觸彈撥ヲ多度ナラシムル目的ニ依リ唄殼狀側(A)ノ上邊ニ三個或ハ數個ノ凸瘤(D)ヲ設ケタルモノナリ然ルニ被請求人ノ製作販賣セル金唄ハ乙第二、三號證ニ示ス如ク貝殼ニ形トリタル爲メ切缺狀ニ角出シタル迄ニシテ本件特許ノ凸瘤(D)トハ自ラ異リ且ツ數個ヲ具フルモノニアラサルヲ以テ決シテ本件特許ノ要部ト撞著スルモノニアラスト云フニアリテ乙第一號證乃至乙第五號證ヲ提出セリ

仍テ本件ニ關スル一切ノ出願及證據ヲ查閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
請求人ヨリ目下被請求人カ製造販賣スルモノトシテ提出セル甲第十二號證、追加甲第二十九號證並ニ甲第三十號證ハ被請求人カ自ラ製造販賣シ來リタルト稱シテ提出セル乙第三號證ト其形狀構造共ニ相一致スルモノナリ故ニ之ヲ特許第七九四九號「はじきおほ」ト對照審理スルニ特許「はじきおほ」ハ其明細書ニ

記スル如ク唄殼狀側(A)ノ上邊ニ三個或ハ數個ノ凸瘤(D)ヲ設ケ廻旋ノ際他ト接觸彈撥ヲ多度ナラシムルノ裝置ト内腔(B)ヲ圓錐形ノ空虛トシ其中央ニ軸心(C)ヲ設ケ全量ヲ輕減シ原料ノ元費ヲ節シ綱紐、指頭ノ兩廻旋ニ便ニシ且ツ接觸ノ際美音ヲ發スヘク全部金屬ノ鑄造トセル裝置トヲ具ヘテ成ルモノニシテ要スルニ上縁ニ數個ノ凸瘤ヲ設ケタルト圓錐形ノ内腔中ニ軸心ヲ設ケタルトハ本發明ノ要點ナリト認ムヘキモノトス何トナレハ他ハ公知ノ構成ヲ湊合シタルニ止マレハナリ然ルニ被請求人ノ製造販賣スル甲第十二號證即チ乙第三號證「はじきおほ」ハ從來廣ク行ハレタル貝唄ノ原料タル貝殼ノ螺狀壁ヲ除キ之ヲ鑄鐵製トナシタルニ過キサレモノニシテ特許品ニ所謂數個ノ凸瘤並ニ軸心ヲ具ヘサルヲ以テ彼ト是トハ其構造ニ於テ相異スルモノト云ハサルヲ得ス
右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
請求人申立相立タス

明治二十八年十二月二十六日於特許局

審判長 特許局事務官 中 松 盛 雄
特許局技師 鈴木千代吉
特許局事務官 宮内國太郎

第九百九號

大阪市北區綿屋町二十番地洋傘木柄商
大阪市北區川崎町五十九番屋敷洋傘木柄商

請求人 森 田 和 吉
大 西 中 吉

大阪市北區南同心町二丁目七百三十八番屋敷洋傘木柄製造業

大阪市北區與力町一丁目六百三十六番屋敷洋傘木柄商

奈良縣生駒郡平群村字若井六十一番屋敷洋傘木柄商

奈良縣生駒郡平群村六十番屋敷

京都市下京區富小路通高辻上十八番戶特許代理業者

大阪市北區金屋町二丁目百五十五番屋敷

右森田和吉外五名ヨリ内藤熊吉ニ對シ第八五五七號木柄屈曲裝置特許ヲ無効トスル爲メ審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ第八五五七號木柄屈曲裝置特許ハ無効ナリト審決セラレ度其理由ハ被請求人カ本年三月十日附ヲ以テ特許ヲ受ケタル前記木柄屈曲裝置ハ其出願ニ先タツコト少クモ滿二箇年以前ヨリ世間一般ノ木柄製造業者間ニ公ニ知ラレ且公ニ用ヒラレタルモノナルコト明確ナル事實ナリ即チ其事實ハ

(一)被請求人カ明治三十八年三月十四日附ヲ以テ請求人森田和吉外五名ニ對シ甲第一號證乃至甲第五號證ノ通知書ヲ書留郵便ヲ以テ發送シ其文中ニ「追テ兼テ聞及候處貴家様ニモ木柄延屈曲致居ラレ候ヘ共爾來御氣ノ毒様ナカラ御中止御願度」曰ク乍併今日迄ノ曲上ケノ分ハ特許前ノ儀ニ付云々」曰ク「不本意ナカラ御中止御願度」ト記載シ尙文章日附ノ之ト同一ナル書面ヲ他ノ同業者ニ對シテモ多數ニ發送セリ即チ被請求人カ特許ヲ受ケタル日附ハ本年三月十日附ニシテ實際特許局ヨリ特許ノ通知ヲ受領シタルハ三月十二三日頃ト推定スヘク又斯ノ如ク多數ノ郵便ヲ發送スルニ少クモ一日間以上ヲ要スルカ故ニ被請求人ハ特許ノ通知ヲ受ケタル當日未タ特許料ヲモ納付スルノ暇ナキニ先チ同業者ノ營業ヲ中止セシムルノ奸手段ヲ廻ラシタルモノニシテ前記各證中ノ文意ニ依リテ請求人等カ從來ヨリ第八五五七號特許ト同

請求人 山崎德三郎

請求人 山崎源之助

請求人 北川米藏

請求人 西岡慶藏

右代理人 岡田信次郎

被請求人 内藤熊吉

被請求人 森田和吉

被請求人 吉外五名

被請求人 藤熊吉

被請求人 吉外五名

被請求人 藤熊吉

被請求人 吉外五名

被請求人 藤熊吉

被請求人 吉外五名

被請求人 藤熊吉

被請求人 吉外五名

被請求人 藤熊吉

被請求人 吉外五名

被請求人 藤熊吉

被請求人 吉外五名

被請求人 藤熊吉

被請求人 吉外五名

被請求人 藤熊吉

被請求人 吉外五名

被請求人 藤熊吉

被請求人 吉外五名

被請求人 藤熊吉

被請求人 吉外五名

被請求人 藤熊吉

被請求人 吉外五名

被請求人 藤熊吉

被請求人 吉外五名

被請求人 藤熊吉

被請求人 吉外五名

被請求人 藤熊吉

被請求人 吉外五名

被請求人 藤熊吉

被請求人 吉外五名

被請求人 藤熊吉

被請求人 吉外五名

被請求人 藤熊吉

被請求人 吉外五名

被請求人 藤熊吉

被請求人 吉外五名

被請求人 藤熊吉

被請求人 吉外五名

被請求人 藤熊吉

被請求人 吉外五名

一ナル方法及裝置ニ依リ木柄屈曲ヲナセルノ事實アルヲ被請求人ニ於テ認メ居ルモノナルコト(一)被請求人ハ又大阪市北區森町秦藤助外一名ニ對シ本年三月十四日附ヲ以テ端書ヲ發送シ其文中ニ「愈今般專賣特許相成候ニ付テハ今後貴家御使用ノ曲木地當方ヨリ御買取被下度云々」曰ク「從前ノ製造人ヨリ御買取ノ節ハ云々」ト記載セル文意ニ依リテモ何レモ被請求人ハ自己カ特許ヲ受ケタルト同一ノ裝置ニ依リテ其特許出願以前ヨリ他人カ木柄屈曲ヲナシ居ルコトヲ自認セルモノナルコト(二)被請求人ノ發明トスル所ハ木柄ヲ屈曲スルニ當リ其屈曲部ノ外背ニ毀裂ヲ生セシメサル爲メ木柄ト共ニ其背面ニ押ヘ金ナルモノヲ添加スルニアリト雖モ此ノ如キ方法裝置ハ請求人ノミナラス世間一般數百名ノ同業者カ第八五五七號特許出願ノ數年以前ヨリ既ニ公ニ用ヒタル裝置ニ過キサルモノナルコト大阪市北區金屋町戸田岩藏ナル者カ明治三十六年九月三日附ヲ以テ特許ヲ出願シタル伸柄屈曲法並ニ同年九月二十三日附ヲ以テ特許ヲ出願シタル伸柄屈曲處理劑ノ實施上ニ於テ之ヲ使用セルノ事實ニ依リテ知ルニ足ル而シテ右戸田岩藏カ明治三十六年九月三日附ヲ以テ被請求人ノ發明ト全然同一ナル伸柄屈曲法(洋傘用)ニ付キ特許ヲ出願シタルモノナルノ事實ハ甲第十五號證即チ特許願書明細書訂正請求ノ件訂正明細書拒絕査定書並ニ附屬ノ圖面ニ依テ之ヲ知ルヲ得ヘク又其願書ハ明治三十六年九月三日附ナルヲ以テ該發明カ其以前ニ既ニ發明セラレタルコトヲ知り得ラルヘシ(四)甲第十號證乃至甲第十四號證ニ示スカ如キ裝置ハ木柄屈曲器トシテ請求人森田和吉外二名並ニ戸田岩藏外一名ノ從來使用スルモノニ係リ而シテ右各證ヲ見ルニ何レモ甚シク酸蝕破損シ或ハ使用ノ久シキカ爲メ磨滅剝裂セルノ跡瞭然ニシテ之ヲ一見スルニ決シテ短日月ノ間ニ斯ノ如ク廢壞古損スルコト能ハス被請求人カ特許ヲ出願シタル後ニ於テ殊更ニ製作シタルモノトシテ見ルコトヲ得ス即チ何レモ明治三十六年以來使用シタルモノ、既ニ使用ニ堪ヘサルタメ廢業シタルモノナルコト等ニ依テ之ヲ證スルニ足ルヘキヲ以テ本件特許ハ特許法第一條及第二條第四號ノ規定ニ該

當シ同第二十條ニ依リ無効タルヘキモノナリト云フニ在リ而シテ其申立ヲ確ムル爲メ甲第一號證乃至甲第十五號證ヲ提出セリ

被請求人答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決セラレ度其理由ハ被請求人ノ有スル特許ハ出願前公知公用ニ屬シタルモノニアラス即チ其事實ハ(一)請求人ノ引證セル甲第一號證乃至甲第七號證ハ被請求人ニ於テモ認ムル所ナリ然レトモ是レ被請求人カ特許ヲ受ケタル上發送シタル注意書ナリ請求人ハ被請求人カ以上各證中ニ記載セル文意ニ依リ請求人等カ從來ヨリ施行セル方法ト本件特許方法ト同一ナルコトヲ自認セルモノナリト主張スレトモ是レ本件特許出願後請求人等ニ於テ本件特許裝置ト同一ノ方法ニ依リ木柄ヲ屈曲シツ、アルコトヲ聞知セシニ依リ注意ヲ加ヘタルモノ又(二)買受人秦藤助外一名ニ對シテハ製造人ニ於テ本件特許裝置ヲ侵害シテ製造シタル木柄ヲ買取リタル場合ノ注意書ニシテ共ニ特許有權者ノ當然ナスヘキ行爲ニシテ之レカ爲メ請求人等ヲ始メ買取人等ニ於テ製造販賣セル木柄ノ屈曲方法ト本件特許ノ屈曲裝置ト同一ナルコトヲ被請求人ニ於テ認メタルノ事實ナシ(三)請求人ハ甲第十五號證即チ戸田岩藏カ明治三十六年九月三日附ヲ以テ特許ヲ出願セシ伸柄屈曲機ノ明細書並ニ圖面等ニ依リ右ハ本件特許ト同一ノモノニシテ右伸柄屈曲機ノ明細書並ニ圖面中ニ掲出セル被覆金ハ本件特許明細書中記載ノ所謂押ヘ金ト同一ナルモノナリト主張スレトモ右被覆金ト押ヘ金トハ構造上決シテ同一ニ認ムヘキモノニアラス隨テ之レカ働キノ上ニ於テモ亦相異ノ點アルモノナルコトハ該出願ニ對スル審査官ノ拒絕查定理由ニモ毫モ被覆金ノコトヲ記載シアラサルヨリ見ルモ被覆金ノ效用ノ本件特許ニ於ケル押ヘ金ト同シカラサルヲ推知スルニ足ルヘシ(四)甲第十號證乃至甲第十四號證ノ各證ハ共ニ一見數年前ノ製造ニ係ルモノ、如シト雖モ此ノ如ク古色ヲ帶ハシムルハ短日月ノ間ニ於テ容易ニナシ得ヘキモノナルヲ以テ是等各證ハ本件特許出願前ノ製作ニ係リ且之レカ爲メ本件特許裝置ト同一ノ方法ニ依リ本件特許出願前

木柄ヲ屈曲シタルモノタルコトヲ認ムル能ハス(五)又被請求人カ本件特許ヲ受クルヤ戸田岩藏、飯田秀松、塚本喜作、向井房次郎、其他九名ノ者共ヨリ被請求人ニ對シ本件特許製品ノ特約買入方ヲ申込ミ之レカ契約ヲ確實ナラシメンカ爲メ公正證書ヲ以テセントノ申出ニ依リ乙第一號證(イ)(ろ)ノ如キ契約ヲ締結セリ是レ戸田岩藏外十二名ノ者ヨリ被請求人ニ迫リテ買取契約ヲ爲サシメタルモノナリ又被請求人カ本件特許ヲ受クルヤ戸田岩藏、竹村兵造、飯田秀松、向井房次郎、福島虎之介等ヨリ本件特許裝置ノ木柄屈曲製造ノ特約ヲ被請求人ニ申立以上五名ノ者共ト協議ノ上之ヲ新聞紙上ニ廣告セントシテ乙第二號證草案ヲ調製セリ其文中ニ發明者内藤熊吉ト記入シ其他ハ單ニ加名者ト記シタル迄ニシテ之ニ依テ之ヲ觀ルモ戸田岩藏始メ其他ノ者ニ於テ本件特許ノ發明者ハ内藤熊吉タルコトヲ認メタルコトヲ證スルニ餘リアリトス若シ請求人ノ述フルカ如ク本件特許出願前戸田岩藏ニ於テ之ト同一ノ發見ヲナシタルモノナレハ決シテ乙第二號證ノ調製ニ同意スヘキモノニアラス故ニ戸田岩藏カ前發明ナリトノ理由ハ毫モ認ムヘキ點ナシトス(六)尙ホ本件特許出願前ヨリ之ト同一ノモノ、公知ニ屬スルコトハ全ク虛構ノ事實ナルコトヲ立證センカ爲メ乙第三號證及乙第四號證ヲ提出ス即チ乙第三號證ハ請求人ニ於テ本件審判請求ヲナサントスル數日前請求人ノ一人ナル森田和吉ナル者カ安井豐太郎方ニ行キ本件特許ト同一ノ器械ヲ安井豐太郎ニ於テ本件出願前ニ製作セルコトノ證人トナリ立證セラレ度旨依頼シ且證言致吳候上ハ報酬トシテ相當ノ金圓ヲ呈供スヘキ旨申込ヲナシタル事實ノ證明書ナリ又乙第四號證ハ本年二月十一日即チ本件特許出願後本件特許裝置ト同一構造ノ押ヘ鎖ヲ森田和吉ノ注文ニ應シ製作シ同人ニ賣渡シタル事實ノ證明書ナルコト等ニ依テ之ヲ證スヘシト云フニ在リテ乙第一號證乃至乙第四號證ヲ提出セリ

仍テ本件ニ關スル一切ノ書類及證據ヲ查閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

本件第八五五七號木柄屈曲裝置特許ハ其特許出願前ニ於テ公知公用ニ屬シタルモノナルヤ否ヤニ就キ之

ヲ審按スルニ第一請求人ハ被請求人カ明治三十八年三月十四日附テ以テ請求人森田和吉外五名ニ對シ書留郵便ヲ以テ發送セル甲第一號證乃至甲第五號證ノ通知書及同日附テ以テ大阪市北區森町秦藤助外一名ニ對シ發送セル甲第六號證甲第七號證端書ノ文意ニ依リ本件特許カ特許出願前既ニ公知公用ニ屬シタルモノナルコトヲ被請求人ニ於テ自認セルモノナルコトヲ認ムヘシト云フト雖モ前記各證ハ何レモ本件ノ特許ヲ受ケタル以後ニ於テ作成セラレタルモノニ屬スルカ故ニ之ニ依テ直ニ本件特許ノ特許出願前ニ於ケル公知公用ヲ證スルニ足ラス第二請求人ハ又甲第十號證乃至第十四號證ニ示スカ如キ裝置ハ木柄屈曲器トシテ請求人森田和吉外二名並ニ戸田岩藏外一名ノ從來使用セル所ニ係リ而シテ其各證ヲ見ルニ何レモ甚シク酸蝕破損シ磨滅剝裂セルノ跡瞭然タルモノニシテ決シテ短日月ノ間ニ斯ノ如ク廢壞古損スルコト能ハサルモノナルニ依リ之ニ依テ本件特許出願以前ヨリ之ト同一ナルモノ、存在ヲ認ムルニ足ルヘシト云フト雖モ此ノ如キ物件ハ何時ニテモ製作シ得ヘキモノニ係ルカ故ニ之又本件特許出願前ニ本件發明品ノ公知公用タリシ事實ヲ立證スルニ足ラサルモノトス第三請求人ハ本件特許發明ハ曩ニ明治三十六年九月三日大阪市北區金屋町戸田岩藏ヨリ特許出願ヲ爲シ特許局審査官ヨリ拒絕査定ヲ受ケタル伸柄屈曲機ト同一ナルモノニ屬スルカ故ニ此點ヨリスルモ本件特許出願前ニ本件特許ト同一ナルモノカ既ニ發明セラレ而シテ本件特許カ公知公用ニ屬シタルモノナルコトヲ知ルニ足ルヘシト云フト雖モ今該出願ノ要旨ト本件特許發明ノ要旨ト同一ナリトスルモ單ニ其出願ノ本件特許出願前ナルカ爲メニ本件特許發明カ先キノ發明ニアラスト認定スルヲ得サルノミナラス該出願カ右ノ如ク特許局ニ出願セラレ而シテ特許局審査官ヨリ拒絕査定ヲ受ケタリト云フノ事實ハ畢竟出願人及特許局間ノ關係タルニ過キササルモノニシテ之ニ依テ本件特許カ其出願以前ニ公知公用ニ屬シタルモノト云フヲ得サルナリ之ヲ要スルニ本件特許發明カ特許出願前公知公用ニ屬シタルモノナリトノ事實ハ之ヲ認定スルニ足ラサルモノナリトス其他當事

者ノ陳述ニ關シテハ審決ニ必要ナキヲ以テ説明ヲ與ヘス
右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
請求人申立相立タス

明治三十八年十二月二十六日於特許局

審判長 特許局技師 鈴木千代吉
特許局事務官 松田啓太郎
特許局事務官 別府丑太郎

第九百二十九號

大阪府泉南郡北中通村大字上瓦屋九十七番屋敷 請求人 松谷惣兵衛
大阪府泉南郡北中通村大字上瓦屋百十八番屋敷 請求人 松浪繁藏
大阪市東區高麗橋二丁目百二十六番屋敷特許代理業者 右代理人 岡田謙三郎
大阪府泉南郡北中通村大字上瓦屋五十六番屋敷 被請求人 松浪米藏
右松谷惣兵衛外一名ヨリ松浪米藏ニ對シ特許第五六三七號綜統ノ特許權利ヲ確認スル爲メ審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要旨ハ請求人カ特許ヲ受ケスシテ製造販賣スル綜統ハ被請求人ノ特許第五六三七號綜統ノ特許範圍ニ屬セストノ審決ヲ求ム其理由ハ被請求人ノ特許第五六三七號綜統ノ發明トスルトコロハ其明細書ニ依ルトキハ任意ニ俯仰スヘキ上下ノ框縁ニ中央ニ環狀ヲ形成セル綜統線ヲ數列斜形ニ設ケタル綜

純ト記載アリテ上下ノ框線カ任意ニ俯仰スルコトハ本特許ノ要旨ナルコト明ナリ然ルニ請求人カ明治三十年ヨリ製造販賣セル綜統ハ其上下框線ノ兩端ヲ左右兩側ノ框線ニ固着セル構造ニシテ決シテ任意俯仰スルモノニ非サルニ拘ハラヌ被請求人ハ之ヲ自己ノ特許範圍ニ屬スルトナシ請求人ノ販賣先ニ對シ強テ特許標記ノ烙印ヲナサシメテ標記料ヲ強請シ或ハ暴力ニ訴フル等ノ不法行為ヲナシテ請求人並ニ他ヲ苦メツ、アルヲ以テ營業上重大ナル利害關係アルカ故ニ止ムヲ得ス審判ヲ請求スルニ至レリト云フニアリテ其主張ヲ確ムル爲メ甲第一號證乃至甲第九號證ヲ提出セリ
被請求人ハ之ニ對シ何等ノ答辯ヲ爲サ、ルヲ以テ特許法第三十四條ニ依リ請求人ノ意見ヲ聽キ審判ヲ終結セリ

假テ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
本件特許第五六三七號綜統ハ其明細書並ニ圖面ニ依ルトキハ任意ニ俯仰スヘキ上下ノ框線ニ中央ニ環狀ヲ形成セル綜統線ヲ數列斜形ニ設ケタルモノニシテ其上下ノ框線ヲ任意俯仰スヘクナシタル發明ナリトス然ルニ請求人ノ製造販賣セル綜統ハ甲第一號證甲第二號證及甲第六號證ニ依ルトキハ其上下ノ框線ヲ兩側框線ニ固着シ從テ前記特許綜統ト效果ヲ異ニスルヲ以テ彼ト是トハ相異スルモノト爲サ、ルヲ得ス右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ

請求人ノ製造販賣スル甲第一號證甲第二號證及甲第六號證ノ綜統ハ特許第五六三七號ノ範圍ニ屬セス
明治二十八年十二月二十六日於特許局

審判長 特許局事務官 中 松 盛 雄
特許局技師 鈴木千代吉
特許局事務官 松田啓太郎

第九百二十六號

東京市本郷區根津八重垣町五十一番地水産製造業	請求人	櫻濱龜之助
東京市本郷區湯島三組町八十四番地水産製造業	請求人	宮谷仁作
東京市下谷區下車坂町六番地水産製造業	請求人	佐藤啓三
東京市本郷區根津染染町十二番地水産製造業	請求人	高橋峯藏
東京市神田區五軒町五番地特許代理業者	右代理人	日山豊次郎
東京市本郷區根津清水町七番地水産製造業	被請求人	田中富次郎
東京市京橋區木挽町十丁目八番地特許代理業者	右代理人	乙部俊次

右櫻濱龜之助外三名ヨリ田中富次郎ニ對シ第五〇四七號特許ヲ無効トスル爲メ審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂ル處

請求人申立ノ要領ハ被請求人所有ノ第五〇四七號特許ハ無効ナリト審決相成度其理由ハ第五〇四七號特許ハ其明細書ニ依リテ如何ナル部分ヲ發明トシ特許ヲ得タルモノナルヤヲ玩味スルニ日本紙原料ト蒟蒻粉トヲ資料トナシテ一ノ接合ナキ耐水囊ヲ製スル場合ノ一種ノ方法手段ニシテ即チ布又ハ紙ヲ以テ製シタル袋ニ鋸屑ヲ容レテ膨ラシ之ニ日本紙原料蒟蒻粉ノ混和液ヲ塗リ石灰ト明礬トノ溶液ニテ煮且乾カシテ耐テ模型ヲ作り次ニ此模型面ニ日本紙原料蒟蒻粉ノ混合物ヲ塗リ石灰ト明礬トノ溶液ニテ煮且乾カシテ耐水膜トナス順序手段ト此順序手段ニ依テ製シ得タル耐水囊トヲ發明トスルモノ、如シ然ルニ得ントスル形狀ノ袋ヲ造リ之ニ鋸屑ヲ填メテ模型トナスカ如キハ所謂完全ナル模型ヲ作ルノ費用ヲ吝ンテ間ニ合セニ作レル普通ノ手段タルニ外ナラスシテ毫モ發明思想ヲ要スヘキモノニアラス而シテ其袋面ニ日本紙原

料ト蒭蕪粉トノ混合物ヲ塗被シテ型面ヲ滑カナラシムルカ如キモ新規有益ノ手段ト認ムルヲ得ス次ニ此
 模型面即チ耐水膜面ニ更ニ日本紙原料蒭蕪粉ノ混合物ヲ塗被シ之ヲ石灰水ト明礬トニテ處理シテ耐水膜
 トナラシメ之ヲ取剝シテ耐水囊ヲ得ル如ク記載セルモ模型面ノ耐水膜ト耐水囊トナルヘキ耐水膜トハ共
 ニ同一資料ナルカ故ニ石灰水ニテ煮ルトキハ同一體ノ厚キ一枚ノ耐水膜ニ變シ模型ト耐水囊トヲ分離ス
 ルコト能ハサルモノニシテ特許請求區域中「模型ト之ヲ塗被シテ成レル製品トヲ剝離シテ成レル」云々ノ
 目的ヲ達セサルモノトス果シテ然ラハ該特許ハ普通ノ手段方法ト出來得ヘカラサル無効ノ方法トテ湊合
 シタル瞞着的發明ニシテ特許法第二十條ニ依リ無効タルヘキモノナリ又本件特許ノ如キ故意ニ明細書ヲ
 不完全ニシ固着シテ離ルヘカラサルモノヲ容易ニ剝離スルカ如ク記シタルハ不正行爲ヲ以テ特許ヲ得タ
 ルモノト云ハサルヲ得ス斯ノ如キ特許ヲ存續セシムルコトハ特許法ノ許サ、ル所ナリ被請求人ハ日本紙
 原料ト蒭蕪粉ト水トヲ混和シタルモノニテ製シタル耐水囊ヲ發明トシ特許ヲ得タルモノト主張シ請求人
 カ主トシテ主張シタル模型面ノ塗料ト耐水囊トナルヘキ塗料トノ關係ニ付キ一言ノ答辯ヲ爲サル、ハ事
 實上審判請求ノ理由ニ對向スル能ハサルコトヲ明白シタルモノト云ハサルヲ得スト云フニ在リ
 被請求人答辯ノ要領ハ請求人等ノ申立相立タスト審決相成度其理由ハ請求人等ハ本件特許ノ明細書ニ糊
 ヲ使用スルノ文字ナキヲ以テ不可能ノ方法ナレハ無効タルヘキモノナリト云フニ在ルモ本件特許ハ日本
 紙原料ノ如キ纖維ト蒭蕪粉ト水トヲ混和シタルモノニテ一ノ接合ナキ袋ヲ製シ其質強靱ニシテ且能ク耐
 水ノ效用ヲ全クセシムル所ノ耐水囊ヲ發明トシ又特許セラレタルモノニシテ請求人等ノ主張スル如キモ
 ノニ非ス元來本件特許ハ其出願當時ノ明細書ニハ乙第一號證ノ如ク糊ヲ使用スルコトヲ明記シアリシカ
 其後明細書ノ訂正ヲ命セラレタル際代理人カ不注意ニ脱落シタルモノナレハ今回本件特許ノ改訂ヲ請求
 シ置キタレハ不日査定セラルヘキモノト信ス又乙第二號證ノ如ク明細書ヲ改訂シ糊ヲ使用スルコトヲ明

記スルモ其要部ヲ變更スルモノニ非サルコトハ乙第三號ニ依ルモ明ニシテ請求人等ノ主張ハ毫モ理由ナ
 キモノトナレリト信スト云フニ在リテ答辯ノ理由ヲ確ムル爲メ乙第一號證乃至乙第三號證ヲ提出セリ
 依テ本件ニ關スル一切ノ書類及證據ヲ査閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

請求人カ本件特許第五〇四七號ハ特許法第二十條ニ該當シ無効ナリトスル理由ハ主トシテ該特許ニ於テ
 使用スル模型ノ面ヲ滑カナラシムルカ爲メ之ニ塗被スル日本紙原料ト蒭蕪粉トノ混合物ハ水囊トナルヘ
 キ耐水膜ノ資料ト全然同一ナルヲ以テ石灰水ニ煮ルトキハ兩者相固着シテ同一體ノ厚キ一枚ノ耐水膜ト
 ナリ模型ト水囊トヲ分離スルコト能ハサルニ拘ハラス容易ニ後者ヲ剝離シ得ルカ如ク記載シタルハ故意
 ニ其明細書ヲ不完全ニナシタルモノナリト云フニ在リ然ルニ請求人ハ該明細書ノ不完全ナルハ被請求人
 ノ故意ニ出テタルモノト認ムルニ足ルヘキ證據ヲ提舉セサルノミナラス本件發明ニ於テ模型面ノ耐水膜
 ト水囊トナルヘキ耐水膜トノ間ニハ糊ヲ施シテ間隔塗料トナスコトハ乙第一號證ニ依テ明カニ認メ得
 キ所ニシテ特許明細書中ニ此點ニ付キ記載ナキハ被請求人ノ故意ニ出テタルモノト認メ難シ故ニ本件特
 許ハ特許法第二十條第二號又ハ第三號ニ該當スルモノト云フヲ得ス其他請求人ハ布又ハ紙ヲ以テ得ント
 スル形狀ノ囊ヲ作り之ニ鋸屑ヲ填充シテ模型トナスカ如キハ普通ノ手段タルニ外ナラスト云フト雖モ此
 手段ノミヲ以テ本件特許ノ發明ヲ構成スルモノト云フヲ得サルノミナラス單ニ普通ノ手段ナリト稱スル
 ニ止マリ此種ノ模型ヲ使用スル舉證ナキヲ以テ請求人ノ主張ハ至當ナリト云フヘカラス
 右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
 請求人申立相立タス

明治二十八年十二月二十七日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 高山甚太郎

特許局技師 安藤格
特許局事務官 別府丑太郎

第七百七十九號

金澤市梅本町三番地士族
北米合衆國紐約市セントラル、パーク四百七十五番寄留
東京市京橋區宗十郎町一番地特許代理業者

請求人 高峰讓吉
右代理人 岸清一

右高峰讓吉ヨリ願書番號第一八八〇五號腎上腺ノ主成分ヨリ成ル腺内物製品ノ特許願ニ對シ特許局審査官ノ爲シタル拒絕再査定ニ服セス審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ願書番號第一八八〇五號特許願ニ對スル特許局審査官ノ拒絕再査定ハ不當ナリト審決セラレ度其理由ハ審査官ハ「アドリナリン」ハ其ノ效力ニ於テ從來既知ノ副腎越幾斯ニ一致スルカ故ニ發明者ハ唯之ヲ他ノ夾雜物ヨリ分離シタルニ止マリ新規ニ之ヲ製造シタルニ非スト謂フト雖副腎越幾斯「アドリナリン」トハ其ノ效力ニ於テ類似スルヲ免レサルモ他ニ異別ノ性質ヲ有スル點鈔カラス生理的作用ニ於テハ甲ハ二様ノ效力アルモ乙ハ唯其一ヲ有シ他ハ全ク缺如スルヲ見ル又化學的作用ニ於テモ甲ハ酸性反應ヲ呈スルモ乙ハ之ト反對ニ「アルカリ」性反應ヲ呈ス甲ハ不潔ノ着色異臭越幾斯狀物質ナルモ乙ハ白色結晶性ノ純粹物ナルノ差異アリ而シテ審査官ハ又「アドリナリン」ハ醫藥ナルカ故ニ特許ヲ與フヘカラスト抗辯スト雖「アドリナリン」ハ醫藥用ノ藥品ニ相違ナキモ同時ニ學術試驗上並ニ工業上ノ用途鈔カラサルヲ以テ特許ヲ與ヘラルヘキモノニシテ要スルニ審査官ノ再査定ハ不當ナリト謂フニ在リ
審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決セラレ度其ノ理由ハ本願製品ハ腎上腺内ニ存スルモノニ

シテ願人ハ之ヲ分離スルノ方法ハ發明シタルモ「アドリナリン」其ノ物ハ願人ノ發明ニ依リ創成セラレタルモノト謂ヘカラス既ニ腎上腺内ニ存シ其ノ性質亦世人ノ知ル所ノ物ナルヲ以テ之ヲ分離シ得タリトテ其ノ物ヲ發明シタルモノニアラス又請求人ハ從來公知ニ屬スル副腎越幾斯ト「アドリナリン」トヲ比較シテ生理的作用並ニ化學的反應ニ差異アルヲ以テ兩者同一物ニアラスト主張スルモ夾雜物ヲ含有スル副腎越幾斯ト純粹ノ状態ニ於ケル「アドリナリン」トカ總テノ性質ニ於テ一致スヘシトハ何人モ豫想セサル所ナリ唯副腎越幾斯ノ收斂性出血歇止性及還元劑ノ特性ヲ有スルハ其ノ中ニ一種ノ有效成分アリテ然ラシムルモノタルハ既知ニ屬スル所ニシテ其ノ有效成分ハ即チ「アドリナリン」ニ外ナラサルナリ請求人ノ得タル特許方法ニ依ルモ其ノ目的專ラ不純物ヲ除去シテ既知ノ有效成分ヲ結晶状態ニ於テ分離セシムルニ在リタルヲ以テ「アドリナリン」ハ請求人ノ發明シタル新物體ニアラス且ツ「アドリナリン」ハ其ノ用途醫藥ニ供スルニ在ルヲ以テ醫藥ニ外ナラス從テ特許法第二條第二號ニ依リ特許ヲ與フヘカラサルモノナリト謂フニ在リ依テ本件ニ關スル一切ノ書類ヲ查閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
審査官ハ「アドリナリン」ハ請求人ノ發明ニ依リ創成セラレタル物品ニアラスト謂フト雖請求人ノ發明セル工業的方法ニ依リテ新規ノ状態ニ於テ製出セラレタル特種ノ物品ナルヲ以テ之ヲ工業的物ニ關スル新規ノ發明ト認ムルヲ至當トス然レトモ「アドリナリン」ハ工業上ニ使用シ得ラレサルモノニアラスト雖未タ實際ニ之ヲ使用セサルノミナラス其價格ノ點ニ於テ到底工業上ノ使用ニ適スルモノニアラサルヲ以テ其ノ用途ハ醫藥ニ外ナラスシテ之ヲ醫藥ト認メサルヲ得ス從テ本案物品ハ特許法第二條第二號ニ該當シ特許ヲ與フヘカラサルモノトス
右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
請求人申立相立タス

明治三十八年十二月二十八日於特許局

七十四

審判長

特許局技師工學博士

田原良純

特許局事務官

中松盛雄

特許局事務官

別府丑太郎

第九百十二號

東京府荏原郡大井村五百七十一番地

請求人

大場錦太郎

東京市京橋區木挽町九丁目十八番地特許代理業者

右代理人

丸岡東治

東京市麴町區上六番町十五番地紙おしろい製造業

被請求人

片庭虎吉

東京市京橋區木挽町四丁目三番地特許代理業者

右代理人

石原卯八

右大場錦太郎ヨリ片庭虎吉ニ對シ紙おしろい製造法特許權利ヲ確認スル爲メ審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ特許第八四一八號紙おしろい製造法ハ請求人ノ製造法ト撞着セサルモノナリト審決セラレ度其理由ハ請求人ノ紙おしろい製造法ハ「ライスパウダー」五匁「ホウサン」二匁「グリソリン」三匁香料(適量)清水(適量)ヲ適宜ニ混和シテ得タル液ヲ平板ノ上ニ於テ唐紙ニ塗布シ乾燥シテ製造スルニアリテ鹽化「バリユーム」ヲ用ヒス原料液ヲ唐紙ニ塗布スルニ就キ濕潤セル布帛ヲ用ヒサルモノナリ元來甲第一號證タル英國ロンドン市ソマセット街二十三番地ベヒヤハウドレー會社ニ於テ製造スル紙おしろいハ數年前ヨリ橫濱市堺町二丁目二十五番地(近江屋事)飯島榮太郎方ニテ日本一手販賣ヲ爲シタルモノ

ニシテ該品ヲ一見スルトキハ多少化粧品等ニ關スル智識アルモノハ如何ニシテ之ヲ製造スルカニ付キ直チニ思考シ得ル所ノモノナリ請求人ハ明治三十七年十一月申該品ヲ購買シ其製造法ノ如何ニ就キ直チニ考察スル所アリ同年十二月中ヨリ之レカ製造ニ着手シ明治三十八年二月ニ至リ前記甲第三號證ノ如キ多數ノ紙おしろいヲ製造シタリ然ルニ被請求人ハ同年一月十九日紙おしろいノ製造方法ニ就キ特許ヲ出願シ同年二月十五日特許ヲ得甲第二號證ノ如キモノヲ製造シテ販賣セリ其方法ハ特許明細書ニ示スカ如ク鹽化「バリユーム」ヲ硫酸ニテ處理シテ生シタル白色ノ沈澱物ヲ能ク水洗シ之ニ約一割ノ細末炭酸「マグネシヤ」ヲ加ヘ更ニ少量ノ「グリソリン」「アラビヤゴム」「アルコール」及ヒ香料ヲ加ヘ適量ノ清水ヲ混シタル液ヲ製シ濕潤セル布帛上ニ平置セル唐紙上ニ前記ノ液ヲ攪拌シツ、刷毛ニテ塗布シタル後乾燥シテ紙おしろいヲ製造スル方法ナリ今甲第一號證ト甲第二號證トヲ對照シ來ラハ其表紙表裏ニ顯ハシタル圖樣及商標其他文字ニ至ル迄相酷似シ被請求人モ亦甲第一號證ニ據ツテ之ヲ考察シタルモノナルコトヲ知リ得ヘク而シテ請求人ノ製造シタル甲第三號證モ亦其表紙表面ノ圖樣ヲ甲第一號證ノソレト類似セシメタルハ甲第二號證ト同様ニシテ右甲第二號證ト甲第三號證トヲ對比スルトキハ其製造方法ニ於テ相同シカラシカ又甲第二號證ノ製造方法ニシテ特許ヲ得タルモノナルトキハ甲第三號證ノ製造方法ト撞着スルモノニアラサルカノ疑ヲ生センカノ憂アルヲ以テ茲ニ本件審判ヲ請求スル所以ナリト云フニ在リ而シテ其申立ヲ確ムル爲メ甲第一號證乃至甲第三號證ヲ提出セリ

被請求人答辯ノ要領ハ本件請求ハ之ヲ却下スト審決セラレ度其理由ハ請求人ハ自己ノ紙おしろい製造法ヲ以テ被請求人所有ノ特許第八四一八號ノ特許權利ノ範圍ニ屬セスト主張シ特許法第二十九條ニ依リ審判ヲ請求セルモ特許法第二十九條ノ規定ニ依レハ二個以上ノ特許發明互ニ撞着シ又ハ特許發明ト特許ヲ受ケサル物品若クハ方法ト撞着スルコトヲ發見シタルトキハ利害關係人ハ權利ヲ確認スル爲メ特許局ニ

七十五

審判ヲ請求スルコトヲ得ト云フニアリテ該審判ヲ提起スルニハ第一發明ノ撞著ヲ發見スルコト第二利害關係人タルコトヲ要スルヤ論ヲ待タス而シテ請求人自身ノ主張カ撞著セスト云フニアレハ第一要素ヲ缺クヤ明白ナリ又特許證主タル被請求人カ請求人ニ向テ特許權利ノ侵害ヲ主張シ又ハ特許權利ノ侵害ヲ主張セントスル意思ヲ表示シタルコトナキヲ以テ第二ノ要素ヲ缺クモノナルカ故ニ請求人ハ特許法第二十九條ニ依リ權利確認ノ審判ヲ請求シ得サルヤ論ヲ待タサルモノナリト云フニ在リ仍テ本件ニ關スル一切ノ書類及證據ヲ査閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

被請求人ハ特許法第二十九條ニ依リ審判ヲ請求スルニハ第一發明ノ撞著ヲ發見スルコト第二利害關係人タルコトヲ要シ而シテ其利害關係人タルモノハ特許證主ヨリ特許權利ノ侵害ヲ主張セラレ又ハ特許權利ノ侵害ヲ主張セントスル意思ヲ表示セラレタルモノナルヲ要スト云フト雖モ特許法第二十九條ノ規定ハ積極的權利確認ノミナラス消極的權利確認ヲモ請求シ得ヘク而シテ特許發明ト特許ヲ受ケサル物品若クハ方法ト撞著スルノ虞アルヲ發見シタル場合ニ於テモ審判ヲ請求シ得ヘシ又利害關係人トハ必スシモ特許證主ヨリ特許權利ノ侵害ヲ主張セラレ又ハ之ヲ主張セントスル意思ヲ表示セラレタルモノ、ミヲ指示スルモノニアラスシテ同一營業者ニシテ其物品若クハ製造方法ニ關シ特許證主ヨリ權利侵害ノ主張ヲ受ケル虞アルモノモ亦法文ノ所謂利害關係人ナリト解釋スルヲ至當トス依テ本件ニ就キ之ヲ審按スルニ請求人ハ甲第三號證ノ如キ紙おしろハ製造シタルモノニシテ他ノ紙おしろハ製造法ニ關シ特許ヲ受ケタル被請求人ヨリ權利侵害ノ主張ヲ受ケル虞アルモノナリ又其製造方法タル「ライスパウダー」五匁「ホウサン」二匁「グリスリン」三匁香料清水ヲ混和シテ得タル液ヲ平面板ノ上ニ於テ唐紙ニ塗布シ乾燥シテ製造スル方法ヲ被請求人特許第八四一八號紙おしろハ製造法即チ其特許明細書請求範圍ニ記載セル鹽化「バリユウム」ヲ硫酸ニテ處理シテ生シタル白色ノ沈澱物ヲ能ク水洗シ之ニ約一割ノ細末炭酸「マグネシ

ヤ」ヲ加ヘ更ニ少量ノ「グリスリン」「アラビヤゴム」「アルコール」及香料ヲ加ヘ適量ノ清水ヲ混シタル液ヲ製シ濕潤セル布帛上ニ平置セル唐紙上ニ之ヲ攪拌シツ、刷毛ニテ塗布シタル後乾燥シテ製造スル方法ニ比較スルニ右ハ資料ノ大部ニ於テ相異ナルノミナラス其原料液ヲ唐紙ニ塗布スルニ就キ濕潤セル布帛ヲ用フルト否トノ點ニ於テ相異ナルモノトス

右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ

請求人ノ「ライス、パウダー」五匁「ホーサン」三匁「グリスリン」三匁香料(適量)清水(適量)ヲ適宜ニ混和シテ得タル液ヲ平面板ノ上ニ於テ唐紙ニ塗布シ乾燥シテ製造スル紙おしろハ製造法ハ第八四一八號紙おしろハ製造法特許ノ範圍ニ屬セサルモノトス

明治二十八年十二月二十八日於特許局

審判長 特許局事務官 中 松 盛 雄
 特許局事務官 松 田 啓 太郎
 特許局技師 安 藤 格

第九百四十五號

横濱市青木町三千五百八十二番地
 東京市京橋區木挽町九丁目三十一番地特許代理業者
 東京市京橋區木挽町九丁目三十一番地特許代理業者
 横濱市宮津町三千五百八十九番地

請求人 西 川 莊 三
 右代理人 早 川 鐵 冶
 右代理人 南 部 皆 治
 被請求人 高 村 善 吉

東京市京橋區西紺屋町三番地特許代理業者
東京市京橋區西紺屋町三番地特許代理業者
東京市京橋區山城町十四番地特許代理業者
右西川莊三ヨリ高村善吉ニ對シ第八八〇四號特許ヲ無効トスル爲審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處
右代理人 岡崎 正也
右代理人 高尾 傳七
右代理人 太田 資時

七十八
請求人申立ノ要領ハ特許番號第八八〇四號特許ハ無効ナリトノ審決ヲ求ム其理由ハ本件特許後ハ其明細書ヲ見ルニ如何ナル點ニ於テ發明ノ價值アルヤ殆ント了解ニ苦ム何トナレハ被請求人カ此特許ヲ得シカ爲ニ從來普通ニ行ハレタリト斷定シタル後ノ如キ粗笨單純ナルモノハ波浪ナキ河川等ニ用フルモノニシテ之ヲ少クモ内海ノ如キ稍波濤アル所ニハ用フ可カラサルコトハ木材ノ回漕販賣等ニ從事スルモノ一般ニ熟知スル所ニシテ却テ本特許ノ後ヨリ從來普通木材業者ニ於テ用ヒ來リタルモノナルコト亦一若ハ鐵ト云フカ如キ點ナル可シト雖モ此ノ十字形網ノ如キハ後トシテハ從來行ハレストスルモ橫濱等ニ於テ從來箱形ヲ爲シタル船ニ之ヲ使用シ居タルモノナリ又支材ノ如キハ從來行ハレタル公知公用ノ方法ヲ用ヒタルノ外何等ノ新規ノ點ナキヲ以テ發明タルノ價值ナキモノナリ又橫濱地方裁判所ニ繫屬中ノ刑事被告人安藤由松特許侵害被告事件ノ刑事訴訟記録ニ依レハ被請求人ノ申立テタル告訴狀ニ「前略、告訴人カ特許出願前後ニ於テ前記ノ如ク組立テタル筏ヲ曳船ニ曳カシメ橫濱ヨリ東京ニ至ルヲ親睹シ云々」トアリ之ハ特許以前ニモ此組方ニ因ルコトヲ被請求人ハ認メ居ルコト即チ被請求人ハ特許出願前ニ於テ世ニ公ニシタルモノナルコトヲ言顯ハスモノナリ故ニ本件特許ハ特許法第二條第四號ニ違背シタル無効ノモノナリ

七十九
リト云フニアリテ主張ヲ確ムル爲甲第一號證及甲第二號證ヲ提出シテ人證ノ申請ヲ爲シ且ツ橫濱地方裁判所ニ繫屬中ノ安藤由松特許侵害事件ノ刑事訴訟記録ヲ援用セリ
被請求人答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決アランコトヲ求ム其理由ハ此後ノ發明者タル被請求人ハ先代以來筏運搬ニ從事シタルモノニシテ從來ノ筏組立方法ハ風浪ノ際筏ノ解亂脫離スルノ危險アリ爲ニ筏其物ヲ流出スルノミナラス時ニ或ハ筏ノ顛覆等ヨリ人夫ニ危險ヲ生シタル實例尠カラズ依テ被請求人ハ多年苦心研究ノ結果本件ノ筏組立法ヲ案出シ之ヲ實地ニ試ミタルニ成績頗ル良好ナルヲ以テ茲ニ本件特許ヲ出願スルニ至リタルモノナリ請求人ハ本件特許ノ方法ハ從來ヨリ一般ニ行ハレタル如ク主張スト雖モ本件特許ハ其明細書ニ記載スル如ク各種ノ方法ノ組合ニ成ル筏ニシテ此ノ如キ筏ハ從來行ハレタルコトナク從來ノ筏ト本件特許筏トハ木材ヲ繩ヲ以テ縛ルコトハ同様ナルノ外悉ク相異スルハ却テ證人ノ證言ニ依テ證明セラレタリ又御取寄ノ記録ニ依レハ安藤由松カ被請求人ヨリ告訴セラレ自己ノ惡シカリシコトヲ自認シ示談ヲ爲シ其後又告訴セラレテ公判ニ移サレタル際裁判長ノ問「七月二十二日ニ其方カ仕組タル筏ハ示談シテ其詫ヒタ方法ト同シ方法テハナキカ」答「其通ニ違ヒマセンカ二百五十八本ノ五枚ハ通例ノ組立ニテ前ノ仕組トハ違ヒマス」又問「高村カ特許ヲ受ケテ居ルノニ其方カ夫レヲ仕組ンテ告訴ヲ受ケ示談シテ置キナカラ又同シ仕組ニスルノハド一云フ譯カ」答「恐レ入リマス」トアリテ之ニ依ルモ通例ノ筏組方ト本件特許ノ組方ト相異スルコト明カナリ又請求人ハ取寄記録中被請求人ノ告訴狀ニ「告訴人カ特許出願前後ニ於テ前記ノ如ク組立テタル筏ヲ曳船ニ曳カシメ橫濱ヨリ東京ニ至ルヲ親睹シ云々」トアルヲ捉ヘテ被請求人ハ其特許出願以前ニ於テ之ヲ世ニ公ニシタルモノナリト云フモ之レ試驗ノ爲橫濱ヨリ東京ニ至リタルコトヲ云フニアリテ決シテ世ニ公ニシタルモノニアラス又請求人ハ本件特許ハ假ニ公知ニ非ストスルモ何等新規ノ點ナク特許ヲ得ルノ價值ナキモノナリト云フト雖モ本筏ハ相當

ノ學識ヲ具フル人カ精査ヲ爲シテ特許セラレタルモノナルヲ以テ今之ヲ問フノ必要ナシト云フニアリテ其主張ヲ確ムル爲乙第一號證及ヒ乙第二號證ヲ提出シ横濱地方裁判所ニ繫屬中ノ安藤由松特許侵害事件ノ刑事訴訟記録ノ取寄ヲ申請シ且ツ之ヲ援用セリ
仍テ本件ニ關スル一切ノ書類及證據ヲ査閲シ證據調ヲ爲シ且ツ當事者双方ノ辯論ヲ聽キ審決ノ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ

本件特許第八八〇四號筏ハ其明細書ニ依ルトキハ並列シタル木材ノ兩側ニ支柱(ニ)ヲ設ケ荷張網(ル)ヲ以テ緊締シテ筏ニ組立テ筏ノ上面中央ニ一條ノ中波シ網(イ)ヲ備ヘ一端ハ曳綱(カ)ニ他端ハ荷張網(ル)ニ結合シ筏ノ兩側支材ノ上方凹ミタル箇所ニ各一條ノ投渡網(ハ)ヲ備ヘ一端ハ筏ノ前方裏面ヲ經テ曳綱(カ)ニ合シ他端ハ筏ノ中腹ノ側面ニ於テ次ノ投渡網(ハ)ト結合ハシ投渡網(ハ)ノ後方端ハ荷張網(ル)ニ連結ス又筏ノ前方上面ニハ二條ノ股綱(ウ)ヲ備ヘ一端ハ曳綱(カ)ニ一端ハ投渡網(ハ)ニ連結セシメ第一筏ノ後方ヨリ二條曲行補助網(ロ)ヲ出タシ之ヲ交叉シテ第二ノ筏ニ連結シテ轉航ヲ容易ナラシメ木材ノ第一列及ヒ後列ニハ數個ノ鐵環(ハ)ヲ附シ該鐵環(ハ)ト荷張網(ル)トヲ連結網(ヘ)ヲ以テ纏結セシメ筏ノ兩側上角下ニ各一條ノ投渡補助網(ニ)ヲ設ケ一端ハ筏ノ前方ヨリ後方ニ達スル間ニ於テ荷張網(ル)ト合スル所ハ一々小綱(レ)ヲ以テ兩者ヲ連結セシムヘクナシタル構造ヨリ成ル筏ニシテ其發明ハ該筏ヲ構成スル各部分ニ非スシテ組立テタル全部ノ組合ニアルモノナリトス請求人ハ之ニ對シ此ノ如キ筏ハ從來一般ニ行ハレタルモノナリト主張スト雖モ請求人提出ノ證據ニ依ルモ亦證人ノ證書ニ依ルモ本件特許筏ニ使用セル投渡網、支材、鐵等二三ノ部分カ普通ニ行ハレタルノ事實ヲ證スルモノニシテ全部ヲ特許筏ノ如ク組立テタルモノ、公知公用ヲ認ムヘキ何等ノ證據ナシ又請求人ハ横濱地方裁判所ニ繫屬中ノ特許筏ノ

侵害事件ノ刑事訴訟記録ヲ援用シ被請求人ノ申立テタル告訴狀ニ「告訴人カ特許出願前後ニ於テ前記ノ如ク組立テタル筏ヲ曳船ニ曳カシメ横濱ヨリ東京ニ至ルヲ親睹云々」トアルヲ以テ被請求人カ自ラ其特許出願以前ニ以テ之ヲ世ニ公ニシタルモノナリト主張スルモ出願前後ナル語ハ普通ノ解釋上單ニ出願日ニ接近シタル時日ヲ意義スルノミニシテ出願ノ以前ナルヤ以後ナルヤ明カナラサルヲ以テ請求人ノ申立テヲ認ムルヲ得ス又請求人ハ本件特許ハ普通公知ノ方法ヲ集メタルノ外新規ノ點ナキヲ以テ發明ノ價値ナシト論スルモ凡ソ特許發明ハ必スシモ其部分ニ於テ新規ナルヲ要セス各部ハ普通公知ナリトスルモ全部組合上新規ノ效果ヲ奏スルニ於テハ之ヲ發明トナスヲ妨ケス
右ノ理由ニ依テ審決スルコト左ノ如シ
請求人申立相立タス

明治三十八年十二月二十八日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 阪田 貞一
特許局事務官 中松 盛雄
特許局技師 鈴木 千代吉

第九百四十六號

岡山縣都窪郡萬壽村大字濱六百五十五番地 請求人 橋本 鐵藏
岡山縣都窪郡妹尾町大字箕島二千九百三十一番地 被請求人 眞野 万之助
岡山縣都窪郡妹尾町大字妹尾三千九百二十七番地 被請求人 佐藤 辨次郎

右橋本鐵藏ヨリ眞野万之助外一名ニ對シ牴觸第一七三號割篾發明完成前後査定ニ服セス審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要旨ハ特許願第二三八六七號輕便切込篾ノ發明完成ハ特許第五二二三二號莖機用割篾ノ發明完成以後ナリト審決アラントヲ求ム其理由ハ請求人ハ特許第五二二三二號割篾ノ發明ヲ爲スニ當リ最初考案ニ著手シタルハ明治三十二年三月ニシテ以來六箇月間種々考慮シタル結果割篾トナスコトヲ發明シ同年九月二日之ヲ製作シテ實地ニ試用シタリ然ルニ中央ヲ割リタルモノハ經絲ヲ嚙ムノ不便アルヲ以テ同月十三日篾ノ七三ノ部分ヲ割リ鐵板ヲ張リ之ヲ試用シタルニ其結果良好ナリシモ鐵板ノ構成ニ尙ホ不備ノ點アルヲ以テ此レカ改良ヲ企圖シ數月日ヲ費ヤシ漸ク目的ヲ達シタルヲ以テ明治三十四年七月十五日特許ヲ出願シタルノ事實ナリ而シテ被請求人ノ出願第二三八六七號ハ其申立ニ依ルトキハ明治三十三年九月十八日始メテ普通ノ篾ヲ中央ヨリ割リタルモノ即一部ノ完成ヲ告ケ明治三十五年五月ニ至リ輕便切込篾ノ全部完成シタルコト明瞭ナリ之ヲ要スルニ請求人ノ一部完成ハ明治三十二年九月十三日全部ノ完成ハ明治三十四年七月十五日ニシテ被請求人ノ一部完成ハ明治三十三年九月十八日全部ノ完成ハ明治三十五年五月ナルコト明確ナリ然レハ發明完成ノ査定ヲ爲スニ双方ノ一部完全ノ期日ヲ對照スルカ或ハ双方ノ全部完成ノ期日ヲ對照スヘキモノナルニ請求人ノ全部完成ノ期日ト被請求人ノ一部完成ノ期日トヲ比較シテ査定ヲ下シタルハ請求人ノ服從スル能ハサルトコロナリ今本發明ノ完成期ヲ比較スルトキハ篾ヲ中央ヨリ割ルコトヲ發明シタル一部ノ完成モ亦實施ニ適スヘキ全部ノ發明完成モ共ニ請求人ヲ以テ最先ナリトスト云フニアリテ其立證方法トシテ牴觸第一七三號ニ關係アル一切ノ書類ヲ援用セリ被請求人答辯ノ要旨ハ請求人申立相立タストノ審決ヲ求ム其理由ハ請求人ハ發明ノ全部完成年月日ト被請求人ノ發明ノ一部完成年月日トヲ對照シテ爲シタル査定ニ服セス被請求人ノ一部完成カ明治

三十三年九月十八日ナレハ請求人ノ一部完成ハ明治三十二年九月十三日ナリト言フト雖被請求人ノ一部完成ト云フハ曩キニ特許ヲ得ントナシタル輕便切込篾ニ對スル語ニシテ決シテ一小部分ヲ指シタルモノニ非ス請求人ノ所謂全部完成ノ篾ハ被請求人ノ一部完成ノ篾ト發明ノ同一ナルモノナリ而シテ請求人ハ明治三十二年九月十三日ヨリ數箇月ヲ經テ漸ク目的ヲ達シ即チ發明ノ完成シタルカ如ク陳述セリト雖請求人牴觸第一七三號始末書第二項中明治三十二年九月ヨリ同三十四年七月ニ至ル迄色々割篾ヲ造リ試驗ヲナセシトアルニ見レハ決シテ請求人申立ノ如ク明治三十二年九月十三日ヨリ數箇月後ニ完成セシモノニ非サルヤ明瞭ナリ尙同項中再三再四試驗ヲシテ發明シタルニ付直ニ明治三十四年七月十五日ヲ以テ特許出願シタル旨ヲ述ヘ文中直ニノ文字ヲ挿入セルニ見レハ明治三十二年九月ヨリ同三十四年七月迄種々ニ考案ヲ繞ラシ其結果發明完成スルヤ直ニ特許ヲ出願シタルモノナルニ依リ其發明ノ完成ハ明治三十四年七月ナルハ之レ亦請求人ノ自白スル所ナリ故ニ本件發明完成前後査定ハ其當ヲ得タルモノナリトスト云フニアリテ申立ノ事實ヲ證明スル爲メ牴觸第一七三號本件ニ關スル一切ノ書類及證據品ヲ援用セリ仍テ本件ニ關スル一切ノ書類及牴觸第一七三號ノ發明完成前後査定ニ關スル書類ヲ査閲シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

本件特許第五二二三二號莖機用割篾及特許願第二三八六七號輕便切込篾ノ發明タル點ハ普通ノ莖機用篾ヲ縱ニ二ツニ割リ其一半ニ縱絲ヲ仕掛ケタル後他ノ一半ヲ着合スヘクナシタル點ニ存在スルモノニシテ其割リタル部分カ篾ノ中央ナルト否ラサルトノ如キハ之レ單ニ設計ニ屬スルモノナルヲ以テ該兩發明完成期ノ前後ヲ定ムルニハ其割リタル部ノ何レナルヲ問ハス割篾ト爲スノ考按成就シタル時期ヲ以テセサル可カラス依テ先ツ請求人ノ特許第五二二三二號莖機用割篾ノ發明完成期ニ付キ審按スルニ請求人ハ始メテ割篾ヲ製作シタルハ明治三十二年九月十三日ニシテ之レニ裝附スヘキ鐵板等ノ不備ヲ補ヒ全部完成シタ

ルハ明治三十四年七月十五日ナリト主張セリ然ルニ本件特許割箒ノ完成ハ明治三十四年七月ナルコトハ其特許出願願書ノ日附ニ徴シ明瞭ナリト雖割箒ヲ始メテ製作シタルハ明治三十二年九月ナルノ事實ニ至リテハ之ヲ確ムヘキ何等有力ノ證據ナキヲ以テ之ヲ認定スルニ由ナシ又被請求人カ普通ノ箒ヲ中央ヨリ割リタル箒種ヲ明治三十三年九月ニ完成シタルコトハ被請求人ノ主張ニ係リ請求人ニ於テモ亦之ヲ認メタルハ明治三十七年十月十九日附ヲ以テ請求人ヨリ提出シタル發明始末ニ關スル辯駁書第三項ニ(前略)之レカ關係人ニシテ答辯書中ニ延ヘタル通り初メテ本器ヲ取附ケ使用セシメタル時日ナレハ愈明治三十三年九月十八日ニ箒種完成シタル者ト自分ハ認ムト記載シタルニ觀テ明カナリ要スルニ請求人ノ發明完成期ヲ明治三十四年七月トシ被請求人ノ發明完成期ヲ明治三十三年九月ナリトスルヲ至當トス右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ

特許第五三三二號庭機用割箒ノ發明完成ハ特許願第二三三八六七號輕便切込箒ノ完成以後ナリトス
明治三十八年十二月二十八日於特許局

審判長 特許局長 織田一
特許局技師 鈴木千代吉
特許局事務官 宮内國太郎

第九百三十七號

静岡縣小笠郡川野村大字川上八十五番地製茶器械製造販賣業
東京市京橋區木挽町九丁目十八番地特許代理業者

請求人 加茂才吉
右代理人 松田源治

静岡縣周智郡飯田村陸實八十二番地製茶器械製造販賣業

被請求人 鈴木造酒藏

右加茂才吉ヨリ鈴木造酒藏ニ對シ第七七四〇號製茶機ノ特許ヲ無効トスル爲メ審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要旨ハ特許第七七四〇號製茶機ノ特許ハ無効ナリトノ審決ヲ求ム其理由ハ被請求人ノ有スル特許第七七四〇號製茶機ハ明治三十七年四月二日附ヲ以テ特許ヲ出願シ明治三十七年九月十三日附ヲ以テ特許ヲ得タルモノニシテ其附屬明細書ヲ閱スルニ「本發明ハ普通ノ製茶釜ノ内側及普通ノ製茶機ニ於ケル採捻手ニ珙瑯質ヲ焼付ケタルモノニシテ其體面滑カナレハ茶葉ノ附着スルコトナク從テ珙瑯質ヲ生スル患ナク而カモ完全ニ採捻シ得ルト茶葉ヲ損傷スルコトナク從テ茶葉其物ノ天然ヲ害スルコトナキト釜及採捻手ノ鐵質ヲ茶葉ニ附着セシメ茶葉ヲ化學的惡變化セシムル患ナキトノ便益アリ依テ特許法ニヨリ本發明ニ於テ特許ヲ請求スル範圍ヲ左ニ掲ク一、前文所記ノ目的ヲ達スル爲メ本文ニ詳記スル如ク釜ノ内側及採捻手ニ珙瑯質ヲ焼付ケタルモノヨリ成ル製茶機」トアリ然ラハ本特許ノ成立要素ハ其請求範圍ニ明記セル如ク第一釜ノ内側(本文ニ詳記スル如ク普通ノモノ)第二採捻手(本文ニ詳記スル如ク普通ノモノ)第三珙瑯質ノ焼付(世間普通ニ行ハルモノ)以上三個ハ普通手段ヲ湊合シタルモノニシテ毫モ新考案ヲ施シタル點ナク且之ニ伴フ特殊ノ效果ナキモノナリ又被請求人ハ其答辯書中ニ「此發明ノ目的ハ各種ノ器械ニ使用販賣スル目的ヲ以テ普通製茶機ニ使用販賣ノ特許ヲ受ケタルモノニシテ云々」ト記セリ然ラハ本特許ハ獨立ナル製茶機トシテ一モ用ヲナスモノニ非ス必ス他ノ製茶機ニ附隨シテ而シテ後チ始メテ製茶機タルノ效果ヲ收メ得ヘキモノナルヘシ此ノ如ク獨立シテ製茶ニ使用シ得ヘカラサルモノハ製茶機ト云フヘキ資格ナク從テ製茶機トシテ特許ヲ受クヘキ性質ノモノニアラス憶フニ被請求人ハ鐵板ニ珙瑯質ヲ焼キ付ケタルヲ唯一ノ特許主張ノ根據トナスカ如シト雖モ普通ノ珙瑯燒付法ヲ製茶機ノ釜

若クハ揉捻手ニ應用スルカ如キハ單ニ釜若クハ揉捻手其物ノ材料變換ニ屬シ敢テ發明ヲ構成スヘキモノニアラス故ニ右ハ特許法第二十條第一項ニ相當シ無効ナリト云フニ在リ

被請求人答辯ノ要旨ハ請求人申立相立タスト審決ヲ求ム其理由ハ從來我國々産タル製茶業ニ使用スル製茶機械ハ種々アリト雖モ其機械ノ内部ハ木造又ハ竹造ノモノニシテ表面滑カナラサルカ故ニ茶葉ヲ損傷スルコト尠カラズ依テ被請求人ハ之ヲ防ク爲メ釜ノ内側大ノ鐵板ニ珫瑯質ヲ焼付ケタルモノヲ發明シ明治三十七年四月二日特許ヲ出願シ同年九月十三日附ヲ以テ特許ヲ得タルモノニシテ其珫瑯質ヲ焼付ケタル鐵板ヲ釜ノ内側ニ取付ケタル製茶機械ヲ廣ク使用販賣スルニ其效果甚大ニシテ決シテ請求人ノ言フ如キ特殊ノ效果ナキモノニ非ス此發明ノ目的ハ各種ノ機械ニ使用スルノ目的ヲ以テ普通ノ製茶機ニ使用販賣ノ特許ヲ受ケタルモノニシテ特許法第一條ニ該當スル物品ナリ又請求人ハ本特許機械ハ獨立シテ製茶機ノ用ヲ爲サ、ルモノ、如ク主張スルモ決シテ然ラス本機械ハ獨立シテ製茶機ノ用ヲ爲スモノナルコト特許局ニ提出シアル離形ニ徴スルモ明カナルノミナラス其效果ノ大ナルコト亦本機使用者ノ知悉スルトコロナリ要スルニ本件特許製茶機ハ特許局審査官カ精査ノ上特許ノ査定ヲ下シ局長カ之ニ特許ヲ與ヘタルモノナレハ請求人カ如何ナル申立ヲナスモ本特許ハ無効トナルヘキモノニアラスト云フニ在リ

仍テ本件ニ關スル一切ノ書類ヲ査閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

請求人ハ本件特許製茶機ノ特許ハ無効ナリトスル理由ハ同製茶機ニ於ケル釜及揉捻手ノ構造ニ新規ノ點ナク之ニ珫瑯質ヲ焼キ付ケルノ手段亦普通ニ行ハル、モノト異ナラサルヲ以テ何等新規發明ノ點ナシト云フニアルモ本件特許ハ其明細書ニ依ルトキハ釜ノ内側及揉捻手ニ珫瑯質ヲ焼付ケタルモノヨリ成ル製茶機ニシテ其發明ノ要點ハ鐵製ノ釜及揉捻手ニ珫瑯質ヲ施シ茶葉ニ有害ナル鐵質ニ觸接セシメサルコトニアルヲ以テ珫瑯質ヲ焼付ケタル釜及揉捻手カ製茶機ニ新規ニシテ有效ナルニ於テハ之ニ對シ特許

ヲ與フルヲ妨ケス又請求人ハ本發明ハ單ニ製茶機ノ一部タル釜及揉捻手ニ珫瑯質ヲ焼付ケルモノニ係リ斯ノ如キハ獨立シテ製茶機ノ用ヲナスモノニアラサルヲ以テ製茶機トシテ特許ヲ受クヘキ資格ナシト云フモ凡ソ機械ノ一部ニ於テ新規發明ヲ有スルモノハ尙其機械ノ發明トシテ特許ヲ受クルヲ妨ケス要スルニ本件特許第七七四〇號ハ之ヲ無効トナスヘキ理由ナキモノトス

右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ

請求人申立相立タス

明治三十九年一月十九日於特許局

審判長 特許局事務官 中 松 盛 雄
 特許局技師 鈴木千代吉
 特許局事務官 宮内國太郎

第九百十八號

大阪市南區木津大國町三丁目千四百十一番屋敷	請求人	中 川 眞 平
大阪市西區梅本町番外六十三番地	請求人	鐘 搗 仁 三 郎
大阪市東區谷町五丁目百二十五番屋敷	請求人	高 田 音 八
大阪市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許代理業者	右代理人	淺 村 三 郎
大阪市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許代理業者	右代理人	佐 々 木 高 吉
大阪府南河内郡柏原村大字柏原九十三番地	被請求人	正 垣 卯 之 吉

大阪市東區南農人町二丁目七番地
 被請求人 繩田久太郎
 大阪市東區東平野町十丁目七十二番地
 被請求人 西原又左衛門
 大阪市南區下寺町三丁目四千七百三十二番地
 被請求人 石川茂吉
 東京市京橋區采女町二十一番地特許代理業者
 右代理人 石原卯八
 右中川眞平外二名ヨリ正垣卯之吉外三名ニ對シ第八五三〇號貝卸漂白法特許ヲ無効トスル爲メ審判
 ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處
 請求人申立ノ要領ハ第八五三〇號貝卸漂白法ノ特許ハ其特許出願前ヨリ公知公用ニ屬スル方法ナル
 ヲ以テ特許法第一條ニ違反シ同法第二條第四號ニ該當スルモノニ付無効ナリト審決相成度其理由ハ本件
 第八五三〇號特許ハ甲第一號證明細書ニ依ルトキハ薄茶色ノ貝卸ヲ清水ニ浸シ亞硫酸瓦斯ニテ薰蒸シテ
 漂白粉ニテ處理シ醋酸ニ浸シテ漂白シ金屬製刷毛ヲ以テ攪拌磨擦シツ、
 「イボタ」油ヲ滴下シ美麗ナル艶
 ヲ出サシムル方法ニアリトス然ルニ亞硫酸瓦斯及漂白粉ニテ綿毛絲ヲ始メ其他各種ノモノヲ漂白スルコ
 トハ從來世間一般普通ニ施行スル處ニシテ本願ニ於テハ之ヲ貝卸ニ應用シタリト雖特ニ新規發明タルノ
 價値ヲ生スルモノニアラス又醋酸ハ漂白粉ノ爲メ一旦荒レタル貝卸ノ地質ヲ酸類ニ依リ復舊セシムル爲
 メ使用シタルモノナルヘシト雖己ニ一層好成績アル醋酸ヲ之ト同一目的ニ向テ使用セルコトハ甲第二號
 證ニ示スカ如ク本願出願前己ニ公知ニ屬スル所ナルヲ以テ新規ト云フヲ得ス次ニ「イボタ」油ヲ滴下シテ
 貝卸ニ艶ヲ出サシムルコトハ「イボタ」蠟ニ依リ艶ヲ付與セシムルト同一理タルコトハ疑ナキ處ナリ而シ
 テ「イボタ」蠟ヲ貝卸ノ艶付ケニ用フルコトハ從來ヨリ請求人ヲ初メ同業者間ニ於テ普通ニ使用スル處ナ
 リ被請求人ハ綿毛等ノ漂白劑ヲ之ト全然異性分ノ貝卸ノ漂白ニ使用シ好成績ヲ得タルモノヲ直チニ新規
 ナラスト云フヲ得スト論スレトモ假令其性分ヲ異ニスルモ共ニ漂白ヲ目的トスル以上ハ轉用シタルニ過

キスシテ發明ト云フヲ得ス又醋酸ヲ貝卸ノ漂白ニ使用シタルコトアルモ全ク異別ノ方法ニ於ケル醋酸ノ
 使用ヲ公知ナリト云フヲ得スト云フト雖甲第二號證ニ於テ醋酸ヲ用フルト本件特許ニ於テ醋酸ヲ用フル
 トハ其目的效果共ニ同一ニシテ醋酸ト醋酸トハ化學上同一作用アルモノナルヲ以テ假令前段ノ漂白處理
 方ニ於テ双方差異アリト雖兩酸類カ貝卸生地ニ及ホス作用ニ差異ヲ生スルモノニ非ス隨テ醋酸ヲ同一目
 的ニ使用シタルコトアル以上ハ醋酸ヲ之ニ用フルハ發明思想ヲ要セス容易ニナシ得ル處ナリ又「イボタ」
 油ト「イボタ」蠟トハ貝卸ノ艶出ニ對シ同一效果ヲ顯ハシ決シテ「イボタ」油カ「イボタ」蠟ニ比シ優レルモ
 ノニアラス加之「イボタ」油ヲ貝卸細工製品ノ艶出ニ用フルコトハ己ニ普通ニ行ハル、處ニシテ決シテ新規
 ノ發明ト認ムルヲ得サルナリト云フニ在リテ其申立ヲ確ムル爲メ甲第一號乃至甲第八號證ヲ提出セリ
 被請求人答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決相成度其理由ハ特許第八五三〇號ハ薄茶色ノ貝卸ヲ清
 水ニ浸シ亞硫酸瓦斯ニテ薰蒸シテ漂白粉ニテ處シ醋酸液ニ浸シテ漂白シ之ヲ乾燥シテ金屬製刷毛ヲ以テ
 攪拌磨擦セシメツ、「イボタ」花ヲ酒精ニテ浸出セル「イボタ」油ヲ滴下シ美麗ナル艶ヲ出サシムル方法ノ特
 許ニシテ連續セル操作ノ全部ヲ以テ發明トスルモノナリ然ルニ請求人ハ其一部ヲ捕ヘテ亞硫酸瓦斯及漂
 白粉ニテ綿毛絲ヲ漂白スルハ普通ナリ醋酸ヲ用フルハ之ヨリモ一層好成績アル醋酸ノ公知ニ依リ新規ナ
 ラス「イボタ」油ハ「イボタ」蠟ト同一理ナリト論スルニ過キスシテ本發明ノ如キ連續操作ノ關係ヲ論セス
 之カ特許ヲ無効タラシメントスルハ不當ナリ又綿毛絲等ノ漂白劑ヲ之ト全然異性分ノ貝卸ノ漂白ニ使用
 シテ好成績ヲ得タルモノヲ直ニ新規ナラスト云フヲ得ス請求人ノ提出セル甲第二號證ハ硫酸「マグネシ
 ユム」ト過酸化曹達トノ溶液ニテ貝卸ヲ處理シタル後ニ醋酸ニ浸ス方法ニシテ本發明トハ全然異別ノ方
 法ニ屬スル者ナレハ之カ爲メ醋酸ノ使用ヲ公知ナリト云フヲ得ス請求人ハ「イボタ」蠟ヲ貝卸ノ艶付ニ用
 フルコトハ普通ナリト云フニ過キスシテ如何ナル方法ニ依リ如何ニ之ヲ使用スルヤヲ明記セス故ニ「イ

ボタ「蠟」使用カ公知ナリトスルモ金屬製刷毛ヲ以テ攪拌摩擦セシメツ、「イボタ」花ヲ酒精ニテ浸出セ
 ル「イボタ」油ヲ滴下スル方法カ新規ナラストノ決論ヲ生スヘキモノニアラス甲第七號證ノ方法ハ的列面
 油ニ「イボタ」蠟ヲ混和シタルモノヲ使用スルモノニシテ特許第八五三〇號ニ用ヒタルモノニアラサル
 コト明ナリ然ラハ之ニ對スル拒絕査定書第八號證ノ所謂「イボタ」油ハ「イボタ」蠟若クハ「イボタ」蠟ノ
 溶解セルモノニ外ナラス偶「イボタ」油ナル記載ノ同一ナルヲ以テ全然異別ノ兩者ヲ同一ナリト論スルハ
 事實上不可能ノコトタルヤ明白ナリ況ヤ甲第八號證ニ於ケル審査官ノ「イボタ」油タル記載カ本件特許ノ
 「イボタ」油ト同一ナリトスルモ該査定ハ明治三十八年九月十二日附ニシテ本件特許ノ許可セラレタル明
 治三十八年三月ニアレハ本件特許ヲ指示セルモノヤモ知ルヘカラス要スルニ請求人ノ主張スル所ハ本件
 特許ヲ各部分ニ分解シテ各部普通若クハ公知ト云フニ過キスシテ特許請求範圍ニ記載セル連續操作カ公
 知タルノ事實ヲ主張セサル者ナレハ之ニ依リ本件特許ヲ無効ナラシメントスルハ不當ナリト云フニ在リ
 依テ本件ニ關スル一切ノ書類及證據ヲ査閲シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ本件特許第八五三〇號
 貝卸漂白法ハ其明細書ニ依ルトキハ薄茶色ノ貝卸ヲ清水ニ浸シ亞硫酸ニテ蒸蒸シテ漂白粉ニテ處理
 シ醋酸液ニ浸シテ漂白シ之ヲ乾燥シテ金屬製刷毛ヲ以テ攪拌摩擦セシメツ、「イボタ」花ヲ酒精ニテ浸出
 シタル「イボタ」油ヲ滴下シ美麗ナル艶ヲ出サシムル方法ニシテ此連續セル操作ノ全部ヲ發明トナスモノ
 タルハ明カナリ然ルニ請求人ハ亞硫酸瓦斯及漂白粉ニテ綿毛絲等ヲ漂白スルコトハ從來施行スル處ニシ
 テ之ヲ貝卸ニ應用スルモ漂白ヲ目的トスル以上ハ轉用シタルニ過キスシテ發明ナリト云フヲ得スト云フ
 ト雖綿毛絲ト貝卸トハ同種類ノ物質ニアラサルノミナラス綿毛絲ノ漂白ニ於テ前記漂白劑ヲ應用スルノ
 操作及其順序カ本件方法ニ於ケルカ如ク初メニ亞硫酸ヲ以テ蒸蒸シ次ニ漂白粉ヲ以テ處理スルノ方法ト
 同一ナリト云フニアラサレハ單ニ目的ヲ同フスルトモ其之ヲ遂行スヘキ手段タル方法ニシテ異ナルトキ

ハ必シモ發明ヲ構成セスト云フヲ得ス又請求人ハ本件方法ニ使用スル醋酸ハ過酸化曹達漂白浴ヲ貝卸ニ
 適用スルニ當リ其工程ノ後段ニ於テ使用スル醋酸ヨリ容易ニ推考シ得ヘク而シテ「イボタ」花ヲ酒精ニテ
 浸出シタル「イボタ」油ハ貝卸ノ艶出ニ用フル「イボタ」蠟又ハ貝卸工ノ艶出ニ使用スル「イボタ」油ニ依リ
 テ公知ニ屬スト云フト雖斯ノ如キハ本件方法ニ於テ使用スル醋酸ト「イボタ」花ヲ酒精ニ依リテ浸出シタ
 ル所謂「イボタ」油トカ異別ノ方法ニ使用セラル、資料ト同効物ナリト云フニ過キスシテ其使用ノ方法カ
 同一ナリト云フニアラサルハ明ナリ要スルニ本件特許ノ方法ハ連續セル操作ヲ發明トナスニ在ルヲ以テ
 其各資料カ異種ノ物質ニ對シ若クハ同一物質ニ對スル異別ノ方法ニ於ケル資料ト同一若クハ同効物ナリ
 トスルモ之カ爲メ本件特許カ特許法第一條ニ違反シ同第二條第四號ニ該當スルモノト云フヲ得ス
 右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
 請求人申立相立タヌ

明治三十九年二月二日於特許局

審判長 特許局事務官 中 松 盛 雄
 特許局事務官 松 田 啓 太 郎
 特許局技師 安 藤 格

第九百七十二號

東京市麴町區八重洲町一丁目一番地 請求人 ウイリアム、シルヴァー、ホール
 右ウイリアム、シルヴァー、ホールヨリ願書番號第三〇五〇八號精鐵法特許願ニ對スル特許局審査官ノ拒

絶再査定ニ服セス審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處
請求人申立ノ要旨ハ明治三十八年十月十二日付拒絶再査定ハ不當ナリト審決相成度其理由ハ特許第八六

五一號明細書ニハ同發明ノ説明上精緻爐ヲ實用スル方法ニ付テモ論及セリトスルモ方法ト裝置ナル物品
トハ如何ニ親密ナル關係アルニセヨ全然之ヲ別物トシテ認定セラル、以上ハ裝置ニ對スル明細書ニテ方
法モ公知ニ屬セリトシ本願方法ニ對スル特許願ヲ拒絶セラル、ハ不當ナリ而シテ本願ト特許第八六五
號トノ關係ノ度ハ特許法第十九條ノ追加特許ノ性質ヲ具備セストモ同法施行細則第三十四條ノ下ニ處理
セラルヘク是等條項ニハ出願上時日ノ制限ナケレハ何時出願ストモ前出願ト同日ニ爲シタルモノトシテ
處理セラルヘキモノト信ス右出願ノ遡及效ニ關シテハ工業所有權保護同盟條約ニ依リ最初ニ英國ノ如キ
方法及裝置ニ對シ一特許ヲ許可スル國ニ出願シ十二月以内ニ日本政府ニ出願スルトキハ同期間内ニ日
本帝國ニ於テ公知ニ屬セリトスルモ優先權ヲ與ヘラル、次第ナルニアラスヤト云フニ在リ
審査官答辯ノ要旨ハ請求人申立相立タスト審決相成度其理由ハ本願方法ハ特許第八六五一號明細書中ニ
之ヲ掲載シテ世ニ公ニ發表セラレ公知ニ屬シタルモノナルヲ以テ特許法第二條第四號ニ該當スルモノト
認メ特許ヲ拒絶シタルハ正當ナリ而シテ請求人主張ノ如ク本願ノ如キ方法ハ詳細ニ説明セント欲セハ勢
ヒ之ヲ實施スル裝置ノ例ヲ要シ又特許第八六五一號ノ如キ裝置ノ説明ニハ無論其働作即チ該裝置ヲ使用
シテ施行スヘキ方法ヲ説明スルヲ要スルコト之アリトスルモ法律ハ斯ル場合ニ公知ニ對シテ例外規定ヲ
設ケサルカ故ニ苟モ公知ニ屬シタル以上ハ特許ヲ受クルコトヲ得サルヤ明ナリ又特許法施行細則第三十
四條ハ最初數發明ヲ併合シ特許出願ヲ爲シタル者之ヲ分割シ其後分割部分ニ對シテ新ナル出願ヲ爲シタ
ルトキハ最初出願ノ日ニ於テ出願シタルモノト看做シ處分スヘキ場合ニ適用スヘキ規定ニシテ本願ノ如
キ別個獨立ノ出願ニシテ分割ノ關係ナキモノニハ該條ノ適用ナシ又工業所有權保護同盟條約ニ依ル出願

優先權ニ依リ主張スル處アルモ本願ハ出願ノ當初ヨリ出願優先權ニ關シ何等其實ノ證明ヲ爲サ、リシ
カ故ニ之ヲ認ムルニ由ナク且ツ斯ル主張ノ理由タル到底不理由タルヲ免レスト云フニ在リ
依テ本件ニ關スル一切ノ書類ヲ査閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
請求人主張ノ第一點ハ方法ト裝置ナル物品トハ之ヲ別物トシテ認定セラル、以上ハ裝置ナル特許第八六
五一號明細書ニ依リ本願方法モ公知ニ屬セリト謂フヲ得ストノ點ニ在ルモ特許法第二條第四號ニ於テ發
明カ特許出願前公ニ知ラル、場合ニ付何等制限スル處ナキニ依リ苟クモ特許出願前其發明ノ構成カ公ニ
知ラル、トキハ同條ニ該當スルモノトシテ特許ヲ受クルヲ得ス而シテ本願發明ノ構成ハ本件出願前特許
ヲ與ヘラレタル特許第八六五一號明細書ノ記事ニ依ルトキハ直ニ知悉シ得ラル、モノナルヲ以テ本願方
法ハ特許法第二條第四號ニ該當スルモノト謂ハサルヲ得ス次ニ請求人主張ノ第二點ハ本願ハ特許第八六
五一號ト相關連シ居レルヲ以テ特許法施行細則第三十四條ニ依リ處理セラルヘキモノナリトノ點ニ在ル
モ同條ノ規定ハ二個以上ノ發明ヲ一發明ト誤認シ一願書ニ依リ之ヲ出願シ特許前二個以上ノ出願ニ變更
スル場合ニ適用スヘキ規定ニシテ本願ノ如ク出願ノ形式上當初ヨリ特許第八六五一號ノ特許出願ト各別
ニ爲サレタル出願ニ適用スヘキモノニアラス又請求人主張ノ第三點ハ萬國工業所有權保護同盟條約ニ依
ル出願優先權ノ例ヲ援用シテ本願ノ出願遡及效ヲ認ムヘシトノ點ニ在ルモ特許法第十四條ノ規定ハ同盟
條約國ノ一國ニ出願シタル發明ニ付其出願後十二箇月内ニ帝國特許局ニ出願アリタル場合ニ適用セラル
ヘキ規定ニ係リ本願ノ如ク該條ニ規定セル條件ヲ具備セサル出願ニハ之ヲ適用セラル、モノニアラサル
ノミナラス出願ノ遡及效ニ關シテハ特許法規ニ於テ各場合ニ付特別ノ規定アルニ依リ該規定ニ該當セサ
ルコト明ナル本願ニ對シ之ヲ認ムルヲ得ス結局特許局審査官カ本願發明ハ特許法第二條第四號ニ該當ス
ルモノトシテ之カ特許ヲ拒絶シタル査定ハ不當ニアラス

右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
請求人申立相立タス

明治三十九年二月十九日於特許局

審判長	特許局事務官	中 松 盛 雄
	特許局事務官	松 田 啓 太 郎
	特許局事務官	宮 内 國 太 郎

第九百四十二號

群馬縣佐波郡伊勢崎町五百五十番地

請求人 伊勢崎織物同業組合

右代表者組長

東京市京橋區加賀町十八番地特許代理業者

右代理人 羽 尾 勘 七

群馬縣佐波郡島村六十七番地

被請求人 澁 澤 常 吉 廉

東京市京橋區木挽町十丁目五番地特許代理業者

右代理人 中 川 津 平

右伊勢崎織物同業組合ヨリ澁澤常吉ニ對シ特許第七二三四號立涌模樣織出用箴特許權利ノ確認ヲ求ムル
爲メ審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要旨ハ立涌模樣織出用箴(見本第一號箴)ハ特許第七二三四號ノ特許範圍ニ屬セスト審決相
成度其理由ハ本組合機業者ノ使用スル立涌模樣織出用箴ハ見本ノ如クニシテ特許第七二三四號ノ構造ノ
一部ヲナスコト甲第一號證ニ依リテ明ナリ然ルニ右箴其物ハ第一甲第一號證明細書自體ニ依リ明ナル如

ク單ニ第七二三四號特許ノ構造ノ一部ヲナスニ止リ該特許ハ箴ヲ適宜ニ上下セシムル箴柄ノ全體ノ構造
ニ對シ與ヘラレタルモノナリ第二該箴其物ハ甲第二號證ニ依リ同特許出願前公知ニ屬シタルコト明ナレ
ハ無論特許ヲ與ヘラルヘキモノニアラス故ニ箴其物カ特許範圍ニ屬セサルコト明ナリ第三甲第三號證字
都宮地方裁判所所務木支部ノ豫審終結決定書ニ依レハ特許局ニ於テ既ニ同裁判所ニ對シテ上陳ノ見解ヲ發
表セラレ同裁判所モ之ニ從ヒ右決定ヲ爲シタルニ依リ請求人ノ主張ノ極メテ正當ナルコトヲ證スルナリ
而シテ被請求人ハ請求人ハ利害關係ヲ有セサルヲ以テ本請求ヲ爲ス資格ナシト主張スト雖モ特許法第二
十九條ニ於テハ利害關係人ト記シ被請求人ノ陳述スルカ如キ制限的ノ意義ナキヲ以テ苟モ係爭箴ノ特許
ノ存否ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ハ何人ト雖モ本請求ヲ提起シ得ルナリ本組合ニ屬スル多數ノ機業者
(百七十人)ハ當組合カ農商務大臣ノ認可ヲ經テ織物ノ獎勵發達ノ爲メニ設ケタル特種織物審査規程ノ下
ニ大功織ト稱スル立涌模樣ノ織物ヲ生産シ其産額ハ當組合生産額ノ三分ノ一ヲ占メ將來益々發達シ組合
同業者ノ利益ヲ増進スルノ機運ニ向ヒツ、アルニ際シ右織物織出シニ使用スル箴ハ被請求人ノ特許品ナ
ル旨ヲ以テ同人ヨリ特許承認ノ爲メ證紙手数料ヲ請求スヘク且新規賣買ノ分ニ對シテハ箴一挺ニ付金一
圓二十錢(從來ハ四十錢乃至五十錢)ニアラサレハ賣却セズ之ニ不服ナレハ自今同箴ヲ使用スヘカラス侵
ス者ハ告訴スヘシト通告セラレタリ然ルニ當時機業者ノ使用セル箴數四千挺ノ多キヲ算シ織物ノ産額ハ
多數ニ達シタル折柄ニシテ其儘ニ放任セハ機業者ハ工費ノ負擔ニ堪ヘス此種ノ織物ハ廢止セサルヘカラ
サルノ勢ニ至ルヘク然レハ右箴ノ特許ノ存否ハ組合員ノ利害問題タルコト勿論ニシテ同時ニ當組合ノ重
大ナル利害問題トナルモノニシテ係爭箴ヲ使用シテ織出シタル大功織ニ當組合制定ノ特種織物審査規定
ヲ適用シ之ヲ保護獎勵シタルカ故ニ同箴ノ故障ニ依リ織物ノ發達ヲ妨害スヘキ原因ヲ排斥スル責務アル
點ニ付又當組合ハ織物業者ノ利益ヲ増進スルヲ目的ノ一トセル公共團體ナルヲ以テ組合員ヲシテ係爭箴

ヲ自由ニ使用スルヲ得セシムル様其障害タル原因ヲ除去シ同業者ノ利益ヲ増進スルニ付其他係争箴ノ特
 許ノ存否ニ付組合經費ノ徵收上影響ヲ及ホス等當組合ノ利害ニ關スル點尠カラスト云フニ在リ而シテ右
 ノ理由ヲ確ムル爲メ見本箴及甲第二號證乃至甲第四號證ヲ提出セリ
 被請求人申立ノ要旨ハ本件請求ハ却下スト審決相成度其理由ハ本件ハ特許權利確認ノ審判請求ニ係ルト
 雖モ元來特許法第二十九條ノ所謂權利確認ノ審判ヲ請求シ得ル場合ハ明文ノ如ク利害關係人ナラサルヘ
 カラス而シテ其利害ノ關係タル特許其モノヨリ直接實現シタル場合ト解釋セサルヘカラス然ルニ特許證
 主タル被請求人ヨリ權利侵害ノ告訴ヲ受ケ又ハ請求人ノ使用スル箴ノ使用ヲ目下差止メラル、如キ行爲
 ヲ受ケ居ルコトナキニ依リ何等利害關係ヲ生出セス又請求人ハ特許法第二十九條ノ利害關係人ハ單ニ利
 害關係人ト規定シ何等制限ナキニ依リ苟モ係争箴ノ使用上特許權ノ存否ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ハ何
 人ト雖モ本請求ヲ提起シ得ルト主張スト雖モ特許ナルモノハ發明者若クハ其承繼者ニ限リ附與セラル、
 一ノ特權ナレハ苟モ有權者以外ノ一般世人ハ決シテ其特許ノ物品若クハ方法ヲ實施シ能ハサルヲ以テ請
 求人ノ如キ解釋ヲ探レハ特許證主以外ノ者ハ此理由ニ依リ何人モ皆利害關係ヲ有スト謂フヘク該條ニ於
 テ特ニ利害關係人ト限局スル必要ナキコト、ナルナリ請求人ハ利害關係アルカ如ク喋々論辯スル所アル
 モ既ニ其根本ヲ誤リ立論セルニ依リ一モ探ルヘキ點ナク縣廳ノ證明ノ如キ何等ノ效力ナキノミナラス其
 證明中證紙ヲ七十錢又ハ一圓二十錢ト唱フルモ事實四十五錢ノ差異アリ又請求人ハ三ツ間市五郎ニ宛テ
 被請求人ヨリ發送セル封緘葉書ヲ引證シ利害關係アル如ク主張スルモ右ハ一時交渉ノ結果證紙ノ賣約ヲ
 結ヒタルコトアリシカ合意ノ上既ニ解約シ居レルヲ以テ如此書面ハ寸效ナキモノナリト云フニ在リ依テ
 本件ニ關スル一切ノ書類及證據ヲ査閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
 特許法第二十九條ニ於テハ特許ヲ受ケサル物品ニ付消極的權利確認ノ審判請求ヲモ許シタルモノト解釋

スヘキモノニシテ被請求人ハ本件消極的權利確認審判ノ件ニ付同條ニ利害關係人トアルハ特許其モノヨ
 リ直接實現シタル利害關係ヲ有スル者ニ限ルヘキヲ以テ請求人ハ利害關係人タル資格ナシト主張スト雖
 モ特許ヲ受ケサル物品カ他人ノ特許ノ範圍ニ屬セサルコトヲ確定スルニ於テ該物品ノ製作使用等ニ付利
 益ヲ有スル者モ亦利害關係人ナリト解釋スルヲ至當トス而シテ請求人ハ重要物産同業組合法ニ依リ設立
 セラレ組合員營業上ノ共同利益ヲ増進スルコトヲ以テ其設立ノ目的トセル公益法人ニシテ特別織物
 審査規定ヲ設ケ大功織ト稱スル立涌模樣製織業ノ發達ヲ圖リ組合員タル機業者ノ多數ハ右織物ノ製織上
 立涌模樣織出用箴ヲ使用シ居レル事實アルカ故ニ該箴カ特許第七二三四號ノ特許範圍ニ屬セサルコトヲ
 確定スルコトハ該箴ヲ現ニ使用セル組合員ニ於テ利益アルハ勿論請求人ハ組合員ニ於テ該箴ヲ自由ニ使
 用シ得ルヤ否ニ付其存立目的ノ遂行上利害ヲ有スルコト明ナルヲ以テ請求人ハ本件審判請求事件ニ付利
 害關係人タル資格ヲ有スルモノト認メサルヘカラス次ニ立涌模樣織出用箴ハ特許第七二三四號ノ特許範
 圍ニ屬スルヤ否ニ付審案スルニ同號明細書ノ特許範圍ニ依レハ梯形狀(イ)ニ交互ニ組合セタル箴齒ヲ有
 スル箴棒(ロ)ニ沿ヒテ兩端ニ曲リ摺杆(ニ)ニ依リ上下自在ナル樣固定セシメタル梭越板(ハ)ヲ設ケテ成
 ル箴トアリテ該特許ハ梯形狀ニ交互ニ組合セタル箴齒ヲ有スル箴ト之ヲ上下自在ナル樣固定セシメタル
 梭越板トノ組合セ其モノニ存スルヲ以テ右梯形狀ニ交互ニ組合セタル箴齒ヲ有スル箴即チ第一號見本ノ
 立涌模樣織出用箴ハ特許第七二三四號ノ特許範圍ニ屬セサルモノト認定ス
 右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
 立涌模樣織出用箴(見本第一號箴)ハ特許第七二三四號ノ特許範圍ニ屬セス

明治三十九年二月二十二日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 阪田 貞一

特許局事務官 松田啓太郎
特許局事務官 別府丑太郎

第九百六十二號

英國蘇格蘭ヘアレストンノアールハウス會社取締役 請求人 カール、オロフ、ランドホルム
東京市麹町區八重洲町一丁目一番地 右代理人 ウイリアム、シルヴァー、ホール

再査定ニ服セス審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處
請求人申立ノ要領ハ願書番號第二九七〇八號爆發物特許願ニ對スル明治三十八年九月二十一日付ノ拒絕
再査定ハ不當ナリト審決相成度其理由ハ凡ソ此ノ如キ爆發物ノ性質ハ其資料ノ配合如何ニヨリ特殊ノ效
果ヲ奏スルモノナルコトハ初審査査定書ニ記載セラレタル「セラニーン」及「ニトロリット」ノ如キ全ク異
名ヲ以テ世ニ知ラレタル爆發物アルヲ以テモ明カナリ本願ハ「セラニーン」或ハ「ニトロリット」ノ主成分
タル「ニトログリセリン」ト硝酸「アムモニア」ヲ適當ノ比例ニテ混合シ且之ニ適當ノ手段ヲ施シテ特殊ノ
效果ヲ奏セシメタルモノニシテ決シテ審査官所說ノ如ク特殊ノ效果ヲ奏スヘキモノト認メ得ラレサルモ
ノニアラス「ニトロリット」及「セラニーン」ハ未タ實用ニ供スル如ク大規模ニ製セラレタルヲ聞カス之レ
「ニトロリット」ハ非常ニ多量ノ「ニトログリセリン」ヲ含有スルカ故ニ使用上不安全且始メ溶解スルコト
ナク氷結セシムルカ或ハ壓搾セシメテ始メテ爆發力ヲ適當ニ増加セシムルコトヲ得又爆發力ノ増加ヲ非
常ニ困難ナラシムル「ニトロセルロース」ヲ含有スルノ不利アルカ故ナリ此等ノ不利ヲ排セン爲メ「ニト

ログリセリン」ヲ膠化セシメテ使用セントシタレトモ遂ニ好結果ヲ得ルコト能ハサリシ次ニ「セラニ
ン」モ亦氷結或ハ壓搾状態ニ於テ使用シ且適當ニ爆發力ヲ増加セシメントスルニハ其含有スル「ニトロ
グリセリン」ノ量過大ニ且鋸屑ノ量過少ニ失シ英國内務省カ必要トスル所ノ「ニトログリセリン」ヲ吸收
スル力不足ナリト本願發明ハ右ノ不利ノ點ヲ排セン爲メ研究實驗ヲ積ミ生成シタル爆發物ニシテ其特
殊ノ效果ハ明細書所記ノ如ク安全ニ使用シ且彈藥筒カ壓搾セラレ或ハ氷結セラレタル時ニテモ長キ圓柱
形ニ於テ爆發力ヲ増加セシムルコトヲ得且水中ニ沈下シ適度ノ壓迫ヲ與フルモ少シモ「ニトログリセリ
ン」ヲ滲出セシムルノ恐ナキモノトス審査官ノ所謂防水性ナルモノハ本願爆發物カ水ニ對シテ有スル性
質トハ全ク別ニシテ水中ニ沈メ多少ノ壓力ヲ加フルモ硝酸「グリセリン」カ滲出スルノ危険ナキ様充分確
酸「グリセリン」ヲ保持スルノ點ニアリテ若シ此條件ヲ滿タサ、ルモノハ英國内務省ノ規定ニ違反スルモ
ノナリト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決セラレ度其理由ハ本願爆發物ノ如ク硝酸「グリセリン」確
酸「アムモニア」及木粉ヨリ成レルモノハ前査定書ニ記セル如ク公知ニ屬シ加之爆發物ニ防水性ヲ與フル
方法ニ於テモ本願ノ如キハ普通ナルコトハ英國特許第二二九五號（一八八七年）及第一一七五號（一八
八八年）等ニ依リ明ナリ然ルニ請求人ハ配合量ヲ變更シタルカ故ニ特殊ノ效果アリト主張スルモ公知ノ
資料ヲ以テ單ニ其配合量ヲ變更スルカ如キハ當業者ノ容易ニ爲シ得ヘキコトニ屬シ是ニ由リ發明ヲ構成
スヘキモノト認ムルヲ得サルカ故ニ特許法第一條ニ該當セストシテ拒絕シタルハ不當ニアラスト信スト
云フニ在リ

依テ本件ニ關スル一切ノ書類ヲ査閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
本件特許願第二九七〇八號爆發物ハ其説明書ニ依ルトキハ主トシテ硝酸「アムモニア」八十分「ニトログ

リセリン」十分木粉十分ヨリ成ルモノニシテ其效果トスル所ハ壓ヲ加フルモ「ニトログリセリン」ヲ滲出スルノ虞ナク氷凍スルモ融解セシムルノ要ナクシテ而モ第六號起爆劑ヲ以テ容易ニ發火セシメ得ルニ在リ然ルニ本件爆發物ニ於テハ「ニトログリセリン」ノ量ヲ著シク減少シテ木粉ノ量ヲ比較的少量ナラシメタルヲ以テ請求人主張ノ如ク壓ヲ加フルモ「ニトログリセリン」ヲ滲出スルノ虞ナカルヘク又硝酸「ア」ンモニア」及木粉ノ配合量ヨリ推スモ其狀態ノ如何ニ關セス容易ニ發火セシメ得ヘキモノト認ムルニ足ルト雖該爆發物ハ西曆千九百四年八月刊行英國工業化學雜誌第八三六頁ニ記スル所ト全然同一ニシテ該雜誌ハ明治三十七年十月特許局圖書館ノ所管ニ歸シ本件特許願ハ同三十八年二月十七日ノ出願ニ係ルヲ以テ既ニ其出願前公知ニ屬シ特許法第二條第四號ニ該當スルモノト認メサルヲ得ス從テ本件特許願ニ對スル拒絕査定ハ其理由ノ當否如何ニ關セス特許ヲ與フヘカラスト査定シタルハ不當ニアラストス右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ

明治三十八年二月二十六日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 高山 甚太郎
 特許局事務官 松田 啓太郎
 特許局技師 安藤 格

大阪市南區馬瀨町三百十五番地

請求人 小野地熊藏

第九百十六號

大阪市北區堂島裏二丁目五十九番地特許代理業者	右代理人	中村 儀藏
大阪府東成郡平野郷町大字平野々堂百七十九番邸	被請求人	八木 庄七
大阪府東成郡平野郷町大字平野々堂百八十一番邸	被請求人	赤根 清一郎
大阪府東成郡平野郷町大字平野西脇三番邸	被請求人	平野 常次郎
大阪市東區備後町二丁目十八番邸特許代理業者	右代理人	堤 他彦

右小野地熊藏ヨリ八木庄七外二人ニ對シ特許第七九七三號莫大小製造機械ノ特許ヲ無効トスル爲メ審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要旨ハ特許第七九七三號莫大小製造機械ノ特許ハ無効ナリト審決ヲ求ム其理由ハ該特許ノ明細書中ノ特許範圍ハ「本文記載ノ目的ヲ以テ旋轉スル旋盤(ニ)(ホ)(ヘ)ノ齒間ニ嵌挿シ「カム」(ヌ)(ワ)ニテ壓出入スヘクナシタル下端ニ稍直角ニ突杆(カ)ヲ設ケタル數多縱設セル針板(ト)ト在來ノ莫大小編成用ノ上下スル編針(ハ)ト相俟テ作用シ其他ハ在來ノ廻轉式莫大小製造機械ノ通り構成シテ成ル莫大小製造機械」ナリト云フニ在リテ其主要目的ハ輪ヲ茂生セル莫大小製造スルニアルモノ、如シ而シテ右明細書中ニハ毫モ二種ノ針板(ト)ヲ用フルコトヲ説明セサルノミナラス附屬圖面(第貳圖)ニ於テモ唯一種ノ針板ヲ示シタルノミナルヲ以テ本機ハ一種ノ針板ヲ使用スルモノト斷定セサルヲ得ス果シテ然ラハ本機ハ在來ノ回轉式莫大小製造機ノ附屬裝置ノ幾分ヲ變更シタルニ過キス則チ在來ノモノニ在リテハ突杆(カ)ヲ水平ノ位置ニ於テ進退セシムルモノヲ本機ニ於テハ(チ)ヲ中心トシテ針板(ト)ヲ搖動スヘクナシ其下端ニ突杆(カ)ヲ定着シ針板ト共ニ進退スヘクナシタルノミニシテ同シク突杆(カ)ヲ左右ニ進退セシムルモノニシテ莫大小編成上ニ於テモ何等新規有益ノ點ナク全ク公知公用ノモノニ屬スルヲ以テ無論最先ノ發明ニ非ス故ニ特許法第一條第二條ニ違反シ同法第二十條第一號ニ依リ本特許ハ無効タルヘ

キモノナリ又被請求人ノ機械ハ其明細書及圖面ニ依ルトキハ一種ノ針板ヲ用フルカ如キモ其實一種ノ針板ヲ用フルニアラスシテ二種ノ針板ヲ用フルモノナルコト被請求人ノ實施シツ、アル機械及特許出願當時特許局ニ提出セル雛形ニ二種ノ針板ヲ具フルニ徴シテ明瞭ナリ其目的モ請求人ノ製造品ト同シク偶ノ目形ニ輪ヲ茂生セル莫大小ヲ製出スルニアルコト被請求人ノ現ニ製造シツ、アル製品ニ徴シテ明ナリ抑モ偶ノ目形ニ輪ヲ茂生セル莫大小ヲ製造スルニ隔番ニ進退スルニ種ノ針板ヲ用フルコトハ必要ノ條件ナリニ拘ハラス殊更ニ之ヲ明細書ニ記載セサルハ蓋シ若シ明カニ二種ノ針板ヲ用フルモノトスルニ於テハ請求人ノ特許ト牴觸スルヲ以テ故意ニ其記載ヲ省キ他日特許侵害ノ問題起リタルトキ二種ノ針板ヲ使用スヘキ裝置ナリト答辯シ特許局ニ提出シタル雛形ヲ以テ其主張ヲ立證セントスルノ意思ナリシコト疑フヘカラサル事實ナリ是則チ故意ニ基キテ發明ノ實施ニ必要ナル事項ヲ明細書ニ記載セサルモノニシテ特許法第二十條第二號ニ依リ本特許ハ無効ナリト云ハサルヲ得ス若シ本特許ノ出願ニシテ在來ノ回轉式莫大小製造機ヲ應用シ之ニ甲乙二種ノ針板(ト)ヲ使用スヘキ裝置ヲ施シ以テ所謂偶ノ目形ニ輪ヲ茂生セル莫大小ヲ製造スルノ趣旨ニ出テタルモノニシテ唯其明細書及圖面ノ作成不備ナルモノトセハ右ハ發明ノ要部ニ於テ明カニ第七三四八號請求人ノ特許ト牴觸スルモノナリ何トナレハ請求人ノ特許發明ノ要部ハ甲乙二種ノ目板ヲ用ヒ之ヲシテ一本置キニ突出セシメテ環絲ヲ作ラシメ以テ所謂偶ノ目形編成ノ目的ヲ達スルモノナレハナリ故ニ此點ヨリ觀察スルモ特許法第一條第二號ニ違反シ同法第二十條第一號ニ依リ無効ナリト云フニアリ

被請求人答辯ノ要旨ハ請求人申立相立タストノ審決ヲ求ム其理由ハ請求人ハ本件第七九七三號被請求人ノ特許機械ヲ以テ偶ノ目形ニ輪ヲ茂生スル莫大小ヲ製造スルコトヲ目的トスルモノ、如ク斷定シ其斷定ニ從ヒ更ニ本件ノ機構ハ單ニ一種ノ針板ノミヲ以テ裝置セルモノナレハ到底前記ノ目的ヲ達シ得サルモノ

ノニシテ普通通知ノモノト異ナルコトナシト主張スルモ本件特許ノ機械ハ請求人主張ノ如キ目的ヲ以テ發明セラレタルモノニアラスシテ在來ノ莫大小製造機ニ於ケル缺點タル絲ノ脱却ヲ容易ナラシメ以テ絲ノ截切スルコトナキヲ期スルト莫大小編成中ニ於テ針板ニ損傷アル場合ニハ他部分ニ影響ヲ及ホスコトナク其局所ノミヲ容易ニ取換修繕シ得ヘキコトヲ目的トスルモノニシテ請求人ノ主張ハ其根底ニ於テ誤リタルモノナリ詳言スレハ請求人ノ機械及在來ノ機械ニ在リテハ針板カ常ニ水平ニ進退スルヲ以テ絲ヲ截切スルコトアルニ反シ被請求人ノ機構ハ針板ヲ弧狀ニ動搖セシムルモノニシテ絲ノ脱却容易ニシテ之レヲ截切スルノ憂ナキハ説明ヲ俟タスシテ明カナリ又被請求人ノ機械ニ於ケル針板ハ單ニ旋盤ノ齒間ニ挾ミアルノミニシテ之レカ脱出ヲ防止スル螺旋鈕ヲ弛ムレハ他部分ニ何等ノ關係ナク所要ノ針板ノミヲ任意ニ取外シ得テ修繕ノ容易ナルコト亦言ヲ俟タサルナリ是等ハ本件特許機構上ヨリ發揮スル特殊ノ效果ナリ又本特許機械ニ於テハ皆同一様式ニシテ同一作用ヲ爲ス針板ヲ配列シタルモノニシテ決シテ二種類アルニ非サレハ其一種又ハ二種ナルコトヲ明細書ニ記載スルノ要ナク之レヲ記載セサルハ當然ノコトノミ又請求人ハ本件被請求人ノ特許機械ハ偶ノ目形ニ輪ヲ茂生セル莫大小ヲ製出スヘキ機械ニシテ二種ノ針板ヲ用フルモノナリトシ之レヲ以テ請求人ノ特許機械ニ牴觸スト主張スルモ被請求人ノ特許ノ眼目ハ前述ノ如ク絲ノ脱却ヲ容易ニスルト針板ヲ取外スコトカ簡單ナルトニアルモノナレハ針板ノ一種ナルト二種ナルト又輪ノ偶ノ目形ニナルト否トハ本件特許ニ別段ノ關係ヲ有セスト信スト云フニアリ仍テ双方ノ辯論ヲ聽キ證據ヲ査閲シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

請求人ハ本件特許第七九七三號莫大小製造機ハ在來ノ莫大小製造機ニ於テ水平ニ進退スヘキ針板ヲ本機ニ於テハ之ヲ(チ)ヲ中心トシテ震搖スヘクナシ其下端ニ突杆(カ)ヲ定着シテ針板ト共ニ進退スヘクナシタルニ止マリ莫大小編成ニ對スル作用同一ナレハ若シ本機械ニ於テ一種ノ針板ヲ用フルモノトスレハ在

來ノモノト異ナルトコロナク又二種ノ針板ヲ用フルモノトセハ請求人ノ特許第七三三八號ノ機械ニ概觸シ公知公用ニ屬セリト主張スルモ本機ハ其明細書ニ依ルトキハ絲ノ脱却ヲ容易ナラシメ以テ絲ヲ截切スルコトナク又針板ニ損傷アル場合ニハ他部分ニ影響ヲ及ホスコトナク其局部ノミ容易ニ取換ヘ若クハ修繕ヲ施シ得ルノ目的ニ於テ旋轉スル旋盤(ニ)(ホ)(ヘ)ノ齒間ニ嵌挿シ「カム」(ヌ)(ワ)ニテ壓出入スヘクナシタル下端ニ稍直角ニ突杆(カ)ヲ設ケタル數多縱設セル針板(ト)在來ノ莫大小編成用ノ上下スル編針(ハ)ト相俟テ作用スヘキ全部ノ組合セニアルモノニシテ在來ノ機械及請求人ノ特許機械トハ其機構ニ於テ異ナルノミナラス絲ノ脱却及針板挿脱ノ點ニ於テ相異ナルモノトナサルヲ得ス故ニ在來ノ機械及請求人ノ機械ノ公知公用ハ本件特許機械ノ無効タルヘキ原因トナラス又請求人ハ本件機械ニ於テ一種ノ針板ヲ用フルヤ又ハ二種ノ針板ヲ用フルヤヲ其明細書ニ記載セサルハ故意ニ基クモノナリト主張スルモ本機ノ發明ハ其機構ノ組合セノ新規ナルニアリテ其應用ノ範圍ハ針板ノ數ニヨリテ制限スルノ必要ナキモノナルヲ以テ其使用スル針板ノ數ヲ明細書ニ記載セサルハ寧ろ當然ノコトトス要スルニ本件特許第七九七三號莫大小製造機ハ之ヲ無効トスルノ理由ナキモノトス其他双方ニ於テ申立ツルトコロアリト雖モ審決ニ必要ナキヲ以テ説明ヲ與ヘス

右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ

請求人申立相立タス

明治三十九年二月二十六日於特許局

審判長

特許局事務官

中 松 盛 雄

特許局技師

鈴木 千代 吉

特許局事務官

松田 啓 太 郎

第八百八十六號

横浜市山手町二百七十番地

請求人

ウイールヘルム、ヴァン、グア

東京市京橋區南鍋町一丁目四番地特許代理業者

右代理人

原 田 敬 吾

右ウイールヘルム、ヴァン、グア、ハイテンヨリ願書番號第二五七九號固形石油製造法特許願ニ對スル特許局審査官ノ拒絕再査定ニ服セス審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ再審査拒絕査定ニ掲グル理由ハ第一、「カセイン」及「ホルムアルデハイド」ヲ用ヒテ石油ヲ凝固セシムル方法ハ英國特許ニ依リ公知ニ屬シ本願方法ハ同一目的ニ對シテ膠ヲ「カセイン」ニ代用スルモ斯ル目的ニ於テ膠ハ可溶性「カセイン」ノ均等物タルヲ以テ必竟均等ノ材料ヲ置換ヘタルニ過キス第二、前記特許方法ニ於テ液體「ホルムアルデハイド」ヲ「カセイン」ト共ニ混用スル代リニ本願ハ油塊冷却ノ後瓦斯體「ホルマリ」ヲ以テ處理スルノ相違アルモ必スシモ之ヲ唯一ノ方法トスルニ非スシテ液體「ホルムアルデハイド」モ亦用フヘキモノナルコトハ明細書ニ記スル所ナルノミナラス其之ヲ最後ニ用フルハ前記特許方法ノ如ク油塊全體ヲ凝固セシメシテ其外皮ヲ凝固セシムル爲メニ在リテ此ノ如キハ所要ニ應シ容易ニ變更シ得ヘキ設計ナリト云フニ歸着ス可溶性「カセイン」ト膠トハ「ホルムアルデハイド」ノ處理ニ由テ凝固スル點ニ於テ均等物ナルコトハ公知ノ事項ニ屬スヘシト雖モ固形石油製造ナル特定ノ目的ニ對シテハ均等物ニ非ス例ヘハ「カセイン」ハ石油ト混和セサルヲ以テ該目的ニ就テハ「カセイン」酸曹達ヲ用ヒサルヘカラス然ルニ曹達ハ無機物ニシテ燃焼セサルカ故ニ勢ヒ灰トナリテ殘留シ膠ノ如ク完全ナル固形石油ヲ製出スルコト能ハサルカ如シ其他「カイセン」カ膠ト異ル點ハ價格貴クシテ實用ノ固形石油ヲ製スヘカラサルコト「ホルムアルデハイド」ノ外ハ純酒精ノ如ク貴重ノ藥品ヲ代用スルヲ要

シ「タンニン」酸、重「クローム」酸加里ノ如キ低廉ノ藥品ヲ代用スルヲ得サルコト凝固力ノ弱キコト等ニ在リ審査官ハ膠ヲ用ヒテ石油ヲ凝固セシムルコトモ從來行ハル、所ナルヲ以テ膠ト「ホルムアルデハイド」ヲ用フルカ如キハ材料ノ變換ニ止マルト云フト雖モ固形石油ナル實用物品ノ製造ヲ立脚地トシテ論スレハ膠ノミヲ石油ト混和スル製造法ノ存在ハ膠ト石油トノ乳狀物ヲ「ホルムアルデハイド」ニ依リテ處理スル製造法ヲ包含セス「ホルムアルデハイド」ノ處理ニ付本願方法ハ明細書ニ於テハ必スシモ瓦斯體ヲ以テ處理スルコトヲ要セサルカ如シト雖モ其實瓦斯體ノ處理ニ由ルニ非サレハ完全ノ凝固ヲ生セサルコトヲ實驗シタル査定書ニ於テハ最後ニ瓦斯體「ホルムアルデハイド」ニテ處理スルハ油塊全體ヲ凝固セシメスシテ其外皮ヲ凝結セシムル爲メナリト謂フモ油塊全體ヲ凝固セシムルモノナリ若シ外皮ノ凝結シタル場合ニ於テ油塊ハ堅牢石ノ如クナルヲ得ヘキノ理ナシ蓋シ「ホルムアルデハイド」ヲ「カセイン」及石油ト混和スルトキハ即時ニ且ツ急激ニ其他化學的作用ヲ及シ却テ完全ノ凝固ヲ生セス然ルニ瓦斯體「ホルムアルデハイド」ニテ處理スルトキハ其作用緩徐ニ且ツ綿密ニ油塊ノ各分子ニ對シテ行ハレ其結果凝固完全ナルニ至ル是レ蓋シ處理法上ノ一大相違ナリ然ルニ審査官ハ之ヲ速斷シテ容易ニ變更シ得ヘキ設計ナリト思考シタルハ誤謬ト謂ハサルヲ得スト云フニアリ

審査官答辯ノ要領ハ「カセイン」ト膠トハ共ニ「ホルムアルデハイド」ニ依リ凝固スルノ性質ヲ利用スル諸種ノ用途ニ於テ互ニ均等物タルコト、「カセイン」及「ホルムアルデハイド」ヲ用ヒテ固形石油ヲ製スル方法ノ公知ナルコト等ハ再審査査定書ニ於テ既ニ述フル所ナリ又膠ヲ用ヒテ石油ヲ凝固セシムルコトモ從來行ハル、所ナレハ本願ニ於テ同一目的ニ對シ膠ト「ホルムアルデハイド」トヲ使用スルカ如キハ所謂材料ノ變換ニ止リ新規ノ發明ナリト云フヘカラス請求人ハ本願ニ於テモ英國特許ノ方法ニ於ケルカ如ク油塊全體ヲ凝結セシムルモノニシテ然ラスンハ堅牢石ノ如クナルヲ得ヘキ理ナシト云フト雖モ本願方法ニ

依テ製シタル固形石油ハ油塊ノ外皮ノミ粘土塊ノ如キ觀ヲ呈スルモ其内部ハ海綿ノ如キ狀態ヲ有スルコト前ニ請求人カ提出シタル製品ノ見本ニ依テ明ナリ左レハ本願ニ於テ「ホルムアルデハイド」ヲ最後ニ使用スルハ專ラ外皮ノミヲ凝固セシムルノ外效ナキコト亦明ナリ故ニ本願ニ對シ再審査査定ノ理由ニ依リ特許ヲ與フヘカラスルモノト査定シタルハ不當ニアラスト信スト云フニ在リ

依テ本件ニ關スル一切ノ書類ヲ査閲シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

本願ノ目的トスル所ハ主トシテ石油ノ如キ液體ノ油類ヲ固體トナシテ運搬ニ便ニ且危險ノ患ナカラシムルニ在リ而シテ其方法ハ先ツ膠ノ溫液ヲ製シ之ニ石油ヲ漸次ニ混和シ充分振盪シテ乳狀トナシ之ヲ模型ニ注入シ繼テ冷却シテ漸ク固結スルヲ俟テ模型ヨリ取り出シ更ニ「ホルムアルデハイド」ノ水溶液中ニ浸漬スルカ或ハ之ヲ木製ノ箱ニ裝置シ「ホルムアルデハイド」瓦斯ヲ通入シ其充滿スルヲ俟テ該箱ヲ密閉放置シテ「ホルムアルデハイド」ヲ膠ニ作用セシムルモノトス審査官ハ「カセイン」ト膠トハ共ニ「ホルムアルデハイド」ニ依リ凝固スルノ性質ヲ利用スル諸種ノ用途ニ於テ互ニ均等物タルモノトシ且「カセイン」及「ホルムアルデハイド」ヲ用ヒテ固形石油ヲ製スル方法ハ一八九九年英國特許第二三九七號ニ據リ公知ニ屬シ又膠ヲ用ヒテ石油ヲ凝固スルコトモ一八八八年英國特許第一五四九二號ニ據リ從來行ハル、所ナレハ本願ニ於テ同一目的ニ對シ膠ト「ホルムアルデハイド」トヲ使用スルカ如キハ所謂材料ノ變換ニ止リ新規ノ發明ニアラストシテ之ヲ拒絕セリ蓋シ「ホルムアルデハイド」ノ「カセイン」膠等ニ於ケル作用ノ公知ニ屬シ且膠ハ「カセイン」ノ均等物ト見做シ得ヘキモ本願ト英國特許第二三九七號ノ方法トヲ比較スルトキハ本願ノ方法ニ於テハ特ニ高價ナル「カセイン」ニ代フルニ普通ノ膠ヲ用ヒ所謂固體石油ノ製造ヲ工業的ト爲シタルモノニシテ此方法ニ據リ始メテ實用的製品ヲ得ヘキモノニシテ其效果ノ顯著ナルコトヲ認め得ヘク現ニ之ヲ實驗ニ徵スルモ膠ヲ應用シタルモノハ「カセイン」ニ比シテ凝固ノ程度優ニ佳良ナ

リ又英國特許第一九四九二號ニ於テハ膠ヲ使用スルモ更ニ之ヲ凝結セシムルノ方法ヲ施行セサルカ故ニ本願ニ比シテ方法ノ要部ニ異ナル所アリ況ンヤ彼此ノ製品ノ性質ニ於テモ著シキ差異アルモノト認ムヘキニ於テヲ要スルニ本願ハ公知ノ原理ニ基キ考案セル方法ナルノミナラス之ニ類似ノ方法モ亦世ニ公ニセラレタルコトハ審査官ノ辯論ノ如クナルモ本願ハ單ニ從來ノ方法ヲ襲用シタルモノニハ非スシテ其使用材料ノ實用上有效ナルハ勿論其結果ニ於テモ遙ニ優等ナルヘキヲ以テ所謂固體石油ヲ工業的ニ製造スルノ方法ヲ發明シタル請求人ニ在ルモノト認ム

願番號第二五七九九號固形石油製造法特許願ニ對スル特許局審査官ノ拒絕再査定ハ不當ナリトス
明治三十九年三月六日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 高山甚太郎
特許局事務官 松田啓太郎
特許局事務官 宮内國太郎

第九百一號

和歌山縣伊都郡橋本町大字古佐田二百三十七番地 請求人 小林徳太郎
奈良縣宇智郡五條町大字五條特許代理業者 右代理人 磯田復藏
和歌山縣伊都郡橋本町大字橋本五十二番地 被請求人 平林常藏
大阪市東區安土町二丁目十五番屋敷 被請求人 阿部元壽

大阪市東區備後町二丁目十八番邸 右代理人 堤 他 彦
大阪市東區備後町二丁目十八番邸 右代理人 堤 正 治

右小林徳太郎ヨリ平林常藏、阿部元壽ニ對シ第八二八三號天鷲絨兩面模様織出法特許ヲ無効トスル爲メ審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處
請求人申立ノ要領ハ第八二八三號天鷲絨兩面模様織出法特許ハ無効ナリト審決セラレ度其理由ハ被請求人平林常藏阿部元壽カ明治三十七年十月二十七日付ヲ以テ天鷲絨兩面模様織出法ノ特許出願ヲ爲シ明治三十八年一月十三日第八二八三號ヲ以テ特許ヲ受ケタル前記織出法ハ被請求人カ特許出願明細書ニ記載ノ如ク一條ノ絲ヲ適宜ノ方法ヲ以テ屈曲並列シ之レニ所要ノ圖畫ヲ模寫染色シテ標準絲トナシ之ヲ經絲ト共ニ織機ニ緊張シ而シテ其標準絲ニ倣ヒテ緯絲ヲ組織シテ成リタル織物ヲ一定ノ幅ニ縱截シ且紗絢シテ緯絲ニ織込ミ成ルモノニシテ被請求人等ハ右ハ自己カ最先ニ發明シタルモノナリト稱シ特許ヲ受ケタレトモ右織出法ハ再織又ハ二重織ト稱シ今ヲ去ル二十六年前即チ明治十二年ノ比和歌山縣伊都郡名倉村亡前田安助カ發明シ既ニ業ニ公知公用ニ屬シタルモノナリ又明治三十一年中和歌山縣伊都郡名倉村北島寅之助カ右織出法ニ依リ精工ナル織物ヲ製成シ同年開設シタル和歌山縣物産共進會ニ出品シ褒賞ヲ受ケ且ツ一般ニ好評ヲ博シ尋テ同郡橋本町平林寅藏カ明治三十六年開設シタル第五回内國勸業博覽會ニ右織出法ニ依リ製織シタ首卷ヲ出品シ其説明書ヲ添付シタルモ亦タ同一方法ニ屬スルモノナリ加之明治二十年中津技葆吉田半次郎吉田善介ナル者カ右織出法ノ特許ヲ受ケタルモ宮本嘉平治前田福之助ノ請求ニ依リ明治二十八年十月七日特許局ハ右特許ハ無効トストノ審決ヲ與ヘタルモノニ屬スト云フニ在リ
被請求人答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決セラレ度其理由ハ本件請求人ハ被請求人ノ特許發明ニ關シ本件模様織出方法ハ通稱再織又ハ二重織ト唱ヘ明治十二年ノ交和歌山縣人前田安助ノ最先發明ニ係

リ已ニ公知公用ニ屬スルモノナリト云フト雖斯カル事實ハ無稽ノ甚タシキモノニシテ被請求人ノ承認シ能ハサル所ナリ由來再織又ハ二重織ナルモノハ普通織物ニ於テ見ルヘキ經絲ノ距離ヲ比較的間隙ナラシメ緯絲ヲ織リタル後經絲ノ間隙ヲ中央ヨリ縱斷紛綯シ之ヲ緯絲トナシテ普通方法ニ依リテ織成シタル織物ノ謂ヒニシテ右前田安助ナルモノハ和歌山縣下ニ於ケル該織物製織ノ率先者タリト云フニ止マリ素ヨリ同人ノ最先發明ニアラサルハ勿論此織法ハ本邦ニ於テモ已ニ其以前ヨリ行ハレ來リタルモノナリ爾來人智ノ發達ト共ニ右織物ニ一定ノ模様ヲ顯出センコトヲ企テ種々其方法ヲ考案セントシタルモノアリタルコトハ被請求人モ亦耳ニシタルコトアリト雖モ何レモ完成ノ域ニ達セス偶々模様ヲ表出シタルモノアリタルモ辛ウシテ模様ト云ヒ得ルニ止マリ其手續ノ迂遠困難費用ノ支出等實ニ意外トスル所ニシテ到底實際ニ應用スルコト能ハス被請求人共ハ茲ニ先人ノ遺業ヲ承繼シ種々ノ考案ト熱心ノ結果本件模様織出法ヲ案出シ特許ヲ受ケタルモノニシテ斯ル模様ノ顯出法ハ被請求人ノ發明前何人モ之ヲ知悉スルモノナシ要スルニ請求人ノ主張ハ再織法ト再織物ニ模様ヲ顯出スル本件特許方法ヲ故ラニ混淆シ本件模様ノ顯出ハ所謂再織法ナリト誣ヒ恰モ再織法ノ發明ト同時ニ行ハレ來リタルモノ、如ク詐稱スルモノニ外ナラサルナリ其他ノ請求人ノ陳辯ニ關シテモ何レモ承認シ能ハサル所ナリト云フニ在リ

仍テ本件ニ關スル一切ノ書類及證據ヲ查閱シ口頭審判ヲ經テ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

本件係争ノ第八二八三號特許ハ本件審理中明治二十九年三月十三日被請求人ニ於テ特許權利ノ拋棄ヲ爲シタルヲ以テ審判請求ノ目的物ハ既ニ消滅シタルモノトス

右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ

本件請求ハ之ヲ却下ス

明治二十九年四月五日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 阪田 貞一
 特許局事務官 中松 盛雄
 特許局事務官 松田 啓太郎

第九百五十五號

姫路市北條口五番地	請求人	井上 惣兵衛
姫路市大野町六十八番地	請求人	尾上 ひとる
姫路市大野町六十八番地	右法定代理人	尾上 たみ
東京市京橋區彌左衛門町十五番地特許代理業者	右代理人	平岡 萬次郎
東京市京橋區山城町三番地特許代理業者	右代理人	上原 鹿造
東京市京橋區山城町三番地特許代理業者	右代理人	鳩山 和夫
廣島縣廣品郡新市村三十一番地鑄造業	被請求人	高田 嘉助
東京市麴町區内幸町一丁目五番地特許代理業者	右代理人	信岡 雄四郎
東京市京橋區築地三丁目十四番地特許代理業者	右代理人	長島 鷲太郎

右井上惣兵衛外一人ヨリ高田嘉助ニ對シ特許第六四〇八號製鹽釜ノ特許ヲ無効トスル爲メ審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要旨ハ被請求人所有ノ特許第六四〇八號製鹽釜ノ特許ハ無効ナリトノ審決ヲ求ム其理由ハ本特許製鹽釜ノ特許範圍ナル「製鹽釜ノ底ノ外面凸凹ノ形狀ニ從ヒ無數ノ交錯セル格形ノ間ニ型土ヲ鑄

込」コトタル正シク請求人ノ特許第六三六六號鐵製々鹽釜裏塗法ノ特許範圍ノ第二ニ記載セル「高熱ニ逢ヒテ凝固素燒性ノ層トナルカ如キ塗料ヲ用フル鐵製々鹽釜裏塗法」トアル點ニ撞着スルモノトス何トナレハ被請求人ハ特許局ヨリ再三質問ヲ受ケタル後甲第八號證ノ一、二甲第九號證ノ一、二甲第十號證ノ一、二甲第十二號證ノ一、二ニ記載セル如ク結局「製鹽釜ノ外面凸凹ノ部ヘ其形狀ニ從ヒ土ノ一層ヲ作り若シ脱落ヲ生スルトキハ礪砂等ノ焦着劑ヲ混入セル土ヲ以テ任意ニ補修スルコトヲ得ヘシ」トノ明細書ヲ提出シタルニ觀レハ被請求人ノ特許範圍ニ在ル型土トハ製鹽釜ノ外面凸凹ノ部分ニ其形狀ニ從ヒ土ノ一層ヲ作ルモノニシテ如此作リタル土ノ一層ハ火熱ニ逢フトキハ其土ハ素燒性ノ層トナルコト論ナケレハナリ而シテ若シ被覆土ノ脱落ヲ生スルトキハ礪砂質ノ焦着劑ヲ混和セル土ヲ以テ之ヲ補修スルノ點カ請求人ノ特許範圍ノ第二ニ撞着スルコトハ明治三十八年四月二十五日特許局ニ於テ爲サレタル審判番號第八百九號特許權利確認事件ニ對スル審決ニ依リ確定シタリ故ニ特許第六四〇八號製鹽釜ト特許第六三六六號鐵製々鹽釜裏塗法ト撞着スルコト爭フヘカラサル事實ナリトス被請求人ハ特許第六四〇八號ハ製鹽釜ナル物品ノ特許ニシテ特許第六三六六號ハ鐵製々鹽釜裏塗法ナル方法ノ特許ナルヲ以テ二者撞着スルコトナシト答辯スルモ方法ノ特許ハ同一方法ニ依リテ製作セラレタル物品ニ及フコト特許法第一條末項ニ明記スル所ニシテ被請求人ノ製鹽釜ハ請求人ノ方法ト同シク釜ノ裏面ニ型土ノ一層ヲ作ルモノニシテ請求人ト同一方法ヲ用ヒタルモノナルヲ以テ二者ノ間ニ權利ノ撞着アルコト明ナリ而シテ其最先ノ發明ヲ爲シタルモノハ請求人ナリトス何トナレハ請求人ノ發明ハ明治三十三年六月二十六日以前ニシテ被請求人ノ型土ヲ鑄込ムノ發明ハ明治三十五年五月二十三日ニシテ礪砂質ノ焦着劑ヲ混和セル土ヲ以テ補修スルノ發明ハ明治三十六年四月十六日ナルコト甲第四號證ノ一乃至三及甲第五號證乃至甲第十二號證ニ依リ明瞭ナリ而シテ右各證ハ悉ク特許局ヘ賸本下附ノ申請ヲ爲シ同局ヨリ下附セラレタルモノナル事

實ハ甲第十二號證ノ一、二特許局ノ領收證ニ依リテ之ヲ證ス要スルニ被請求人ノ特許第六四〇八號製鹽釜ハ請求人ノ特許第六三六六號鐵製々鹽釜裏塗法ニ撞着シ其發明ハ請求人ノ發明ニ後ル、モノニシテ特許法第一條ノ最先發明ニアラサルヲ以テ特許ヲ受クヘキ資格ナシト云フニアリテ其主張ヲ確ムル爲メ甲第一號證乃至甲第十二號證ヲ提出セリ

被請求人答辯ノ要旨ハ請求人申立相立タストノ審決ヲ求ム其理由ハ被請求人ノ特許權ヲ有スル特許第六四〇八號ノ特許範圍ハ其明細書ニ明カナル如ク製鹽釜ノ底ノ外面凸凹ノ形狀ニ從ヒ無數ノ交錯セル格形ノ間ニ型土ヲ鑄込ミタル製鹽釜ニシテ請求人所有ノ特許第六三六六號ノ特許範圍第二項ハ高熱ニ逢ヒテ、凝固素燒性ノ層トナルカ如キ塗料ヲ用フル鐵製々鹽釜裏塗法ナリ即チ被請求人ノ有スル特許ハ製鹽釜ナル物品ニシテ請求人ノ有スル特許ハ裏塗法ナル方法ナルヲ以テ二者全ク其性質ヲ異ニスルモノナルコト明瞭ナリ況ンヤ審判番號第八百九號權利確認事件ニ於テ請求人ハ其答辯書ニ於テ「(前略)前段特許第六四〇八號ハ製鹽釜(物品)ノ特許ニシテ特許第六三六六號ハ鐵製々鹽釜裏塗法(方法)ノ特許ナルヲ以テ兩者相撞着セサルコトハ被請求人(本件ノ請求人)モ之ヲ認ム」(甲第三號證)ト記載シ二者相異ナリテ互ニ撞着セサルコトヲ自認スルアルニ於テオヤ又請求人ハ被請求人ノ特許範圍ニ屬スル型土トハ製鹽釜ノ外面ニ土ノ一層ヲ作ルニ止マリ如此土ノ一層ハ火熱ニ遇フトキハ素燒性ノ層トナルコト論ナキヲ以テ是レ特許第六三六六號ニ撞着スルモノナリト論述スルモ請求人ハ高熱ニ遇ヒテ素燒性ノ層トナルヘキ土ノ一切ノ使用ニ付特許ヲ得タルモノニ非スシテ土又ハ高熱ニ遇ヒテ素燒性ノ層トナルヘキ塗料ヲ以テスル製鹽釜裏塗法ノ特許ヲ得タルニ過キス然ルニ特許第六四〇八號ハ製鹽釜ノ底ノ外面ニ凸凹ノ形狀ニ從ヒ無數ノ交錯セル格子形ノ間ニ型土ヲ鑄込ムモノニシテ其鑄込以前ニ型土ヲ作り型土ハ鑄込ノ際金屬ト強固ナル結合ヲナスモノナルカ故ニ特許第六三六六號鐵製々鹽釜裏塗法ノ如キ釜ノ底面ニ素燒性ノ層トナル

ヘキ塗料ヲ唯單純ニ塗着クルモノト全ク相異ナリ決シテ撞着スヘキモノニ非ス又請求人ハ其發明ノ前後ニ付テ論述スルトコロアルモ請求人ノ有スル特許範圍ト被請求人ノ有スル特許範圍トハ全ク其性質及效果ヲ異ニスルコト前述ノ如キモノアルヲ以テ又之ヲ論スルノ必要ヲ見スト云フニアリ

仍テ本件ニ關スル一切ノ書類及證據ヲ查閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

請求人カ特許第六四〇八號製鹽釜ノ無効ヲ主張スル理由ノ要ハ該特許製鹽釜ハ請求人所有ノ特許第六三六六號鐵製々鹽釜裏塗法ト同一方法ニ依リ製作スル物品ナルヲ以テ兩特許ハ權利ノ撞着スルモノニシテ請求人ハ之レカ最先發明者ナルカ故ニ被請求人ノ特許ハ特許法第一條ニ違反スト云フニアルモ今兩特許ノ明細書ヲ對照審案スルニ特許第六三六六號ハ高熱ニ逢ヒテ凝固素燒質トナルヘキ塗料ヲ鐵釜ノ外面ニ塗着スル裏塗方法ナルモ特許第六四〇八號ハ釜ノ外面ニ格子形ノ隆起線ヲ形成スヘキ鑄型ヲ土ニテ作り之ニ鑄鐵ヲ鑄込メル後格子形ノ凹窩部ニ保持セラル、土ヲ殘シ他ノ型土ヲ除去シテ製作スルモノニシテ其製作法ハ前記裏塗法ト同一ナラサルヲ以テ特許第六三六六號鐵製々鹽釜裏塗法ノ特許權ハ特許第六四〇八號製鹽釜ナル物品ニ及ハサルモノトス故ニ特許第六三六六號鐵製々鹽釜裏塗法ノ存在ハ特許第六四〇八號製鹽釜ヲ無効トナスヘキ理由トナラス

右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ

請求人申立相立タス

明治三十九年四月十四日於特許局

審判長 特許局事務官 中 松 盛 雄
 特許局技師 鈴木千代吉
 特許局事務官 永 井 亨

第九百五十一號

大阪市南區馬淵町三百十五番地 請求人 小野地 熊 藏
 大阪市東區伏見町五丁目三十番地特許代理業者 右代理人 中 村 儀 藏
 京都市上京區中立賣通千本東へ入 被請求人 上 島 兼 四 郎
 大阪市東區備後町一丁目七番屋敷特許代理業者 右代理人 西 村 長 太 郎
 大阪市東區備後町二丁目十八番屋敷特許代理業者 右代理人 堤 他 彦

右小野地熊藏ヨリ上島兼四郎ニ對シ第七二六〇號莫大小製造機特許ヲ無効トスル爲メ審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要旨ハ特許第七二六〇號立毛莫大小製造機械ノ特許ハ無効ナリトノ審決ヲ求ム其理由ハ本機械ハ其明細書ニ依ルトキハ其機械説明中ニ於テハ「又橫桿(e)ノ中央ニ設ケタル筒孔ニ軸(o)ヲ定着シ其下端ニ圓盤(p)ヲ定着シ云々」又「絲路ヨリ來ル處ノ二條ノ絲ヲ針ニ掛ケ軸(h)ニ動力ヲ傳フルトキハ下方ノ針床(i)ハ廻轉シ之ト同時ニ齒車ノ(v)(v') (t)(t')ノ媒介ニ依リテ上方ノ針床モ亦廻轉スヘシ云々」トアリテ圓盤(p)ハ定着シ針床(r)ハ廻轉スルモノトシ又其特許請求範圍ニ於テハ「廻轉スル軸(t)及軸(v)齒車(t)(t')(v)(v')ニ依リ圓盤(p)ヲ廻轉スル切斷針運轉裝置」トアリテ圓盤(p)ハ定着セルモノナリヤ將又廻轉スルモノナリヤハ不明ナリト雖モ假リニ説明中ノ記載ヲ正シキモノトシ圓盤(p)ハ定着スルモノトシテ之ヲ請求人ノ特許第七二四八號複式絨毛莫大小編成機ノ構造ニ對比スレハ其主要部分ニ於テ兩者ノ異點ハ一ハ前者ニアリテハ齒車ノ媒介ニ依リテ上下ノ針床ヲ廻轉シ後者ハ菊皿(前者ノ上方ノ針床ニ該當ス)ヲ其裏面ノ一側ニアル足ノ媒介ニヨリ針筒(前者ノ下方ノ針床ニ該當ス)ト

共ニ廻轉セシムルト他ハ前者ニアリテハ長短ニ針ニハ其尖端ニ近ク刃ヲ具ヘテ引掛ケタル環絲ヲ切斷シ
 後者ニアリテハ甲乙二種ノ目板(前者ノ長短ニ針ニ該當ス)ハ刃ヲ具ヘス環絲ハ莫大小全體編成ノ上他ノ
 刃物ニ依リ切斷スルトノ二點ニアリ然レトモ齒車ヲ用フルト足ヲ用フルトハ傳動ノ作用ニ於テ異ルトコ
 ロナク莫大小編成上ニ於テモ亦タ何等ノ差異ナキヲ以テ此點ニ於テハ結局兩者同様に機構ヲ有スルモノ
 ト爲サ、ル可カラス果シテ然ラハ兩者ノ差異ハ單ニ莫大小編成中ニ環絲ヲ切斷スルト否トノ一點ニ存シ
 其大體ノ機構及作用同一ニシテ製品又タ同一ナルカ故ニ被請求人ノ特許發明ハ請求人ノ特許發明ニ抵觸
 セルモノト云ハサル可カラス況ンヤ編成中ニ環絲ヲ切斷スルトキハ編絲切斷シテ莫大小ニ損傷ヲ生シタ
 ル場合ニ於テモ既ニ環絲ハ切斷シタル後ナルヲ以テ容易ニ之ヲ解キ戻シ修理ヲ施スコト能ハサルノ不便
 アルノミニシテ毫モ請求人ノ特許發明ニ比シ新規有益ナル點ナキニ於テオヤ依テ本件特許ハ特許法第二
 十九條ニ依リ無効ナリト云ハサルヘカラス若シ又本件特許發明ニシテ其請求範圍ニ示シタル如ク圓盤
 (P)カ上方ノ針床(r)ト共ニ廻轉スルモノトセハ上方ノ針床ハ全ク其作用ヲ失フヘク長短ニ針モ亦タ其
 作用ヲ失ヒ特種ノ莫大小ヲ製スルコト不可能ニ屬シ其製品ハ普通ノ莫大小ト異ルコトナシ然レハ本件ノ
 機械ハ普通ノ莫大小編成機ニ對シ全ク無要ノ加工ヲ施シタルノミニシテ其作用ハ共ニ同一ナルヲ以テ公
 知公用ノ物ニ屬シ特許法第二條第四號ニ依リ無効ナリト云ハサルヲ得ス又本件特許發明ニ於ケル圓盤
 (P)ノ廻轉スルト否トハ莫大小編成上著シク異リタル結果ヲ來スヘキモノナルヲ以テ此點ハ發明ノ重要
 部分ニ屬スルコト論ヲ俟タス然ルニ明細書中說明ノ部ニ於テハ圓盤(P)ヲ定着スルモノトシ特許範圍ニ
 於テハ之ヲ廻轉スルモノトシ其何レヲ正シキモノトスヘキヤ不明ナリト雖モ若シ之ヲ定着スルモノトセ
 ハ被請求人ハ發明ノ實施ニ必要ナラサル事項ヲ明細書ニ記載セルモノニシテ若シ又廻轉スルモノトセハ説
 明中ニ之ヲ記載セシテ反テ定着スルモノナリト記載シタルハ發明ノ實施ニ必要ナル事項ヲ明細書ニ記

載セサリシモノナリ而シテ本發明ハ元來請求人ノ發明ヲ模擬シタルモノナルカ故ニ出願ノ際既ニ出願シ
 アル請求人ノ發明ト抵觸センコトヲ虞レ殊更ニ曖昧ナル記載ヲ爲シタルモノニシテ此所爲ハ被請求人ノ
 故意ニ基キタルモノナルヲ以テ特許法第二十條第二號又ハ第三號ニ依リ本特許ハ無効ナリト云フニ在リ
 被請求人答辯ノ要旨ハ請求人申立相立タストノ審決ヲ求ム其理由ハ請求人ハ本件特許機械ハ請求人ノ特
 許機械ニ比シテ針床ノ廻轉ヲ齒車ノ媒介ニ依ルト菊皿裏面ノ一側ニ設ケタル足ノ作用ニ依ルトノ差アル
 ト共ニ針ノ尖端ニ近ク刃ヲ備フルト否トノ差アリト雖モ如斯ハ何等作用ノ區別ヲ認メサルカ故ニ二者同
 一機構ニ過キスト主張スルモノ本件被請求人ノ特許ハ立毛莫大小ノ編成中ニ於テ容易ニ外面ノ絨毛ヲ切斷
 シ特別ノ努力ヲ避クル事ヲ以テ唯一ノ目的トシタルモノニシテ此目的ハ實ニ針ノ尖端ニ設ケタル刃(x)
 ニヨリテノミ達シ得ラル、モノニシテ此重大ナル差異ヲ無視シ作用上區別ナシト云フカ如キハ想ハサル
 ノ甚シキモノト謂フヘシ其他莫大小編成中ニ絨毛ヲ切斷スルトキハ編絲切斷シテ莫大小ニ損傷ヲ生シタ
 ル場合ニ於テ之レヲ解キ戻シ修理ヲ加フルコト容易ニアラス頗ル不便ニシテ毫モ新規有益ノ點ナシト云
 フカ如キハ本件發明ノ目的ト全然別個ノ問題ニシテ彼是辯論ヲ加フルノ必要ナキモノトス又請求人ハ被
 請求人ノ特許明細書中其特許請求範圍ノ部ニ於テ「圓盤(P)ヲ廻轉スル裝置云々」ノ文字ヲ捕ヘ或ハ發明
 ノ目的ヲ達スルコト不可能ナリト論シ或ハ發明ノ實施ニ必要ナラサル事項ヲ故意ニ明細書ニ記載シタル
 モノナリト云フト雖モ此ハ單ニ被請求人カ明細書調製ニ際シ些少ノ誤謬ヲ來シタルニ止マリ右明細書特
 許範圍第二項初行ノ「圓盤(P)ナル文字カ」上部針床(r)ノ誤記ニシテ圓盤(P)カ不動體ノモノナルコ
 トハ明細書ヲ通讀スレハ容易ニ發見シ得ヘク毫モ疑ヲ挾ム可キトコロナシ且ツ被請求人ハ之カ改訂ヲ出
 願シ今ヤ乙第一號證ノ如ク改訂ヲ許可セラレタルヲ以テ此點ニ對シテハ答辯ヲ爲スノ要ナシト思料スト
 云フニアリテ乙第一號證ヲ提出セリ

仍テ本件ニ關スル一切ノ書類及證據ヲ查閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
 本件特許第七二六〇號立毛莫大小製造機械ハ其明細書中機械說明ノ部ニ於テ圓盤(P)ヲ定着スルモノト記載シ又其特許請求範圍ニ於テハ之ヲ廻轉スルモノ、如ク記載シ相互ニ齟齬スルコトアリト雖モ該明細書ノ全部ヲ通讀スルトキハ圓盤(P)ハ不動ナルモノニシテ圓盤(R)或ハ上針床(R)ハ廻轉スルモノト認
 定シ得ヘク從テ其特許請求範圍ニ圓盤(R)或ハ上針床(R)ト記載スヘキヲ圓盤(P)ト記載シタルハ被請
 求人ノ過誤ニ基クモノト認ムルヲ至當トス請求人ハ前記々載ハ過誤ニ非スシテ被請求人ノ故意ニ基クモ
 ノナリト主張スルモ該主張ヲ確認スヘキ證據ナキヲ以テ之ヲ特許法第二十条ニ該當スルモノトナスヲ得
 ス又請求人ハ特許第七二六〇號ハ請求人所有ノ特許第七三四八號ト牴觸スルモノナルヲ以テ特許法第二
 十九條ニ依リ無効ナリト主張スルモ前記兩特許ヲ對照スルニ後者ハ單ニ莫大小編成ニ際シ環絲ヲ偶ノ目
 形ニ編出スルヲ主眼トシ前者ハ環絲ヲ編出スルト同時ニ之ヲ切斷シテ立毛トナスコトヲ主眼トスルモノ
 ナルヲ以テ各其發明主旨ヲ異ニスルモノニシテ其機構ノ組合セ亦相同シカラサルカ故ニ兩者ノ權利ハ撞
 着セサルノミナラス假令撞着スルモノトスルモ是ヲ以テ特許法第二十九條ニ依リ直ニ特許ノ無効ヲ惹起
 スルモノニアラス何トナレハ本條ハ單ニ權利確認ノ審判請求ニ付規定シタルニ止マレハナリ故ニ特許第
 七二六〇號ハ之ヲ無効トスル理由ナキモノトス
 右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
 請求人申立相立タス

明治三十九年四月二十日於特許局

審判長 特許局事務官 中 松 盛 雄
 特許局技師 鈴木千代吉

特許局事務官 人見次郎

第九百九十三號

ニュージブランド殖民地タラナキハウエラ
 東京市麹町區八重洲町一丁目一番地

請求人 ウイリアム、コワーン
 右代理人 ウイリアム、シルプト、ホール

右ウイリアム、コワーンヨリ願書番號第三一五三四號汽罐給水清淨器及其他ノ清淨器特許願ニ對スル特
 許局審査官ノ拒絕再査定ニ服セス審判ヲ請求シタルニヨリ審理ヲ遂クル處
 請求人申立ノ要領ハ本件特許願ニ對スル明治三十八年十二月二十五日付ノ拒絕再査定ハ不當ナリト審
 決ヲ求ム其理由ハ審査官ノナシタル拒絕査定ノ理由ハ本願發明ハ本人カ西曆千九百四年七月二十六日米
 國政府ニ出願シ千九百五年五月二十三日第七九〇三四六號ヲ以テ特許ヲ得タルモノト同一ノ發明ナルコ
 トハ米國特許公報第百十六卷第四號ニ依リ明ナリ而シテ右ノ米國特許公報ハ明治三十八年六月二十日特
 許局圖書館ニ受ケ入レ特許局圖書館ハ圖書閱覽規程ニ從ヒ明治三十七年九月以降所藏圖書ヲ公衆ニ閱覽
 セシメ居ルヲ以テ本發明モ本出願前記米國特許公報ニ依テ帝國內ニ於テ公知ニ屬シタルモノニシテ即
 チ特許法第二條第四號ニ該當スルモノナリトシ且ツ審査官ハ前記米國特許公報ハ本願ノ第壹圖ト同一ノ
 圖面及請求範圍ヲ掲ケタルニ依リ容易ニ當業者ヲシテ本發明ノ要部ヲ知悉セシムルニ足ルト斷定セルモ
 凡ソ刊行物ヲ以テ發明ノ公知條件トナスニハ其記事又ハ圖面ニヨリ他人カ其發明ヲ實施スルニ足ルヘキ
 ヲ要スルモノナリ然ルニ前記米國特許公報ノ如ク本願ニ添付セル數圖面中ノ一圖ヲ揭示スルノミニシテ
 一モ其説明ヲ與ヘサルモノハ以テ其發明ノ構成ヲ知悉スルヲ得サルハ明ナリ又請求範圍ハ其發明ノ要點

ヲ舉クルモノニシテ敢テ發明ノ構成ヲ知悉セシムル性質ノモノニアラス故ニ右ノ米國特許公報ニヨリ本願ハ米國特許第七九〇三四六號ト同一ノ發明ナルコトハ或ハ之ヲ推定シ得ヘキモノ之ニ依リ其發明ヲ知悉スルコト出來得可カラサルモノト信ス次ニ今一步ヲ讓リ本發明ハ右米國特許公報ニヨリテ知悉セラルトスルモ審査官ハ如何ナル事實ニヨリテ右米國特許ノ内容カ本願出願前日本帝國内ニ於テ公知ニ屬セリト斷定セラル、ヤ凡ソ特許法ニ所謂公知公用ナル事實ハ或然の應定ニヨリ斷定セラル可キモノニ非スシテ若シ審査官ニ於テ公知公用ノ事實ヲ根據トシテ特許拒絕ノ查定ヲナサントスルトキハ具體的事實ヲ立證スルヲ要ス左レハ右米國特許カ帝國特許局ニ受入レラレタル書籍ニ記載シアルモ何時如何ナル人ニヨリ見讀セラレタリトノ具體的事實ヲ立證スヘキモノニシテ單ニ其書籍カ特許局圖書館ニ所藏セラル、カ故ニ公衆ニヨリ見讀セラレタル可シトノ或然の應定ニヨリ其内容カ日本帝國内ニ於テ公知ニ屬セリト斷定シ能ハサルノ理ナリ畢竟審査官ノ主張ニ對スル證據ハ確實ノ事實ニ據ラサル應測ニ過キサルヲ以テ其主張ハ不當ナリト云フニアリ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タストノ審決ヲ求ム其理由ハ請求人申立要領ノ第一ハ米國特許公報第百十六卷第四號中米國特許第七九〇三四六號ニハ本願ニ添付スル數圖面中ノ一圖ヲ揭示セルモノモ其說明ヲ與フルナシ此ノ如キ圖ハ此ニ說明ヲ添付シテ始メテ其要ヲ了解シ得ヘキモノ單ニ圖面ノミヲ以テハ其構成ヲ知悉スルコト能ハス又請求範圍ハ其發明ノ要點ヲ揭ケタルモノナレトモ敢テ發明ノ構成ヲ知悉セシムル性質ノモノニアラスト云フニアルモ該特許記事ノ標題ニ給水清淨器タルコトヲ明記シ且請求範圍ヲ列記シアルヲ以テ之ヲ圖面ト對照シテ閱讀スルトキハ自ラ當業者ヲシテ容易ニ其構造ヲ知ラシメ得ヘク假令微細ナル局部構造ヲマテ知悉セシムルニ足ラストスルモ此等ノ點ニ至リテハ設計ニ依リ適宜ニ變更スルモ支障ナシ即チ該記事ニ依リ事實上同發明ニ屬スル清淨器ヲ實施スルニ支障ナキ以上ハ該發明

ハ前記公報ノ記事ニ依リテ公知トナルヘキモノトス第二ハ凡ソ特許法ニ所謂公知公用ナル事實ハ或然の應定ニヨリテ斷定セラルヘキモノニアラス若シ審査官ニ於テ公知公用ノ事實ヲ根據トシテ特許拒絕ノ查定ヲナサントスルトキハ具體的事實ヲ立證スルヲ要ス然ルニ之レカ立證ヲナサスシテ公知ニ屬セリト斷定シタルハ不當ナリト云フニアルモ明治三十七年八月三十一日ノ官報ニ於テ公告セラレタル特許局圖書閱覽規程ニ依リ本件所爭ニ係ル米國特許公報ハ公衆ノ閱覽ニ供シ公衆ハ直チニ之レヲ閱覽シ其記事ヲ知リ得ル状態ニ置カレシヲ以テ從テ何人カ之ヲ閱讀シタルヤ具體的事實ノ舉證ヲ要セスシテ該公報ノ記事ハ本邦内ニ於テ公知ニ屬シタルモノト推定シテ拒絕シタルハ敢テ不當ニアラスト云フニアリ

仍テ本件ニ關スル一切ノ書類ヲ查閱シ審決ノ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ
 本件拒絕查定ニ對スル請求人ノ主張ハ審査官ノ援用セル米國特許公報ニハ本願ニ添付セル數圖面中ノ一圖ト其請求範圍トヲ掲載シタルノミニシテ一モ圖面ノ說明ヲ與ヘス又請求範圍ハ其發明ノ要點ヲ舉クルモノニシテ敢テ發明ノ構成ヲ知悉セシムル性質ノモノニ非サルヲ以テ前記米國特許公報ニ依リ本願ハ米國特許第七九〇三四六號ト同一發明ナルコトハ之レヲ推定シ得ヘキモノ之ニ依リテ其發明ヲ知悉スルコト能ハサルモノナリト云フニアルモ前記米國特許公報ハ之ニ掲載セル圖面ト其請求範圍トヲ對照通讀スルトキハ苟モ機械學ノ智識ヲ有スルモノニアリテハ其發明ヲ知悉シ之レヲ實施シ得ヘキ程度ニ記載セルヲ以テ該米國特許公報ニシテ帝國内ニ於テ公知ナリトセハ本願發明ハ公知ニ屬セリト認ムルヲ至當トス然ルニ前記米國特許公報ハ明治三十八年六月二十日特許局圖書館ニ受ケ入レラレ同圖書館ハ圖書閱覽規程ニ從ヒ其所藏圖書ヲ公衆ノ閱覽ニ供シアルヲ以テ前記米國特許公報ハ同館ニ受ケ入レ期日以後未タ何人ニモ閱讀セラレサルヲ確證アルニ非サレハ之ヲ以テ公知ニ屬セリト認ム可キモノトス故ニ本願發明ハ出願以前ニ於テ米國特許公報第百十六卷第四號ニヨリ公知ニ屬シ特許法第二條第四號ニ該當スルモノトノ

査定ハ不當ニ非ス

右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ

請求人申立相立タス

明治三十九年五月十一日於特許局

審判長 特許局事務官 中 松 盛 雄
 特許局技師 鈴木千代吉
 特許局事務官 肥田平次郎

第九百九十八號

福井縣福井市佐佳枝上町四十二番地

請求人 相馬 敦 末

東京市本郷區追分町三十一番地二號

請求人 田村 順之助

東京市神田區三崎町三丁目一番地

請求人 竹 内 又 藏

東京市京橋區山下町十四番地特許代理業者

右代理人 横田 千之助

右相馬敦末外二名ヨリ願書番號第三二〇五六號特許願ニ對スル特許局審査官ノ拒絕再査定ニ服セス審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ特許願第三二〇五六號ニ對スル明治三十九年一月十六日付ノ拒絕再査定ハ不當ナリト審決相成度其理由ハ本發明日ノ丸絲ノ漂白方法ハ從來ノ漂白法トハ全ク其工程ヲ異ニスルノミナラス其仕上ケノ工程ニ於テモ曩ニ提出シタル明細書及ヒ不服理由書ニ記載セルカ如ク從來世ニ行ハル、方法

トハ全ク其撰ヲ異ニスル所アリ蓋シ從來海外ニ於テ絹絲等ヲ并ヘテ之ニ「タラガントゴム」ヲ用ヒ帽子用眞田ノ原料トナスカ如キ方法アレトモ本願ノ如ク其纖維ノ固着法ニ付キ「ゼラチン」「グリソリン」「燒明礬」ヲ使用シテ或ハ細ク太ク或ハ扁平ニ其他自由自在ニ固着セシムルノ法ハ從來未タ曾テ行ハレサル所ナリ然ルニ本願ニ於ケル漂白法及仕上ケノ工程ハ普通ノ方法ニシテ特許法ニ所謂發明ト認ムルコトヲ得スト

査定シタルハ事實上法律上共ニ不當ノ査定ナリト思料スト云フニ在リ
 審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決セラレ度其理由ハ本願ノ如ク植物ノ葉蔓皮等ノ纖維ヲ原料トシテ織物編物等ヲ製スルコトハ普通世人ノ熟知スル所ナルノミナラス過「マンガ」酸加里ヲ漂白ニ用フルコトハ英國特許第一四六三七號（一八八五年）ニ依リ公知ニ屬シ又纖維ノ糊附ケニ「ゼラチン」「明礬」「グリセリン」ヲ使用スルコトハ英國特許第八四〇二號（一八八五年）ニ依リ公知ニ屬ス而シテ本願ハ前記英國特許ト全然同一ナル方法ニアラスト雖此等ノ公知事項ニ基キ容易ニ推考セラルヘキモノト認ムルカ故ニ特許法第一條ニ該當セストシテ拒絕シタルハ不當ニアラスト信スト云フニ在リ

仍テ本件ニ關スル一切ノ書類ヲ査閲シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
 本件特許願第三二〇五六號日ノ丸絲日ノ丸眞田日ノ丸織製造法ハ其明細書ニ依ルトキハ帽子眞田敷物窓掛卓子掛籠垂袋物肩掛「ネクタ」其他各種ノ織物ヲ製造スル原料トナスノ目的ヲ以テ「茗荷草」「マニラ」「草葉」「蘭芭蕉」「オシライソア」「豌豆蔓竹皮其他之ト同性質ノ草蔓類ノ纖維ヲ精選採集スルノ方法ニシテ前記纖維ヲ過滿俺酸加里液中ニ浸シ次ニ醋酸液ニ浸シテ漂白シ之ヲ洗滌乾燥シタル後「ゼラチン」「グリセリン」「燒明礬」ノ混合液ヲ以テ適宜ノ形狀ニ固着セシムルニ在リ然ルニ草蔓竹皮葉ノ纖維ヲ精選漂白シテ織物編物類ノ原料トナスノ考案ハ從來行ハル、所ニシテ本件方法ニ於テハ其漂白ニ過滿俺酸加里ヲ用ヒ後チ醋酸液ヲ以テ處理スルノ方法ヲ採ルモ過滿俺酸加里ハ斯ノ如キ纖維ノ漂白劑トシテ公知ニ屬スルコト審査官

ノ云フ所ノ如シテ酸液處理ニ於テ使用スル醋酸ハ又纖維漂白後段ノ處理劑トシテ普通ニ使用セラル、資料ナリ又所謂仕上ケ法ニ於テハ糊ヲ以テ絲ヲ固着シ平紐ヲ製スルト同一考案ニ基キ漂白纖維ヲ「ゼラチン」「グリセリン」燒明礬ノ混合液ヲ以テ適宜ノ形狀ニ固着スルニ在ルモ其資料ハ審査官ノ云ヘルカ如ク仕上ケ糊トシテ公知ニ屬スル所ナリ然ラハ本件方法ハ既知ノ考案ニ基キ纖維ノ漂白及仕上ケニ公知ノ資料ヲ選用シタルニ過キス其處理ノ工程ニ於テモ發明ヲ構成スルニ足ルモノト認ムヘキ點ナキヲ以テ特許局審査官カ之ニ對シテ特許ヲ與フヘカラスト査定シタルハ不當ニアラス

右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ

請求人申立相立タス

明治三十九年五月二十四日於特許局

第一千十號

英國倫敦市ハンズステッド、クンダーストロード三十一番 請求人 セバスティアン、ジアニド、フェランテ
東京市麹町區八重洲町一丁目一番地 右代理人 ウイリアム、シルヴァー、ホール
右セバスティアン、ジアニド、フェランテヨリ願書番號第三一一五四號「タービン」輪ニ羽ヲ鍛接スル方法特許願ニ對スル特許局審査官ノ拒絕再査定ニ服セス審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ前記特許願ニ對スル明治三十九年二月一日付拒絕再査定ハ不當ナリト審決セラレ度其理由ハ審査官ハ本願ト同一ノ發明カ本願出願以前ニ於テ既ニ公開セラレタル特許局圖書館ニ所藏セル公報ニ記載シタル以上ハ具體的立證ヲ要セス之ヲ公知ト云ハサルヲ得スト論スレトモ凡ソ特許法ニ所謂公知公用ナル事實ハ或然的臆定ニ依リ斷定セラルヘキモノニアラス假令本願ト同一ノ發明ヲ記載セル英國特許公報カ本願出願前ヨリ公開セラレタル特許局圖書館ニ所藏セラル、モ單ニ其所藏ノ事實ニ依リ公衆ニ依リ或ハ見讀セラレタル可シトノ推測ニ依リ其内容カ日本帝國内ニ於テ公知ニ屬セリト斷定スルハ適當ノ認定ニアラス次ニ又審査官ハ英國特許公報ニハ本願發明ノ性質及目的並ニ本願發明方法ノ主點ヲ記載シアリテ本願ノ全部ヲ容易ニ知悉スルコトヲ得ト斷定スルモ凡ソ刊行物ヲ以テ發明ノ公知ノ條件トナスニハ、其記事又ハ圖面ニ依リ他人カ其發明ヲ實施スルニ足ルヘキヲ要スルモノナリ然ルニ前記英國特許公報ノ如キハ明細書ノ一部ヲ拔萃セルノミニシテ假令本願發明ノ性質及目的並ニ其主點ヲ記載シアリトスルモ單ニ其要領ヲ發表セルニ止マリ本願發明ノ全部ヲ知悉セシメ他人ヲシテ其發明ヲ實施セシムルニ足ラサルヤ論ナシ從テ前記英國特許公報ノ記事ニ依リ本願發明カ其出願前公知ニ屬スルモノナリトナスヲ得サルモノナリト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決セラレ度其理由ハ特許局圖書閱覽規定第一條ニ依リ英國特許公報ヲ圖書館ニ備附ケ本邦内ニ於テ公ニ知ラレシメタル以上ハ何人カ之ヲ閱讀シタルニ付立證ヲ要セス其記事ノ公知ヲ推定シ得ヘキモノナリ又本願發明ノ目的ハ單ニ「タービン」輪ニ羽ヲ電氣的ニ鍛接スルニ當リ輪ノ羽ヲ鍛接スヘキ部分ノ容積ヲ減少シテ鍛接ノ際羽ト輪ノ鍛接部分トヲ可成同一溫度ニ熱セシメ電氣的鍛接ノ目的ヲ完全ナラシメントスルモノニシテ極メテ簡單ナルモノニ屬スルカ故ニ其方法タルヤ概括的説明ヲ以テ直ニ其全部ヲ知悉シ得ルモノナリ而シテ該特許公報ニハ前記ノ目的及其方法ノ一

タル本願添附ノ第九圖及其説明ヲ明確ニ記載セルノミナラス其他本願ニ記載セル方法及圖面ニ示ス處ノモノハ何レモ該公報ニ於テ概括的ニ其要旨ヲ記載シアルヲ以テ何人ト雖該特許公報ニ依リ容易ニ本願ノ全部ヲ知悉シ得ルモノト信スト云フニ在リ

仍テ本件ニ關スル一切ノ書類ヲ查閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

審査官ノ拒絕査定理由ノ第一點ニ對シ請求人ハ假令本願ト同一ノ發明ヲ記載セル英國特許公報カ本願出願以前ヨリ公開セラレタル特許局圖書館ニ所藏セラル、モ審査官カ其何人ニ依リ閱覽セラレタルヤニ付具體的立證ヲナサスシテ單ニ右所藏ノ事實ニ依リ其内容カ日本帝國内ニ於テ公知ニ屬セリト斷言スルハ不當ナリト云フト雖凡ソノ發明ノ内容カ其出願以前ニ於テ既ニ公然世ニ知ラレ又ハ用キラレ得ヘキ状態ニ在リタルトキハ即チ其公知公用ヲ認定シ得ヘシ然ルニ本願發明ノ要旨ハ審査官ノ云フカ如ク西曆千九百二年英國特許第一一九二一號トシテ同千九百四年發刊ノ英國特許公報ニ掲載セラレ而シテ該公報ハ明治三十七年十一月五日即チ本願出願以前ヨリ公開ノ特許局圖書館ニ於テ公然何人ヨリモ閱覽セラレ得ヘキ状態ニ在リタルモノナリ故ニ右ノ事實アリタルトキハ其何人ニ依テ閱覽知得セラレタルヤハ之レヲ問フヲ俟タスシテ其公知ヲ認定シ得ヘキモノト云フヘシ審査官拒絕査定理由ノ第二點ニ對シ請求人ハ前記英國特許公報ニ記載セル處ハ本願發明ノ要旨ニ過キスシテ依テ以テ其全部ヲ知悉スルニ足ラサルモノナリト云フト雖該公報ノ記事ニ就キ之ヲ案スルニ右ハ本願發明ノ性質目的並ニ施行ノ方法ニ關スル要點ヲ記載シタルモノニシテ之ヲ閱覽スルモノ、科學上ノ智識ヲ有スルモノナルニ於テハ其全部ヲ推究シ實施シ得ヘキ處ノモノナリ而シテ特許法ニ所謂公知トハ必スシモ普通一般人ノ知得ヲ必要トスルモノニアラスシテ該發明ニ關スル専門家並ニ當業者ノ之レヲ知得スルヲ以テ足レリトナスモノナルカ故ニ該公報ノ記事ニ依リテ本願發明カ其出願前公知ニ屬シタルモノナリト云フヲ得ヘキモノトス之レヲ要スルニ本

願發明ハ特許法第二條第四號ノ規定ニ該當スルモノニシテ審査官カ之ニ對シ特許ヲ與フヘカラサルモノナリト査定シタルハ不當ニアラス
右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
請求人申立相立タス

明治三十九年五月二十四日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 阪田貞一
特許局事務官 松田啓太郎
特許局事務官 人見次郎

第九百七十八號

東京市本所區向島須崎町十二番地 請求人 泉源太郎
東京市京橋區采女町二十一番地特許代理業者 右代理人 石原卯八
東京市本所區押上町百十六番地 被請求人 仲山莊三郎
東京市日本橋區通三丁目五番地特許代理業者 右代理人 柴崎守雄
右泉源太郎ヨリ仲山莊三郎ニ對シ第九七七三號綿布糊拔機特許ヲ無効トスル爲審判ヲ請求シタルニ依リ
審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要旨ハ特許第九七七三號綿布糊拔機ノ特許ハ被請求人仲山莊三郎カ明治三十八年十一月十六日ヲ以テ特許ヲ出願シ同年十二月六日附ヲ以テ登錄セラレタルモノナリ然ルニ右綿布糊拔機ハ請求人

カ考按ニ依リテ設計シ明治三十四年六月、十月及同三十五年一月ノ三回ニ各一臺ツ、製造シ請求人所有ノ本所區柳島横川町九番地泉染物工場ニ据附ケ爾來公ニ使用シツ、アル所ノ生地表簽即綿布糊拔機ト全然同一ナルカ故ニ該特許ハ特許法第二條第四號ニ該當スルモノニシテ同法第二十條ニ依リ當然無効タルヘキモノナリト然ルニ被請求人ハ請求人ノ染物工場門前ニ「縦覽謝絶」ノ看板ヲ掲出セルヲ以テ本件機械ハ公知公用ニアラスト謂フト雖工場ニ「縦覽謝絶」ノ看板アルハ極メテ普通ニシテ其意ハ「縦覽隨意」ナル勸工場ノ看板ト反對ノ意味ナレトモ絶對的拒絶ヲ意味セサルヲ以テ秘密ナリト謂フヲ得ス蓋シ工場ノ觀覽ハ就業上ニ幾多ノ不便アルヲ以テ一般人ニ對シテ謝絶スルヲ常トスルモ特別ノ事情アルモノニ對シテハ之ヲ許可スルモノニシテ泉染物工場ノ如キモ相當ノ紹介者アル場合營業上ノ得意先等ニ對シテ觀覽ヲ許可セルモノ數百人ニ下ラサルナリ又假ニ泉染物工場カ秘密ナリトスルモ其工場ニ据附ケアル器械ハ皆他ニ製造人アルモノニシテ數多ノ職工及監督者ハ皆之ヲ知レリ本件機械ノ如キモ請求人カ注文シ田中徳次郎ノ製造ニ係ルモノニシテ多數ノ人ニ知ラレ且使用セラレタルコト論ヲ待タス况ヤ本特許出願前泉染物工場以外ニモ玉川三郎カ製造シテ青木染工場ニ同一物六臺ノ多キヲ据附ケ使用セラレツ、アルニ於テオヤ此點ニ於テ被請求人ハ曰ク青木工場ニ右機械ヲ据附クルニ至リタルハ同工場ヨリ玉川淀ノ兩名ヲ通シテ被請求人ノ承諾ヲ求メ來リタルニ依リ可成廣ク且ツ充分ニ試験セン爲秘密ヲ守ルヘキ條件ヲ附シテ被請求人ハ之ヲ承諾シタルニ依ルモノナレハ之カ爲公知公用ノ事實アリト謂フヲ得ス假ニ公知公用ト謂フヲ得ルトスルモ試驗ノ爲メ二箇年以内ノ公知公用ナレハ毫モ本特許ノ效力ニ關スル所ナシト然レトモ玉川三郎カ青木工場ニ賣渡シタルハ公然ノ賣買ニシテ被請求人ト何等關係アルヲ見ス又假ニ被請求人申立ノ如キ事實アリトスルモ其ハ特許法第二條第四號ノ試驗ノ爲公知ニ屬スルモノ、範圍ニ屬セス何トナレハ本件機械ハ既ニ出願前泉工場青木工場等ニ於テ公ニ用キラレタルモノナレハナリ况ヤ泉染物工場

ニ於テ既ニ四年以前ヨリ公ニ使用セラレ居リタルニ於テオヤ又請求人ノ提出セル千住製絨所技師渡部謙吉及同所技手石坂正衛カ明治三十七年十月中泉染物工場ニ出張シタル際並陸軍被服廠附技師竹下直次郎カ明治三十八年二月以來職務ヲ以テ同工場ニ出張セル際共ニ右機械ノ同工場ニ於テ公ニ使用セラレツ、アリタリトノ書證ニ付被請求人ハ曰ク彼等ハ職務上該工場ニ出張シタルモノニシテ自己ノ自由意思ヲ以テ見聞シタルニアラス故ニ之カ爲公知公用ノ事實アリトスルニ足ラスト然レトモ自己ノ自由意思ニアラストスルモ本機械カ据附ケラレ使用セラレアルコトハ見聞シ得ヘケレハ特許出願前本件機械カ公ニ使用セラレツ、アル事實ヲ打消スノ理由トナルモノニアラス以上ノ理由ニ依リ特許第九七七三號綿布糊拔機ノ特許ハ無効トストノ審決ヲ求ムト謂フニ在リテ其申立ヲ確ムル爲甲第一號證乃至第九號證ヲ提出セリ被請求人答辯ノ要領ハ請求人ハ本件綿布糊拔機ハ從來自己ノ工場ニ据附アル生地表簽ト同一物ニシテ即特許出願前既ニ公知公用ニ屬シタルモノナリト主張スト雖請求人ノ染工場ハ明治三十一年開業以來其門前ニ「縦覽謝絶」ノ看板ヲ掲出シテ他人ノ工場内ニ入ルヲ嚴禁シ本件機械ハ勿論其他ノ諸機械器具ヲ秘密ニ使用シ遠來ノ修學旅行者ノ縦覽申込ヲスラ頑トシテ謝絶シ來レリ斯ノ如ク請求人ハ未タ曾テ其工場ヲ開放シテ他人ヲシテ任意ニ目撃スルコトヲ得セシムヘク本件機械ヲ使用シタリシ事實ナシ又請求人ハ千住製絨所技師渡部謙吉及同所技手石坂正衛カ明治三十七年十月中泉工場ニ出張シタル際並陸軍被服廠附技師竹下直次郎カ明治三十八年二月以來職務ヲ以テ同工場ニ出張セル際共ニ右機械ノ同工場ニ於テ公ニ使用セラレツ、アリタル旨ヲ記載スル書證ヲ提出シ以テ本件機械ノ特許出願前既ニ公知公用ニ屬シタルコトヲ證明セントスト雖モ千住製絨所技師等カ泉工場ニ出張シタルハ其仕事ノ指揮監督ノ爲ニ已ムヲ得ス出張シタルモノニシテ陸軍被服廠附技師モ亦其ノ職務上已ムヲ得ス臨檢シタルモノニシテ皆任意ニ本件機械ヲ臨檢シタルニアラス故ニ右技師等ノ本件機械ヲ目撃シタルコトハ個人トシテ任意ニ立入ルコト

ヲ得ル場所ニ任意ニ立入りテ當然目撃シ得ラル、モノヲ目撃シタル場合ト同日ニ論スルコトヲ得サルハ言ヲ埃タス故ニ右書證ハ以テ本件機械ノ公知公用ヲ立證スルニ足ラサルモノトス又請求人ハ假ニ泉工場カ秘密ナリトスルモ其工場内ノ器械ハ其製造人モ之ヲ知リ泉工場内ノ職工及監督者モ亦之ヲ知ルカ故ニ公知公用ナリト謂フト雖特許法上發明人ノ手足ト見ルヘキ機械ヲ使用セル職工等之ヲ知ルカ故ニ之ヲ以テ公知公用ト謂フヲ得サルヤ敢テ言ヲ埃タサル所トス又請求人ハ甲第七號證日本織物公報甲第八號證東京名物志及甲第九號證西健商報ヲ提出シテ本件機械ノ公知公用ヲ立證セントスト雖右等雜誌中ニ掲ケタル寫真版ハ元ト請求人方ニテ撮影セシモノヲ自己ノ營業廣告ノ爲登載セシメタルモノニ過キスシテ之カ爲本件機械ノ内容要部ハ毫モ公ニセラレタルニアラサルヲ以テ右等寫真版ハ以テ本件機械ノ公知公用ヲ立證スヘキ何等效力ナキモノトス又請求人ハ本件機械ハ自己ノ考按ニ係ルモノナルコトヲ申立ツルト雖モ右機械ハ實ニ被請求人ノ考按ニ成ルモノナルコト數多ノ證據ノ存在スル所ナリ請求人ハ甲第六號證ニ依リ本件機械カ特許出願前即明治三十七年十二月以後玉川三郎ヨリ青木工場ニ六臺賣渡サレ青木工場ニ於テ公然使用セラレタルモノナルコトヲ主張スト雖右賣渡使用ニ於テハ青木工場ハ玉川ニ玉川ハ淀ニ淀ハ被請求人ニ承諾ヲ求メタルニ依リ可成廣ク且充分ニ試驗セン爲ノ秘密ヲ守ルヘキ條件ヲ附シ被請求人ハ之ヲ承諾シタル次第ニシテ青木工場ニ於テハ現ニ秘密ニ之ヲ使用シツ、アルナリ故ニ玉川三郎カ六臺ノ本件機械ヲ特許出願前青木工場ニ賣渡セシ事實アルモ其ハ被請求人カ試驗ノ爲承諾セシモノナレハ之カ爲決シテ公知公用セラレツ、アリト謂フヲ得ス假ニ公知公用ト謂フヲ得ルトスルモ試驗ノ爲メ二箇年以內ノ公知公用ナレハ毫モ本件特許ノ效力ニ關スル所ナシ以上ノ理由ニ依リ請求人ノ申立相立タスト審決相成度ト謂フニ在リ而シテ其答辯ヲ確ムル爲乙第一號證乃至第六號證ヲ提出セリ

仍テ本件ニ關スル一切ノ書類及證據ヲ査閲シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

本件機械ニ對シ被請求人仲山莊三郎カ明治三十八年十一月特許ヲ出願シタル以前即明治三十四年以來請求人所有泉染工場ニ於テ本件機械カ使用セラレ居リタルコトハ双方共ニ爭ナシ被請求人ハ泉染物工場門前ニ「縦覽謝絶」ノ看板ヲ掲ゲタルヲ以テ同工場内ニ於ケル使用ハ秘密ノ使用ナリト抗辯スト雖請求人提出ニ係ル甲第六號證明治三十七年三月十日發行織物公報第三號甲第七號明治三十五年八月三十一日發行東京名物志及甲第八號證明治三十八年八月五日發行西健商報第四十三號ニ同工場内機械ノ寫真ヲ載セタルニ徵スルモ右等寫真ハ其機械ノ全部ヲ示スニ足ルモノニアラスト雖請求人カ其工場内ヲ全然秘密ニ附シタルモノニアラサルヲ知ルヘク依テ請求人ノ工場門前ニ「縦覽謝絶」ノ看板ヲ掲ゲタルハ全然工場内ヲ秘密ニスルノ趣旨ニ出テタルモノニアラスト單ニ工場内ノ作業ニ對シ妨害ヲ避クル爲普通觀覽者ヲ謝絶シタルモノト認ムルヲ相當トス斯ノ如ク本件機械カ其特許出願前ニ於テ特ニ秘密ニ關スル設備ナク工場内ニ於テ營業上使用セラレタルトキハ之ヲ公然ノ使用ト看做サ、ルヘカラス以上ノ理由ニ依リ本件機械ハ被請求人カ特許出願以前既ニ公知公用ニ屬シタルモノニシテ特許法第二條第四號ニ該當スルモノナルヲ以テ同法第二十條ニ依リ無効タルヘキモノトス其他請求人及被請求人ニ於テ種々陳辯スル所アリト雖モ本件審決ニ必要ナキヲ以テ説明ヲ與ヘス

右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ

第九七七三號綿布糊拔機特許ハ無効トス

明治三十九年六月十四日於特許局

審判長 特許局事務官 中 松 盛 雄
 特許局技師 鈴木千代吉
 特許局事務官 肥田平次郎

三重縣飯南郡松坂町大字殿町七十六番屋敷

請求人 白 杵 隆 吉

右白杵隆吉ヨリ願書番號第三〇六八七號自轉導風機特許願ニ對スル特許局審査官ノ拒絕再査定ニ服セス
審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ前記拒絕再査定ハ不當ナリト審決相成度其理由ハ該査定書ニ本願ノ如ク聚風筒ノ内
部ニ支柱ヲ設ケ其ノ支點ニ於テ自由ニ回轉スヘクナシ置キ之ニ漏斗狀ノ受風口ヲ連結シ此ノ開口ヲシテ
常ニ風向ニ向ハシムルタメ聚風筒ノ上部ニ風針板ヲ裝置シタル導風機ハ本願出願前西曆千八百六十八年
英國特許第三八一二號ニ依テ公知ニ屬セル所ニシテ本願ニ於テハ特ニ上輪(ハ)下端(ホ)圓線柱(ニ)等ノ
骨組ニ布片ヲ以テ受風布聚風筒等ノ圍壁ヲ構成シタリト雖布片ヲ用キテ導風機ノ側壁トナスコトハ大阪
等ニ於テ普通ニ行ハル、所ニ係リ云々トアルモ審査官ノ所謂英國特許第三八一二號ハ何等ノ名稱ヲ有セ
サル導風機ナルヲ以テ本願ノ自轉導風機ナル有名稱導風機トハ全ク別物タルコト明瞭ナルノミナラス茲
ニ「特ニ」トアリテ上輪(ハ)下輪(ホ)圓線柱(ニ)等ノ骨組ニ云々ト説キ及ヒタルハ審査官自ラ本願ト英國
特許トハ別構成ナルヲ證セルモノナリ又導風機ニ布片ヲ用フルハ大阪等ニ於テ既ニ普通ニ行ハル、所ニ
係リ云々ト言フモ如何ナルモノニ如何ナル用キ方ヲ爲セルモノナルヤ明カナラサルノミナラス是レ亦無
名稱ニシ本願トハ別物ナルコト明カナリ又審査官ハ(ハ)(ホ)(ニ)等ノ骨組ノ如キモ常人ノ容易ニ設計シ
得ルトコロナルヲ以テ考按構成共ニ何等發明ヲ構成スル點ナキモノナリト言フモ凡ソ一物ヲ創造スルノ
難事ナル一畫一線ト雖幾歲月ヲ要スヘキモノナルニ審査官ハ何等ノ根據ナク漫然常人ノ容易ニ設計シ得
ルモノトシテ拒絕シタルハ不當ナリ又審査官ハ導風機ノ一種「ヴエンチレーター」ニ關スル工學上ノ知識

ノ進歩ハ本願ノ如キモノヲ容易ニ何人ニモ設計シ得ルニ至ラシメタルヲ以テ本願ハ何等發明ヲ構成セル
點ナキモノ云々ト説クモ「ヴエンチレーター」ハ通風器、送風器等ノ意義ニシテ窓、團扇、唐箕ノ如キハ其
ノ一種ナリ斯ノ如キ簡單ナルモノ、知識ヨリ本願ノ自轉導風機ノ如キ複雜精妙ナル機械カ何人ニモ容易
ニ設計シ得ラルヘキ理由ナシト云フニ在リ而シテ請求人ハ自轉導風機ノ最先發明者ナルヲ證スル爲同人
カ同導風機ニ對シ同人カ明治十八年十月二日付ヲ以テ專賣特許條例ニ從ヒ專賣特許ヲ出願セシ始末ヲ陳
述セリ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決相成度其理由ハ第三〇六八七號特許願ノ自轉導風機ハ發
明ヲ構成セサルコト明治三十九年一月二十九日付拒絕査定書ニ述ヘタル所ノ如シト云フニ在リ
仍テ本件ニ關スル一切ノ書類ヲ査閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

本願自轉導風機カ特許法第一條ニ規定シタル發明ヲ構成スルヤ否ヤヲ決スルニハ一、導風機ノ受風口ヲ
シテ風針板及支柱ノ手段ニヨリ自轉的ニ常ニ風向ニ向ハシムヘクナシタル考案カ新規ナルヤ否ヤ二、前
記考案ヲ實行スル爲施シタル構造ニ新規發明ト認ムヘキ點アルヤ否ヤヲ考究スルヲ要ス審案スルニ本願
ノ如ク導風機ニ於ケル聚風筒ノ上部ニ風針板ヲ設ケ又其ノ内部ニ支柱ヲ設ケテ其ノ支點ニ於テ自由ニ回
轉スヘクナシ之ニ漏斗狀受風口ヲ連結シ此ノ受風口ヲシテ風針板ニ受クル風力ニヨリ自轉的ニ常ニ風向
ニ向ハシムヘクナシタル考案ハ數十年前ヨリ歐米ニ於テ普通ニ行ハル、トコロニシテ審査官ノ援用セル
西曆千八百六十六年英國特許第三八一二號等ニ徵スルモ此ノ事實ヲ確ムルニ足ルモノトス其ノ構造ニ於
テハ前記英國特許ト相違スルトコロアリト雖斯ノ如キハ機械學上明ニ均等ノモノニシテ發明ト認ムルコ
ト能ハサルモノトス請求人ハ聚風筒受風口等ヲ形成スルニ布片ヲ使用シタリト雖導風裝置ニ布片ヲ用フ
ルコトハ本願出願以前ヨリ普通ニ行ハル、コト審査官引例ノ如クナルヲ以テ是亦發明トナスニ足ラス要

スルニ本願ハ考案構造共ニ特許法第一條ニ該當スル發明ト認ムヘキ點ナク審査官力之ニ對シ拒絕ノ査定ヲ爲シタルハ不當ニ非ス其他請求人ニ於テ陳述スルトコロアルモ本審決ニ關係ナキヲ以テ説明ヲ與ヘス右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
請求人申立相立タス

明治三十九年七月二日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 阪田 貞一
特許局事務官 中松 盛雄
特許局技師 鈴木千代吉

第九百七十九號

東京市本郷區駒込千駄木町二百六番地 請求人 吉田 亮
東京市京橋區榮女町二十七番地特許代理業者 右代理人 木 戶 傳
東京市日本橋區本町二丁目十九番地 被請求人 龜澤 半次郎
熊本市上鍛冶屋町十一番地 被請求人 岡 本 子 之 吉
東京市本郷區本郷三丁目十七番地特許代理業者 右代理人 飯 田 夙 次
右吉田亮ヨリ龜澤半次郎外一名ニ對シ第九〇九九號客車燈特許ヲ無効トスル爲審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處
請求人申立ノ要領ハ特許第九〇九九號客車燈ハ其ノ出願前已ニ公知公用ニ屬シ特許法第二條第四號ニ該

當スルヲ以テ同法第二十條ニ依リ無効ナリト審決ヲ求ム其理由ハ該特許客車燈ノ特許請求範圍ハ一、外周ニハ環狀ノ溝(チ)ヲ穿テ溝(チ)ニハ其下緣部ニ凹溝(ヨ)(ヨ)ヲ相對シテ設ケ凹溝(ヨ)(ヨ)ノ中間ニ於テ溝(チ)ニハ下端ニ達セル縱溝(タ)(ヌ)ヲ相對シテ設ケ縱溝(ヌ)ニ接シテ溝(チ)ニハ反對隅ニ境界(タ)ヲ設ケタル緣金(ロ)ト内周面ニハ相對シテ突起(ハ)(ハ)ヲ設ケ緣金(ロ)ニ嵌着シテ燈器ヲ支載セシムヘクナシタル受皿(ニ)ト硝子製外覆ノ下部ニ具ヘ以テ激動ヲ受クルモ燈器ヲ落下セサラシムヘクナシタル客車燈ニ、硝子製外覆(イ)ハ緣金(ロ)ノ上緣ニ嵌合セシメ該緣金(ロ)ハ數個ノ支杆ニ依テ上部ノ覆筒(ク)ニ連繫シ覆筒(ク)内ニハ押蓋(カ)ヲ取外シ得ヘク定着シ押蓋(カ)外覆(イ)間ニハ螺狀彈機(ム)ヲ設ケ該彈機(ム)ニ依テ外覆(イ)ヲ壓下シ外覆(イ)ヲシテ緣金(ロ)ニ壓着セシムヘクナシタル客車燈ナルコト明治三十八年七月二十八日發行ニ係ル特許公報第九百六號ニ掲載ノ該特許ノ明細書ニヨリ明ナリ又該特許ノ出願ハ明治三十八年六月二十七日ナルコト同特許公報ニ明記スルトコロナリ然ルニ本件特許客車燈ハ其ノ特許出願前公知公用ニ屬シタルモノニシテ其ノ事實ヲ舉クレハ一、本件特許請求範圍第一項記載ノ構造ト同一ナル甲第一號證ノ客車燈ハ明治三十八年六月二十七日以前ヨリ鐵道作業局ニ於テ購入シ之ヲ東海道線各列車ニ使用シツ、アルノ事實ハ甲第五號證ニヨリ明ナリ二、本件特許請求範圍第一項及第二項記載ノ構造ヲ合用シテ成レル甲第二號證ノ客車燈ハ日本鐵道株式會社ニ於テ明治三十八年六月二十七日以前ニ之ヲ購入シ同社ノ各線列車ニ實用ニ供シツ、アル事實ハ甲第六號證ニヨリ明ナリ三、本件特許客車燈ノ請求範圍第二項ニ記載ノ構造ハ特許第八八七三號汽車燈ニ具備スルコト該特許汽車燈ノ明細書附屬圖面ニヨリ明ナリ而シテ該明細書及圖面ハ明治三十八年六月六日發行ノ特許公報第八百八十九號ニ掲載セラレタルヲ以テ前記客車燈請求範圍第二項記載ノ構造ハ其ノ特許出願日即チ明治三十八年六月二十七日以前ニ於テ已ニ公知ニ屬セリ四、本件特許ノ請求範圍全部ト全然同一ナル構造ハ特許第八八

七三號汽車燈ノ見本ニ悉皆具備セリ而シテ此ノ見本ハ明治三十八年五月二十九日特許品陳列所ニ陳列シタルコト甲第三號特許局證明書ニ依リ明確ニシテ其陳列ノ日ヨリ以後引續キ公衆ノ縦覽ニ供セラレ本件特許ノ出願日即チ明治三十八年六月二十七日以前ニ於テ已ニ公知ニ屬シタルモノトスト云フニ在リテ其ノ主張ヲ確ムル爲メ甲第一號證乃至甲第六號證ヲ提出セリ

被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決ヲ求ム其ノ理由ハ請求人ハ被請求人所有ノ特許第九〇九九號客車燈ヲ以テ其出願前公知公用ニ屬シタルヲ以テ特許法第二條第四號ニ該當シ無効タルヘキモノナリト主張スルモ特許法第二條第四號ハ其ノ明文ヲ示ス如ク假令公知ニ屬シタル發明ト雖試驗ノ爲メ二年以内公知ラレタルモノハ此限リニアラスト追規セラル是レ即チ特許出願前秘密ニ試驗シ能ハサル物品ニ對シテ特ニ保護ヲ與フルモノナルコト論ヲ俟タスシテ明白ナリ本件特許發明モ試驗ノ爲メ自ラ公知ニ屬シタル事實ナルヲ以テ其ノ始末ニ付陳述セン

被請求人ハ本件特許ノ原特許第六三六一號客車燈成立後幾多實驗ノ結果トシテ尙其不完全ナルコトヲ發見シ種々考按ノ結果第一着手トシテ燈器ノ受皿ノ部分ヲ本件特許請求範圍第一項記載ノ如ク改造シ偶々鐵道作業局ヨリ原特許第六三六一號客車燈ノ修繕ヲ命セラレタルヲ好機トシ該局ニ向テ試驗ニ供セラレシコトヲ乞ヒ明治三十六年十二月頃即チ本件特許出願ノ日ヨリ凡一年半前初メテ試驗ノ爲メ自ラ公知トナラシメタルモノナリ其ノ後被請求人ハ又外覆ノ部分ニ付テ缺點ヲ見出シ之カ改造トシテ該部分ヲ本件特許請求範圍第二項記載ノ如クナシ明治三十七年十月即チ本件特許出願ノ日ヨリ凡ソ八箇月前日本鐵道會社ニ向テ試驗ニ採用セラレシコトヲ乞ヒ本件特許明細書ニ記載セル請求範圍第一項及第二項ノ構造ヲ湊合セル客車燈ヲ新ニ製造シ試驗ノ目的ニ於テ之ヲ該社ニ上納セリ斯ノ如ク本件特許ノ成立ハ數次ノ沿革ヲ有シ出願前自ラ公知ナラシメタリト雖其目的タル試驗ノ爲メニシテ而モ其公知ノ期間二年以上ヲ經

過セルモノニアラス故ニ請求人主張ノ第一點及第二點ハ本件特許ヲ無効タラシムヘキ理由トスルニ足ラス又請求人ハ本件特許ト之ト同一構造ナル河崎鐵藏所有特許第八八七三號汽車燈トハ兩者互ニ撞着シ而シテ河崎鐵藏ハ本件特許出願其ノ構造ヲ特許公報第八八九號及特許品陳列所ニ提出セル見本ニ於テ公知ナラシメタリト論セリ然レトモ其ノ然ル所以ハ敢テ不可思議ニアラス元來被請求人ノ關係セル久美商會ヨリ前段論述セル如キ試驗用トシテ本件特許ノ見本製作ヲ河崎鐵藏ノ支配セル製造館工場ニ委託セルコトアリ然ルニ河崎鐵藏ナル者ハ本件特許ヲ窃用シテ我慾ヲ滿サンカ爲實用及效力共ニ絶無ナル蛇足ヲ本件特許ト同一構造ノ汽車燈ニ加ヘ僅ニ人目ヲ瞞着シテ特許ヲ得タルニ過キス斯ノ如ク不法ノ理由ヲ以テ本件特許ヲ無効タラシムルコト能ハスト云フニ在リテ其事實ヲ確ムル爲メ乙第一號證及乙第二號證ヲ提出セリ

仍テ本件ニ關スル一切ノ書類及證據ヲ查閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
本件特許第九〇九九號客車燈ハ其ノ特許出願以前鐵道作業局及日本鐵道株式會社所屬線路ノ列車ニ使用セラレタル事實並ニ本件特許客車燈ト同一構造ヲ有スル特許第八八七三號汽車燈ハ本件特許ノ出願前ニ於テ特許公報ニ掲載セラレ且其ノ見本ハ明治三十八年五月二十九日以來特許品陳列所ニ陳列セラレアルノ事實ニ關シテハ双方ノ陳述相一致セリ而シテ被請求人ハ鐵道作業局及日本鐵道株式會社ニ於テ使用セル客車燈ハ試驗ノ目的ヲ以テ被請求人ヨリ其ノ採用ヲ請求シタルモノナルカ故ニ前記ノ事實ニ基ク公知ハ特許法上ニ所謂試驗ノ爲メ公知ナリト論辯スト雖斯ノ如ク營業上公ニ使用セラレタル物品ニ對シ被請求人ハ試驗ノ爲メ之ヲ使用シタリト立證ヲ爲サ、ルヲ以テ普通一般ノ使用ト認ムルノ外ナシ又被請求人ハ特許第八八七三號汽車燈ハ元來被請求人ノ關係セル久美商會ヨリ試驗用トシテ本件特許ノ見本製作ヲ河崎鐵藏ノ支配セル製造館工場ニ委託シタルニ河崎鐵藏ハ本件特許ヲ窃用シ之ニ些少ノ部分ヲ加ヘテ

特許ヲ得タルモノナルカ故ニ特許第八八七三號汽車燈ノ公知ハ試驗ニ基ク公知ナリト主張シ其證據トシテ乙第一號證及乙第二號證ヲ提出セリト雖モ該證ニ據リ久美商會ヨリ製造館ニ客車燈ノ製作ヲ命シタルハ之ヲ認メ得ルトスルモ該客車燈ハ本件特許ノ客車燈ナルヤ否ヤ明ナラサルノミナラス該證ニ據リテハ試驗ノ爲ナリトノ被請求人ノ主張ハ認ムルヲ得ヌ要スルニ本件特許客車燈ノ公知ハ試驗ノ爲メノ公知ナリトノ被請求人ノ主張ハ其ノ證據ナキヲ以テ之ヲ認ムルヲ得ヌ從テ本件特許ハ特許法第二條第四號ニ該當スルモノトス

右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
本件特許第九〇九九號客車燈ノ特許ハ無効トス
明治三十九年七月三日於特許局

審判長 特許局事務官 中松盛雄
特許局技師 鈴木千代吉
特許局事務官 肥田平次郎

第九百八十九號

東東京市京橋區新富町六丁目十番地
東東京市本郷區本郷三丁目十七番地特許代理業者
東東京市下谷區上野櫻木町二十九番地
東東京市京橋區采女町二十七番地特許代理業者

請求人 川瀬鍛策
右代理人 飯田鈞次
被請求人 河崎鐵藏
右代理人 木戸傳

右川瀬鍛策ヨリ河崎鐵藏ニ對シ第八八七三號汽車燈特許ヲ無効トスル爲審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ特許第八八七三號汽車燈ハ特許法第一條ニ違反スルモノナルヲ以テ無効ナリト審決ヲ求ム其ノ理由ハ元來本件汽車燈ハ龜澤半次郎及岡本子之吉兩人ノ發明ニ係リ其ノ意ヲ受ケ請求人カ管理スル久美商會ニ於テ試驗ノ爲被請求人ニ命シテ製作セシメタルニ被請求人ニ於テ僅ニ其ノ些細ナル一部ニ變更ヲ加ヘ之カ特許ヲ出願シ僥倖ニモ許可ヲ得タル事實ナリトス而シテ其ノ得タル本件特許ノ請求範圍ハ其ノ明細書ニ據ルトキハ要スルニ緣金ト油壺トノ間ニ螺旋狀彈機ヲ設ケ其ノ壓迫ニ依リ油壺ノ震動ヲ防止スル一部ノ構造ニアリテ他ハ悉ク久美商會ニ於テ製造セシメタル客車燈ノ構造ヲ利用セサレハ到底實施スルコト能ハサルモノナリ抑モ特許法ノ所謂發明ナルモノハ新規有益ノ條件ヲ具備セサル可カラサルハ勿論其有益タルヤ必ス現實的的特殊ノ效果ヲ奏スルモノナラサル可カラス然ルニ本件特許ハ油壺ノ震動ヲ制止スルノ外ニモ特殊ノ效果ヲ奏スルナキハ其ノ明細書ニ見ルモ瞭然タリ而シテ油壺ノ震動ヲ防止スル爲螺旋狀彈機ヲ使用スルコトハ遠ク既ニ特許第六三六一號客車燈ニ於テ公知公用ニ屬スルヲ以テ新規ト云フヲ得サルハ勿論爲メニ生スル結果ノ如キモ決シテ特殊ノ效果ト云フヲ得ヌ何トナレハ只上部ニ設ケタル螺旋狀彈機ヲ下部ニ移シタルニ過キスシテ其ノ精神ニ至リテハ二者全然同一ナレハナリ然ルニ被請求人ハ其ノ明細書ニ於テ強テ特殊ノ效果ヲ粧ハンカ爲其ノ目的中ニ「汽車進行中油壺受ノ震響ヲ發シ甚シキニ至テハ外レ落ル如キ患ナキ」ト云ヘル效果ノ如キハ請求人カ被請求人ニ製作セシメタル客車燈ノ已ニ達スル目的ニシテ該客車燈ニ於テモ決シテ外レ落ル如キ患ナケレハ是レ毫モ新效果ト爲ヌヲ得ヌ又「火屋ノ上端ヲ壓スル彈機ノ力ヲ強クスル必要ナケレハ從テ火屋ノ破損スル恐少ナク」ト云フト雖凡ソ物ハ縱ニ壓ス力ニ強ク耐フルハ理學上當ニ然ルヘキモノナルカ故ニ縱壓力ノ爲ニ火屋ノ破損ヲ來スカ

如キハ絶無ノ事實ナリトス尙ホ「萬一火屋ノ破損スルコトアル場合ニモ油壺ノ跳動セサル結果トシテ油ノ漏出スル患ナカラシムルヲ得ルニ在リ」ト云フモ特許第六三六一號客車燈ニ於テモ其ノ一部ニ受皿ヲ設ケタルニ依リ油ノ漏出スル患ナク本件特許ノ如ク螺狀彈機ヲ設ケルノ必要ナクシテ已ニ業ニ完全ニ防
止シ得ルモノナリ要スルニ本件汽車燈ハ特許法上真正ナル特殊ノ效果ヲ生スヘキ實利益ヲ奏スル發明ト
謂フヲ得サルヲ以テ發明ノ要素タル有益ノ條件ヲ缺クハ勿論又螺狀彈機ヲ使用スルコトハ已ニ特許第六
三六一號客車燈ニ於テ公知ニ屬スルヲ以テ新規ノ條件ヲモ具備セサルモノナリトス故ニ本件特許第八
七三號汽車燈ハ特許法第一條ニ違反スルモノナルヲ以テ無効タルヘキモノナリト云フニ在リ
被請求人答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決ヲ求ム其ノ理由ハ本件審判請求ノ理由ハ一、彈機ヲ以
テ物ヲ壓迫シ其ノ震動ヲ制止スル如キハ所謂普通ノ考案ニシテ已ニ特許第六三六一號客車燈ニ於テ公知
ニ屬スルヲ以テ本件特許ハ新規ニアラス二、本件特許ハ有益ノ條件ヲ缺クヲ以テ特許法第一條ニ違反ス
ト謂フニ在リ然ルニ特許第六三六一號客車燈ニ於ケル彈機應用ノ考案ト本件特許ニ於ケル彈機應用ノ考
案トハ兩者ノ明細書及圖面ヲ對照セハ其ノ精神ノ遙カニ異ルコト何人モ容易ニ認メ得ヘキヲ以テ此ノ點
ニ對シ敢テ詳細辯駁スルノ要ナシト雖請求人ノ陳述中甚シキ誤謬一二ニ付説明スレハ本件特許明細書ノ
目的中ニ「汽車進行中略萬一火屋カ破損スルコトアル場合ニモ油壺ノ跳動セサル結果トシテ油ノ漏出ス
ル患ナカラシムルヲ得ルニ在リ」ト記載シタルニ對シ是レ牽強附會ナリト云フト雖本件特許ノ構造ニ依
ルトキハ火屋ノ上端ヲ壓スル彈機ノ力ヲ強クスルノ必要ナク從テ火屋ノ破損スル恐レ少キハ事實ナリ之
ニ反シ特許第六三六一號ニ於テハ火屋カ破損シタルトキハ油壺ハ跳動シ油ハ漏出シ受皿ハ動搖シテ遂ニ
外レ落ツル恐レアルハ事實ナリ請求人ハ火屋ノ破損ヲ來スカ如キハ實際有リ得ヘカラサルモノナリト云
フト雖「ランブル」ノ火屋カ使用中ニ破損スルコトアルハ極メテ明瞭ナル事實ナリトス請求人ハ又凡ソ物ハ

縦ニ壓スル力ニ強ク耐ヘラル、ハ理學上當ニ然ルヘキモノナリト云フト雖硝子ヲ以テ造レル火屋ハ熱ヲ
受クレハ膨脹スルコトハ眞實理學上ノ原則ナリ故ニ火屋ノ上端ヲ壓スル彈機ヲ強クスルトキハ火ヲ點シ
タル後ニ於テ火屋ハ自己ノ膨脹ニ對スル彈機ノ抵抗力ヲ受ケテ其ノ分子内ニ不當ノ内力ヲ生起スヘク而
シテ分子内ニ不當ノ内力ヲ生起スルトキハ僅ノ震動ニヨリテ往々破損スルコトアルハ事實爭フヘカラス
故ニ請求人ノ縱壓力耐強論ハ熱學ノ原則ト材料力學ノ原則トニ適合セサル論ナリトス從テ請求人ノ請求
ハ其ノ理由ナキモノナリト云フニアリ

依テ本件ニ關スル一切ノ書類ヲ查閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

本件特許第八七三號汽車燈ノ發明トスルトコロハ要スルニ緣金ノ上緣ト油壺トノ間或ハ油壺ト受皿ト
ノ間ニ螺狀彈機ヲ設ケ其ノ壓力ニ依リ火屋ノ有無ニ關係ナク油壺ヲシテ其ノ位置ニ固定セシムルニ在ル
コト其ノ明細書ニ依テ明ナルノミナラス當事者双方ニ於テモ之ヲ承認セリ請求人ハ本件汽車燈ノ如ク螺
狀彈機ヲ以テ油壺ノ動搖ヲ防止スル裝置ハ本件特許出願前已ニ公知ニ屬セル特許第六三六一號客車燈ニ
具備スルトコロニシテ該客車燈ニ於ケル上部ノ螺狀彈機ヲ本件汽車燈ニ在リテ之ヲ下部ニ移轉セシメタ
ルニ過キス其ノ實益的效果ニ於テモ彼是異ルトコロナシト論スルモ特許第六三六一號客車燈ニ於テハ螺
狀彈機ヲ火屋ノ上部ニ設ケ火屋ヲ通シテ油壺ヲ壓迫スヘキ裝置ナレハ萬一火屋ノ破損セル場合ニ於テハ
油壺ハ其ノ受クル壓力ヲ失ヒ動搖スヘキハ明ナルモ本件汽車燈ハ前記ノ如キ構成ニシテ油壺ハ單獨ニ緣
金ト受皿トニ成ル室中ニ固定セラル、ヲ以テ火屋カ破損スルモ油壺ニ動搖ヲ來タスコトナキハ理ニ於テ
明ナリ故ニ特許第六三六一號客車燈及本件特許第八七三號汽車燈ニ於テハ各彈機ノ應用ヲ異ニスルモ
ノニシテ其ノ效果ニ於テモ彼是ヲ區別スルニ足ル依テ特許第八七三號汽車燈ハ之ヲ無効トスル理由ナ
キモノトス

右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
請求人申立相立タス

明治三十九年七月三日於特許局

百四十二

審判長 特許局事務官 中松盛雄
特許局技師 鈴木千代吉
特許局事務官 松田啓太郎

第九百八十號
第九百八十一號

東京市下谷區仲御徒町三丁目五十九番地
東京市京橋區宗十郎町一番地特許代理業者
神奈川縣三浦郡橫須賀町旭二十六番地
東京市京橋區木挽町九丁目三十一番地特許代理業者
東京市京橋區木挽町九丁目三十一番地特許代理業者
東京市京橋區八官町八番地特許代理業者
東京市京橋區山城町十四番地特許代理業者
請求人 杉浦宗三郎
右代理人 岸清一
被請求人 吉田虎六
右代理人 早川鐵治
右代理人 南部皆治
右代理人 宮田四八
右代理人 太田資時
右杉浦宗三郎ヨリ吉田虎六ニ對シ第八五九八號及第七七九八號改訂特許ヲ無効トスル爲審判ヲ請求シタルニ依リ右兩事件ヲ併合シ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ被請求人所有ノ第八五九八號特許及第七七九八號改訂特許ハ無効トスト審決相成度其ノ理由ハ被請求人ノ所有ニ係ル攝氏二百七十度以上ノ沸騰點ヲ有スル原油ト「ナフサリン」トヲ混和加熱シテ溶解セシメタル木材防腐劑ノ其ノ組成分子タル原油カ木材防腐ノ效力ヲ有スルコトハ公知ノ事實ニシテ又「ナフサリン」カ一般ニ防腐劑トシテ使用セラル、コトモ公知ノ事實ナリ從テ是等兩劑ノ合劑ハ木材防腐ノ效力ヲ有スルコトハ勿論ニシテ斯ノ如キ合劑ハ畢竟公知ノ湊合ニ外ナラスシテ之ヲ以テ發明ナリト指稱スルコトヲ得サルハ明ナリ而シテ前記兩劑ヲ融合スルニ本件特許カ採ルカ如ク之ヲ混和加熱シテ溶解セシムルカ如キハ固形物ヲ流動物ニ溶解セシムル爲普通人カ常ニ採ル所ニシテ新規ナル發明ニ非ルコト亦多言ヲ要セス從テ本件第八五九八號特許ハ特許法第一條及第二條ニ違反スル無効ノモノナリ被請求人ハ本件特許品ヲ合成スル資料ノ效力ハ各自公知ニ屬スト雖之ヲ合成シテ製シタル新規ナル製品ハ能ク合成資料カ各自單獨ニテハ奏スルコト能ハサル特殊卓絶ノ效力ヲ有シ且其ノ合成タルヤ未知ニ屬スルヲ以テ請求人主張ノ如ク無効ノモノニ非スト論スルモ其所謂特殊卓絶ノ效力トハ自家獨斷ノ誇張ニ過キスシテ何等ノ根據アルコトナシ元來各自單獨ニテ防腐ノ效アリトシテ公知ニ屬スルモノヲ單ニ混合シタルノミニテハ特許品ヲ構成セサルモノニシテ現ニ審判第九二四號及第九二五號事件審決ノ理由ニ徴スルモ請求人ノ論旨ハ特許局ノ判示セラレタル所ニ一致セリ然ルニ被請求人ノ使用スル原油カ單獨ニ木材防腐ニ使用セラル、事ハ公知ニ屬シ「ナフサリン」ニ於テモ亦然リ而シテ此兩資料ヲ混合スルモ化學的變化ヲ起シ一新防腐劑ヲ形成スルコトナシ「ナフサリン」ナキモ原油ハ防腐ノ用ヲ爲シ原油ナキモ「ナフサリン」ハ防腐ノ用ヲ爲スヘシ故ニ兩者ヲ混合シタルモノハ恰モ原油ニ「クレオソート」油ヲ混和シタル場合ト同一視セサルヘカラス然ラハ公知資料ノ湊合ニ外ナラスシテ結局特許品タルヲ得サルモノナリ元來「ナフサリン」ハ揮散性ノモノニシテ常溫度ニ於テモ斷ニス揮散スルモノナリ之ヲ木材防腐ニ應用シタ

百四十三

ルトキモ外面ヨリ次第ニ揮散シ終リニ内部ニ及ホスコトアルハ諸大家ノ説トシテ著書ニ散見スル所ナリ
 又被請求人ハ微生物ノ發生及襲撃ヲ豫防スル性質ヲ特ニ「ナフサリン」ニノミ歸スルカ如クナレトモ這ハ
 「ナフサリン」ノ獨有性ニ非ス原油ト雖此特性ヲ有スルコト等ヲ可ラサル事實ナリ即チ原油ニ「ナフサリ
 ン」ヲ混和スルモ原油ノ性質ニ何等新ニ加フル所ナシ被請求人カ各資料カ單獨ニテハ奏スルコト能ハサ
 ル特殊ノ效力ヲ有スト稱スルハ誇大ノ言ニ過キス被請求人カ所謂新規ノ效果トシテ列記スル所ヲ總括ス
 レハ固形ノ「ナフサリン」ヲ溶液ト爲シ木材纖維中ニ浸潤シ易カラシムトノ事ニ歸スル如シ然レトモ「ナ
 フサリン」ヲ液狀ニ於テ木材防腐劑ニ供用スルコトハ決シテ被請求人ニ始リタルニ非ス「クレオソート」
 油ノ如キハ實ニ「ナフサリン」ヲ液狀トシテ含有シ居ルモノナリ要スルニ本劑ハ木材防腐ノ效アルモノト
 シテ公知ニ屬スルモノヲ單ニ物理的ニ混合シタルニ過キスシテ其ノ間ニ一新物ノ生成ト認ムヘキ點ナシ
 從テ本合劑ノ效果ナルモノハ各資料固有ノ效果ノ代數的和ニシテ此和以外ニ新規ノ效果ナルモノヲ認ム
 ルコト能ハサルナリ而シテ第七七八號特許ハ前記第八五九八號特許ノ資料ノ外尙樹脂又ハ樹脂ト顏料
 トヲ混和スルモノニ係ハルト雖液體物ノ粘度ヲ増加スルニ樹脂ヲ加ヘ色彩ヲ顯ハスニ顏料ヲ加フルカ如
 キハ共ニ普通ノ考案ニシテ何人ト雖容易ニ案出シ得ヘキ所ナレハ發明ヲ構成スルノ價值ナシ又第七七九
 八號特許ノ主要成分ハ原油及「ナフサリン」ノ二者ナルコト審決書第九二四號及第九二五號ニ記載シアル
 被請求人ノ言ニ由リテ明ナリ故ニ主要成分タル二者ノ合劑カ特許ノ資格アリヤ如何ヲ決スレハ足リ之カ
 補助成分タル樹脂ハ之ヲ加フルモ又加ヘサルモ何等關スル所ナシ故ニ本件ニ於テハ之ヲ除却シテ論スル
 ヲ至當ナリト認ムト雖被請求人ハ樹脂ノ效力ヲ云々スルヲ以テ之ニ辯駁ヲ加フヘシ木材防腐トシテ樹脂
 ヲ使用スルコトハ公知ノ事ニ屬ス「コロニー」氏方法ノ如キ是ナリ又既成木材防腐劑中ニ混用スルコトモ
 亦公知ニ屬スルノミナラス斯ノ如キ物品ノ粘度ヲ増加スル爲樹脂ヲ加フルコトハ殆ト常用ノ手段ニシテ

新規ノ發明ニアラス况ヤ主要成分タル前掲二者ノ合劑ハ特許品タルノ資格ニ缺クル所アルニ於テオヤト云
 フニ在リ被請求人答辯ノ要領ハ請求人ノ申立相立タスト審決相成度其ノ理由ハ請求人主張ノ要旨ハ本件
 特許第八五九八號ハ出願前ニ於テ其ノ效力カ熟知セラル原油及「ナフサリン」ナル二個ノ防腐劑ヲ普通ノ
 方法ニ依リ混和シタル木材防腐劑ニ係ルヲ以テ即チ公知公用ノ湊合ニシテ發明ナリト稱スルコトヲ得サ
 レハ無効ノ特許タルヘキモノナリト云フニ在リ然ルニ原油ハ元來木材ノ纖維ニ浸入シ防腐ノ效力ヲ有ス
 ルコトハ公知ニ屬スルモノニミテハ雨露ノ爲ニ洗脱セラル、ノ缺點アリ之ニ「ナフサリン」等ノ資料ヲ
 混和スルトキハ能ク其ノ洗脱ヲ防遏シ且防腐ノ效力ヲシテ一層増加セシムルニ至ル又「ナフサリン」モ元
 來防腐ノ效力ヲ有スルコト公知ニ屬スト雖固形狀ナルヲ以テ之ノミヲ直接ニ木材防腐ニ應用スルコト能
 ハス之ヲ原油ニ溶解セシメ應用スルトキハ能ク木材中ニ浸入シ且其ノ氣孔ヲ填充シ外部ヨリ浸入スル濕
 氣ヲ防遏スルノミナラス特ニ微生物ノ發生及襲撃ヲ全然豫防スルノ特性ヲ有スルニ至ル故ニ原油「ナフ
 サリン」等ノ結合ニ成ルト雖此等資料カ單純ニテ奏スル能ハサル卓絶ノ效用アルモノトス而シテ此等資
 料ノ結合ハ從來會テナキ所ニシテ被請求人カ創造ニ係ルハ故ニ特許ヲ與ヘラレタルハ當然ノ事ニ屬ス又
 本件木材防腐劑ヲ構成スル資料即チ「ナフサリン」及原油ハ共ニ防腐ノ效力アルモノトシテ公知ニ屬スル
 コトハ被請求人ト雖爭ハサル所ニシテ現ニ該特許明細書ニモ此二種ノ原料カ公知ノ防腐資料タルコトハ
 明記シ置タル所ナリ然レトモ「ナフサリン」原油ノ資料カ各自單獨ニ奏スル效力ハ二者ヲ綜合シタル混合
 資料ノ奏スル效力トハ全ク別異ノモノニ屬ス即チ原油ハ木材ノ纖維ニ浸透シ水分ノ浸入ヲ防キ間接ニ微
 菌ノ發生ヲ豫防シテ消極的防腐ノ效ヲ有スルコトナキニアラサルモ原油ハ容易ニ揮散スル缺點アルノミ
 ナラス又雨露ノ爲ニ洗脱セラル、缺點アリ故ニ此一資料ノ單獨ニ奏スル效果ハ未タ完全ノ防腐劑ト云フ
 ヲ得ス又「ナフサリン」ハ結晶體ナルヲ以テ木材ニ浸透セシメ難ク故ニ「ナフサリン」カ單獨ニ木材防腐劑

トシテ使用セラル、トキハ一時其ノ外面ニ附着スルニ止マリ或時間内ニハ必ス揮散シテ其ノ痕跡ヲ失フニ至ル若シ又「アルコール」「イーサー」等ノ如キ他ノ溶劑ニ溶解シテ使用スルトスルモ其ノ溶劑ハ或ハ容易ニ水ニ溶解シ或ハ直ニ揮散シテ永ク木材纖維中ニ存留セサルノ缺點アルモノナレハ「ナフサリン」單獨ニテハ防腐劑トシテ完全ナル目的ヲ達スルモノト云フヲ得ス而シテ混合用法ニヨリ生スル新規ノ效果ハ(一)多量ノ「ナフサリン」ヲ木材ノ實質ニ侵透セシメ充分ニ防腐ノ效果ヲ奏スルコト(二)原油ハ其ノ物ノ性質トシテ防腐ノ效力ヲ有スルト同時ニ「ナフサリン」ヲ溶解シテ最モ緻密ニ木材ノ纖維中ニ浸潤セシメ易カラシムルコト(三)特許第七七九八號ニ於テ樹脂ヲ加ヘタルハ「ナフサリン」及原油ハ共ニ揮散性ノ物質ナルニヨリ此等ノ資料ヲシテ出來得ル丈ケ永久ニ木質内ニ存留セシメ其揮發ヲ防遏シ併セテ木材纖維間ノ空隙ヲ填充シ木材ヲシテ人為的ニ樹脂化セシムルコトト云フニ在リ

仍テ本件ニ關スル一切ノ書類ヲ査閲シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
 請求人カ本件特許第八五九八號木材防腐劑ヲ無効ナリト主張スル理由ハ該特許ノ資料タル「ナフサリン」及原油ハ各木材防腐劑トシテ公知ニ屬シ此兩資料ヲ合セテ成ル本件特許第八五九八號ノ合劑ハ其效果各資料固有ノ效果ニ過キスシテ毫モ新規ノ效果ナキヲ以テ所謂公知資料ノ湊合ナリト云フニ在ルモ「ナフサリン」ハ固體ナルヲ以テ之ヲ加熱シテ液狀若クハ氣狀態トナスニアラサレハ木質中ニ浸透セシメ難キノミナラス一旦浸透シタルモノモ其揮發性ノ爲メ揮散スルノ缺點アリ然ルニ特ニ沸騰點高キ石油原油ヲ撰用シ之ニ溶解セシメタル本件特許ノ合劑ハ單ニ浸透ヲ容易ナラシムルノミナラス原油ハ能ク「ナフサリン」ノ揮散ヲ防遏シ其ノ效力ヲ永ク持續セシムルノ效果アルハ疑フヘカラス請求人ハ「ナフサリン」ヲ液狀ニ於テ木材防腐ニ供用スルニハ「クレオソート」油アリト云フト雖「クレオソート」油ハ「ナフサリン」ヲ含有スルノ點ニ於テ本件特許ノ合劑ト相似タルノ外其ノ他ノ成分ニ於テハ兩者相異ルコト明ナリ又被

請求人カ比較的揮發性鈍キ原油ヲ撰用シ尙原油ハ容易ニ揮散シ又雨露ノ爲ニ洗脱セラル、ノ缺點アリトスルカ如キハ其理由アリト認ムルヲ得ス而シテ本件合劑ニ於テ「ナフサリン」ハ前述スルカ如ク原油ヲ俟テ其ノ效力ヲ完ウスルノ效果アリテ而モ此資料ノ結合カ木材防腐トシテ新規ナル以上ハ之ニ對シテ特許ヲ受クルヲ妨ケス本件改訂特許第七七九八號ニ對シテハ請求人ハ樹脂ヲ石油ノ如キ炭化水素中ニ溶解シ其ノ溶液ヲ木材防腐劑トシテ使用スルコト並ニ既成木材防腐劑中ニ混用スルコトモ亦公知ニ屬スルノミナラス木材防腐劑ノ如キ物品ノ粘度ヲ増加セシムル爲ニ樹脂ヲ加フルコトハ殆ント常用ノ手段ニシテ毫モ新規ノ發明ニアラスト云フト雖本件木材防腐劑ニ於テ樹脂ヲ加フルハ「ナフサリン」及原油ヲシテ出來得ル丈永久ニ木質内ニ存留セシメ其ノ揮散ヲ防遏シ併セテ木材纖維間ノ空隙ヲ填充シ木材ヲシテ人為的ニ樹脂化セシムルニ在リト被請求人主張ノ效果ニ對シテハ爭ハサル所ナリ然ラハ本件第七七九八號ノ合劑カ木材防腐ニ有效ニシテ其ノ資料ノ結合カ新規ナルトキハ之ニ對シテ特許ヲ受クルヲ得サルモノト云フヲ得ス要スルニ本件特許第八五九八號及改訂特許第七七九八號木材防腐劑ハ其各資料カ公知ナルノ故ヲ以テ無効ナリト云フヲ得サルモノトス
 右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
 請求人申立相立ダス

明治三十九年九月二十八日於特許局

審判長 特許局事務官 中 松 盛 雄
 特許局事務官 松 田 啓 太郎
 特許局技師 安 藤 格

獨逸國エルザス、ロートリンゲン、ザヨールツ

請求人

北米合衆國人民

東京府豊多摩郡澁谷村元青山南町七丁目二番地第二號

右代理人

船橋 正心

右ヘンリーウィリアム、ド、スツックレーヨリ願書番號第二九九九三號硫化亞鉛ト「アルカリ」金屬（若クハ「アルカリ」土類金屬）ノ水酸化物ト同時ニ製出スル方法ニ對スル特許願ニ對スル特許局審査官ノ拒絕再査定ニ服セス審判ヲ請求シタルニヨリ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ特許願第二九九九三號硫化亞鉛ト「アルカリ」金屬（若クハ「アルカリ」土類金屬）ノ水酸化物ト同時ニ製出スル方法ニ對スル明治三十九年五月二十六日付ノ拒絕査定ハ不當ナリト審決相成度其ノ理由ハ本願カ千八百八十五年英國特許第一三四六二號ニ類似スルノ點アリトスルモ直ニ之ヲ以テ右特許事項ニ基キ考案セルモノナリト云フハ不當ナルノミナラス英國ニ於ケル特許ハ我國ニ於テモ普ク公知ニ屬スト云フヘカラス蓋シ特許局圖書館備付ノ公刊物ニ記載セラル、ト雖公知ニ屬ストハ云フ能ハサルナリト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決相成度其理由ハ本願ハ千八百八十五年英國特許第一三四六二號ト殆ント同一ナルカ故ニ右特許ノ事項ニ基キ容易ニ推考セラルヘキモノトス而シテ右特許事項ハ特許局圖書館ニ於テ公衆ノ閱覽ニ供セラル、ノ公刊物ニ記載セラル、モノナルヲ以テ本願ハ公知事項ニ基キ容易ニ推考セラルヘキモノトシテ拒絕シタルハ不當ニアラスト信スト云フニ在リ
仍テ本件ニ關スル一切ノ書類ヲ査閲シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
本件特許願第二九九九三號ハ其明細書ニ依ルトキハ「アルカリ」金屬若ハ「アルカリ」土類金屬ノ水酸化物

ト亞鉛トニ依テ生スル「チンク、オキシド、アルカリ」若ハ「チンク、オキシド、エルドアルカリ」ノ溶液中ニ不分解ノ硫化「アルカリ」若ハ硫化「アルカリ」土類ヲ含有セサル様ノ量ニ於テ硫化「アルカリ」若ハ硫化「アルカリ」土類ヲ加ヘテ苛性「アルカリ」若ハ苛性「アルカリ」土類ト硫化亞鉛ト同時ニ製スル方法ナリ然ルニ再審査定書中ニ援用ノ西曆千八百八十五年英國特許第一三四六二號ハ「アルカリ」金屬ノ水酸化物ト亞鉛トヲ用ヒテ「アルカリ」金屬ノ「デンケイト」即本件特許願ノ所謂「チンク、オキシド、アルカリ」ヲ生セシメ之ニ硫化「アルカリ」ヲ加ヘテ水酸化「アルカリ」ト硫化亞鉛トヲ得之ヨリ硫化亞鉛ヲ分別採集スルノ方法ニシテ特ニ「アルカリ」土類金屬ノ水酸化物並ニ硫化物ノ使用ニ付テハ記スル所ナキモ此等ノ化合物ハ夫々「アルカリ」金屬ノ水酸化物及硫化物ト均等物ナルヲ以テ審査官カ云ヘル如ク本件特許願ノ方法ハ前記英國特許ノ方法ニ對シ別種ノ發明ヲ構成スルニ足ルモノト認ムヘキ點ナシ而シテ該英國特許ノ明細書ハ特許局圖書館ニ於テ公衆ノ閱覽ニ供シアルヲ以テ何人ニモ閱讀セラレタルコトナシトノ確證アルニ非サレハ之ヲ以テ公知ニ屬セルモノト認ムヘキモノトス故ニ本件特許願ニ對シ審査官カ特許ヲ與フヘカラスト査定シタルハ至當ナリトス
右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
請求人申立相立タス

明治三十九年十月五日於特許局

審判長

特許局事務官

中 松 盛 雄

特許局技師

安 藤 格

特許局事務官

人 見 次 郎

第九百四十號

百五十

德島市大工町七十一番地

請求人 濱 吉 平

德島縣名東郡加茂名村大字藏本村百八十三番地

請求人 岡 島 能 太 郎

德島市佐古町千四百四十一番地

被請求人 庄 野 又 吉

德島市佐古町千三十一番地

被請求人 稻 飯 左 膳

右濱吉平岡島能太郎ヨリ庄野又吉稻飯左膳ニ對シ第七五八八號藍截機械ノ特許ヲ無効トスル爲審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ特許第七五八八號藍截機械ハ其ノ特許出願前已ニ公知公用ニ屬シタルモノニシテ特許法第二條第四號ニ該當スルヲ以テ該特許ハ無効ナリト審決アリ度其ノ理由ハ古來ヨリ當阿波國ニ於テ葉藍截切ニ使用シ來リタルモノハ俗ニ鉈ト稱シ一枚刃ノモノナリシカ何人ノ發明ナルヤ詳ナラズト雖明治十四五年頃ヨリ藍截機械ト稱シ三枚刃ノモノ廣ク行ハル、ニ至レリ請求人岡島能太郎ノ家ハ代々鍛冶職ニシテ父市藏ハ明治三十一年頃ヨリ藍截機械即チ三枚刃ノモノヲ製作販賣シタルノミナラス多數ノ同業者ニ於テモ同機械ヲ製作シ需用者ニ供給シ來リタルモノナリ是レ即チ被請求人ノ特許第七五八八號藍截機械ナリ被請求人カスノ如キ公知公用ノ物品ニ對シ明治三十七年六月二十五日附ヲ以テ特許ヲ得ルヤ之ヲ秘密ニ附シ其特許品ニハ故意ニ特許ノ標記ヲ付セスシテ突然明治三十八年七月九日請求人岡島能太郎ノ居宅ニ來リ藍截機械ニ特許ヲ受ケタルコトヲ發表シ同月十一日特許權侵害ノ告訴狀ヲ檢事局ニ提出セリ依テ岡島能太郎ハ明治三十八年八月三日同局ニ召喚セラレ藍截機械製作ニ關シ尋問ヲ受ケタル當時請求人岡島能太郎ノ家ハ代々鍛冶職ナルコト及父市藏ハ明治三十一年頃ヨリ該機械ヲ製作販賣シ爾來引

續キ本業ニ從事セルコトノ事實ヲ帳簿等ニ依リテ證明セルヲ以テ檢事局ハ岡島能太郎ノ製作セル藍截機械ハ本件特許ノ藍截機械ト構造同一ニシテ其ノ特許出願前ヨリ既ニ普ク販賣使用セラレ公知公用ノ物品ナルヲ以テ特許權侵害ノ事實ヲ構成セスト認定シ該告訴ハ同局ニ於テ明治三十八年八月五日ヲ以テ不起訴處分ニ附セラレタリ斯ノ如ク被請求人ノ特許第七五八八號藍截機械ハ其ノ特許出願以前ニ於テ已ニ公知公用ニ屬スル者ナルヲ以テ其ノ特許ハ無効ナリト云フニアリテ其ノ事實ヲ確ムル爲甲第一號證乃至甲第十二號證ヲ提出シ且明治三十八年七月十一日付ヲ以テ被請求人庄野又吉ヨリ請求人岡島能太郎ニ對シ德島地方裁判所ニ提起シタル特許權侵害ノ告訴ニ關スル一件書類ノ取寄ヲ申請シ尙人證ノ申出ヲ爲セリ被請求人答辯ノ要旨ハ請求人申立相立タスト審決ヲ求ム其ノ理由ハ從來被請求人ハ農具製造業者ニシテ農民ヨリ輕便ナル藍截機械ヲ發明スルコトノ勸誘ヲ受ケ種々研究ノ末藍截機械ヲ發明シ農民ヲシテ再三再四實地試驗ヲ爲サシメ漸ク完成シタルヲ以テ始メテ特許ヲ出願セリ然ルニ請求人ハ該機械ノ成績頗ル良好ニシテ需用者漸ク増加スルヲ見被請求人發明ノ藍截機械ノ構造ヲ窃用製造シ被請求人ト競賣スルニ至リタルモ之ヲ制止スルコト能ハス特許許可ノ日ヲ期待セルニ漸ク明治三十七年六月二十五日付ヲ以テ特許トナリタルヲ以テ請求人ニ對シ製造販賣ノ中止ヲ交渉セルモ應諾セス故ニ特許侵害ノ告訴ヲ提起シタルノ事實ナルヲ以テ本件特許ハ之ヲ無効トスヘキ何等ノ理由ナキモノナリト云フニ在リ仍テ本件ニ關スル一切ノ書類及證據ヲ查閱シ審決ノ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ
本件所爭ノ要點ハ特許第七五八八號藍截機械ト均シキ構造ヲ有スル藍截機械カ前記特許ノ出願以前ニ於テ已ニ公知公用ニ屬シタリヤ否ヤニ在リ依テ審理スルニ本件特許ノ出願以前則チ明治三十六年八月以前ヨリ阿波國地方ニ於テ三枚掛藍截機械ト稱スル藍截機ノ賣買セラレタル事實ハ請求人ヨリ提出シタル甲第八號證甲第九號證各郵便端書ニ依リ之ヲ認メ得ヘク又其ノ構造ハ特許第七五八八號藍截機械ト均等ナ

百五十一

ルコトハ之ヲ證人久次米熊太郎及西村半四郎ノ證言ニ依テ推定シ得ヘシ而シテ被請求人ハ特許第七五八
八號ハ自分ノ發明ナルコトヲ陳辯スルニ止リ其ノ特許出願前公ニ用キラレタル事實ニ對シ之ヲ否認スヘ
キ何等ノ立證ヲ爲サス故ニ本件特許藍截機械ハ特許法第二條第四號ニ該當スト認ムルヲ至當トス
右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
本件特許第七五八八號藍截機械ノ特件ハ之ヲ無効トス
明治三十九年十月九日於特許局

審判長 特許局事務官 中 松 盛 雄
特許局技師 鈴木千代吉
特許局事務官 松田啓太郎

第一千十三號

岐阜縣土岐郡下石村二百番戸 請 求 人 林 又 兵 衛
名古屋市東古渡町五十二番戸ノ二 請 求 人 伊 藤 千 馬 太 郎
岐阜縣土岐郡下石村八百三十六番戸 請 求 人 兼 代 表 者 林 蔭 次 郎
岐阜縣土岐郡下石村八百七十六番地 被 請 求 人 林 浪 九 郎
東京市京橋區木挽町十丁目二番地特許代理業者 右 代 理 人 清 水 有 國
右林又兵衛、伊藤千馬太郎、林蔭次郎ヨリ林浪九郎ニ對シ第九六七一號電氣用磁器製造器械ノ特許ヲ無効
トスル爲審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ特許第九六七一號電氣用磁器製造器械ハ特許法第二條第四號ニ該當スルモノナルヲ
以テ同法第二十條ニ依リ無効ナリトノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ本件特許第九六七一號電氣用磁器製造器械
ハ被請求人カ明治三十八年五月十五日付ヲ以テ特許ヲ出願シ同年十一月十六日特許ヲ受ケタルモノナリ
然ルニ請求人ハ前記特許ノ出願以前ヨリ之レト同一ナル電氣用陶磁器製造器ヲ請求人ノ工場ニ於テ公ニ
使用シ且公刊物ニ依リ之レヲ公ニシタルモノナリ其事實ハ請求人ハ明治三十一年頃前記特許器械ト同
一考按ニシテ均等構成ヲ有スル器械ヲ考按作製シ之レヲ使用シテ電氣用陶磁器ヲ製造シ來リタルモノニ
シテ明治三十四年五月岐阜市ニ於テ開催セラレタル第五回東海農區五縣聯合共進會ニ右器械ニ依リ製作
シタル製品ヲ出品シ且該器械ノ構造ヲ詳記シタル甲第二號該出品解説書ヲ提出セリ又同年五月十七日
工學博士高山甚太郎氏カ當地方巡回ノ節請求人林蔭次郎ノ工場ニ立寄り右器械ノ構造及其ノ使用法等親
シク實見セラレタルハ甲第三號該當時ノ郡長水谷弓夫氏ノ證明書ニ依リテ明ナリ尙ホ明治三十六年第五
回內國勸業博覽會ニ右器械ニテ作リタル電氣用陶磁器類三十二點ヲ出品シ其解説書ニ器械ノ構造ヲ記載
シタルハ甲第一號證ニ依リテ明ナリ以上各證ニ依ルモ本件特許第九六七一號電氣用磁器製造器ハ其ノ特
許出願以前ニ公知公用ニ屬シタルモノナルヲ以テ其ノ特許ハ無効ナリト云フニアリテ其事實ヲ確ムル爲
甲第一號證乃至甲第四號證ヲ提出シ尙ホ甲第五號證トシテ明治三十一年頃請求人カ使用シタル物ナリト
シテ機械一個ヲ提出セリ

被請求人答辯ノ要旨ハ請求人申立相立タスト審決ヲ求ム其ノ理由ハ請求人ハ被請求人ノ所有ニ係ル特許
第九六七一號電氣用磁器製造器械ハ其ノ出願以前ニ於テ公知ニ屬セサルモノナリトシ其ノ例證トシテ請
求人林蔭次郎考按ノ機械ト本件特許器械トハ其構造同一ニシテ林蔭次郎ハ明治三十四年五月岐阜市ニ於
テ第五回東海農區五縣聯合共進會及明治三十六年第五回內國勸業博覽會ニ其ノ考按ノ機械ヲ使用シテ得

タル製品ヲ出品スルニ當リ該考按機ノ構造ヲ出品解説書中ニ詳記シタリ云々ト主張シ甲第一號證及甲第二號證ヲ提出セリト雖甲第一號證ニ依ルトキハ機械ノ説明トシテハ製造用品ノ項目ニ單ニ「自己考按ノ機械」トアリ製造方法ノ項目中ニ「機械ハ上部ニ螺線ヲ設ケ下部ニ穴ヲ穿テルモノニシテ此穴へ碍管ノ徑ニ依リ大小ハアレトモ圓形ノ型ヲ嵌シテ螺線ヲ廻轉スルニ從ヒ土ヲ壓迫ス土ハ逃ルニ道ナキニ依リ下部ノ穴ヨリ逸出ス」云々ト記載アルノミニシテ未タ之ヲ以テ本件特許機械ノ構造カ公知ニ屬シタリト斷定スルコト能ハサル可シ夫レ特許法ニ所謂公知ナル程度ハ法ノ解釋上其構造カ容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ解説セラレタルコトヲ要スヘシ然ルニ前記解説書ハ深キ考慮ヲ費サスシテ該構造ヲ應用シ得ヘキ程度ニ解説ヲ與ヘタルモノト云フヲ得ス又甲第二號證ノ解説書ニハ製造法及審査請求主眼ノ各項目ニ唯單ニ「鐵製壓搾器及押出器械」トアルノミニシテ何等構造ノ解説ヲ與ヘス斯ノ如キモノヲ以テ本特許機械ノ公知ヲ認定スルコト能ハサルヤ論ヲ俟タス又甲第三號證水谷弓夫ノ證明書ノ如キハ同人郡長在任中職務上工業試驗所長高山甚太郎ニ隨伴シテ知リ得タル事項ヲ漫リニ證明スルカ如キハ其ノ私交關係ヲ想像スルニ難カラス且明治三十四年頃唯單ニ請求人林萬次郎ノ工場ニ臨ミ一見シタルニ過キサル事項類ニ在テハ殆ント不可能ノコトナリ思フニ請求人等カ該圖面ヲ作製提供シテ之ニ證明ヲ需メ私交上其ノ需メニ應シタルモノナルヘシ斯ノ如キ證明書ハ素ヨリ信憑スルニ足ラズト信ス而シテ甲第四號證ハ本件ニ何等ノ關係ヲ有セサレハ茲ニ喋々セヌ又請求人ハ甲第五號證トシテ機械ノ現品ヲ提出シ該機械ハ本件特許品ト同一ノ構成ヲ有ストシ且該機械ハ請求人ニ於テ明治三十一年頃使用シタルモノナリト主張スルモ只單ニ一片ノ斷言ノミニシテ何等ノ立證ナキヲ以テ果シテ然ルヤ否ヤヲ認了スルニ由ナク且請求人ハ如何ニシテ約九年ノ長日月ヲ經過シタル今日ニ於テ明治三十一年頃使用シタル機械ナリトシテ完全ナル

機械ヲ提出スルコトヲ得タルヤ若又該機械ニシテ使用ニ堪ヘ得ヘキモノトセハ何故ニ現在ニ於テ之ヲ使用セサルヤ甚タ奇怪ナリ斯ノ如キ證據ハ信憑スルコト能ハサルモノトス又請求人林萬次郎ハ請求人林又兵衛ノ實父ニシテ兩人ハ各一個ノ工場ヲ有シ其ノ距離僅ニ一町半位ニシテ常ニ相往來シアルモノ又請求人伊藤千萬太郎ハ萬次郎ト又兵衛トノ兩工場ニ於ケル俗ニ所謂「カケ」持番頭ノ如キ境遇ニアルモノナリ斯ノ如キ境遇ニアル千萬太郎ハ被請求人ニ對シ明治三十九年二月十六日乙第一號證ノ如キ書信ヲ爲シ其書信中ニ「小生ハ御當地林又兵衛様ニテ明治二十九年七月ヨリ右磚管製造機愚考仕候テ引續キ未タ研究中ニ御座候所云々」ト言明シ磚管製造機ノ考案未タ完成セサルコトヲ自白セルニモ拘ハラス林萬次郎ニ於テハ已ニ業ニ明治三十一年頃被請求人ノ有スル特許第九六七一號ノ機械ト同一ノ機械ヲ考案シ且之ヲ製作シテ公然使用シツ、アリタリト云ヘリ若シ林萬次郎ノ陳述ニシテ信ナリトセハ其ノ番頭ノ境遇ニアル千馬太郎カ明治二十九年七月ヨリ本年二月ニ至ル約十年ニ近キ長年月ノ間之ヲ認識セサル理アラシヤ既ニ之ヲ認識セリトセハ豈又考案乃至發明ノ完成ニ心慮ヲ勞スルノ道理ナシ之ニ依テ之ヲ觀レハ請求人カ公知公用ニ屬シタリト稱スル機械ト被請求人ノ有スル特許第九六七一號ノ機械トハ全然別個ノモノタルコトヲ證スルヲ得ヘシト云フニ在リテ乙第一號證ヲ提出セリ

仍テ本件ニ關スル一切ノ書類及證據ヲ査閲シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
請求人ノ提出シタル甲第五號ノ機械ハ請求人申立ノ如ク果シテ明治三十一年頃請求人カ製作使用セルモノナリヤ否ヤハ何等ノ證據ナキヲ以テ之ヲ確ムルニ由ナシト雖甲第一號證請求人カ明治三十六年第五回内國勸業博覽會ニ提出セル出品解説書中機械ノ解説トシテ機械ハ上部ニ螺線ヲ設ケ下部ニ穴ヲ穿テルモノニシテ此穴へ碍管ノ徑ニ依リ大小ハアレトモ圓形ノ型ヲ嵌シテ螺線ヲ廻轉スルニ從ヒ土ヲ壓迫ス土ハ逃ル、ニ道ナキニ依リ下部ノ穴ヨリ逸出ス云々ト記載セルハ前記甲第五號證ノ機械説明ト認メ得ヘク

該解說ヲ通讀セハ荷モ多少機械上ノ知識ヲ具フルモノニ在リテハ前記甲第五號證ノ機械構造ヲ知了スル
 コト難カラサルモノトス故ニ請求人ハ明治三十六年以前ニ於テ甲第五號證ノ機械或ハ之ト均等ノ機械ヲ
 使用シタルノミナラス同年第五回内國勸業博覽會ニ前記機械ノ說明アル解說書ヲ提出シテ之ヲ公ニシタ
 ルモノト認ムヘキモノトス今被請求人ノ所有ニ係ル特許第九六七一號電氣用磁器製造機械ト前記甲第五
 號證ノ機械ヲ對比審理スルニ其ノ間ニ多少相違ノ點ナキニ非スト雖其發明要旨ニ於テ兩者相一致スルモ
 ノトス其ノ相違ノ點ノ如キハ何人モ施シ得ヘキ設計ニ屬シ發明ト認ムヘキ點ナシ故ニ本件特許第九六七
 一號ハ其特許出願以前ニ於テ甲第五號證或ハ之ト均等ナル機械カ公知ニ屬シタル以上ハ特許法第二條第
 四號ニ依リ無効タルヘキモノトス
 右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
 本件特許第九六七一號電氣用磁器製造機械ハ無効トス
 明治三十九年十月二十五日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 五十嵐 秀助
 特許局技師 鈴木 千代吉
 特許局事務官 人見 次郎

第一千六十五號

英國ランカスター州リヴァプール市カッスル、スト
 リート、アーゲード五番地
 東京市京橋區山下町十四番地特許代理業者

請求人 ハーリー、テイ
 右代理人 横田 千之助

右ハーリー、テイヨリ願書番號第三一四一六號特許願ニ對スル特許局審査官ノ拒絕再査定ニ服セス審
 判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ特許願第三一四一六號食鹽製造方法ニ對スル明治三十九年六月二十一日付ノ拒絕再
 査定ハ不當ナリト審決相成度其ノ理由ハ熔解セル物質ニ空氣ヲ送入シテ酸化作用ヲ起サシムルハ銅ノ製
 煉法又ハ製鋼法ニ於テ行ハルト雖未タ岩鹽精製法ニ之ヲ應用シタルモノナシ元來岩鹽ヲ溶解スルトキハ
 數多ノ不純物及着色夾雜物カ器底ニ沈澱スト雖斯ノ如クシテ精製シタル食鹽ハ未タ純白ナル能ハス本發
 明ハ岩鹽精製法ヲ二個ノ主要方法ニ分ツモノニシテ第一熔解セル岩鹽中ニ空氣ヲ長時間吹送スルコト、
 第二空氣ヲ吹送シタル後之ヲ放置シテ其ノ中ニ含有スル不純物ヲ分離スルモノトス斯ノ如ク空氣ヲ熔解
 セル岩鹽中ニ吹送シテ之ニ循環的運動ヲ與フルト同時ニ空氣ノ酸化作用ヲ一層均一完全ナラシムルモノ
 ナルヲ以テ公知ニ屬スルモノヨリ推考シ得ヘシト爲ス可ラスト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決相成度其ノ理由ハ本願ノ如ク不純食鹽ヲ熔融シテ之ニ空
 氣ヲ送入スルカ如キ方法ハ假令今日迄食鹽ニ應用セラレタルコトナシトスルモ金屬ノ精煉ニ於テハ普通
 公知ニ屬スルカ故ニ本願ハ公知事項ニ基キ容易ニ推考セラルヘキモノトシテ拒絕シタルハ不當ニアラス
 ト信スト云フニ在リ

仍テ本件ニ關スル一切ノ書類ヲ查閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
 本件特許願第三一四一六號食鹽製造法ハ其ノ明細書ニ依ルトキハ變色セル又ハ不純ナル岩鹽ヲ融解シ其
 ノ熔融體ヲ貫通シテ空氣ヲ壓入シ然ル後熔融狀態ニ於ケル儘之ヲ靜置シテ夾雜物ヲ除去シ白色ノ食鹽ヲ
 製スル方法ナリ然ルニ本件方法ニ於ケル岩鹽ハ再審査定書ニ云ヘル銅、鋼ノ如キ金屬トハ其ノ性質ノ異
 ルノミナラス除去スヘキ物質亦同シカラサルモノト認ムルヲ以テ本件方法ハ前記金屬ノ精煉法ヨリ類推

セラルヘキモノト認ムルヲ得スト雖本件方法ト同一ナル食鹽製造法ハ明治三十七年九月二十一日特許局
圖書館ノ所管ニ歸シタル西曆一九〇四年七月三十日刊行英國工業化學會雜誌第七四九頁ノ記載ニ依リ公
知ニ屬ス而シテ本件特許願ハ明治三十八年九月十三日ノ出願ニ係ルヲ以テ本件方法ハ其ノ出願前既ニ公
知ニ屬シ特許法第二條第四號ニ該當スルモノト認メサルヲ得ス從テ該特許願ニ對スル拒絕査定ハ其理由
ノ當否如何ニ關セス特許ヲ與フヘカラスト査定シタルハ不當ニアラス
右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
請求人申立相立タス

明治三十九年十月三十一日於特許局

審判長特許局事務官 肥田平次郎
特許局技師 安藤格
特許局事務官 永井亨

第九百九十七號

京都市上京區御前通下立賣上ル天満屋町三百十二番地	請求人	小野地熊藏
大阪市東區伏見町五丁目三十番地特許代理業者	右代理人	中村儀藏
大阪府東成郡平野郷町大字平野野堂百七十九番邸	被請求人	八木庄七
大阪府東成郡平野郷町大字平野野堂百八十一番邸	被請求人	赤根清一郎
大阪府東成郡平野郷町大字平野西脇三番邸	被請求人	天野常次郎

大阪市東區備後町二丁目十八番邸特許代理業者

右代理人

堤

他

彦

右小野地熊藏ヨリ八木庄七外二名ニ對シ第七三四八號特許權利ヲ確認スル爲審判ヲ請求シタルニ依リ審
理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ被請求人ノ使用スル莫大小製造機械ハ請求人ノ特許第七三四八號複式絨毛莫大小編
成機ト撞着スト審決セラレ度其理由ハ請求人ノ特許第七三四八號複式絨毛莫大小編成機ノ特許範圍ハ特
許公報第百十九號ニ依リ明ナル如ク其大體ハ在來ノ普通莫大小編成機ニ藉リ甲乙二種ノ編針(ハ)ノ運行
スル軌道(ロ)ヲ上中下三段ノ高低ヲ保タシメ其各中段ニハ副道(ハ)ヲ設ケ而シテ中央ノ垂杆(ハ)下
方ニ鏢(ヒ)ヲ設ケ杆(ハ)ヲ貫通シ裏面ニ目板(ヘ)ノ出入進退ヲ節制スヘキ四個ノ掣支器(甲一)(甲二)
(乙一)(乙二)ヲ設ケテ上面ヨリ突起ヲ以テ動止スヘク接着シタル天蓋(ト)ヲ具ヘ其下ニ環絲ヲ形成スヘ
キ各其ノ形ヲ異ニシタル甲乙二種ノ目板(ヘ)ヲ挿嵌スヘキ放光狀ノ溝(チ)ヲ有スル菊皿(ホ)ヲ杆(ハ)ニ
嵌通シテ鏢(ヒ)ニ支持セシメ其ノ裏面ノ一側ニ足(ツ)ヲ具ヘ針筒(イ)ト共ニ廻旋スヘク組立ラレテ回轉
毎ニ二重ニ編成ノ働作ヲ爲シ以テ環絲ヲ偶ノ目形ニ編成スルニアリト記載スルモ其ノ發明ノ要部トスル
處ハ甲乙二種ノ目板(ヘ)ヲ用ヒ之ヲ掣支器(甲一)(甲二)(乙一)(乙二)ニヨリ交互ニ出入セシメ以テ環絲
ヲ偶ノ目形ニ編成スル構造ニアルモノナルカ故ニ假令其ノ機構ニ於テ幾分ノ差異アリトスルモ若シ之ト
同一ノ作用ニ依リ環絲ヲ偶ノ目形ニ編成スル機械アリトセハ是明ニ前記特許第七三四八號ニ撞着スルモ
ノト爲サ、ルヘカラス然ルニ被請求人ノ現在使用スル莫大小製造機械ハ甲乙二種ノ針板ヲ具ヘ該針板ハ
前記特許機械ニ於ケル目板ト同一作用ヲ爲シ以テ環絲ヲ偶ノ目形ニ編成スル機構ナルカ故ニ是即チ特許
第七三四八號ニ撞着スルモノナリト云フニ在リ
被請求人答辯ノ要旨ハ被請求人ノ現在使用スル莫大小製造機械ハ被請求人ノ所有ニ係ル特許第七九七三

號ナルヲ以テ請求人所有ノ特許第七三四八號複式絨毛莫大小編成機械トハ毫モ權利ノ撞着スルモノニア
 ラス請求人ハ莫大小編成機械ニシテ苟モ二種ノ目板ヲ用ヒ環絲ヲ偶ノ目形ニ編成スヘキ作用ヲナスモノ
 ハ悉ク特許第七三四八號ノ特許範圍ナリト主張スルモ已ニ請求人モ認ムル如ク第七三四八號特許ハ其ノ
 特許證附屬明細書ノ請求範圍ニ記載スル如ク單ニ甲乙二種ノ目板(ヘ)ヲ用フルコトノミヲ以テ特許ヲ與
 ヘラレタルモノニアラス假ニ該目板(ヘ)ナルモノ本件特許ノ主眼點ニシテ明細書記載ノ目的ヲ目板(ヘ)
 ノミニテ達シ得ルモノトスルモ特許請求範圍ハ甲乙二種ノ目板(ヘ)甲乙二種ノ編針(ハ)上中下三段ノ軌
 道(ロ)副道(ハ)に(ニ)鏢(ヒ)ヲ具ヘ垂杆(ヘ)掣支器(甲一)(甲二)(乙一)(乙二)ヲ具ヘタル菊皿(ホ)トヲ具
 備シタル編成機ノ構成ヲ發明トスルモノナレハ被請求人ノ特許ニ於ケル針板(ト)ナルモノカ縱シ目板
 (ヘ)ト同一ノ構造及作用ナルモノナリトスルモ互ニ權利撞着スルモノニアラス况ンヤ針板(ト)ハ目板
 (ヘ)ノ如ク全然二種ノモノニアラス唯僅ニ截込ノ個所ヲ異ニスルニ過キササルノミナラス其ノ大體ノ構造
 及作用モ亦相違スルモノナレハ兩特許ノ權利ハ撞着スルモノニアラスト云フニ在リ
 仍テ本件ニ關スル一切ノ書類ヲ查閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
 請求人カ被請求人ニ對シ權利確認ヲ求ムル要旨ハ被請求人カ現在其ノ工場ニ於テ使用スル莫大小製造機
 械ハ甲乙二種ノ針板ヲ具ヘ該針板ハ請求人所有ニ係ル特許第七三四八號複式絨毛莫大小編成機ニ於ケル
 目板ト同一作用ヲ爲シ以テ環絲ヲ偶ノ目形ニ編成スル機構ナルヲ以テ是即チ特許第七三四八號ニ撞着ス
 ルモノナリト云フニアルモ其ノ事實ヲ確ムヘキ何等ノ證據ヲ提供セサルカ故ニ双方ノ權利範圍ヲ確定ス
 ルヲ得ス
 右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
 本件請求ハ之ヲ却下ス

明治二十九年十一月十四日於特許局

審判長 特許局事務官 中 松 盛 雄
 特特局技師 鈴木千代吉
 特許局事務官 肥田平次郎

第一千二十三號

亞米利加合衆國テキサス州ダラス郡ダラス市

請求人

ジョーエル、クレメ

東京市京橋區山下町十四番地特許代理業者

右代理人

横田千之助

右ジョーエル、クレメント、スロターヨリ願書番號第二九七一五號電壓調整機特許願ニ對スル特許局審査
 官ノ拒絕再査定ニ服セス審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ前記特許願ニ對スル明治二十九年三月八日付拒絕再査定ハ不當ナリト審決相成度其
 ノ理由ハ本發明ノ電壓調整機ハ「オート、トランスフオーマー」ノ原理ヲ應用シ捲線ノ接續法ト調整裝置
 トヲ新ニ案出シテ電壓ノ調整ヲ遂行スルモノニシテ本發明出願ノ當時迄ニハ未タ本邦ニ本發明ト同一ノ
 電壓調整機ヲ使用セルモノナク又之カ本邦ニ於ケル既刊出版物上ニ現ハレタルコトナシ從テ本發明ハ出
 願當時ニ於テハ全ク嶄新ナル發明ナルニ依ルト云フニ在リ
 審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決相成度其ノ理由ハ本願ハ本願出願前公知ノ電壓調整器ト
 同シク「オート、トランスフオーマー」ノ原理ヲ應用セルモノニシテ其ノ捲線ノ接續法ニ於テ稍異ナル點
 アルモ毫モ新規ナル考案ト認ムヘキ點ナク又該調整器ト「エキサイター」調整器トヲ鎖ニテ連結セルハ從

來ノ調整器ト其把柄トヲ鎖ニテ連結スル方法ヲ應用セルモノニシテ要スルニ本願ハ從來公知ノモノヲ組合セタルニ外ナラス而シテ其ノ本來ノ目的タル電壓調整ノ效果ニ至リテハ之ヲ在來ノ電壓調整器ト比較シ優レル點ナキノミナラス却テ劣レルモノナリト云フニ在リ

仍テ本件ニ關スル一切ノ書類ヲ査閲シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
請求人ハ本願發明ノ電壓調整機ハ「オートトランスフオーマー」ノ原理ヲ應用シテ捲線ノ接續法ト調整裝置トヲ新ニ案出シ以テ電壓ノ調整ヲ遂行スルモノナリト云フト雖本願ノ捲線接續法ハ「オートトランスフオーマー」ノ捲線接續法ニ少シク變更ヲ加ヘタルノミニシテ敢テ新規ナル考案ト認ムヘキ點アルニアラス又該調整器ト「エキサイター」調整機トヲ鎖ニテ連結セル方法ハ從來ノ調整機ト其ノ把柄トヲ鎖ニテ連結シタルモノニシテ其ノ效果モ亦從來ノ調整機ニ優レル點アルヲ認メス故ニ本願ハ發明トシテ特許ヲ與フルノ價值ナキモノトス

右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ

請求人申立相立タス

明治二十九年十一月二十八日於特許局

審判長

特許局技師工學博士

五十嵐 秀助

特許局事務官

松田 啓太郎

特許局事務官

永井 亨

第一千八十五號

大阪市南區難波元町三丁目二千八百九十六番屋敷

請求人

井上 次八

右井上次八ヨリ願書番號第三二八一四號製革法特許願ニ對スル特許局審査官ノ拒絕再査定ニ服セス審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ願書番號第三二八一四號製革法特許願ニ對スル明治二十九年六月五日附拒絕再査定ハ不當ナリト審決相成度其理由ハ初審査定ニ對シ請求人カ申立タル不服ノ理由ハ再審査官ニ於テ之ヲ是認セラレタルニ拘ラス更ニ新規ナル理由即重「クロム」酸加里ト硫酸鐵トヲ用フル製革法ハ一八九七年英國特許第一四〇五二號ニ依リ公知ニ屬ス而シテ本願ト右英國特許トハ全然同一方法ニアラサルモ公知事項ニ基キ容易ニ推考シ得ヘキモノトシ再拒絕ヲ爲シタルモ推考ノ難易ハ畢竟效果ノ大小ニ依テ決定ス可キハ論ヲ俟タス本願ノ如キ效果ノ著シキモノニ對シ尙且彼此推考シ易キモノト爲スハ蓋シ不當ナリト信ス本願發明ノ有無ノ點ニ付テハ明細書及不服理由書等ニ於テ稍其ノ要領ヲ盡シタリト雖本願發明ニ於テ最モ誇張スル所ハ第一革ノ強韌ナル點ニシテ他ハ之ニ伴ヒテ生スル利益ナリトス而シテ其ノ強韌ノ度ハ府立大阪工業試驗場ノ試驗成績報告書ニ示スカ如ク本願方法ニ依レル製革ハ最強韌ナル内外國製品ニ比シ實ニ十一割乃至四割ノ強力ヲ増加スルハ事實ナリ從テ調革ノ如キ普通品ニ於テハ二枚又ハ三枚ヲ附着セシメテ使用スルモノ少カラサルニ本發明ノ品ニ在テハ大概ノ場合ニ於テ單革ヲ用ヒテ足リ隨テ價格ノ低廉ナルハ所謂伴ヒテ生スル利益ノ一例ナリトス且二枚以上ヲ併セタルモノハ車輪トノ附着宜キヲ得ス動モスレハ車輪ヲ空轉セシメ大障害ヲ與フルハ勿論甚シキニ至テハ發火ヲ來シタル例ナキニアラス然ルニ本願發明ニ對シ再審査官カ英國特許ト全然同一ニアラスト云ハレタルニ拘ラス之ヲ引證シテ容易ニ推考シ得ヘキモノト認メラレタルハ甚遺憾トス本願發明ノ主要ハ決シテ重「クロム」酸加里ト硫酸鐵トノ配合ニアラスシテ硫酸亞酸化鐵ト硝石ノ化合即鐵明礬ノ作用ニ俟ツモノナリ去レハ英國特許ノ主眼ト本發

明ノ主眼トヲ對照スレハ自ラ大差アルコト當然ノ理ナリ而シテ製革法ニ於テ新規ニ使用シタル鐵明礬其
モノカ如何ナル新效果ヲ奏スル乎ニ至テハ前記スル所ニ依テ明瞭ナリ又「ローハ」ハ之ヲ多量ニ使用スル
ヲ以テ自然此中ニ存スル硫酸ヲ利用シテ「クロム」明礬ヲ生セシムル爲最少量ナル重「クロム」酸加里ヲ
使用シタルニ過キス最モ此「クロム」明礬ナルモノハ從來使用スルモノナレハ本願發明ニ於テ得タル效果
ハ新方法タル多量ノ鐵明礬ノ成績タルコト又更ニ言フ俟タサル所ナリ果シテ英國特許ヨリ容易ニ推考シ
得ヘキヤ否ヤハ發明ノ完成シタル後ニ於テ之ヲ付度スルノ權秤ナク要スルニ發明ヨリ生スル效果ノ大小
ト社會カ此效果ヲ要求シツ、アルヤ否ヤニ依リ之ヲ定ムルノ外推定上ノ標準ナキコト論ヲ俟タサルナリ
ト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人ノ申立相立タスト審決相成度其理由ハ本願製革法ノ主眼トスル所ハ硫酸第一
鐵ト重「クロム」酸加里ノ如キ酸化劑ヲ用フルニ在リ然ルニ英國特許第一四〇五二號(一八九七年)ニ於テ
ハ已ニ本願ト殆ント同一ナル方法ヲ公ニセリ故ニ本願ハ公知事項ニ基キ容易ニ推考セラルヘキモノトシ
テ拒絕シタルハ不當ニアラスト信スト云フニ在リ

仍テ本件ニ關スル一切ノ書類ヲ査閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
本件特許願第三二八一四號製革法ハ其ノ明細書ニ依レハ從來普通ニ使用スル「タンニン」ニ更フルニ水、
綠礬、重格魯礬酸加里及硝石ヨリ成ル溶液ヲ用フルモノニシテ特ニ柔軟ニシテ堅韌ナル革ヲ要スル場合
ニノミ尙醋酸ヲ混用スルモノナリ而シテ請求人ハ本件方法ニ依リ奏スル效果ハ該液中ニ生スル多量ノ鐵
明礬ノ效力ニ依ルモノト主張セリ然ルニ審査官ハ西曆千八百九十七年英國特許第一四〇五二號ヲ援用シ
本件方法ハ之ト殆ント同一ナリトセリト雖モ該英國特許ノ方法ニ於テハ硫酸鐵ト硫酸及ヒ重格魯礬酸若
クハ過滿俺酸「アルカリ」トヲ用ヒテ酸化ノ度ヲ異ニセル諸種ノ硫酸鐵ノ混合液ヲ得ントスルモノニシテ

本件方法トハ資料ニ異ル所アリ從テ其ノ成生物ヲ異ニスルノミナラス本件方法ニ於テ製革ニ要スル時ヲ
短縮シ而シテ其ノ製革ノ著シク強韌ナルヲ得タルハ主トシテ該方法ノ效果ニ歸スヘキモノト認ムルヲ以
テ審査官カ本件特許願ニ對シ前記公知事項ニ基キ容易ニ推考セラルヘキモノトシ拒絕査定ヲ爲シタルハ
其ノ當ヲ得タルモノト云フヲ得ス

右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
願書番號第三二八一四號製革法ニ對スル特許局審査官ノ拒絕再査定ハ不當ナリトス
明治三十九年十二月七日於特許局

審判長 特許局事務官 中 松 盛 雄
特許局技師 安 藤 格
特許局事務官 人 見 次 郎

第千五十三號

東京府豊多摩郡澁谷村大字青山南町七丁目三番地 請求人 青 柳 醇 一
右青柳醇一ヨリ願書番號第三二九四七號絆創膏製造法特許願ニ對スル特許局審査官ノ拒絕再査定ニ服セ
ス審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ出願番號第三二九四七號絆創膏製造法特許願ニ對スル明治三十九年七月三日附拒絕
再査定ハ不當ナリト審決相成度其ノ理由ハ抑モ絆創膏ナルモノハ其原料ヲ粘着性ト弾力性ノ物質ニ求メ
サレハ其ノ目的ヲ達シ難シ加之其ノ原料ハ如何ニ之ヲ撰擇スルモ配合法其ノ宜シキヲ得サルトキハ決シ

テ完全ナルモノヲ製出シ能ハサルナリ當業者カ推考上容易ニ製出シ得ヘカリシモ而モ之ヲ能クセサリシハ其ノ配合法ト原料ノ撰擇宜シキヲ得サルニ原因スルヤ言フ俟タス是ニ因リテ之ヲ觀レハ絆創膏製造法ノ發明ノ如キハ只其ノ配合法ト原料撰擇上ノ如何ニ關シテ解決セラルヘキモノタルヤ當然ナリ本願製造法ノ如キハ嘗テ絆創膏ニ使用セラレサリシ本邦特産ノ鞆ヲ基礎トシ之ニ「ゴム」及松脂ヲ混和シテ製シタルノミナラス其ノ鞆ノ如キハ化學的ニ精製シテ普通品ヨリ一層粘着性ニ富マシメ以テ完全ナル絆創膏ヲ製出スル一新法ヲ案出シタルモノナレハ他迄特許ヲ請求シ得ルノ理由アルモノト確信スルモノナリ而シテ之ヲシモ尙公知事項ヨリ推考シタルモノトシテ拒絕セラレンカ恐ク發明ノ要素ヲ發見スルモノアラサルヘシ再審査拒絕査定モ理由ナキノミナラス徒ニ法文ニノミ拘泥シテ特許法ノ精神ニ悖リ且歐米ヨリ年々莫大ノ輸入アル絆創膏ヲ防遏シテ以テ國益ノ一助タラントスル出願者ノ精神ヲ沒却シタルモノト云ハサルヲ得スト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決セラレ度其ノ理由ハ元來絆創膏ニ「ゴム」并ニ樹脂ヲ用フルコトハ公知ニ屬シ且鞆ヲ綿布ニ塗布シテ患部ヲ被覆スルニ用ヒラレタルコトモ公知ナルヲ以テ本願ノ如キハ公知ノ資料ヲ湊合シタルニ過キスシテ發明ヲ構成スヘキモノト認ムルヲ得サルカ故ニ特許法第一條ニ該當セサルモノトシテ本願ヲ拒絕シタルハ不當ニアラスト信スト云フニ在リ

仍テ本件ニ關スル一切ノ書類ヲ査閱シ審決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
 本件特許願第三二九四七號絆創膏製造法ハ其明細書ニ依ルトキハ鞆ノ粘着性ヲ利用シ之ト彈性護膜及松脂トヲ以テ絆創膏ヲ製スル方法ナリ然ルニ請求人ハ嘗テ絆創膏ニ使用セラレサリシ本邦特産ノ鞆ヲ基礎トシタルト原料ノ配合法トヲ以テ發明ナルカ如ク主張スト雖審査官カ云ヘルカ如ク鞆ヲ綿布ニ塗布シ患部ヲ被覆スルニ用ヒラレタルノ實例アルノミナラス鞆ヲ資料トシ其ノ粘着性ヲ利用シ之ヲ本願同一ノ目

的ニ使用スルノ考案ハ既知ニ屬スルヲ以テ請求人主張ノ如ク鞆ハ未タ嘗テ絆創膏ニ使用セラレサリシ資料ナリト云フヘカラス彈性護膜及松脂モ亦絆創膏ノ資料トシテ普通ニ使用セラル、所ナリ從テ此等資料ヲ撰擇シ而シテ其ノ適量ヲ定ムルカ如キハ當業者容易ノ業ニ屬シ特ニ發明思想ヲ要スルモノト認ムルヲ得サレハ審査官カ本件特許願ハ特許法第一條ニ該當セサルモノトシ之ニ對シテ特許ヲ與フヘカラスト査定シタルハ至當ナリトス
 右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ
 請求人申立相立タス

明治三十九年十二月十二日於特許局

審判長 特許局技師藥學博士 田原良純
 特許局事務官 松田啓太郎
 特許局技師 安藤格

第一千六十四號

新潟縣中蒲原郡村松町甲千八百五十四番地甲足袋商

請求人 太刀川 貞治

右太刀川貞治ヨリ願書番號第三三三八七號挽屑利用糞炊竈特許願ニ對スル特許局審査官織田了同河村素彦ノ拒絕再査定ニ服セス審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處
 請求人申立ノ要領ハ本願ニ對スル拒絕再査定ノ理由説明ハ本願ノ請求要旨ヲ誤リテ爲シタルモノニシテ不當ナリト審決ヲ求ム其ノ理由ハ本願ノ趣旨ハ明細書ニモ記述シタル如ク(甲)竈ノ中央ニ適宜ノ棒ヲ立

テ其周圍ニ木挽屑ヲ壓迫的ニ詰込ミタル後其ノ棒ヲ抜キ取りテ通氣道ヲ作ル方法(乙)内壁ニ貳層ノ襖ヲ附設シ以テ挽屑ノ崩潰ヲ防キ釜尻ノ直下ニ通風口ヲ設ケ從來自家用ニ供シ難キ木挽屑ヲ薪木ノ如ク完全ニ燃燒セシムルニアリ然ルニ本査定ノ說明ニ依レハ本願ハ挽屑ヲ竈ニ於テ燃燒セシメ以テ煮炊ノ目的ニ供スヘクナシタリト雖モ挽屑ヲ火爐ニ燃料トシテ供用スルコトハ汽罐ニ於テ極メテ普通ニ行ハル、トコロニシテ(最モ多ク木挽工場ニ於テハ挽屑ヲ燃料トシテ用フ其ノ他汽罐ニ關スル書籍中ニモ挽屑ヲ用フルコトヲ明記セリ)云々トアルモ本願ハ單ニ挽屑ヲ燃料トシテ使用スルコトヲ以テ發明トナシタルニアラスシテ挽屑ヲ燃料トシテ最モ有效ニ自家用ニ供スヘキ方法及裝置ヲ以テ發明トナシタルモノナリ然ルニ審査官ハ之レト全ク使用場合ノ異ナル汽罐ニ挽屑ヲ燃料トセルモノアルコトヲ援用シテ本願ヲ拒絕シタルハ不當ナリ又査定書ニ本願ノ構造ニ就テモ何等發明ノ點ヲ有セス全部簡單ナル設計ニ過キス云々トアルモ簡單ナル構造カ發明トナラサルノ理由ナシ本願ノ如キ簡單ナル構造ニシテ能ク殊效ヲ奏スルニ於テハ是レ最良ノ發明ニシテ特許法第一條ニ該當スルモノナリト云フニアリ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決ヲ求ム其ノ理由ハ竈ノ下方ニ空氣ノ導入口ヲ設ケ其ノ上方ニ當リテ適宜ノ燃料ヲ堆積燃燒スヘクナシタルモノハ本出願前ヨリ公知ニ屬セルトコロニシテ千八百九十八年英國特許第一七六八二號千八百九十二年同第二〇八四九號及千八百九十九年同第五四五〇號等ノ如キ其ノ例證トス故ニ本願ノ如ク特ニ挽屑ヲ燃料トシテ中央ニ通氣孔ヲ設ケテ堆積シ之ヲ燃燒スルカ如キハ容易ニ何人ニモ前記外國特許ノ例ヨリ案出スルコトヲ得ヘク又挽屑ノ崩潰ヲ防クタメニ竈ノ側壁ニ凸輪ヲ設ケタルカ如キモ挽屑ヲ燃料トシテ使用スル以上是亦何人ニモ直ニ案出シ得ヘキ構造ニシテ要スルニ本願ハ方法トシテモ構造トシテモ何等發明タルヘキ點ナキヲ以テ特許法第一條ニ該當セサルモノト認メタルハ不當ニアラスト云フニアリ

仍テ本件ニ關スル一切ノ書類ヲ査閱シ審決ノ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ

本願ノ發明トシテ特許ヲ得ントスルトコロハ其ノ請求範圍ノ記載ニ依ルトキハ一、從來殆ント一錢ノ微タモ價值ナカリシ挽屑ヲ利用シテ完全ニ煮炊ノ目的ヲ達セシムル方法二、内壁ニ二層ノ襖ヲ附セル竈ノ構造三、釜尻ノ直下ニ開口位置ヲ有セル通氣口ノ構造ノ三點トス依テ之ヲ審案スルニ本願ノ如ク挽屑ヲ燃料トシテ煮炊ノ用ニ供スルコトハ從來ヨリ普通ニ行ハル、モノニシテ新規ニアラス又本願ノ如ク粉狀ノ燃料ヲ完全ニ燃燒セシメ以テ煮炊用ニ供スル目的ニ於テ器ノ中央ニ通氣路ヲ設ケ空氣ヲシテ器ノ下部ヨリ横ニ入り中央ニ至リテ上昇スヘクナシタル火爐ハ本願出願以前ヨリ公知ラレタルトコロニシテ千八百九十八年英國特許第一七六八二號ノ如キハ其一例ナリ又從來弘ク行ハレタル木炭或ハ骸炭製造裝置ニハ前記ノ構造ヲ具フルモノ甚タ多シ本願竈ハ内側ニ二層ノ環鑊ヲ設ケタル點ニ於テ前記ノ火爐等ト異ナリト雖モ斯ノ如キハ粉狀物ヲ堆積スル場合ニ其ノ崩落ヲ防ク爲メ常ニ使用サル、手段ニシテ之ヲ本願竈ニ應用シタルハ所謂設計ニ屬スルモノニシテ新規ノ考案ト爲スコトヲ得ス故ニ本願竈ハ新規發明ト認ムヘキ點ヲ有セサルモノニシテ之ニ對スル審査官ノ拒絕再査定ハ不當ニアラス

右ノ理由ニ依リ審決スルコト左ノ如シ

請求人申立相立タス

明治三十九年十二月十八日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 阪田 貞一
 特許局技師 鈴木 千代吉
 特許局事務官 松田 啓太郎

第九百五十三號

香川縣大川郡志度村大字志度町二百五十八番邸	請求人	山本常造
大阪府東區備後町二丁目十八番邸特許代理業者	右代理人	堤他彦
廣島縣深津郡福山町字蘭町七十二番地	被請求人	彌久末彌代吉
大阪府東區北濱五丁目六十三番屋敷特許代理業者	右代理人	淺村三郎
大阪府東區北濱五丁目六十三番屋敷特許代理業者	右代理人	佐々木高吉
福岡縣山門郡柳河町大字新船津町四十二番地	被請求人	森繁
福岡縣山門郡城内村大字袋町三十番地	被請求人	三池親義
佐賀縣小城郡晴田村大字晴氣三百七十二番地	被請求人	嬉野助太郎
岡山市大字西中山山下五番地	被請求人	岡山縣花筵同業組合
香川縣大川郡志度町五百五十一番戸	被請求人	澤原常次
廣島縣備後國尾ノ道東御所町八十七番邸	被請求人	廣島縣花筵同業組合

右山本常造ヨリ彌久末彌代吉外六名ニ對シ第二二七七號筵織機特許權利ノ確認ヲ求ムル爲審判ヲ請求シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

請求人申立ノ要領ハ請求人使用ノ甲第一號證筵織機ニ於ケル箆打裝置ハ被請求人所有ノ特許第二二七七號筵織機請求區域第二項(箆打裝置)ト權利撞着セスト審決ヲ求ム其理由ハ被請求人ノ特許第二二七七號筵織機請求區域第二項ハ甲第二號證ノ如ク筵織機中織目ニ疎密ナカラシムルノ目的ヲ以テ杆(モ)ノ左右ニ連續杆(セ)(セ)ヲ設ケ又一方ニ杆(ろ)(ろ)ヲ備ヘ其下端ハ踏臺(カ)(ヨ)ニ取り付ケ箆框ヲ俯仰セシム

ルノ裝置ナリ又請求人使用ノ筵織機ニ於ケル箆打裝置ハ甲第一號證圖面ニ示ス如ク後端ヲ樞軸ニヨリ俯仰スヘカラシメタル箆框(イ)ニ二個ノ衝上杆(ロ)(ハ)ノ上端ヲ重合シテ樞着シ其各下端ハ縱孔(ニ)(ニ)ヲ穿テ又狀ニ別レ搖回軸(ホ)ノ臂木(ヘ)ニ栓軸(ト)ニ就テ相連續シ尙ホ搖回軸(ホ)ノ先端ニハ更ニ臂木(チ)ヲ設ケ之レノ兩端ニハ杆(リ)(ヌ)ノ上端ヲ取付ケ各其下端ハ踏杆(ル)(オ)ニ取付ケ踏杆(ル)(オ)ヲ交互ニ踏下スルトキハ搖回軸(ホ)ノ搖回ニ因テ衝上杆(ロ)(ハ)ハ交番ニ箆框(イ)ヲ衝上ケ箆打動作ヲナサシムルト同時ニ臂木(ヘ)ノ先端ニ取付ケタル縱杆(ワ)ハ上部ノ搖回軸(カ)ニ動力ヲ傳ヘ經絲ニ綾取ヲナサシムヘキ裝置ナリ今兩者ヲ對照スルニ前者ニ於ケル杆(モ)ハ後者ノ搖回杆(ホ)ニ該當シ杆(ろ)(ろ)(ろ)ハ杆(リ)(ヌ)ニ踏臺(カ)(ヨ)ハ踏杆(ル)(オ)ニ相當スルモ是等機構ハ共ニ在來ヨリ筵織機ニ於テ普通ニ行ハル、處ノモノナルノミナラス假令抵觸スルモ請求區域第二項ノ一部分ナルカ故ニ直チニ後者ハ前者ノ特許權利ニ撞着スルモノト云フヲ得ヌ又前者ノ連續杆(セ)(セ)ハ後者ノ衝上杆(ハ)(ロ)ニ該當スル部分ナルモ其ノ連續杆(セ)(セ)ハ一定不變ノ箆打作用ヲ營ミ以テ織目ニ疎密ナカラシムヘキ特殊ノ目的ヲ有シ且機械學上ノ所謂肘樣關節ナレハ一旦直線ヲ畫クニアラサレハ他方ニ屈折セサルモノナルヲ以テ箆ハ常ニ一定ノ個所迄俯下スルカ故ニ織目ニ疎密ナカラシムルノ利アルモ偶マ經絲ヲ切斷スルカ又ハ少クトモ經絲ヲ損傷スルノ害アリ然ルニ後者ノ衝上杆(ロ)(ハ)ハ又狀ヲナシ且下端ニ縱孔(ニ)(ニ)ヲ具フルニ依リ俯仰ノ距離不定ナレハ前者ノ如ク織目ニ疎密ヲ生セシメサルノ特效ナシト雖箆框ノ俯伏極點以內ニ障害アル場合ニ其ノ阻害個所ヨリ進シテ俯下セサルヲ以テ縱絲ヲ損傷スルノ虞ナシ其ノ他後者ハ縱杆(ワ)ヲ具ヘ箆打動作ヲ爲サシムルノ傍ラ綾取裝置ニ動力ヲ傳フルノ機構ヲ具フル等前者ニ比シ機構及效果ニ於テ全然別異ナルヲ於テ兩者互ニ撞着スルコトナシト云フニアリテ甲第一號證請求人ノ使用スル機械ノ圖面及甲第二號證特許第二二七七號ノ請求區域第二項並ニ其ノ圖面ヲ提出セリ